

ラザルトキ八十年以下ノ懲役ニ處ス
 第三條乃至第五條、第九條又ハ第十條第一項ノ罪ヲ犯サシ
 ムル爲他人ヲ誘惑シ又ハ煽動シタル者ノ罰亦前項ニ同ジ
 第八條ノ罪ヲ犯スコトヲ教唆シタル者ハ被教唆者其ノ實行
 ヲ爲スニ至ラザルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス
 第八條ノ罪ヲ犯サシムル爲他人ヲ誘惑シ又ハ煽動シタル者
 ノ罰亦前項ニ同ジ
 第十三條 第三條乃至第五條、第九條又ハ第十條第一項ノ罪
 ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ五年以
 下ノ懲役ニ處ス
 第八條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル
 者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス
 第十四條 第四條第一項、第八條、第十一條乃至前條ノ罪ヲ
 犯シタル者未ダ官ニ發覺セザル前自首シタルトキハ其ノ刑
 ヲ減輕シ又ハ免除スルコトヲ得
 第十五條 本章ニ規定スル犯罪行爲ヲ組成シタル物、其ノ犯
 罪行爲ニ供シ若ハ供セントシタル物又ハ其ノ犯罪行爲ヨリ
 生ジ若ハ之ニ因リ得タル物ハ其ノ物犯人以外ノ者ニ屬セザ
 ルトキニ限り之ヲ沒收ス裁判ニ依リ沒收スル場合ヲ除クノ
 外何人ノ所有タルヲ問ハズ檢事之ヲ沒取スルコトヲ得
 前項ノ犯罪行爲ノ報酬トシテ得タル物及同項ニ掲グル物ノ
 對價トシテ得タル物ハ其ノ物犯人以外ノ者ニ屬セザルトキ
 ニ限り之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザ
 ルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス
 第二章 刑事手續
 第十六條 本章ノ規定ハ左ニ掲グル罪ニ關スル事件ニ付之ヲ

適用ス
 一 第三條乃至第十三條ノ罪
 二 軍機保護法第二條乃至第七條及此等ニ關スル第十五條
 乃至第十七條、軍用資源秘密保護法第十一條乃至第十五
 條、第十九條、刑法第二編第三章、陸軍刑法第二十七條
 乃至第二十九條及此等ニ關スル第三十一條、第三十二條、
 第三十四條、海軍刑法第二十二條乃至第二十四條及此等
 ニ關スル第二十六條、第二十七條、第二十九條並ニ國家
 總動員法第四十四條ノ罪
 本章ノ規定ハ外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ
 以テ犯シタル左ニ掲グル罪ニ關スル事件ニ付亦之ヲ適用ス
 軍機保護法(前項第二號ニ掲グル罪ヲ除ク)、軍用資源秘
 密保護法(前項第二號ニ掲グル罪ヲ除ク)、要塞地帶法、
 陸軍輸送港域軍事取締法、明治二十三年法律第八十三號
 (軍港要港規則違犯者處分ノ件)、軍用電氣通信法、國境
 取締法、刑法第二編第一章、第二章、第四章、第八章乃
 至第十一章、第十五章乃至第十八章、第二十六章、第二
 十七章及第四十章、朝鮮刑事令第三條、陸軍刑法第二編
 第一章(前項第二號ニ掲グル罪ヲ除ク)、第八章及第九
 九條、海軍刑法第二編第一章(前項第二號ニ掲グル罪ヲ
 除ク)、第八章及第一百條、治安維持法、大正十五年法律第
 六十號(暴力行爲等處罰ニ關スル法律)、爆發物取締罰則、
 匪徒刑罰令(明治三十一年律令第二十四號)、不穩文書臨
 時取締法、通貨及證券模造取締法、通貨及證券模造取締
 規則(明治三十六年律令第十四號)、明治三十八年法律第
 六十六號(外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券證券偽造

變造及模造ニ關スル法律)、治安警察法、大正八年制令第
 七號(政治ニ關スル犯罪處罰ノ件)、外國爲替管理法、關
 稅法、昭和十二年法律第九十二號(輸出入品等ニ關スル
 臨時措置ニ關スル法律)、船舶法、航空法、電信法、無線
 電信法並ニ國家總動員法(前項第二號ニ掲グル罪ヲ除ク)
 ノ罪
 第十七條 檢事ハ被疑者ヲ召喚シ又ハ其ノ召喚ヲ司法警察官
 ニ命令スルコトヲ得
 檢事ノ命令ニ因リ司法警察官ノ發スル召喚狀ニハ命令ヲ爲
 シタル檢事ノ職、氏名及其ノ命令ニ因リ之ヲ發スル旨ヲモ
 記載スベシ
 召喚狀ノ送達ニ關スル裁判所書記及執達吏ニ屬スル職務ハ
 司法警察官吏之ヲ行フコトヲ得
 第十八條 被疑者正當ノ事由ナクシテ前條ノ規定ニ依ル召喚
 ニ應ゼズ又ハ刑事訴訟法第八十七條第一項各號ニ規定スル
 事由アルトキハ檢事ハ被疑者ヲ勾引シ又ハ其ノ勾引ヲ他
 檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得
 前條第二項ノ規定ハ檢事ノ命令ニ因リ司法警察官ノ發スル
 勾引狀ニ付之ヲ適用ス
 第十九條 勾引シタル被疑者ハ指定セラレタル場所ニ引致シ
 タル時ヨリ四十八時間内ニ檢事又ハ司法警察官之ヲ訊問ス
 ベシ其ノ時間内ニ勾留狀ヲ發セザルトキハ檢事ハ被疑者ヲ
 釋放シ又ハ司法警察官ヲシテ之ヲ釋放セシムベシ
 第二十條 刑事訴訟法第八十七條第一項各號ニ規定スル事由
 アルトキハ檢事ハ被疑者ヲ勾引シ又ハ其ノ勾引ヲ司法警察
 官ニ命令スルコトヲ得

第十七條第二項ノ規定ハ檢事ノ命令ニ因リ司法警察官ノ發
 スル勾留狀ニ付之ヲ適用ス
 第二十一條 勾留ニ付テハ警察官署又ハ憲兵隊ノ留置場ヲ以
 テ監獄ニ代用スルコトヲ得
 第二十二條 勾留ノ期間ハ二月トス特ニ繼續ノ必要アルトキ
 ハ區裁判所檢事ハ檢事正ノ許可、地方裁判所檢事ハ檢事長
 ノ許可ヲ受ケ一月毎ニ之ヲ更新スルコトヲ得但シ通ジテ四
 月ヲ超ユルコトヲ得ズ
 治安維持法ノ罪ニ付特ニ繼續ノ必要アルトキハ檢事長ノ許
 可ヲ受ケ一月毎ニ勾留ノ期間ヲ更新スルコトヲ得但シ通ジ
 テ一年ヲ超ユルコトヲ得ズ
 檢事總長又ハ其ノ指揮ヲ受ケタル檢事刑法第七十三條、第
 七十五條又ハ第七十七條乃至第七十九條ノ罪ノ搜查ノ爲特
 ニ繼續ノ必要アルトキハ一月毎ニ勾留ノ期間ヲ更新スルコ
 トヲ得但シ通ジテ六月ヲ超ユルコトヲ得ズ
 第二十三條 勾留ノ事由消滅シ其ノ他勾留ヲ繼續スルノ必要
 ナシト思料スルトキハ檢事ハ速ニ被疑者ヲ釋放シ又ハ司法
 警察官ヲシテ之ヲ釋放セシムベシ
 第二十四條 檢事ハ被疑者ノ住居ヲ制限シテ勾留ノ執行ヲ停
 止スルコトヲ得
 刑事訴訟法第九十九條第一項ニ規定スル事由アル場合ニ於
 テハ檢事ハ勾留ノ執行停止ヲ取消スコトヲ得
 第二十五條 檢事ハ被疑者ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ司法警察
 官ニ命令スルコトヲ得
 檢事ハ公訴提起前ニ限り證人ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ他ノ
 檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

司法警察官檢察ノ命令ニ因リ被疑者又ハ證人ヲ訊問シタルトキハ命令ヲ爲シタル檢察ノ職、氏名及其ノ命令ニ因リ訊問シタル旨ヲ訊問調書ニ記載スベシ

第十七條 第二項及第三項ノ規定ハ證人訊問ニ付テハ準用ス

第二十六條 檢察ハ公訴提起前ニ限リ押收、搜索若ハ檢證ヲ爲シ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢察ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

檢察ハ公訴提起前ニ限リ鑑定、通譯若ハ翻譯ヲ命ジ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢察ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

前條第三項ノ規定ハ押收、搜索又ハ檢證ノ調書及鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ訊問調書ニ付テハ準用ス

第十七條第二項及第三項ノ規定ハ鑑定、通譯及翻譯ニ付テハ準用ス

第二十七條 刑事訴訟法中被告人ノ召喚、勾引及勾留、被告人及證人ノ訊問、押收、搜索、檢證、鑑定、通譯並ニ翻譯ニ關スル規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外被疑事件ニ付テハ準用ス但シ保釋及責付ニ關スル規定ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十八條 外國船舶又ハ外國航空機法律又ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シ當該禁止又ハ制限ニ係ル區域ニ侵入シタル場合ニ於テ檢察官ニ必要アルトキハ其ノ船舶若ハ航空機ニ對シ指定ノ場所ニ廻航スベキコトヲ命ジ若ハ之ヲ抑留シ又ハ其ノ船舶若ハ航空機ノ長、乘組員及乘客ニ對シ指定ノ場所ニ滞留スベキコトヲ命ズルコトヲ得

檢察ハ前項ノ規定ニ依ル處分ヲ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ第十六條ニ規定スル罪以外ノ罪ニ關スル事件ニ付亦之ヲ適用ス

第二十九條 辯護人ハ司法大臣ノ豫メ指定シタル辯護士ノ中ヨリ之ヲ選任スベシ但シ刑事訴訟法第四十條第二項ノ規定ノ適用ヲ妨グズ

第三十條 辯護人ノ數ハ被告人一人ニ付二人ヲ超ユルコトヲ得ズ

辯護人ノ選任ハ最初ニ定メタル公判期日ニ係ル召喚狀ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ十日ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ但シ已ムコトヲ得ザル事由アル場合ニ於テ裁判所ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三十一條 辯護人ハ審判ヲ公開シタル公判廷ニ於テ口頭辯論ヲ爲ス場合ニハ國家機密、軍事上ノ秘密、軍用資源秘密又ハ官廳指定ノ總動員業務ニ關スル官廳ノ機密ヲ陳述スルコトヲ得ズ此ノ場合ニ於テ辯護人ハ其ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ陳述ニ代フルコトヲ得

第三十二條 辯護人ハ訴訟ニ關スル書類ノ謄寫ヲ爲サントスルトキハ裁判長又ハ豫審判事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

辯護人ノ訴訟ニ關スル書類ノ閱覽ハ裁判長又ハ豫審判事ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ爲スベシ

第三十三條 第十六條第一項ニ掲グル罪又ハ外國ト通謀シ若ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ同條第二項ニ掲グル罪ヲ犯シタルモノト認メタル第一審ノ判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得ズ

前項ニ規定スル第一審ノ判決ニ對シテハ直接上告ヲ爲スコトヲ得

トヲ得

上告ハ刑事訴訟法ニ於テ第二審ノ判決ニ對シ上告ヲ爲スコトヲ得ル理由アル場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

上告裁判所ハ第二審ノ判決ニ對スル上告事件ニ關スル手續ニ依リ裁判ヲ爲スベシ

第三十四條 裁判所ハ外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ第十六條第二項ニ掲グル罪ヲ犯シタルモノト認メタルトキハ其ノ旨ヲ判決ニ摘示スベシ

前項ノ摘示ヲ爲シタル第一審判決ニ對シ上告アリタル場合ニ於テ上告裁判所外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ犯シタルモノト認メタルトキハ判決ヲ以テ原判決ヲ破毀ナル事由アルモノト認ムルトキハ判決ヲ以テ原判決ヲ破毀シ事件ヲ管轄控訴裁判所ニ移送スベシ

第十六條ニ掲グル罪ヲ犯シタルモノト認メタル第一審判決ニ對シ上告アリタル場合ニ於テ上告裁判所同條ニ掲グル罪ヲ犯シタルモノト認メタルモノト疑フニ足ルベキ顯著ナル事由アルモノト認ムルトキ亦前項ニ同ジ

第三十五條 上告裁判所ハ公判期日ノ通知ニ付テハ刑事訴訟法第四百二十二條第一項ノ期間ニ依ラザルコトヲ得

第三十六條 裁判所ハ本章ノ規定ノ適用ヲ受クル罪ニ關スル訴訟ニ付テハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ラズ速ニ其ノ裁判ヲ爲スベシ

第三十七條 第十六條ニ規定スル罪ニ該ル事件(陪審法第四條ニ規定スルモノヲ除ク)ハ之ヲ陪審ノ評議ニ付セズ

第三十八條 刑事手續ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外一般ノ規定ノ適用アルモノトス

第三十九條 本章ノ規定ハ第二十一條、第二十二條、第二十八條、第二十九條、第三十條第一項、第三十三條、第三十四條及第三十七條ノ規定ヲ除ク外軍法會議ノ刑事手續ニ付テハ準用ス此ノ場合ニ於テ刑事訴訟法第八十七條第一項トアルハ陸軍軍法會議法第四百三十三條又ハ海軍軍法會議法第四百三十三條、刑事訴訟法第四百二十二條第一項トアルハ陸軍軍法會議法第四百四十四條第一項又ハ海軍軍法會議法第四百四十六條第一項トシ第二十四條第二項中刑事訴訟法第四百九條第一項ニ規定スル事由アル場合ニ於テハトアルハ何時ニテモトス

第四十條 朝鮮及臺灣ニ在リテハ本章ニ掲グル法律ハ制令又ハ律令ニ於テ依ル場合ヲ含ム

朝鮮ニ在リテハ第二十二條第三項中刑法第七十三條、第七十五條又ハ第七十七條乃至第七十九條トアルハ刑法第七十三條、第七十五條若ハ第七十七條乃至第七十九條又ハ朝鮮刑事令第三條トシ第三十五條中刑事訴訟法第四百二十二條第一項トアルハ朝鮮刑事令第三十一條トス

朝鮮ニ在リテハ本章中司法大臣トアルハ朝鮮總督、檢察總長トアルハ高等法院檢察長、檢察長又ハ檢察正トアルハ覆審法院檢察長、地方裁判所檢察官又ハ區裁判所檢察官トアルハ地方法院檢察官トス

臺灣ニ在リテハ本章中司法大臣トアルハ臺灣總督、檢察總長又ハ檢察長トアルハ高等法院檢察官長、檢察正トアルハ地方法院檢察官長、地方裁判所檢察官又ハ區裁判所檢察官トアルハ地方法院檢察官又ハ地方法院支部檢察官、檢察トアルハ檢察官、豫審判事トアルハ豫審判官トス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十六年勅令第五百四十一號ヲ以テ同年五月十日ヨリ施行）
 本法ハ内地、朝鮮、臺灣及樺太ニ之ヲ施行ス
 第二章ノ規定ハ本法施行前公訴ヲ提起シタル事件ニ付テハ之ヲ適用セズ
 本法施行前朝鮮刑事令第十二條乃至第十五條ノ規定ニ依リ爲シタル捜査手續ハ本法施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス
 前項ノ捜査手續ニシテ本法ニ之ニ相當スル規定アルモノハ之ヲ本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

○國防保安法施行令（昭和十六年五月七日）
 勅令第五百四十二號

朕國防保安法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 國防保安法施行令
 第一條 主務大臣ハ國家機密ニ屬スル各事項ニ付其ノ取扱者其ノ他特ニ關係アル者ニ對シ秘密保持上執ルベキ措置其ノ他其ノ取扱方ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ
 前項ノ規定ハ國防保安法第一條第一號又ハ第二號ニ規定スル國家機密ニ屬スル事項ニ付テハ御前會議ニ在リテハ内閣總理大臣、其ノ他ノ會議ニ在リテハ當該會議ノ長又ハ主宰者ニ之ヲ準用ス
 第二條 前條ノ指示ニ係ル國家機密ニ屬スル事項ヲ表示スル圖書物件ノ保管者ハ當該圖書物件ニ附屬ニ定ムル標記ヲ附スベシ
 第三條 主務大臣及第一條第二項ニ規定スル者ハ各其ノ指示ニ係ル國家機密ニ屬スル事項ガ國防上外國ニ對シ秘密スル

コトヲ要セザルモノト爲ルニ至リタル場合ニ於テハ關係者ニ其ノ旨ヲ了知セシムル爲ニ必要ナル措置ヲ執ルベシ
 前項ノ場合ニ於テハ前條ノ圖書物件ノ保管者ハ當該圖書物件ニ附シタル標記ヲ抹消スベシ
 附則
 本令ハ國防保安法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 附圖（略）

第一條 主務大臣ハ國家機密ニ屬スル各事項ニ付其ノ取扱者其ノ他特ニ關係アル者ニ對シ秘密保持上執ルベキ措置其ノ他其ノ取扱方ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ
 前項ノ規定ハ國防保安法第一條第一號又ハ第二號ニ規定スル國家機密ニ屬スル事項ニ付テハ御前會議ニ在リテハ内閣總理大臣、其ノ他ノ會議ニ在リテハ當該會議ノ長又ハ主宰者ニ之ヲ準用ス
 第二條 前條ノ指示ニ係ル國家機密ニ屬スル事項ヲ表示スル圖書物件ノ保管者ハ當該圖書物件ニ附屬ニ定ムル標記ヲ附スベシ
 第三條 主務大臣及第一條第二項ニ規定スル者ハ各其ノ指示ニ係ル國家機密ニ屬スル事項ガ國防上外國ニ對シ秘密スル

○軍機保護法（昭和十二年八月十四日）
 法律第七十二號

改正 昭和十六年第五八號
 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル軍機保護法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 第一條 本法ニ於テ軍事上ノ秘密ト稱スルハ作戰、用兵、動員、出師其ノ他軍事上ノ秘密ヲ要スル事項又ハ圖書物件ヲ謂フ
 前項ノ事項又ハ圖書物件ノ種類範圍ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣命令ヲ以テ之ヲ定ム
 第二條 軍事上ノ秘密ヲ探知シ又ハ收集シタル者ハ六月以上十年以下ノ懲役ニ處ス
 軍事上ノ秘密ヲ公ニスル目的ヲ以テ又ハ之ヲ外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏泄スル目的ヲ以テ前項ニ規定スル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス
 第三條 業務ニ因リ軍事上ノ秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ他人ニ漏泄シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス
 業務ニ因リ軍事上ノ秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ公ニシ又ハ外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏泄シタルトキハ死刑又ハ無期若ハ四年以上ノ懲役ニ處ス
 第四條 軍事上ノ秘密ヲ探知シ又ハ收集シタル者之ヲ他人ニ漏泄シタルトキハ無期又ハ二年以上ノ懲役ニ處ス
 軍事上ノ秘密ヲ探知シ又ハ收集シタル者之ヲ公ニシ又ハ外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏泄シタルトキハ死刑又ハ無期若ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第五條 偶然ノ理由ニ因リ軍事上ノ秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ他人ニ漏泄シタルトキハ六月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

偶然ノ理由ニ因リ軍事上ノ秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ公ニシ又ハ外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏泄シタルトキハ無期又ハ二年以上ノ懲役ニ處ス
 第六條 軍事上ノ秘密ヲ探知シ、收集シ又ハ漏泄スルコトヲ目的トシテ團體ヲ組織シタル者又ハ其ノ團體ノ指導者タル任務ニ從事シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス
 情ヲ知りテ前項ノ團體ニ加入シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス
 第七條 業務ニ因リ軍事上ノ秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者過失ニ因リ之ヲ他人ニ漏泄シ又ハ公ニシタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ三千元以下ノ罰金ニ處ス
 第八條 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ軍事上ノ秘密保護ノ爲ニ必要アルトキハ命令ヲ以テ左ニ掲グルモノニ付測量、攝影、模寫、模造若ハ錄取又ハ其ノ複寫若ハ複製ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得
 一 軍港、要港又ハ防禦港
 二 堡壘、砲臺、防備所其ノ他ノ國防ノ爲建設シタル防禦施設
 三 軍用艦船、軍用航空機若ハ兵器又ハ陸軍大臣若ハ海軍大臣所管ノ飛行場、電氣通信所、軍需品工場、軍需品貯藏所其ノ他ノ軍事施設
 前項ノ規定ニ依リ禁止又ハ制限ニ違反シタル者ハ七年以下

ノ憲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ軍事上ノ秘密保護ノ爲必要アルトキハ命令ヲ以テ前條第一項ノ防禦營造物又ハ軍事施設ノ周圍ノ地域ニシテ陸軍大臣又ハ海軍大臣所管ノモノニ付區域ヲ定メ其ノ區域ニ付測量、攝影、模寫、模造若ハ錄取又ハ其ノ複製若ハ複製ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得前項ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル者亦前條第二項ニ同ジ

第十條 許可ヲ得ズ若ハ許可ニ付シタル條件ニ違反シ又ハ詐偽ノ方法ヲ以テ許可ヲ得テ第八條第一項第二號若ハ第三號ニ掲グルモノニシテ同條ノ禁止若ハ制限ニ係ルモノ又ハ前條第一項ノ區域ニ侵入シタル者ハ五年以下ノ憲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 第八條第一項又ハ第九條第一項ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反スル行爲ヨリ生ジタル圖書物件ヲ他人ニ交付シタル者ハ七年以下ノ憲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ防空其ノ他國土防衛ノ爲軍事上ノ秘密保護ノ必要アルトキハ命令ヲ以テ空域、土地又ハ水面ニ付區域ヲ定メ左ニ掲グル行爲ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

一 其ノ區域ニ於ケル航空
二 其ノ區域内ノ氣象ノ觀測又ハ其ノ區域内ノ水陸ノ形状

若ハ施設物ノ状況ノ測量若ハ空中、高所ヨリノ撮影若ハ模寫又ハ其ノ複製若ハ複製

前項第一號ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル者ハ五年以下ノ憲役ニ處シ同項第二號ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル者ハ三年以下ノ憲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ演習又ハ兵器實驗等ニ際シ軍事上ノ秘密保護ノ爲必要アルトキハ命令ヲ以テ演習又ハ實驗等ヲ行フ空域、土地又ハ水面及其ノ周圍ノ地域ニ付區域及期間ヲ定メ之ニ出入スルコトヲ一時禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十四條 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ軍事上ノ秘密保護ノ爲必要アルトキハ命令ヲ以テ開港場以外ノ水面ニ付區域ヲ定メ外國船舶ノ之ニ出入スルコトヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル者ハ二年以下ノ憲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ情状重キトキハ其ノ船舶ヲ沒收ス

第十五條 第二條乃至第六條、第八條第二項、第九條第二項、第十條、第十一條、第十二條第二項乃至第四項及第十三條第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十六條 第二條乃至第五條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ三月以上七年以下ノ憲役ニ處ス

第十七條 第六條、第八條第二項、第九條第二項、第十條、第十一條、第十二條第二項乃至第四項又ハ第十三條第二項ノ罪ヲ犯サシムル爲他人ヲ誘惑シ又ハ煽動シタル者ハ一年以下ノ憲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 本法ノ罪ヲ犯シ因テ得タル財物ハ犯人以外ノ者ニ屬セザルトキニ限り之ヲ沒收ス其ノ財物ガ犯人以外ノ者ニ屬シ又ハ消費其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第十九條 第二條乃至第五條、第七條、第八條第二項、第九條第二項、第十一條又ハ第十二條第二項乃至第四項ノ規定ニ違反シタル者ハ其ノ罪ヲ犯シタル物ハ裁判ニ依リ沒收スル場合ヲ除クノ外何人ノ所有ヲ問ハズ行政ノ處分ヲ以テ之ヲ沒收スルコトヲ得

第二十條 第二條、第六條、第八條第二項、第九條第二項、第十二條第二項、第十五條又ハ第十六條第一項ノ罪ヲ犯シ

タル者未ダ官ニ發覺セザル前自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕シ又ハ免除ス

第二十一條 第二條乃至第七條、第八條第二項、第九條第二項、第十一條、第十二條第二項乃至第四項及第十五條乃至前條ノ規定ハ何人ヲ問ハズ本法施行地外ニ於テ其ノ罪ヲ犯シタル者ニ亦之ヲ適用ス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十二年勅令第五百七十八號ヲ以テ同年十月十日ヨリ施行)
刑法施行法第二十六條第一號ヲ左ノ如ク改ム

○軍用資源秘密保護法(昭和十四年三月二十五日法律第二十五號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル軍用資源秘密保護法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

軍用資源秘密保護法

第一條 本法ハ國防目的達成ノ爲軍用ニ供スル(軍用ニ供スルベキ場合ヲ含ム以下ニ同ジ)人及物の資源ニ關シ外國ニ秘密スルコトヲ要スル事項ノ漏泄ヲ防止スルヲ以テ目的トス

第二條 陸軍大臣又ハ海軍大臣(官廳ノ管理ニ屬スルモノニ係ルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣)ハ左ニ掲グルモノニ就キ命令ヲ以テ軍用資源秘密ヲ指定ス但シ公示ヲ不適當トスルモノニ係ル指定ハ該事項又ハ圖書物件ノ管理

者又ハ之ニ準ズベキ者ニ對スル通知ヲ以テ之ヲ爲ス

一 全國(關東州及南洋羣島ヲ含ム以下之ニ同シ)又ハ一地方ニ於ケル軍用ニ供スル重要ナル物資ノ生産額、生産能力、生産能力判定資料タル設備ノ種類別數(之ヲ判定シ得ベキ比率ヲ含ム以下之ニ同シ)及政府ノ決定シタル生産計畫並ニ此等ヲ表示スル圖書物件

二 兵器ヲ生産スル工場事業場又ハ之ニ轉用スルコトヲ得ル工場事業場ノ當該兵器ノ生産額、生産能力並ニ生産能力判定資料タル重要ナル設備ノ種類別數及其ノ設備ニ屬スル從業者ノ總數(之ヲ判定シ得ベキ比率ヲ含ム以下之ニ同シ)又ハ種類別數並ニ此等ヲ表示スル圖書物件

三 兵器以外ノ軍用ニ供スル重要ナル物資ヲ生産スル工場事業場又ハ之ニ轉用スルコトヲ得ル工場事業場ノ當該物資ノ生産額、生産能力、生産能力判定資料タル重要ナル設備ノ種類別數及其ノ設備ニ屬スル從業者ノ總數又ハ種類別數並ニ政府ノ決定シタル生産計畫並ニ此等ヲ表示スル圖書物件

四 全國又ハ一地方ニ於ケル軍用ニ供スル重要ナル物資ノ貯藏額及貯藏設備ノ貯藏能力、此等ノ判定資料タル重要ナル貯藏設備ノ當該物資ノ貯藏額及貯藏能力、政府ノ決定シタル當該物資ノ貯藏計畫並ニ此等ヲ表示スル圖書物件

五 政府ガ貯藏セシメタル軍用ニ供スル重要ナル物資ノ貯藏額、政府ガ當該物資ヲ貯藏セシメタル貯藏設備ノ貯藏能力、政府ノ決定シタル當該物資ノ貯藏命令等ニ係ル貯藏計畫並ニ此等ヲ表示スル圖書物件

六 全國若ハ一地方又ハ重要ナル港灣ニ於ケル軍用ニ供スル重要ナル物資ノ輸入額及政府ノ決定シタル輸入計畫並ニ此等ヲ表示スル圖書物件

七 全國又ハ一地方ニ於ケル軍用ニ供スル特殊技能者其ノ他ノ重要ナル人的資源ノ總數又ハ種類別數及此等ヲ表示スル圖書物件

八 全國又ハ一地方ニ於ケル軍用ニ供スル航空機、自動車又ハ馬ノ總數又ハ種類別數及此等ヲ表示スル圖書物件

九 軍用ニ供スル重要ナル鐵道ノ輸送能力及輸送能力判定資料タル輸送統計、此等ヲ表示スル圖書物件並ニ軍用ニ供スル重要ナル鐵道ノ施設又ハ車輛ニ關スル重要ナル記録表及其ノ内容

十 軍用ニ供スル重要ナル飛行場又ハ其ノ附屬設備ニ關スル重要ナル記録表及其ノ内容

十一 軍用ニ供スル船舶ニ於ケル特殊設備ニ關スル重要ナル記録表及其ノ内容

十二 軍用ニ供スル重要ナル通信連絡系統及其ノ通信能力、此等ヲ表示スル圖書物件並ニ軍用ニ供スル重要ナル通信設備又ハ其ノ設備ノ通信能力若ハ連絡系統ニ關スル重要ナル記録表及其ノ内容

十三 陸軍大臣若ハ海軍大臣ノ命令若ハ委嘱ニ依ル重要ナル試驗研究又ハ軍事上秘匿ヲ要スル發明考案ニ關スル事項及圖書物件

十四 軍事上秘匿ヲ要スル氣象ニ關スル重要ナル事項及圖書物件

十五 特ニ秘匿ノ措置ヲ要スル第二號乃至第五號及第九號

源秘密ヲ秘匿スル爲テ必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ法令ニ基テ出願、申請、報告、届出等ヲ爲シ又ハ立入、検査、質問等ヲ受ケタル場合ニ付軍用資源秘密ノ開示又ハ交付ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第九條 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ第五條ノ規定ニ依ル命令ニ係ル事項ニ關シ當該設備ノ管理者又ハ之ニ準ズベキ者ニ對シ報告ヲ命ジ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ立入り、検査ヲ爲シ若ハ關係者ニ對シ質問ヲ爲サシムルコトヲ得

第十條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第五條ノ規定ニ依ル命令ニ因リ生シタル損失ヲ補償ス

乃至第十二號ニ規定スル設備、第十三號ノ試驗研究ニ關スル設備並ニ此等ノ機構及性能並ニ此等ヲ表示スル圖書物件

第三條 軍用資源秘密トシテ秘匿スルノ要ナキニ至リタルモノニ付テハ其ノ指定ヲ解除ス

前條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ解除ノ場合ニ之ヲ準用ス

軍用資源秘密ニ關シ政府ノ公表シタルモノアルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ内容ト爲リタル部分ニ限り其ノ指定ノ解除アリタルモノト看做ス

第四條 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ軍用資源秘密ニ屬スル圖書物件ニ一定ノ標記ヲ附セシムルコトヲ得

第五條 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ第二條第十五號ニ該當スル軍用資源秘密ニ屬スル設備ヲ秘匿スル爲テ必要アルトキハ其ノ管理者又ハ之ニ準ズベキ者ニ對シ當該設備ノ遮蔽其ノ他之ヲ秘匿スルニ必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得

第六條 陸軍大臣又ハ海軍大臣(官廳ノ管理ニ屬スルモノニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣)ハ第二條第十五號ニ該當スル軍用資源秘密ニ屬スル設備ヲ秘匿スル爲テ必要アルトキハ勅令ヲ以テ之ニ付立入又ハ測量、撮影、模寫、模造若ハ録取又ハ其ノ複寫若ハ複製ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第七條 政府ハ軍用資源秘密ヲ秘匿スル爲テ必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ軍用資源秘密ヲ記載スル登記簿ノ閲覧又ハ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ制限スルコトヲ得

第八條 政府ハ第二條第二號又ハ第十五號ニ該當スル軍用資源

秘密ヲ秘匿スル爲テ必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ法令ニ基テ出願、申請、報告、届出等ヲ爲シ又ハ立入、検査、質問等ヲ受ケタル場合ニ付軍用資源秘密ノ開示又ハ交付ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第九條 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ第五條ノ規定ニ依ル命令ニ係ル事項ニ關シ當該設備ノ管理者又ハ之ニ準ズベキ者ニ對シ報告ヲ命ジ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ立入り、検査ヲ爲シ若ハ關係者ニ對シ質問ヲ爲サシムルコトヲ得

第十條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第五條ノ規定ニ依ル命令ニ因リ生シタル損失ヲ補償ス

第十一條 外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏洩シ又ハ公ニシタル目的ヲ以テ軍用資源秘密ヲ探知シ又ハ收集シタル者ハ外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏洩シ又ハ公ニシタルトキ亦前項ニ同シ

第十二條 業務ニ因リ軍用資源秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者ハ外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏洩シ又ハ公ニシタルトキハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第十三條 業務ニ因リ軍用資源秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ外國人ニ漏泄シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ニ規定スル理由以外ノ理由ニ因リ軍用資源秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ外國人ニ漏泄シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 第二條第二號又ハ第十五號ニ該當スル軍用資源秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ他人ニ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 軍用資源秘密ヲ外國又ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏泄スル爲之ヲ探知シ、收集シ又ハ漏泄スルコトヲ目的トシテ團體ヲ組織シタル者又ハ其ノ團體ノ指導者タル任務ニ從事シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

情ヲ知リテ前項ノ團體ニ加入シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第十六條 第六條ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 第五條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 第七條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シタル者及第九條ノ規定ニ依ル立入若ハ検査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 第九條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者亦前項ニ同シ

第二十條 第十一條及第十二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二十一條 第五條ノ規定ニ依リ秘密ノ措置ヲ命ゼラレタル者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第十七條又ハ第十八條第二項ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ免ル處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十二條 第十七條及第十八條第二項ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條 本法ノ罰則ハ何人ヲ問ハズ本法施行地外ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ亦之ヲ適用ス

第二十四條 軍用資源秘密ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受ケタルトキハ之ヲ他人ニ開示シ若ハ交付シ又ハ公ニスルコトヲ妨ゲズ

第二十五條 軍用資源秘密ニシテ官廳ノ管理ニ屬スルモノニ係ル標記及秘密ノ措置ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第二十六條 朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於テハ本法ニ規定スル主務大臣ノ職權ハ勅令ノ定ムル官廳之ヲ行フ

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十四年勅令第四百十二號ヲ以テ同年六月二十六日ヨリ施行)

○國境取締法

(昭和十四年四月一日 法律第五十二號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國境取締法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國境取締法

第一條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ陸接國境(之ニ接續スル領海ノ境界ヲ含ム)ヨリスル人ノ出入ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第二條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前條ニ規定スル國境ニ接スル土地又ハ水面ニ付區域ヲ定メ其ノ區域ニ付人ノ出入ヲ制限スルコトヲ得

第三條 第一條ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

帝國ノ利益ヲ害スル目的ヲ以テ前項ノ罪ヲ犯シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス此ノ場合ニ於テ其ノ犯罪ノ用ニ供シタル物ハ何人ノ所有タルヲ問ハズ之ヲ沒收スルコトヲ得

第四條 第二條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若ハ科料ニ處ス

外國ニ潛入スル目的ヲ以テ前項ノ罪ヲ犯シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十四年勅令第六百六十九號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行)

○防禦海面令

(明治三十七年一月二十三日 勅令第十一號)

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條ニ依リ防禦海面令ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

防禦海面令

第一條 海軍大臣ハ戰時又ハ事變ニ際シ區域ヲ限リテ本令ニ依リ防禦海面ヲ指定スルコトヲ得其ノ指定及之カ解除ハ海軍大臣之ヲ告示ス

第二條 緊急ノ必要アルトキハ鎮守府司令長官、要港部司令官ニ於テ前條ノ指定ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ其ノ指定及之カ解除ハ鎮守府司令長官、要港部司令官之ヲ告示ス

第三條 防禦海面ニ於テハ日没ヨリ日出迄陸海軍ニ屬スルモノヲ除ク外船舶ノ出入及通航ヲ禁ス

第四條 防禦海面ニ屬スル軍港及要港ノ區域内ニ於テハ陸海軍ニ屬スルモノヲ除ク外船舶ノ出入及通航ヲ禁ス

第五條 防禦海面ヲ出入若ハ通航シ又ハ之ニ碇泊スル船舶ハ其ノ一切ノ行動ニ付所管鎮守府司令長官、要港部司令官ノ

指示ニ遵フヘシ

第六條 鎮守府司令長官、要港部司令官ハ必要ト認ムルトキハ防禦海面ニ於ケル漁獲、採藻其ノ他軍事上障害トナルヘキ行爲ヲ禁止シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得

第七條 鎮守府司令長官、要港部司令官ハ適當ト認メタル船舶ニ對シ特ニ本令ノ禁止又ハ制限ノ全部又ハ一部ヲ解クコトヲ得

第八條 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違背シタル船舶ニ對シテハ航路ヲ指定シテ防禦海面外ニ退去ヲ命スルコトヲ得

前項ノ命令ニ遵ハサルモノニ對シテハ必要ニ應シ兵力ヲ用ウルコトヲ得

第九條 第三條乃至第五條ノ規定ニ違背シタルトキハ船舶ノ長又ハ其ノ職務ヲ執レル者ヲ一年以下ノ〔重禁錮〕又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 第六條ノ禁止又ハ制限ニ違背シタル者ハ六月以下ノ〔重禁錮〕又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○要塞地帯法 (明治三十二年七月十五日)

改正 大正四年第一七號、昭和一五年第九〇號
 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル要塞地帯法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布ス

七シム 要塞地帯法

第一章 總則

第一條 要塞地帯トハ國防ノ爲建設シタル諸般ノ防禦營造物ノ周圍ノ區域ヲ云フ

第二條 要塞地帯ノ幅員ハ防禦營造物ノ各突出部ヲ連結スル線ヲ基線トシ此ノ線ヨリ外方一定ノ距離以內ニ於テ之ヲ定ム

第三條 要塞地帯ハ陸地ト海面トヲ問ハス之ヲ三區ニ分チ各區ノ幅員ハ左ノ區別ニ從ヒ陸軍大臣之ヲ定メ茲之ヲ告示ス其ノ之ヲ變更スル場合亦同シ但シ陸軍防禦營造物ノ地帯カ海軍防禦營造物ノ地帯ト相關聯スルカ或ハ軍港要港又ハ海軍用地ニ係ル場合陸軍用地カ海軍防禦營造物ノ地帯ト相關聯スル場合ニ於テハ陸軍大臣海軍大臣協議ノ上之ヲ定メ連署シテ告示ヲ爲スコトヲ要ス

第一區 基線ヨリ測リ千メートル以內及基線ト防禦營造物間ノ區域

第二區 基線ヨリ測リ五千メートル以內

第三區 基線ヨリ測リ一萬五千メートル以內

第四條 要塞司令官鎮守府司令長官要港部司令官及陸軍築城部部長ハ要塞地帯ヲ劃スル爲其ノ他必要ト認ムル場合ニ於テハ部下官僚ヲシテ要塞地帯內何レノ地ヲ問ハス出入セシムルコトヲ得但シ陸軍用地內ニ出入セシメントスルトキハ互ニ當該官廳ノ承認ヲ經ヘシ

第五條 陸軍防禦營造物ノ地帯ニ關聯セサル海軍防禦營造物ノ地帯ニ關シテハ此ノ法律ニ規定スル陸軍大臣ノ職務ハ海軍大臣之ヲ行ヒ要塞司令官ノ職務ハ鎮守府司令長官要港部

司令官之ヲ行フ

第六條 此ノ法律ハ防禦營造物ノ設ナシト雖之ヲ設クルコトニ決定シタル箇所ニ於テ其ノ豫定防禦營造物ノ各突出部ヲ連結スル線ヲ基線トシ第二條及第三條ニ定メタル區域ニ付テ亦之ヲ適用ス但シ基線以內ノ區域ハ第一區ニ準ス

第二章 禁止及制限

第七條 何人ト雖要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ要塞地帯內水陸ノ形狀又ハ施設物ノ狀況ニ付撮影、模寫、模造若ハ錄取又ハ其ノ複寫若ハ複製ヲ爲スコトヲ得但シ軍機保護法ニ特別ノ規定アルモノニ付テハ其ノ規定ニ依ル

第八條 要塞司令官ハ要塞地帯內ニ於テ兵備ノ狀況其ノ他地形等ヲ觀察スル者ト認メタルトキハ之ヲ要塞地帯外ニ退去セシムルコトヲ得

陸軍大臣又ハ要塞司令官ハ特ニ必要アルトキハ前項ノ規定ニ依リ退去ヲ命セラレタル者ニ對シ要塞地帯內ニ入ルコトヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第九條 要塞地帯ノ第一區內ニ在リテハ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲スコトヲ得

一 家屋、工場、倉庫其ノ他ノ工作物ノ新築、改築又ハ増築

二 爆發物ノ使用若ハ貯藏又ハ容易ニ燃燒スヘキ物件ノ貯藏

三 用水路、悪水路又ハ溜池ノ新設又ハ變更

四 竹木林ノ造成又ハ伐採

五 墓地ノ新設又ハ變更

六 山林又ハ原野ニ於ケル焚火

七 漁撈、採藻又ハ船舶ノ繫泊

八 狩獵

第十條 第二區內ニ在リテハ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ水準標高四十メートル以上ノ高地ニ於ケル家屋、工場又ハ倉庫ノ新築、改築又ハ増築ヲ爲スコトヲ得

第十一條 第一區及第二區內ニ在リテハ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲スコトヲ得

一 不燃質物ヲ材料トスル工作物ノ新築、改築又ハ増築

二 土地ノ形狀ヲ變更スル土石ノ採掘又ハ堆積

三 公園、運動場、競馬場、飛行場、耕作地、果樹園、桑畑、貯水池、養魚池又ハ塩田ノ新設又ハ變更

四 水深ノ變更ヲ生スヘキ物件ノ委棄又ハ水底ニ於ケル土石ノ採取

五 火入

六 高周波電流ヲ發スル設備ノ新設又ハ變更

第十二條 第一區及第二區內ニ在リテハ陸軍大臣ノ許可ヲ得ルニ非サレハ左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲スコトヲ得

一 堤塘、棧橋、埠頭、橋梁、道路、運河、隧道、鐵道又ハ軌道ノ新設又ハ變更

二 水面ノ埋立又ハ干拓

第十三條 第七條又ハ第九條乃至前條ノ規定ニ依ル許可ニハ條件ヲ附スルコトヲ得

第十四條 前項ノ條件ハ國防上必要アルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得

第十五條 要塞司令官ハ第九條乃至第十一條ノ規定又ハ第九條乃至第十一條ノ規定ニ依ル許可ニ付シタル條件ニ違反シタル者ニ對シ、陸軍大臣ハ第十二條ノ規定又ハ同條ノ規定ニ依ル許可ニ付シタル條件ニ違反シタル者ニ對シ原狀回復

ヲ命スルコトヲ得

第十五條 地帯ノ禁止制限ニ關シ官廳ノ處分ニ服セザル者ハ其ノ處分ニ就テノ告示又ハ通達ヲ受タル日ヨリ三十日以内ニ陸軍大臣ニ訴願スルコトヲ得但シ訴願中處分ノ執行ヲ妨ケス

第十六條 陸軍大臣ハ場合ニ依リ或區域内ニ限リ特ニ本章制限ノ全部若ハ一部ヲ解除スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ解除ノ事項及其ノ區域ヲ告示ス之ヲ變更スルトキ亦同シ

第十七條 本章ノ制限ハ陸軍又ハ陸海軍官廳ノ行動又ハ施設ニ對シテハ之ヲ適用セス但シ陸軍防禦營造物ノ地帯ニシテ海軍防禦營造物ノ地帯ト相關聯スル場合若ハ軍港要港又ハ海軍用地ニ係ル場合並陸軍用地カ海軍防禦營造物ノ地帯ト相關聯スル場合ニ於テ當該陸軍官廳若ハ海軍官廳カ此ノ法律ニ據タル許可又ハ承認ヲ爲シ若ハ前條ノ處分ヲ爲サントスルトキハ陸軍官廳ハ當該海軍官廳ニ海軍官廳ハ當該陸軍官廳ニ協議スルコトヲ要ス

第十八條 陸海軍以外ノ官廳ニ於テ第七條及第九條乃至第十條ニ掲タル事項ヲ爲サントスルトキハ要塞司令官ノ承認ヲ受タルコトヲ要ス

第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第九條第二號ノ規定ニ違反シタル者

二 第十一條第一號又ハ第五號ノ規定ニ違反シタル者

三 第十二條ノ規定ニ違反シタル者

第二十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第七條ノ規定ニ違反シタル者

二 第八條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ從ハサル者又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル禁止若ハ制限ニ違反シタル者

三 第九條第一號又ハ第三號乃至第五號ノ規定ニ違反シタル者

四 第九條第六號乃至第八號ノ規定ニ違反シタル者

五 第十條ノ規定ニ違反シタル者

六 第十一條第二號乃至第四號又ハ第六號ノ規定ニ違反シタル者

第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金若ハ科料ニ處ス

一 第七條ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者

二 第九條第一號乃至第五號ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者

三 第九條第六號乃至第八號ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者

四 第十條ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者

五 第十一條ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者

六 第十二條ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者

第二十二條 各區ノ區域ヲ標示スル爲設ケタル標識ヲ損壞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ無効ナラシメタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十三條 法人又ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者カ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第十九條、第二十條第三號、

第五號若ハ第六號又ハ第二十一條第二號若ハ第四號乃至第六號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十四條 第十九條、第二十條第三號、第五號及第六號並ニ第二十一條第二號及第四號乃至第六號ノ罰則ハ其ノ者カ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條 前二條ノ場合ニ於テハ懲役ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

第四章 雜則

第二十六條 要塞地帯創設又ハ變更ノ告示ノ當時家屋倉庫築造物等ノ新設、變更、改築、増築等ノ作業中ニ係ルモノハ此ノ法律ノ制限ヲ適用セス

第二十七條 各區ノ區域ヲ標示スル標識ヲ設置スル爲ニ要スル敷地ノ買収及使用ニ關シテハ陸地測量條例ヲ準用ス

第二十八條 此ノ法律ノ施行ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第二十九條 此ノ法律ハ軍港規則及要港規則ノ效力ヲ妨ケルコトナシ

附則 (昭和十五年法律第九十號附則)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十五年勅令第八百二十二號ヲ以テ同年十二月一日ヨリ施行)

本法ニ依リ新ニ許可ヲ受クルコトヲ要スルコトト爲リタル事項ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノニ關シ本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

○不穩文書臨時取締法 (昭和十一年六月十五日) 法律第四十五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル不穩文書臨時取締法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

不穩文書臨時取締法

第一條 軍秩ヲ紊亂シ、財界ヲ攪亂シ其ノ他人心ヲ惑亂スル目的ヲ以テ治安ヲ妨害スベキ事項ヲ掲載シタル文書圖書ニシテ發行ノ責任者ノ氏名及住所ノ記載ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ記載ヲ爲シ又ハ出版法若ハ新聞紙法ニ依ル納本ヲ爲サザルモノヲ出版シタル者又ハ之ヲ頒布シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第三條 前二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス但シ印刷者印本引渡前ニ自首シタルトキハ其ノ刑ヲ免除ス

第四條 第一條又ハ第二條ニ該當スルモノト認ムル文書圖書ニ付テハ眞實ノ記載ヲ爲シ又ハ成規ノ納本ヲ爲ス迄地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ニ於テ其ノ頒布ヲ差止メ必要アリト認ムルトキハ其ノ印本及刻版ヲ差押フルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ頒布ヲ差止メラレタル文書圖書ヲ頒布シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

刑事訴訟法

刑事訴訟法

○刑事訴訟法……………一

○司法警察官吏及司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者ノ指定等ニ關スル件……………七五

○刑事訴訟費用法……………七六

○刑事補償法……………七七

○刑事交渉法……………七八

○逃亡犯罪人引渡條例……………八二

○違警罪即決例……………八四

○間接國稅犯則者處分法……………八五

○間接國稅犯則者處分法施行規則……………八七

○陪審法……………八九

○陪審法施行規則……………九〇

○陪審法第十二條ノ直接國稅ノ種類ニ關スル件……………九二

○少年法……………九三

○矯正院法……………九四

○少年教護法……………九六

○兒童虐待防止法……………九七

○思想犯保護觀察法……………九九

○監獄法……………一〇〇

○恩赦令……………一〇二

刑事訴訟法目次

○刑事訴訟法(大正一一年法律第七五號)

第一編 總則	一
第一章 裁判所ノ管轄	一
第二章 裁判所職員ノ除斥、忌避及回避	四
第三章 訴訟能力	五
第四章 辯護及輔佐	六
第五章 裁判	七
第六章 書類	八
第七章 送達	一〇
第八章 期間	一〇
第九章 被告人ノ召喚、勾引及勾留	二
第十章 被告人訊問	二
第十一章 押收及搜索	八
第十二章 檢査	二二
第十三章 證人訊問	二二
第十四章 鑑定	二八
第十五章 通譯	三〇
第十六章 訴訟費用	三〇

刑事訴訟法目次

第二編 第一審

第一章 捜査	三二
第二章 公訴	三三
第三章 豫審	三六
第四章 公判	三九
第一節 公判準備	三九
第二節 公判手續	四〇
第三節 公判ノ裁判	四三
第三編 上訴	四六
第一章 通則	四六
第二章 控訴	四七
第三章 上告	四八
第四章 抗告	五〇
第四編 大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟手續	五二
第五編 再審	五七
第六編 非常上告	六三
第七編 略式手續	六三
第八編 裁判ノ執行	六四
第九編 私訴	六八
第一章 通則	六八
第二章 第一審	六九
第三章 上訴	七〇

附則	七三	第六章 補則	九九
○司法警察官吏及司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者ノ指定等ニ關スル件(大正一二年勅令第 五二八號)	七五	○陪審法施行規則(昭和二年司法省令第一六號)	九九
○刑事訴訟費用法(大正一〇年法律第六八號)	七六	○陪審法第十二條ノ直接國稅ノ種類ニ關スル件 (昭和二年勅令第一四六號)	一〇一
○刑事補償法(昭和六年法律第六〇號)	七七	○少年法(大正一一年法律第四二號)	一〇二
○刑事交渉法(大正一〇年法律第九二號)	七九	第一章 通則	一〇三
○逃亡犯罪人引渡條例(明治二〇年勅令第四二號)	八一	第二章 保護處分	一〇三
○違警罪即決例(明治一八年太政官布告第三一號)	八四	第三章 刑事處分	一〇三
○間接國稅犯則者處分法(明治三三年法律第六七號)	八五	第四章 少年審判所ノ組織	一〇四
○間接國稅犯則者處分法施行規則(明治三三年勅令 第五二號)	八七	第五章 少年審判所ノ手續	一〇四
○陪審法(大正一二年法律第五〇號)	八九	第六章 裁判所ノ刑事手續	一〇七
第一章 總則	八九	第七章 罰則	一〇八
第二章 陪審員及陪審ノ構成	九〇	附則	一〇八
第三章 陪審手續	九二	○矯正院法(大正一一年法律第四三號)	一〇八
第一節 公判準備	九二	○少年救護法(昭和八年法律第五五號)	一〇九
第二節 公判手續及公判ノ裁判	九四	○兒童虐待防止法(昭和八年法律第四〇號)	一一一
第三節 上訴	九六	○思想犯保護觀察法(昭和一一年法律第二九號)	一一三
第四章 陪審費用	九六	○監獄法(明治四一年法律第二八號)	一一四
第五章 罰則	九八	第一章 總則	一一四
		第二章 收監	一一四

第三章 拘禁	一二五
第四章 戒護	一二五
第五章 作業	一二五
第六章 教養及ヒ教育	一二六
第七章 給養	一二六
第八章 衛生及ヒ醫療	一二六
第九章 接見及ヒ信書	一二七
第十章 領置	一二七
第十一章 賞罰	一二八
第十二章 釋放	一二八
第十三章 死亡	一二九
附則	一二九
○恩赦令(大正元年勅令第二三號)	一二九

○ 附則

第一章 裁判所ノ管轄

第二章 裁判所ノ管轄

第三章 裁判所ノ管轄

第四章 裁判所ノ管轄

第五章 裁判所ノ管轄

第六章 裁判所ノ管轄

第七章 裁判所ノ管轄

第八章 裁判所ノ管轄

第九章 裁判所ノ管轄

第十章 裁判所ノ管轄

第十一章 裁判所ノ管轄

第十二章 裁判所ノ管轄

第十三章 裁判所ノ管轄

第十四章 裁判所ノ管轄

第十五章 裁判所ノ管轄

○ 刑事訴訟法 (大正十一年五月五日) (法律第七十五號)

改正 大正一五年第七二號、昭和一〇年第四三號、昭和一二二年第七一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テル刑事訴訟法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

刑事訴訟法

第一編 總 則

第一章 裁判所ノ管轄

第一條 裁判所ノ土地管轄ハ犯罪地又ハ被告人ノ住所、居所若ハ現在地ニ依ル

帝國外ニ在ル帝國艦船内ニ於テ犯シタル罪ニ付テハ前項ニ規定スル地ノ外其ノ艦船ノ本籍若ハ船籍ノ所在地又ハ犯罪後其ノ艦船ノ繫泊シタル地ニ依ル

第二條 事物管轄ヲ異ニスル數個ノ事件牽連スルトキハ上級裁判所併セテ之ヲ管轄スルコトヲ得

第三條 事物管轄ヲ異ニスル數個ノ牽連事件上級裁判所ノ公判ニ繫屬スル場合ニ於テ併セテ審判スルコトヲ必要トセサルモノアルトキハ上級裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル下級裁判所ニ之ヲ移送スルコトヲ得

第四條 事物管轄ヲ異ニスル數個ノ牽連事件各別ニ上級裁判所及下級裁判所ノ公判ニ繫屬スルトキハ上級裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ下級裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ヲ併セテ審判スルコトヲ得

第五條 土地管轄ヲ異ニスル數個ノ事件牽連スルトキハ一個ノ事件ニ付管轄權ヲ有スル裁判所併セテ他ノ事件ヲ管轄スルコトヲ得

第六條 土地管轄ヲ異ニスル數個ノ牽連事件同一裁判所ノ公判ニ繫屬スル場合ニ於テ併セテ審判スルコトヲ必要トセサルモノアルトキハ其ノ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル他ノ裁判所ニ之ヲ移送スルコトヲ得

第七條 事物管轄ヲ同シクスル數個ノ牽連事件各別ニ數個ノ裁判所ノ公判ニ繫屬スルトキハ各裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ之ヲ一ノ裁判所ニ併合スルコトヲ得

事物管轄ヲ同シクスル數個ノ牽連事件各別ニ數個ノ裁判所ノ豫審ニ繫屬スルトキ亦前項ニ同シ
前二項ノ場合ニ於テ各裁判所ノ決定一致セサルトキ

ハ各裁判所ニ共通スル直近上級裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ事件ヲ一ノ裁判所ニ併合スルコトヲ得

第八條 數個ノ事件ハ左ノ場合ニ於テ牽連スルモノトス

- 一 一人數罪ヲ犯シタルトキ
- 二 數人共ニ同一又ハ別個ノ罪ヲ犯シタルトキ
- 三 數人通謀シテ各別ニ罪ヲ犯シタルトキ
- 四 數人同時ニ同一ノ場所ニ於テ各別ニ罪ヲ犯シタルトキ

犯人藏匿ノ罪、證憑湮滅ノ罪、偽證ノ罪、虛偽ノ鑑定通譯ノ罪及贓物ニ關スル罪ト其ノ本犯ノ罪トハ共ニ犯シタルモノト看做ス

第九條 同一事件事物管轄ヲ異ニスル數個ノ裁判所ノ豫審又ハ公判ニ繫屬スルトキハ上級裁判所ニ於テ之ヲ審判ス

上級裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル下級裁判所ヲシテ其ノ事件ヲ審判セシムルコトヲ得

第十條 同一事件事物管轄ヲ同シクスル數個ノ裁判所ノ豫審又ハ公判ニ繫屬スルトキハ最初ニ公訴ヲ受ケ

ルコト能ハサルトキハ檢事總長ハ大審院ニ管轄指定ノ請求ヲ爲スヘシ

第十六條 檢事ハ左ノ場合ニ於テ直近上級裁判所ニ管轄移轉ノ請求ヲ爲スヘシ

- 一 管轄裁判所又ハ裁判所構成法第十三條第二項ノ規定ニ依リ定メタル裁判所ニ於テ法律上ノ理由又ハ特別ノ事情ニ因リ裁判權ヲ行フコト能ハサルトキ
- 二 被告人ノ地位、地方ノ民心、訴訟ノ狀況其ノ他ノ事情ニ因リ裁判ノ公平ヲ維持スルコト能ハサル虞アルトキ

前項第二號ノ場合ニ於テハ被告人亦管轄移轉ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第十七條 犯罪ノ性質、被告人ノ地位、地方ノ民心其ノ他ノ事情ニ因リ管轄裁判所ニ於テ審判ヲ爲ストキハ公安ヲ害スル虞アリト認ムル場合ニ於テハ檢事總長ハ大審院ニ管轄移轉ノ請求ヲ爲スヘシ

第十八條 管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求ヲ爲スニハ理由ヲ附シタル請求書ヲ管轄裁判所ニ差出スヘシ

檢事前項ノ請求書ヲ差出スニハ管轄裁判所ノ檢事ヲ經由スヘシ

タル裁判所ニ於テ之ヲ審判ス
各裁判所ニ共通スル直近上級裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ後ニ公訴ヲ受ケタル裁判所ヲシテ其ノ事件ヲ審判セシムルコトヲ得

第十一條 裁判所ハ事實發見ノ爲必要アルトキハ管轄區域外ニ於テ職務ヲ行フコトヲ得

前項ノ規定ハ豫審判事及受命判事ニ之ヲ準用ス

第十二條 訴訟手續ハ管轄違ノ理由ニ因リ其ノ效力ヲ失ハス

第十三條 裁判所ハ管轄權ヲ有セサルトキト雖急速ヲ要スル場合ニ於テハ事實發見ノ爲必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ豫審判事及受命判事ニ之ヲ準用ス

第十四條 檢事ハ左ノ場合ニ於テ關係アル第一審裁判所ニ共通スル直近上級裁判所ニ管轄指定ノ請求ヲ爲スヘシ

- 一 裁判所ノ管轄區域明確ナラサル爲管轄裁判所ノ定ラサルトキ
- 二 管轄違ヲ言渡シタル確定裁判アリタル事件ニ付

他ニ管轄裁判所ナキトキ

第十五條 法律ニ依ル管轄裁判所ナキトキ又ハ之ヲ知

第十九條 檢事豫審又ハ公判ニ繫屬スル事件ニ付管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ裁判所ニ通知スヘシ

第二十條 檢事豫審又ハ公判ニ繫屬スル事件ニ付第十六條第一項第二號ニ規定スル事由ノ爲管轄移轉ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テハ速ニ請求書ノ謄本ヲ被告人ニ交付スヘシ

被告人ハ謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三日内ニ管轄裁判所ニ意見書ヲ差出スコトヲ得

第二十一條 被告人管轄移轉ノ請求書ヲ差出スニハ事件ノ繫屬スル裁判所ヲ經由スヘシ

前項ノ裁判所請求書ヲ受取リタルトキハ速ニ之ヲ其ノ裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ

檢事ハ請求書ニ意見書ヲ添ヘ速ニ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ

第二十二條 豫審又ハ公判ニ繫屬スル事件ニ付管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求アリタルトキハ決定アル迄訴訟手續ヲ停止スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求ヲ受ケタル裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

第二章 裁判所職員ノ除斥、忌避及回避

第二十四條 判事ハ左ノ場合ニ於テ職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘシ

- 一 判事被害者ナルトキ
 - 二 判事私訴當事者ナルトキ
 - 三 判事被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ配偶者、四親等内ノ血族、三親等内ノ姻族又ハ同居ノ戸主若ハ家族ナルトキ親族關係ノ止ミタル後亦同シ
 - 四 判事被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ法定代理人、後見監督人又ハ保佐人ナルトキ
 - 五 判事事件ニ付證人又ハ鑑定人ト爲リタルトキ
 - 六 判事事件ニ付被告人ノ代理人、辯護人、輔佐人又ハ私訴當事者ノ代理人ト爲リタルトキ
 - 七 判事事件ニ付檢察又ハ司法警察官ノ職務ヲ行ヒタルトキ
 - 八 判事事件ニ付豫審終結決定若ハ前審ノ裁判又ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタルトキ但シ受託判事トシテ關與シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第二十五條 判事職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキトキ又ハ偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アルトキハ檢察、被告人又ハ私訴當事者之ヲ忌避スルコトヲ得

辯護人ハ被告人ノ爲忌避ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ被告人ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

第二十六條 事件ニ付請求又ハ陳述ヲ爲シタル後ハ偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アリトシテ判事ヲ忌避スルコトヲ得ス但シ忌避ノ原由アリシコトヲ知ラザリシトキ又ハ忌避ノ原由其ノ後ニ發生シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 合議裁判所ノ判事ニ對スル忌避ノ申立ハ其ノ判事所屬ノ裁判所ニ之ヲ爲シ豫審判事、受命判事又ハ區裁判所判事ニ對スル忌避ノ申立ハ忌避スヘキ判事ニ之ヲ爲スヘシ
忌避ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ原由ヲ示スヘシ
忌避ノ原由及前條但書ノ事實ハ申立ヲ爲シタル日ヨリ三日内ニ書面ヲ以テ之ヲ疏明スヘシ
忌避セラレタル判事ハ第二十八條第四項但書及第二十九條ノ場合ヲ除クノ外忌避ノ申立ニ對シ意見書ヲ差出スヘシ
第二十八條 合議裁判所ノ判事忌避セラレタルトキハ其ノ判事所屬ノ裁判所決定ヲ爲スヘシ
忌避セラレタル判事ハ前項ノ決定ニ關與スルコトヲ

得ス

第一項ノ裁判所忌避セラレタル判事ノ退去ニ因リ決定ヲ爲スコト能ハサルトキハ直近上級裁判所決定ヲ爲スヘシ

豫審判事忌避セラレタルトキハ其ノ判事所屬ノ裁判所、區裁判所判事忌避セラレタルトキハ管轄地方裁判所決定ヲ爲スヘシ但シ忌避セラレタル判事忌避ノ申立ヲ理由アリトスルトキハ其ノ決定アリタルモノト看做ス

第二十九條 訴訟ヲ遅延セシムル目的ノミヲ以テ爲シタルコト明白ナル忌避ノ申立ハ決定ヲ以テ之ヲ却下スヘシ此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ適用セス第二十六條又ハ第二十七條第二項第三項ノ規定ニ違反シテ爲シタル忌避ノ申立ヲ却下スル場合亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ忌避セラレタル豫審判事、受命判事又ハ區裁判所判事ハ忌避ノ申立ヲ却下スル裁判ヲ爲スコトヲ得

第三十條 忌避ノ申立アリタルトキハ前條ノ場合ヲ除クノ外訴訟手續ヲ停止スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條 忌避ノ申立ヲ却下スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三十二條 忌避ノ申立ニ付決定ヲ爲スヘキ裁判所ハ第二十四條各號ノ一ニ該當スル者アリト認ムルトキハ職權ヲ以テ除斥ノ決定ヲ爲スヘシ

第二十七條第四項及第二十八條第二項第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條 判事忌避セラルヘキ原由アリト思料スルトキハ回避スヘシ

回避ノ申立ハ判事所屬ノ裁判所ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十八條ノ規定ハ回避ニ付之ヲ準用ス

第三十四條 前二條ノ決定ハ之ヲ送達セス
第三十五條 本章ノ規定ハ第二十四條第八號ノ規定ヲ除クノ外裁判所書記ニ之ヲ準用ス
豫審判事又ハ受命判事ニ附屬スル裁判所書記ニ對スル忌避ノ申立ハ其ノ附屬スル判事ニ之ヲ爲スヘシ
決定ハ裁判所書記所屬ノ裁判所之ヲ爲スヘシ但シ第二十九條第二項ノ裁判ハ裁判所書記ノ附屬スル判事之ヲ爲スコトヲ得

第三章 訴訟能力

第三十六條 被告人法人ナルトキハ其ノ代表者訴訟行爲ニ付之ヲ代表ス
數人共同シテ法人ヲ代表スル場合ト雖訴訟行爲ニ付テハ各自之ヲ代表ス

第三十七條 刑法第三十九條乃至第四十一條ノ例ヲ用キサル罪ニ該ル事件ニ付被告人意思能力ヲ有セザルトキハ其ノ法定代理人訴訟行爲ニ付之ヲ代表ス

第三十八條 前二條ノ規定ニ依リ被告人ヲ代表スル者ナキトキハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ特別代理人ヲ選任スヘシ

特別代理人ハ被告人ヲ代表シテ訴訟行爲ヲ爲ス者アルニ至ル迄其ノ任務ヲ行フ

第四十條 辯護人ハ辯護士中ヨリ之ヲ選任スヘシ
裁判所又ハ豫審判事ノ許可ヲ得タルトキハ辯護士ニ非サル者ヲ辯護人ニ選任スルコトヲ得

第三十九條 被告人ハ公訴ノ提起アリタル後何時ニテモ辯護人ヲ選任スルコトヲ得
被告人ノ法定代理人、保佐人、直系尊屬、直系卑屬及配偶者並被告人ノ屬スル家ノ戶主ハ獨立シテ辯護人ヲ選任スルコトヲ得

第四十條 辯護人ハ辯護士中ヨリ之ヲ選任スヘシ
裁判所又ハ豫審判事ノ許可ヲ得タルトキハ辯護士ニ非サル者ヲ辯護人ニ選任スルコトヲ得

第四十一條 辯護人ノ選任ハ審級毎ニ之ヲ爲スヘシ
豫審中爲シタル辯護人ノ選任ハ第一審ノ公判ニ於テモ其ノ效力ヲ有ス

第四十二條 辯護人ノ選任ハ辯護人ト連署シタル書面ヲ差出シテ之ヲ爲スヘシ

第四十三條 第三百三十四條又ハ第三百三十五條ノ規定ニ依リ附スヘキ辯護人ハ裁判所所在地ニ在ル辯護士又ハ司法官試補ノ中ヨリ裁判長之ヲ選任スヘシ
被告人ノ利害相反セザルトキハ同一ノ辯護人ヲシテ數人ノ辯護ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十四條 辯護人ハ被告事件公判ニ付セラレタル後裁判所ニ於テ訴訟ニ關スル書類及證據物ヲ閱覽シ且其ノ書類ヲ謄寫スルコトヲ得
豫審ニ於テハ辯護人ノ立會フコトヲ得ヘキ豫審處分ニ關スル書類及證據物ヲ閱覽シ且其ノ書類ヲ謄寫スルコトヲ得

辯護人ハ裁判長又ハ豫審判事ノ許可ヲ受ケ證據物ヲ謄寫スルコトヲ得

第四十五條 被告事件公判ニ付セラレタル後ニ於テハ辯護人ト勾留ヲ受ケタル被告人トノ接見及信書ノ往復ヲ禁スルコトヲ得ス

第四十六條 辯護人ハ別段ノ規定アル場合ニ限り獨立シテ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得

第四十七條 被告人ノ法定代理人、保佐人、直系尊屬、直系卑屬及夫並被告人ノ屬スル家ノ戶主ハ被告事件公判ニ付セラレタル後何時ニテモ輔佐人ト爲ルコトヲ得

輔佐人タラントスル者ハ審級毎ニ書面ヲ以テ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

輔佐人ハ被告人ノ爲スコトヲ得ヘキ訴訟行爲ヲ獨立シテ爲スコトヲ得但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十條 裁判ノ告知ハ公判廷ニ於テハ宣告ニ依リ之ヲ爲シ其ノ他ノ場合ニ於テハ裁判書ノ謄本ヲ送達シテ之ヲ爲スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十一條 裁判ノ宣告ハ裁判長之ヲ爲スヘシ
判決ノ宣告ヲ爲スニハ主文及理由ヲ朗讀シ又ハ主文ノ朗讀ト同時ニ理由ノ要旨ヲ告クヘシ

第五十二條 檢事ノ執行指揮ヲ要スル裁判ヲ爲シタルトキハ速ニ裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ヲ檢事ニ送付スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條 被告人ノ他訴訟關係人ハ其ノ費用ヲ以テ裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ノ

ノ取調ヲ爲スコトヲ得

前項ノ取調ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ區裁判所判事ニ之ヲ囑託スルコトヲ得
受命判事又ハ受託判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

第四十九條 裁判ニハ理由ヲ附スヘシ
上訴ヲ許ササル決定又ハ命令ニハ理由ヲ附セザルコトヲ得

第五十條 裁判ノ告知ハ公判廷ニ於テハ宣告ニ依リ之ヲ爲シ其ノ他ノ場合ニ於テハ裁判書ノ謄本ヲ送達シテ之ヲ爲スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十一條 裁判ノ宣告ハ裁判長之ヲ爲スヘシ
判決ノ宣告ヲ爲スニハ主文及理由ヲ朗讀シ又ハ主文ノ朗讀ト同時ニ理由ノ要旨ヲ告クヘシ

第五十二條 檢事ノ執行指揮ヲ要スル裁判ヲ爲シタルトキハ速ニ裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ヲ檢事ニ送付スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條 被告人ノ他訴訟關係人ハ其ノ費用ヲ以テ裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ノ

交付ヲ請求スルコトヲ得

第六章 書類

第五十四條 訴訟ニ關スル書類ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外裁判所書記之ヲ作成スヘシ

第五十五條 訴訟ニ關スル書類ハ公判開廷前ニ於テハ之ヲ公ニスルコトヲ得ス

第五十六條 被告人、被疑者、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ訊問ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ

調書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 被告人、被疑者、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ訊問及供述

二 證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人宣誓ヲ爲ササルトキハ其ノ事由

調書ハ裁判所書記ヲシテ之ヲ供述者ニ讀聞カサシメ又ハ供述者ヲシテ之ヲ閱覽セシメ其ノ記載ノ相違ナキカ否ヲ問フヘシ

供述者増減變更ヲ申立テタルトキハ其ノ供述ヲ調書ニ記載スヘシ

調書ニハ供述者ヲシテ署名捺印セシムヘシ

第五十七條 檢證、押收又ハ搜索ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ

押收ヲ爲シタルトキハ其ノ品目ヲ調書ニ記載シ又ハ別ニ目錄ヲ作り之ヲ調書ニ添附スヘシ

第五十八條 前二條ノ調書ニハ取調又ハ處分ヲ爲シタル年月日及場所ヲ記載シ其ノ取調又ハ處分ヲ爲シタル者裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ但シ公判期日外ニ於テ裁判所取調又ハ處分ヲ爲シタルトキハ裁判長裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ

前條ノ調書ニハ取調又ハ處分ヲ爲シタル時ヲモ記載スヘシ

第五十九條 裁判所書記ノ立會ナクシテ取調又ハ處分ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所書記ノ行フヘキ職務ハ其ノ取調又ハ處分ヲ爲ス者自ラ之ヲ行フヘシ

第六十條 公判期日ニ於ケル訴訟手續ニ付テハ公判調書ヲ作ルヘシ

公判調書ニハ左ノ事項其ノ他一切ノ訴訟手續ヲ記載スヘシ

一 公判ヲ爲シタル裁判所及年月日

二 判事、檢事及裁判所書記ノ官氏名並被告人、代理人、辯護人、輔佐人及通事ノ氏名

三 被告人出頭セザリシトキハ其ノ旨

四 公開ヲ禁シタルトキハ其ノ旨及理由

五 被告事件ノ陳述及公判開廷中口頭ノ起訴アリタルトキハ其ノ要旨

六十辯論ノ要旨

七 第五十六條第二項ニ掲ケタル事項

八 朗讀シ又ハ要旨ヲ告ケタル書類

九 被告人ニ示シタル書類及證據物

十 公判廷ニ於テ爲シタル檢證及押收

十一 裁判長ノ記載ヲ命シタル事項及訴訟關係人ノ請求ニ因リ記載ヲ許シタル事項

十二 被告人若ハ辯護人最終ニ陳述シタルコト又ハ被告人若ハ辯護人ニ最終ニ陳述スル機會ヲ與ヘタルコト

十三 判決其ノ他ノ裁判ノ宣告ヲ爲シタルコト

第六十一條 公判調書ニ付テハ第五十六條第三項乃至第五項ノ規定ニ依ル手續ヲ爲スコトヲ要セス

供述者ノ請求アリタルトキハ裁判所書記ヲシテ其ノ供述ニ關スル部分ヲ讀聞カサシメ増減變更ノ申立アリタルトキハ其ノ供述ヲ記載セシムヘシ

第六十二條 公判調書ハ公判開廷ノ日ヨリ五日內ニ之ヲ整理スヘシ

第六十三條 公判調書ニハ裁判長裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ

名捺印スヘシ

裁判長差支アルトキハ上席ノ判事其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

區裁判所判事差支アルトキハ裁判所書記其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

裁判所書記差支アルトキハ裁判長其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

第六十四條 公判期日ニ於ケル訴訟手續ハ公判調書ノミニ依リ之ヲ證明スルコトヲ得

第六十五條 辯護人ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ速記者ヲシテ公判ニ於ケル被告人又ハ證人ノ供述ヲ筆記セシムルコトヲ得

第六十六條 裁判ヲ爲ストキハ裁判書ヲ作ルヘシ但シ決定又ハ命令ヲ宣告スル場合ニ於テハ裁判書ヲ作ラスシテ之ヲ調書ニ記載セシムルコトヲ得

第六十七條 裁判書ハ判事之ヲ作ルヘシ

第六十八條 裁判書ニハ裁判ヲ爲シタル判事署名捺印スヘシ裁判長署名捺印スルコト能ハサルトキハ上席ノ判事其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印シ他ノ判事署名捺印スルコト能ハサルトキハ裁判長其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

第六十九條 裁判書ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外裁判ヲ受クル者ノ氏名、年齢、職業及住居ヲ記載スヘシ裁判ヲ受クル者法人ナルトキハ其ノ名稱及事務所ヲ記載スヘシ

判決書ニハ前項ニ規定スル事項ノ外公判ニ關與シタル檢事ノ官氏名ヲ記載スヘシ

第七十條 裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ハ原本又ハ謄本ニ依リ之ヲ作ルヘシ

第七十一條 官吏又ハ公吏ノ作ルヘキ書類ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外年月日ヲ記載シテ署名捺印シ其ノ所屬ノ官署又ハ公署ヲ表示スヘシ

書類ニハ每葉ニ契印スヘシ

第七十二條 官吏又ハ公吏書類ヲ作ルニハ文字ヲ改竄スヘカラス挿入、削除又ハ欄外記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印シ其ノ字數ヲ記載スヘシ但シ削除シタル部分ハ之ヲ讀得ヘキ爲字體ヲ存スヘシ

第七十三條 官吏又ハ公吏ニ非サル者ノ作ルヘキ書類ニハ年月日ヲ記載シテ署名捺印スヘシ

第七十四條 官吏又ハ公吏ニ非サル者ノ署名捺印スヘキ場合ニ於テ署名スルコト能ハサルトキハ他人ヲシテ代書セシメ捺印スルコト能ハサルトキハ花押又ハ

捺印スヘシ

他人ヲシテ代書セシメタル場合ニ於テハ代書シタル者其ノ事由ヲ記載シテ署名捺印スヘシ

第七十五條 被告人、私訴當事者、代理人、辯護人又ハ輔佐人ハ書類ノ送達ヲ受クル爲書面ヲ以テ其ノ住居又ハ事務所ヲ裁判所ニ届出ツヘシ裁判所所在地ニ住居又ハ事務所ヲ有セサルトキハ其ノ所在地ニ住居又ハ事務所ヲ有スル者ヲ送達受取人ニ選任シ其ノ者ト連署シタル書面ヲ以テ之ヲ届出ツヘシ

前項ノ規定ニ依ル届出ハ同一ノ地ニ在ル各審級ノ裁判所ニ對シ其ノ效力ヲ有ス

前二項ノ規定ハ在監者ニ之ヲ適用セス

送達ニ付テハ送達受取人ハ之ヲ本人ト看做シ其ノ住居又ハ事務所ハ之ヲ本人ノ住居ト看做ス

第七十六條 住居、事務所又ハ送達受取人ヲ届出ツヘキ者其ノ届出ヲ爲ササルトキハ裁判所書記ハ書類ヲ郵便ニ付シテ其ノ送達ヲ爲スコトヲ得

前項ノ送達ハ書類ヲ郵便ニ付シタル時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第七十七條 檢事ニ對スル送達ハ書類ヲ檢事局ニ送付

シテ之ヲ爲スヘシ

第七十八條 被告人ノ住居、事務所及現在地知レサルトキハ公示送達ヲ爲スコトヲ得

被告人裁判權ノ及ハサル場所ニ在ル場合ニ於テ他ノ方法ヲ以テ送達ヲ爲スコト能ハサルトキ亦前項ニ同シ

第七十九條 公示送達ハ裁判所ノ命シタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

公示送達ハ裁判所書記送達スヘキ書類又ハ其ノ抄本ヲ裁判所ノ揭示場ニ公示シテ之ヲ爲スヘシ

公判ニ於ケル第一回ノ召喚狀ノ公示送達ハ裁判所書記召喚狀ヲ裁判所ノ揭示場ニ公示シ且其ノ謄本ヲ官報又ハ新聞紙ニ掲載シテ之ヲ爲スヘシ

前項ノ公示送達ハ最後ニ官報又ハ新聞紙ニ掲載シタル日ヨリ三十日、其ノ他ノ公示送達ハ揭示場ニ公示ヲ始メタル日ヨリ七日ノ期間ヲ經過スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

第八十條 書類ノ送達ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外民事訴訟法ヲ準用ス但シ司法警察官ノ發スル書類ノ送達ニ付テハ裁判所書記ニ屬スル職務ハ司法警察官之ヲ行ヒ執達吏ニ屬スル職務ハ司法警察吏

之ヲ行フ

第八十一條 期間ノ計算ニ付テハ時ヲ以テスルモノハ即時ヨリ之ヲ起算シ日、月又ハ年ヲ以テスルモノハ初日ヲ算入セス但シ時効期間ノ初日ハ時間ヲ論セス一日トシテ之ヲ計算ス

月及年ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算ス

期間ノ末日日曜日、一月一日二日四日、十二月二十九日三十日三十一日又ハ一般ノ休日トシテ指定セラレタル日ニ當ルトキハ之ヲ期間ニ算入セス但シ時効期間ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十二條 法定ノ期間ハ訴訟行爲ヲ爲スヘキ者ノ住居又ハ事務所ノ所在地ト裁判所所在地トノ距離ニ從ヒ海陸路二十里毎ニ一日ヲ加フ其ノ距離又ハ端數二十里ニ滿タサルモ五里以上ナルトキハ一日ヲ加フ但シ海路ハ二海里ヲ一里トシテ之ヲ計算ス

前項ノ規定ハ宣告シタル裁判ニ對スル上訴ノ提起期間ニハ之ヲ適用セス

外國又ハ交通不便ノ地ニ在ル者ノ爲ニハ特ニ期間ヲ定ムルコトヲ得

第九章 被告人ノ召喚、勾引及勾留

第八十三條 裁判所公訴ヲ受ケタルトキハ被告人ヲ召喚スヘシ

第八十四條 被告人ノ召喚ハ召喚狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

被告人ヨリ期日ニ出頭スヘキ旨ヲ記載シタル書面ヲ差出シ又ハ出頭シタル被告人ニ對シ口頭ヲ以テ次回ノ出頭ヲ命シタルトキハ召喚狀ヲ送達シタルト同一ノ效力ヲ有ス口頭ヲ以テ出頭ヲ命シタル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ調書ニ記載スヘシ

受訴裁判所ニ近接スル監獄ニ在ル被告人ニ對シテハ監獄官吏ニ通知シテ之ヲ召喚スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ被告人監獄官吏ヨリ通知ヲ受ケタル時ヲ以テ召喚狀ノ送達アリタルモノト看做ス

第八十五條 召喚ニ因リ出頭シタル被告人ハ速ニ之ヲ訊問スヘシ

被告人裁判所構内ニ在ルトキハ召喚ヲ爲ササル場合ニ於テモ之ヲ訊問スルコトヲ得

第八十六條 被告人再度ノ召喚ヲ受ケテ出頭セサルトキハ之ヲ勾引スルコトヲ得

第八十七條 左ノ場合ニ於テハ直ニ被告人ヲ勾引スルコトヲ得

第九十二條 被告人ヲ勾留シタル場合ニ於テハ其ノ身體及名譽ヲ保全スルコトニ注意スヘシ

第九十三條 裁判長ハ急速ヲ要スル場合ニ於テハ第八十三條乃至第九十一條ニ規定スル處分ヲ爲シ又ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第九十四條 裁判長ハ被告人ノ現在地ノ豫審判事若ハ區裁判所判事、法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署、檢察又ハ司法警察官ニ被告人ノ勾引ヲ囑託スルコトヲ得

受託官署ハ受託ノ權限アル官署ニ轉囑スルコトヲ得但シ司法警察官ハ此ノ限ニ在ラス

受託官署受託事項ニ付權限ヲ有セサルトキハ受託ノ權限アル官署ニ囑託ヲ移送スルコトヲ得但シ司法警察官ハ此ノ限ニ在ラス

第九十五條 被告人ノ現在地ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ裁判長ハ檢察長ニ被告人ノ容貌、體格其ノ他ノ徵表ヲ記載シタル書面ヲ送付シ其ノ捜査及勾引ヲ囑託スルコトヲ得

囑託ヲ受ケタル檢察長ハ其ノ管内ノ檢察ヲシテ勾引狀ヲ發シ捜査及勾引ノ手續ヲ爲サシムヘシ

一 被告人定リタル住居ヲ有セサルトキ

二 被告人罪證ヲ湮滅スル虞アルトキ

三 被告人逃亡シタルトキ又ハ逃亡スル虞アルトキ五百圓以下ノ罰金、拘留又ハ科料ニ該ル事件ニ付テハ前項第一號ノ場合ヲ除ク外被告人ヲ勾引スルコトヲ得但シ前條及第六百六條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第八十八條 被告人ノ勾引ハ勾引狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

第八十九條 勾引シタル被告人ハ裁判所ニ引致シタル時ヨリ四十八時間内ニ之ヲ訊問スヘシ其ノ時間内ニ勾留狀ヲ發セサルトキハ被告人ヲ釋放スヘシ

第九十條 第八十七條ノ規定ニ依リ被告人ヲ勾引スルコトヲ得ヘキ原由アルトキハ之ヲ勾留スルコトヲ得

被告人ノ勾留ハ第八十五條又ハ前條ノ規定ニ依リ被告人ヲ訊問シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

但シ被告人逃亡シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

被告人監獄ニ在ルトキハ第一項ノ原由ナシト雖之ヲ勾留スルコトヲ得

第九十一條 被告人ノ勾留ハ勾留狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

第九十六條 前二條ノ場合ニ於テ囑託ニ因リテ勾引狀ヲ發シタル官署ハ被告人ヲ引致シタル時ヨリ四十八時間内ニ其ノ人違ナキカ否ヲ取調フヘシ

被告人人違ニ非サルトキハ速ニ之ヲ指定セラレタル裁判所ニ送致スヘシ此ノ場合ニ於テハ第八十九條ノ期間ハ被告人ノ送致ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

第九十七條 召喚狀、勾引狀又ハ勾留狀ニハ被告事件、被告人ノ氏名及住居ヲ記載シ裁判長又ハ受命判事之ニ記名捺印スヘシ

勾引狀又ハ勾留狀ヲ發スル場合ニ於テ被告人ノ住居分明ナラサルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要セス其ノ氏名分明ナラサルトキハ容貌、體格其ノ他ノ徵表ヲ以テ被告人ヲ指示スヘシ

召喚狀ニハ被告人ノ出頭スヘキ年月日時、場所及召喚ニ應セサルトキハ勾引狀ヲ發スルコトアルヘキ旨ヲ記載スヘシ

勾留狀ニハ被告人ヲ勾留スヘキ監獄ヲ指定スヘシ

裁判長第九十三條ノ規定ニ依リ召喚狀、勾引狀又ハ勾留狀ヲ發スル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第九十八條 前條第一項及第二項ノ規定ハ第九十四條第四項及第九十五條第二項ノ勾引狀ニ付之ヲ準用ス

此ノ場合ニ於テハ勾引狀ニ囑託ヲ爲シタル裁判長ノ氏名及囑託ニ因リ之ヲ發スル旨ヲ記載スヘシ

勾留狀ヲ執行スルニハ之ヲ被告人ニ示シテ指定セラレタル監獄ニ引致スヘシ

第九十九條 召喚狀ハ之ヲ送達ス
第一百條 勾引狀又ハ勾留狀ハ檢事ノ指揮ニ依リ司法警察官吏之ヲ執行ス但シ急速ヲ要スル場合ニ於テハ裁判長、受命判事、豫審判事又ハ區裁判所判事其ノ執行ヲ指揮スルコトヲ得

第四百條 勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ハ其ノ贖本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得
第四百五條 軍事用ノ廳舎又ハ艦船ノ内ニ在ル者ニ對シテ勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ廳舎若ハ艦船ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ勾引狀又ハ勾留狀ヲ示シテ引渡ヲ求ムヘシ

監獄ニ在ル被告人ニ對シテ發シタル勾留狀ハ檢事ノ指揮ニ依リ監獄官吏之ヲ執行ス
檢事ノ指揮ニ依リ勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スル場合ニ於テハ之ヲ發シタル官署ハ其ノ原本ヲ檢事ニ送付スヘシ

軍事用ノ廳舎又ハ艦船ノ外ニ在リテ現ニ勤務ニ従事スル軍人、軍屬又ハ陸軍海軍所屬ノ學生生徒ニ對シテ勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ其ノ所屬ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ勾引狀又ハ勾留狀ヲ示シテ引渡ヲ求ムヘシ

第一百一條 勾引狀ハ數通ヲ作り之ヲ司法警察官吏數人ニ交付スルコトヲ得

第四百六條 裁判長ハ必要アルトキハ指定ノ場所ニ被告人ノ出頭又ハ同行ヲ命スルコトヲ得被告人正當ノ事由ナクシテ之ヲ肯セサルトキハ其ノ場所ニ勾引スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第八十九條ノ期間ハ其ノ場所ニ引致シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第一百二條 司法警察官吏ハ必要アルトキハ管轄區域外ニ於テ勾引狀ノ執行ヲ爲シ又ハ其ノ地ノ司法警察官ニ其ノ執行ヲ求ムルコトヲ得

第四百七條 勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ヲ護送スル場合ニ於テ必要アルトキハ假ニ最寄ノ監獄ニ之ヲ留置スルコトヲ得

第一百三條 勾引狀ヲ執行スルニハ之ヲ被告人ニ示シテ指定セラレタル裁判所ニ引致スヘシ第九十四條第四項及第九十五條第二項ノ勾引狀ニ付テハ之ヲ發シタル官署ニ引致スヘシ

第四百八條 勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ヲ引致シタル場合ニ於テ必要アルトキハ之ヲ監獄ニ留置スルコトヲ得

第九十九條 勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行シタルトキハ之ニ執行ノ場所及年月日時ヲ記載シ之ヲ執行スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ記載シテ記名捺印スヘシ
勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ニ關スル書類ハ執行ヲ指揮シタル檢事其ノ他ノ官署ニ之ヲ差出スヘシ
勾引狀ノ執行ニ關スル書類ヲ受取リタル檢事其ノ他ノ官署ハ被告人ノ引致セラレタル年月日時ヲ勾引狀ニ記載スヘシ

ハ其ノ授受ヲ禁シ又ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス
裁判所檢閱ヲ爲スコト能ハサルトキハ檢事之ヲ爲スコトヲ得

第一百十條 檢事ハ裁判所ノ同意ヲ得テ勾留セラレタル被告人ヲ他ノ監獄ニ移スコトヲ得

第四百九條 勾留ノ期間ハ二月トス特ニ繼續ノ必要アル場合ニ於テハ決定ヲ以テ一月毎ニ之ヲ更新スルコトヲ得

第一百一十條 勾留セラレタル被告人ハ法令ノ範圍内ニ於テ他人ト接見シ又ハ書類若ハ物ノ授受ヲ爲スコトヲ得勾引狀ニ因リ監獄ニ留置セラレタル被告人亦同シ

第四百十條 勾留ノ原由消滅シタルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ勾留ヲ取消スヘシ

第一百十一條 裁判所ハ罪證ヲ湮滅シ又ハ逃亡ヲ圖ル虞アルトキハ勾留セラレタル被告人ト他人トノ接見ヲ禁シ又ハ他人ト授受スヘキ書類其ノ他ノ物ヲ檢閲シ其ノ授受ヲ禁シ若ハ之ヲ差押フルコトヲ得但シ糧食

第四百十一條 勾留セラレタル被告人又ハ其ノ法定代理人、保佐人、直系尊屬、直系卑屬、配偶者、被告人ノ屬スル家ノ戸主若ハ辯護人ハ保釋ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第一百十二條 裁判所ハ罪證ヲ湮滅シ又ハ逃亡ヲ圖ル虞アルトキハ勾留セラレタル被告人ト他人トノ接見ヲ禁シ又ハ他人ト授受スヘキ書類其ノ他ノ物ヲ檢閲シ其ノ授受ヲ禁シ若ハ之ヲ差押フルコトヲ得但シ糧食

第四百十二條 保釋ノ請求アリタルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ
保釋ヲ許ス場合ニ於テハ保證金額ヲ定ムヘシ
保釋ヲ許ス場合ニ於テハ被告人ノ住居ヲ制限スルコトヲ得

第一百十三條 保釋ヲ許ス決定ハ保證金ヲ納メシメタル後之ヲ執行スヘシ
檢事ハ保釋請求者ニ非サル者ヲシテ保證金ヲ納メシムルコトヲ得
檢事ハ有價證券又ハ裁判所ノ管轄地内ニ住居シ保證

第四百十三條 保釋ヲ許ス決定ハ保證金ヲ納メシメタル後之ヲ執行スヘシ
檢事ハ有價證券又ハ裁判所ノ管轄地内ニ住居シ保證

金ヲ納ムルニ十分ナル資産ヲ有スル者ノ差出シタル
保證書ヲ以テ保證金ニ代フルコトヲ許スコトヲ得
保證書ニハ保證金額及何時ニテモ其ノ保證金ヲ納ム
ヘキ旨ヲ記載スヘシ

第百十八條 裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ勾
留セラレタル被告人ヲ親族其ノ他ノ者ニ責付シ又ハ
被告人ノ住居ヲ制限シテ勾留ノ執行ヲ停止スルコト
ヲ得

責付ヲ爲スニハ被告人ノ親族其ノ他ノ者ヨリ何時ニ
テモ召喚ニ應ジ被告人ヲ出頭セシムヘキ旨ノ書面ヲ
出差サシムヘシ

第百十九條 被告人逃亡シタルトキ、逃亡スル虞アル
トキ、召喚ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出頭セザルト
キ、罪證ヲ湮滅スル虞アルトキ又ハ住居ノ制限ニ違
反シタルトキハ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以
テ保釋、責付又ハ勾留ノ執行停止ヲ取消スコトヲ
得

保釋ヲ取消ス場合ニ於テハ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽
キ決定ヲ以テ保證金ノ全部又ハ一部ヲ沒取スルコト
ヲ得
保釋セラレタル者刑ノ言渡ヲ受ケ其ノ判決確定シタ

ル後執行ノ爲召喚ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出頭セ
ス又ハ逃亡シタルトキハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以
テ保證金ノ全部又ハ一部ヲ沒取スヘシ

第百二十條 勾留若ハ保釋ヲ取消シ又ハ勾留狀ノ效力
消滅シタルトキハ檢事ハ沒取ニ係ラサル保證金ヲ還
付スヘシ

第百二十一條 上訴提起期間内又ハ上訴中ノ事件ニ付
勾留ノ期間ヲ更新シ、勾留ヲ取消シ又ハ保釋ヲ爲シ、
責付ヲ爲シ、勾留ノ執行停止ヲ爲シ若ハ之ヲ取消ス
ヘキ場合ニ於テ訴訟記録原裁判所ニ在ルトキハ原裁
判所其ノ決定ヲ爲スヘシ

第百二十二條 豫審判事ハ被告人ノ召喚、勾引及勾留
ニ關シ裁判所又ハ裁判長ト同一ノ權ヲ有ス

第百二十三條 左ノ場合ニ於テ急速ヲ要シ判事ノ勾引
狀ヲ求ムルコト能ハサルトキハ檢事ハ勾引狀ヲ發シ
又ハ之ヲ他ノ檢事若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託
スルコトヲ得

一 被疑者定リタル住居ヲ有セザルトキ
二 現行犯人其ノ場所ニ在ラザルトキ
三 現行犯ノ取調ニ因リ其ノ事件ノ共犯ヲ發見シタ
ルトキ

四 既決ノ囚人又ハ本法ニ依リ拘禁セラレタル者逃
亡シタルトキ

五 死體ノ檢證ニ因リ犯人ヲ發見シタルトキ

六 被疑者常習トシテ強盜又ハ竊盜ノ罪ヲ犯シタル
モノナルトキ

第百二十四條 檢事又ハ司法警察官吏其ノ職務ヲ行フ
ニ當リ現行犯アルコトヲ知リタル場合ニ於テ犯人其
ノ場所ニ在リテ其ノ住居若ハ氏名分明ナラザルトキ
又ハ第八十七條第一項各號ニ規定スル事由アルトキ
ハ左ノ處分ヲ爲スヘシ

一 檢事ハ司法警察官吏ニ犯人ヲ逮捕ヲ命スヘシ必
要アル場合ニ於テハ自ら之ヲ逮捕スルコトヲ得

二 司法警察官ハ直ニ犯人ヲ逮捕シ又ハ其ノ逮捕ヲ
司法警察吏ニ命スヘシ

三 司法警察吏ハ命令ヲ待タスシテ直ニ犯人ヲ逮捕
スヘシ

第百二十五條 現行犯人其ノ場所ニ在ルトキハ何人ト
雖之ヲ逮捕スルコトヲ得
犯人ヲ逮捕シタルトキハ速ニ之ヲ地方裁判所若ハ區
裁判所ノ檢事又ハ司法警察官吏ニ引渡スヘシ

第百二十六條 司法警察吏現行犯人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ

受取りタルトキハ速ニ之ヲ司法警察官ニ引致スヘ
シ

司法警察吏犯人ヲ受取りタル場合ニ於テハ逮捕者ノ
氏名、住居及逮捕ノ事由ヲ聽取ルヘシ必要アルトキ
ハ逮捕者ニ對シ共ニ官署ニ至ルコトヲ求ムルコトヲ
得

第百二十七條 司法警察官現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ
受取り又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被疑者ヲ受取り
タルトキハ即時訊問シ留置ノ必要ナシト思料スルト
キハ直ニ釋放スヘシ留置ノ必要アリト思料スルトキ
ハ遅クトモ四十八時間内ニ書類及證據物ト共ニ之ヲ
地方裁判所若ハ區裁判所ノ檢事又ハ相當官署ニ送致
スル手續ヲ爲スヘシ

第百二十八條 司法警察官吏檢事若ハ司法警察官ノ命
令ニ因リ現行犯人ヲ逮捕シ又ハ司法警察官檢事ノ命
令ニ因リ被疑者ニ對シ勾引狀ヲ發シタル場合ニ於テ
ハ前二條ノ規定ニ依ラス速ニ之ヲ命令シタル檢事又
ハ司法警察官ニ引致スヘシ

第百二十九條 檢事現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取り
又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被疑者ヲ受取りタルト
キハ遅クトモ二十四時間内ニ訊問シ留置ノ必要ナシ

下思料スルトキハ直ニ釋放スヘシ留置ノ必要アリト
思料スル場合ニ於テ急速ヲ要シ判事ノ勾留狀ヲ求ム
ルコト能ハサルトキハ勾留狀ヲ發シ速ニ公訴ヲ提起
シ又ハ書類及證據物ト共ニ之ヲ管轄裁判所ノ檢事又
ハ相當官署ニ送致スル手續ヲ爲スヘシ

檢事他ノ檢事ヨリ被疑者ヲ受取リタルトキハ前項ノ
手續ニ準シ處分スヘシ但シ留置ノ必要ナシト思料ス
ルトキハ勾留ヲ取消スヘシ

第三百三十條 現ニ罪ヲ行ヒ又ハ現ニ罪ヲ行ヒ終リタル
際ニ發覺シタルモノヲ現行犯トス

兇器贖物其ノ他ノ物ヲ所持シ、誰何セラレテ逃走シ、
犯人トシテ追呼セラレ又ハ身體被服ニ顯著ナル犯罪
ノ痕跡アリテ犯人ト思料スヘキ場合ハ現行犯人其ノ
場所ニ在リタルモノト看做ス

第三百三十一條 第九十七條、第九十八條及第百條乃至
第百十條ノ規定ハ第百二十三條及第百二十九條ノ勾
引又ハ勾留ニ付之ヲ準用ス

ル罪ノ現行犯ニ付テハ犯人ノ住居若ハ氏名分明ナラ
サル場合又ハ犯人逃亡スル虞アル場合ニ限り第百二
十四條乃至前條ノ規定ヲ適用ス

第十章 被告人訊問

第三百三十三條 被告人ニ對シテハ先ツ其ノ人違ナキコ
トヲ確ムルニ足ルヘキ事項ヲ訊問スヘシ

第三百三十四條 被告人ニ對シテハ被告事件ヲ告ケ其ノ
事件ニ付陳述スヘキコトアリヤ否ヲ問フヘシ

第三百三十五條 被告人ニ對シテハ丁寧深切ヲ旨トシ其
ノ利益ト爲ルヘキ事實ヲ陳述スル機會ヲ與フヘシ

第三百三十六條 被告人ヲ訊問スルトキハ裁判所書記ヲ
シテ立會ハシムヘシ

第三百三十七條 事實發見ノ爲必要アルトキハ被告人ト
他ノ被告人又ハ證人ト對質セシムルコトヲ得

第三百三十八條 被告人聲ナルトキハ書面ヲ以テ問ヒ啞
ナルトキハ書面ヲ以テ答ヘシムルコトヲ得

第三百三十九條 本章ノ規定ハ被疑者ヲ訊問スル場合ニ
之ヲ準用ス但シ司法警察官訊問ヲ爲ス場合ニ於テハ
司法警察吏ヲシテ立會ハシムヘシ

第十一章 押收及搜索
第四百十條 裁判所ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外

證據物又ハ沒收スヘキ物ト思料スルモノアルトキハ
之ヲ差押フヘシ

裁判所ハ差押フヘキ物ヲ指定シ所有者、所持者又ハ
保管者ニ其ノ物ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第四百十一條 裁判所ハ被告人ヨリ發シ又ハ被告人ニ
對シテ發シタル郵便物又ハ電信ニ關スル書類ニシテ
通信事務ヲ取扱フ官署其ノ他ノ者ノ保管又ハ所持ス
ルモノヲ差押ヘ又ハ之ヲ提出セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ該當セサル郵便物又ハ電信ニ關スル書
類ニシテ通信事務ヲ取扱フ官署其ノ他ノ者ノ保管又
ハ所持スルモノハ被告事件ニ關係アリト思料スルニ
足ルヘキ狀況アルモノニ限り之ヲ差押ヘ又ハ提出セ
シムルコトヲ得

第四百十二條 被告人其ノ他ノ者ノ遺留シタル物又ハ
所有者、所持者若ハ保管者ニ於テ任意ニ提出シタル
物ハ之ヲ領置スルコトヲ得

第四百十三條 裁判所ハ必要アルトキハ被告人ノ身
體、物又ハ住居其ノ他ノ場所ニ就キ搜索ヲ爲スコト

ヲ得
被告人ニ非サル者ノ身體、物又ハ住居其ノ他ノ場所
ニ付テハ押收スヘキ物ノ存在ヲ認知スルニ足ルヘキ
狀況アル場合ニ限り搜索ヲ爲スコトヲ得

婦女ノ身體ノ搜索ニ付テハ成年ノ婦女ヲシテ之ニ立
會ハシムヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラ
ス

第四百十四條 搜索ニ付テハ秘密ヲ保チ且搜索ヲ受ク
ル者ノ名譽ヲ毀損セサルコトニ注意スヘシ

第四百十五條 搜索ヲ爲シタル場合ニ於テ證據物又ハ
沒收スヘキ物ナキトキハ搜索ヲ受ケタル者ノ請求ニ
因リ其ノ旨ノ證明書ヲ交付スヘシ

第四百十六條 押收又ハ搜索ニ付テハ鎖鑰又ハ封緘ノ
開披其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得押收物ニ付
亦同シ

第四百十七條 軍事上秘密ヲ要スル場所ニ於テハ其ノ
長又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾アルニ非サレハ押收又
ハ搜索ヲ爲スコトヲ得ス

第四百十八條 公務員又ハ公務員タリシ者ノ保管又ハ
所持スル物ニ付本人又ハ當該公務所ヨリ職務上ノ秘
密ニ關スルモノナルコトヲ申立テタルトキハ當該監

督官廳ノ承諾アルニ非サレハ押収ヲ爲スコトヲ得ス
但シ當該監督官廳ハ帝國ノ安寧ヲ害スル場合ヲ除ク
ノ外承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

國務大臣、宮内大臣、内大臣、樞密院議長、樞密院
副議長、樞密顧問官、會計検査院長、元帥、參謀總
長、海軍軍令部長、教育總監若ハ軍事參議官又ハ此
等ノ職ニ在リタル者其ノ保管又ハ所持スル物ニ付前
項ノ申立ヲ爲シタルトキハ勅許ヲ得ルニ非サレハ押
収ヲ爲スコトヲ得ス

第四百十九條 醫師、齒科醫師、藥劑師、藥種商、產
婆、辯護士、辯護人、辯理士、公證人、宗教若ハ禮
祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リタル者ハ業務上
委託ヲ受ケタル爲保管又ハ所持スル物ニシテ他人ノ
祕密ニ關スルモノニ付差押ヲ拒ムコトヲ得但シ本人
承諾シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十條 裁判所ハ押収スヘキ物又ハ搜索スヘキ場
所、身體若ハ物ヲ指定シタル命令狀ヲ發シ司法警察
官ヲシテ押収又ハ搜索ヲ爲サシムルコトヲ得
命令狀ニハ押収又ハ搜索ヲ爲スヘキ事由ヲ記載シ裁
判長之ニ記名捺印スヘシ
命令狀ハ處分ヲ受クル者ノ請求アルトキハ之ヲ示ス

裁判所ノ爲ス押収又ハ搜索ニ關スル規定ヲ準用ス但
シ第四百十一條第三項ノ通知ハ裁判所之ヲ爲スヘシ
第五十五條 日出前、日没後ニハ住居主若ハ看守者
又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾アルニ非サレハ押収又ハ
搜索ノ爲人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若
ハ艦船ニ入ルコトヲ得ス

猶豫スヘカラサル場合ニ於テハ前項ニ規定スル制限
ニ依ルコトヲ要セス此ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ調
書ニ記載スヘシ
日没前押収又ハ搜索ニ著手シタルトキハ日没後ト雖
其ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得

第五十六條 左ノ場所ニ於テ爲ス押収又ハ搜索ニ付
テハ前條第一項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セス
一 賭博、富籤又ハ風俗ヲ害スル行爲ニ常用セラル
ルモノト認ムヘキ場所

二 旅店、飲食店其ノ他夜間ト雖公衆ノ出入スルコ
トヲ得ヘキ場所但シ公開シタル時間内ニ限ル
第五十七條 公務所又ハ軍用ノ廳舎若ハ艦船ノ内
ニ於テ押収又ハ搜索ヲ爲ストキハ其ノ長又ハ之ニ代
ルヘキ者ニ通知シテ其ノ處分ニ立會ハシムヘシ
前項ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外人ノ住居又ハ人ノ

ヘシ

第五十一條 司法警察官前條第一項ノ規定ニ依リ押
収又ハ搜索ヲ爲スニ當リ被告事件ニ關スル他ノ證據
物ヲ發見シタルトキハ之ヲ押収スルコトヲ得

第五十二條 司法警察官前二條ノ規定ニ依リ押収又
ハ搜索ヲ爲シタルトキハ檢事ヲ經由シテ之ニ關スル
書類及押收物ヲ裁判所ニ差出スヘシ
第五十三條 裁判所押収又ハ搜索ヲ爲スニ當リ他ノ
犯罪ニ關スル顯著ナル證據物ヲ發見シタルトキハ假
ニ之ヲ押収シテ檢事ニ送付スルコトヲ得

檢事前項ノ規定ニ依リ押収シタル物ヲ留置スル必要
ナシト思料スルトキハ之ヲ還付スヘシ
第五十四條 押収又ハ搜索ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシ
メ又ハ之ヲ爲スヘキ地ノ豫審判事、區裁判所判事若
ハ法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署ニ之ヲ囑託
スルコトヲ得

受託官署ハ受託ノ權限アル官署ニ轉囑スルコトヲ
得
受託官署受託事項ニ付權限ヲ有セサルトキハ受託ノ
權限アル官署ニ囑託ヲ移送スルコトヲ得
受命判事又ハ受託判事ノ爲ス押収又ハ搜索ニ付テハ

看守スル邸宅、建造物若ハ船舶ノ内ニ於テ押収又ハ
搜索ヲ爲ストキハ住居主若ハ看守者又ハ之ニ代ルヘ
キ者ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ此等ノ者ヲシテ立會
ハシムルコト能ハサルトキハ鄰人又ハ市町村吏員ヲ
シテ立會ハシムヘシ

第五十八條 檢事、被告人又ハ辯護人ハ押収又ハ搜
索ニ立會フコトヲ得但シ拘禁セラレタル被告人ハ此
ノ限ニ在ラス
押収又ハ搜索ヲ爲スニ付必要アルトキハ被告人ヲシ
テ之ニ立會ハシムルコトヲ得

第五十九條 押収又ハ搜索ヲ爲スヘキ日時及場所ハ
豫メ前條ノ規定ニ依リ其ノ處分ニ立會フコトヲ得ヘ
キ者ニ通知スヘシ但シ急速ヲ要スルトキハ此ノ限ニ
在ラス

第六十條 押収又ハ搜索ヲ爲スニ付必要アルトキハ
司法警察官吏ヲシテ補助ヲ爲サシムルコトヲ得
第六十一條 押収又ハ搜索ノ處分中ハ何人ニ限ラス
許可ヲ得スシテ其ノ場所ニ出入スルコトヲ禁止スル
コトヲ得

前項ノ禁止ニ從ハサル者ハ之ヲ退去セシメ又ハ處分
終ル迄之ヲ留置スルコトヲ得

第六十二條 押收又ハ搜索ノ處分ヲ中止スル場合ニ於テ必要アルトキハ其ノ場所ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置クヘシ

第六十三條 押收ヲ爲シタル場合ニ於テ所有者、所持者若ハ保管者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ請求アリタルトキハ品目ヲ記載シタル調書又ハ目錄ノ謄本又ハ抄本ヲ交付スヘシ

第六十四條 押收物ニ付テハ喪失又ハ毀損ヲ防ク爲相當ノ處置ヲ爲スヘシ
運搬又ハ保管ニ不便ナル押收物ニ付テハ看守者ヲ置キ又ハ所有者其ノ他ノ者ヲシテ之ヲ保管セシムルコトヲ得

第六十五條 沒收スルコトヲ得ヘキ押收物ニシテ滅失若ハ毀損ノ虞アルモノ又ハ保管ニ不便ナルモノハ之ヲ賣却シテ其ノ代價ヲ保管スルコトヲ得

第六十六條 押收物ニシテ留置ノ必要ナキモノハ被告事件ノ終結ヲ待タズ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ還付スヘシ
押收物ハ所有者、所持者、保管者又ハ差出人ノ請求ニ因リ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ假ニ之ヲ還付ス

ルコトヲ得

第六十七條 押收シタル贓物ニシテ留置ノ必要ナキモノハ被害者ニ還付スヘキ理由明白ナルトキニ限り被告事件ノ終結ヲ待タズ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ被害者ニ還付スヘシ

前項ノ規定ハ民事訴訟ノ手續ニ從ヒ利害關係人ヨリ其ノ權利ヲ主張スルコトヲ妨ケス
第六十八條 押收又ハ搜索ヲ爲ストキハ裁判所書記ヲシテ立會ハシムヘシ

第六十九條 豫審判事ハ押收及搜索ニ關シ裁判所ト同一ノ權ヲ有ス
第七十條 檢事ハ第二百二十三條各號ノ場合又ハ現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ公訴提起前ニ限り押收若ハ搜索ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ檢事若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

司法警察官ハ前項ノ場合ニ於テハ公訴提起前ニ限り押收若ハ搜索ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得
司法警察官押收ヲ爲シタル場合ニ於テ留置ノ必要アリト思料スルトキハ速ニ押收物ヲ檢事ニ送付スヘシ

但シ第六十四條第二項又ハ第三項ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ報告スヘシ

第七十一條 人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ現行犯アル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ檢事又ハ司法警察官ハ何時ニテモ其ノ場所ニ入り押收又ハ搜索ヲ爲スコトヲ得

第七十二條 人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ現行犯アル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ檢事又ハ司法警察官ハ何時ニテモ其ノ場所ニ入り犯人ヲ逮捕スル爲搜索ヲ爲スコトヲ得
又ハ司法警察官吏現行犯人ヲ逮捕スル爲追行シタル場合ニ於テ犯人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ逃入りタルトキ亦同シ

第七十三條 司法警察官吏勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スル場合ニ於テ必要アルトキハ人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ入り搜索ヲ爲スコトヲ得

第七十四條 第四百十條乃至第四百九條、第五百十三條、第五百五十五條乃至第五百五十七條及第六六一條乃至第六十七條ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外檢事又ハ司法警察官ノ爲ス押收又ハ搜索

ニ付之ヲ準用ス

第七十五條 裁判所ハ事實發見ノ爲必要アルトキハ檢證ヲ爲スヘシ

第七十六條 檢證ニ付テハ身體ノ検査、死體ノ解剖、墳墓ノ發掘、物ノ毀壞其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得
被告人ニ非サル者ノ身體ノ検査ハ一定ノ證據ノ存否ヲ確認スルニ必要ナル場合ニ限り之ヲ爲スコトヲ得

第七十七條 檢證ニ付テハ身體ノ検査、死體ノ解剖、墳墓ノ發掘、物ノ毀壞其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得
被告人ニ非サル者ノ身體ノ検査ハ一定ノ證據ノ存否ヲ確認スルニ必要ナル場合ニ限り之ヲ爲スコトヲ得

第七十八條 檢證ニ付テハ身體ノ検査、死體ノ解剖、墳墓ノ發掘、物ノ毀壞其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得
被告人ニ非サル者ノ身體ノ検査ハ一定ノ證據ノ存否ヲ確認スルニ必要ナル場合ニ限り之ヲ爲スコトヲ得
婦女ノ身體ヲ検査スル場合ニ於テハ醫師又ハ成年ノ婦女ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ
死體ヲ解剖シ又ハ墳墓ヲ發掘スル場合ニ於テハ禮意

ヲ失ハサルコトニ注意シ遺族アルトキハ之ニ通知スヘシ

第七十七條 日出前、日没後ニハ住居主若ハ看守者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾アルニ非サレハ檢證ノ爲人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ニ入ルコトヲ得ス但シ日出後ニ於テハ檢證ノ目的ヲ達スルコト能ハサル虞アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

日没前檢證ニ著手シタルトキハ日没後ト雖其ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得

第五十六條ニ規定スル場所ニ付テハ第一項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セス

第七十八條 第四百七條、第五十四條、第五十七條乃至第六十二條及第六十八條ノ規定ハ檢證ニ付之ヲ準用ス

第七十九條 豫審判事ハ檢證ニ關シ裁判所ト同一ノ權ヲ有ス

第八十條 檢事ハ第二百二十三條各號ノ場合又ハ現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ公訴提起前ニ限り檢證ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ檢事若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

外何人ト雖證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得

第八十五條 公務員又ハ公務員タリシ者ノ知得タル事實ニ付本人又ハ當該公務所ヨリ職務上ノ秘密ニ關スルモノナルコトヲ申立テタルトキハ當該監督官廳ノ承諾アルニ非サレハ證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得ス但シ當該監督官廳ハ帝國ノ安寧ヲ害スル場合ヲ除クノ外承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

國務大臣、宮内大臣、内大臣、樞密院議長、樞密院副議長、樞密顧問官、會計檢査院長、元帥、參謀總長、海軍軍令部長、教育總監若ハ軍事參議官又ハ此等ノ職ニ在リタル者前項ノ申立ヲ爲シタルトキハ勅許ヲ得ルニ非サレハ證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得ス

第八十六條 左ニ掲クル者ハ證言ヲ拒ムコトヲ得

一 被告人ノ配偶者、四親等内ノ血族若ハ三親等内ノ姻族又ハ被告人ト此等ノ親族關係アリタル者
二 被告人ノ後見人、後見監督人又ハ保佐人
三 被告人ヲ後見人、後見監督人又ハ保佐人ト爲ス者

司法警察官ハ前項ノ場合ニ於テハ公訴提起前ニ限り檢證ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

第八十一條 人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ現行犯アル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ檢事又ハ司法警察官ハ何時ニテモ其ノ場所ニ入り檢證ヲ爲スコトヲ得

第八十二條 變死者又ハ變死ノ疑アル死體アルトキハ其ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所又ハ區裁判所ノ檢事檢視ヲ爲スヘシ

前項ノ處分ニ因リ犯罪アルコトヲ發見シタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ引續キ檢證ヲ爲スコトヲ得

檢事ハ司法警察官ヲシテ前二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第八十三條 第四百七條、第五十七條、第六十一條、第六十二條、第七十六條及第七十七條ノ規定ハ檢事又ハ司法警察官ノ爲ス檢證ニ付之ヲ準用ス

第十三章 證人訊問
第八十四條 裁判所ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ

第八十七條 醫師、齒科醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、辨理士、公證人、宗教若ハ禮祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リタル者ハ業務上委託ヲ受ケタル爲知得タル事實ニシテ他人ノ秘密ニ關スルモノニ付證言ヲ拒ムコトヲ得但シ本人承諾シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八十八條 證言ヲ爲スニ因リ自己又ハ自己ト第八十六條第一項ニ規定スル關係アル者刑事訴追ヲ受クル虞アルトキハ證言ヲ拒ムコトヲ得

現ニ供述ヲ爲スヘキ事件ノ被告人ト共犯ノ關係アリトシテ起訴セラレ未タ確定判決ヲ經サルトキ亦前項ニ同シ

第八十九條 證言ヲ拒ム者ハ之ヲ拒ム事由ヲ疏明スヘシ但シ前條ノ場合ニ於テハ其ノ事由ノ相違ナキ旨ノ宣誓ヲ以テ疏明ニ代フルコトヲ得

證言ヲ拒ム者之ヲ拒ム事由ヲ疏明スルコト能ハサルトキ又ハ宣誓ヲ爲ササルトキハ決定ヲ以テ其ノ申立ヲ却下スヘシ

第九十條 召喚ヲ受ケタル證人正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ五十圓以下ノ過料ニ處シ且出頭セサルニ因リ生シタル費

用ノ賠償ヲ命スルコトヲ得此ノ決定ニ對シテハ即時
抗告ヲ爲スコトヲ得

第九十一條 召喚ニ應セサル證人ニ對シテハ更ニ之
ヲ召喚シ又ハ之ヲ勾引スルコトヲ得

第九十二條 第八十四條及第九十九條ノ規定ハ證人
ノ召喚ニ付之ヲ準用ス

第九十三條 第八十八條、第九十條乃至第九十五條及第
百九條ノ規定ハ證人ノ勾引ニ付之ヲ準用ス

第九十四條 證人ノ召喚狀又ハ勾引狀ニハ其ノ氏名
及住居、被告人ノ氏名並被告事件ヲ記載シ裁判長之
ニ記名捺印スヘシ

召喚狀ニハ出頭スヘキ年月日時及場所並出頭セサル
トキハ過料ニ處シ且勾引狀ヲ發スルコトアルヘキ旨
ヲ記載スヘシ

召喚狀ノ送達ト出頭トノ間ニハ少クトモ二十四時間
ノ猶豫ヲ存スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ
在ラス

第九十五條 證人ニ對シテハ先ツ其ノ人違ナキカ否
及第九十六條第一項ニ規定スル關係アル者ナリヤ
否ヲ取調フヘシ

第九十六條第一項ニ規定スル關係アル者ニハ證言

ヲ拒ムコトヲ得ル旨ヲ告クヘシ

第九十七條 宣誓ハ訊問前之ヲ爲サシムヘシ但シ宣
誓ヲ爲サシムヘキ者ナリヤ否ニ付疑アルトキハ訊問
後之ヲ爲サシムルコトヲ得

第九十八條 宣誓ハ宣誓書ニ依リ之ヲ爲スヘシ
宣誓書ニハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セス
又何事ヲモ附加セサルコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ但
シ訊問後宣誓ヲ爲ス場合ニ於テハ良心ニ從ヒ眞實ヲ
述ヘ何事ヲモ默秘セス又何事ヲモ附加セサリシコト
ヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ

第九十九條 宣誓ヲ爲サシムヘキ證人ニハ宣誓前偽
名捺印セシムヘシ

第一百條 宣誓ヲ爲サシムヘキ證人ニハ宣誓前偽
名捺印セシムヘシ

第一百零一條 宣誓ヲ爲サシムヘキ證人ニハ宣誓前偽
名捺印セシムヘシ

第一百零二條 宣誓ヲ爲サシムヘキ證人ニハ宣誓前偽
名捺印セシムヘシ

第一百零三條 宣誓ヲ爲サシムヘキ證人ニハ宣誓前偽
名捺印セシムヘシ

第一百零四條 宣誓ヲ爲サシムヘキ證人ニハ宣誓前偽
名捺印セシムヘシ

第一百零五條 宣誓ヲ爲サシムヘキ證人ニハ宣誓前偽
名捺印セシムヘシ

第一百零六條 宣誓ヲ爲サシムヘキ證人ニハ宣誓前偽
名捺印セシムヘシ

第一百零七條 宣誓ヲ爲サシムヘキ證人ニハ宣誓前偽
名捺印セシムヘシ

第一百零八條 宣誓ヲ爲サシムヘキ證人ニハ宣誓前偽
名捺印セシムヘシ

第一百零九條 宣誓ヲ爲サシムヘキ證人ニハ宣誓前偽
名捺印セシムヘシ

第一百一十條 宣誓ヲ爲サシムヘキ證人ニハ宣誓前偽
名捺印セシムヘシ

必要アル場合ニ於テハ證人ノ供述ヲ明白ナラシメ又
ハ其ノ眞否ヲ判斷スル爲適當ナル訊問ヲ爲スヘシ

第一百零六條 證人ニハ其ノ實驗シタル事實ニ因リ推測
シタル事項ヲ供述セシムルコトヲ得

第一百零七條 前項ノ供述ハ鑑定ニ屬スル故ヲ以テ證言タルノ效力
ヲ妨ケラルルコトナシ

第一百零八條 第八十五條、第九十六條及第九十八
條ノ規定ハ證人ノ訊問ニ付之ヲ準用ス

第一百零九條 證人ハ必要アル場合ニ於テハ裁判所外ニ
之ヲ召喚シ又ハ其ノ所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ
得

第一百一十條 親任官又ハ親任官ノ待遇ヲ受クル者ハ其
ノ現在地ヲ管轄スル裁判所ニ於テ之ヲ訊問スヘシ

第一百一十一條 帝國議會ノ議員議會ノ開會中開會地ニ滞在スルトキ
ハ其ノ滞在地ヲ管轄スル裁判所ニ於テ之ヲ訊問スヘ
シ

第一百一十二條 證人正當ノ事由ナクシテ宣誓又ハ證言ヲ
拒ミタルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ百圓以
下ノ過料ニ處ス第九十九條第一項但書ノ場合ニ於
テ虛偽ノ宣誓ヲ爲シタルトキ亦同シ

第一百一十三條 前項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第一百一十四條 前項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第一百一十五條 前項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百一十一條 裁判所ハ必要アルトキハ決定ヲ以テ指定ノ場所ニ證人ノ同行ヲ命スルコトヲ得證人正當ノ事由ナクシテ同行ヲ肯セサルトキハ之ヲ勾引スルコトヲ得

第二百一十二條 裁判所外ニ於テ證人ヲ訊問スヘキトキハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ證人ノ所在地ノ豫審判事、區裁判所判事若ハ法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署ニ之ヲ囑託スルコトヲ得
受託官署ハ受託ノ權限アル官署ニ轉囑スルコトヲ得

受託官署受託事項ニ付權限ヲ有セサルトキハ受託ノ權限アル官署ニ囑託ヲ移送スルコトヲ得

受命判事又ハ受託判事ハ證人ノ訊問ニ關シ裁判所又ハ裁判長ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得但シ第九十條及第二百十條ノ決定ハ裁判所亦之ヲ爲スコトヲ得
第二百十三條 豫審判事ハ證人ノ訊問ニ關シ裁判所又ハ裁判長ト同一ノ權ヲ有ス

第二百十四條 檢事ハ第二百二十三條各號ノ場合又ハ現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ公訴提起前ニ限り第八十四條乃至第二百一十一條ノ規定ニ準シ證人ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ他ノ檢事若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

第二百十五條 檢事又ハ司法警察官證人ヲ訊問スル場合ニ於テハ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得ス
第二百十六條 司法警察官證人ヲ訊問スル場合ニ於テハ司法警察吏ヲシテ立會ハシムヘシ
第二百十七條 第二百十四條ノ規定ニ依リ證人ヲ過料ニ處シ又ハ之ニ賠償ヲ命スヘキトキハ證人ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ其ノ處分ヲ請求スヘシ
第二百十八條 證人ハ旅費、日當及止宿料ヲ請求スルコトヲ得但シ正當ノ事由ナクシテ宣誓又ハ證言ヲ拒ミタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十四章 鑑定

第二百十九條 裁判所ハ學識經驗アル者ニ鑑定ヲ命スルコトヲ得
第二百二十條 鑑定人ニハ鑑定ヲ爲ス前宣誓ヲ爲サシムヘシ

宣誓ハ宣誓書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

宣誓書ニハ良心ニ從ヒ誠實ニ鑑定ヲ爲スヘキコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ

第二百二十一條 鑑定ノ經過及結果ハ鑑定人ヲシテ鑑定書ニ依リ又ハ口頭ヲ以テ之ヲ報告セシムヘシ
鑑定人數人アルトキハ共同シテ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

鑑定書ヲ差出シタル場合ニ於テ必要アルトキハ口頭ヲ以テ其ノ説明ヲ爲サシムルコトヲ得
第二百二十二條 裁判所ハ必要アル場合ニ於テハ鑑定人ヲシテ裁判所外ニ於テ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ鑑定ニ關スル物ヲ鑑定人ニ交付スルコトヲ得
被告人ノ心神又ハ身體ニ關スル鑑定ヲ爲サシムルニ付必要アルトキハ裁判所ハ期間ヲ定メ病院其ノ他ノ相當ノ場所ニ被告人ヲ留置スルコトヲ得

第二百二十三條 鑑定人ハ鑑定ニ付必要アル場合ニ於テハ裁判所ノ許可ヲ受ケ身體ヲ検査シ、死體ヲ解剖シ又ハ物ヲ毀壞スルコトヲ得

第二百七十六條第二項乃至第四項ノ規定ハ前項ノ場合

ニ之ヲ準用ス

第二百二十四條 鑑定人ハ鑑定ニ付必要アル場合ニ於テハ裁判長ノ許可ヲ受ケ書類及證據物ヲ閱覽シ若ハ謄寫シ又ハ被告人若ハ證人ノ訊問ニ立會フコトヲ得
鑑定人ハ被告人若ハ證人ノ訊問ヲ求メ又ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ此等ノ者ニ對シ直接ニ問ヲ發スルコトヲ得

第二百二十五條 裁判所ハ部員ヲシテ鑑定ニ付必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得但シ第二百二十二條第三項ニ規定スル處分ハ此ノ限ニ在ラス
第二百二十六條 裁判所ハ鑑定ヲ十分ナラストスルトキハ鑑定人ヲ増加シ又ハ他ノ鑑定人ニ命シテ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百二十七條 檢事及辯護人ハ鑑定ニ立會フコトヲ得
第二百五十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第二百二十八條 第十三章ノ規定ハ勾引ニ關スル規定ヲ除クノ外鑑定ニ付之ヲ準用ス但シ檢事及司法警察官ハ第二百二十二條第三項ニ規定スル處分ヲ爲スコトヲ得ス

第二百二十九條 鑑定人ハ旅費、日當及止宿料ノ外鑑定料及立替金ノ辨償ヲ請求スルコトヲ得

第二百三十條 裁判所ハ官署又ハ公署ニ鑑定ヲ囑託スルコトヲ得

第二百三十一條 特別ノ智識ニ因リ知得タル過去ノ事實ニ付其ノ事實ヲ知りタル者ヲ訊問スル場合ニハ本章ノ規定ニ依ラス第十三章ノ規定ヲ適用ス

第十五章 通譯
第二百三十二條 國語ニ通セサル者ヲシテ陳述ヲ爲サシムル場合ニ於テハ通事ヲシテ通譯ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百三十三條 雙者又ハ啞者ヲシテ陳述ヲ爲サシムル場合ニ於テハ通事ヲシテ通譯ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百三十四條 國語ニ非サル文字又ハ符號ハ之ヲ翻譯セシムルコトヲ得

第二百三十五條 裁判所ハ官署又ハ公署ニ翻譯ヲ囑託スルコトヲ得

第二百三十六條 第十四章ノ規定ハ通譯及翻譯ニ付之ヲ準用ス

第十六章 訴訟費用

第二百三十七條 刑ノ言渡ヲ爲シタルトキハ被告人ヲシテ訴訟費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第二百三十八條 共犯ノ訴訟費用ハ共犯人ヲシテ連帶シテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

第二百三十九條 告訴又ハ告發ニ因リ公訴ノ提起アリタル事件ニ付被告人無罪又ハ免訴ノ裁判ヲ受ケタル場合ニ於テ告訴人又ハ告發人ニ故意又ハ重大ナル過失アルトキハ其ノ者ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

第二百四十條 親告罪ニ付告訴ノ取消アリタル場合ニ於テハ告訴人ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

第二百四十一條 檢事ニ非サル者上訴ノ取下ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ者ヲシテ上訴ニ關スル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

檢事ニ非サル者再審ノ請求ヲ取下ケタル場合ニ於テハ其ノ者ヲシテ再審ニ關スル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

第二百四十二條 裁判ニ因リ訴訟手續終了スル場合ニ於テ被告人ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルトキハ職權ヲ以テ其ノ裁判ヲ爲スヘシ此ノ裁判ニ對シテハ本案ノ裁判ニ付上訴アリタルトキニ限り不服ヲ申立ツルコトヲ得

第二百四十三條 裁判ニ因リ訴訟手續終了スル場合ニ於テ被告人ニ非サル者ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルトキハ職權ヲ以テ別ニ其ノ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百四十四條 裁判ニ因ラスシテ訴訟手續終了スル場合ニ於テ訴訟費用ヲ負擔セシムルトキハ最終ニ事件ノ繫屬シタル裁判所職權ヲ以テ其ノ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百四十五條 訴訟費用ノ負擔ヲ命スル裁判ニ於テ其ノ額ヲ定メサルトキハ執行ノ指揮ヲ爲スヘキ檢事之ヲ定ム

第二編 第一卷
第一章 搜查

第二百四十六條 檢事犯罪アリト思料スルトキハ犯人及證據ヲ搜查スヘシ

第二百四十七條 警視總監、地方長官及憲兵司令官ハ各其ノ管轄區域内ニ於テ司法警察官トシテ犯罪ヲ搜查スルニ付地方裁判所檢事ト同一ノ權ヲ有ス但シ東京府知事ハ此ノ限ニ在ラス

第二百四十八條 左ニ掲クル者ハ檢事ノ輔佐トシテ其ノ指揮ヲ受ケ司法警察官トシテ犯罪ヲ搜查スヘシ

- 一 廳府縣ノ警察官
- 二 憲兵ノ將校、准士官及下士

第二百四十九條 左ニ掲クル者ハ檢事又ハ司法警察官ノ命令ヲ受ケ司法警察吏トシテ搜查ノ補助ヲ爲スヘシ

- 一 巡查
- 二 憲兵卒

第二百五十條 前三條ニ規定スル者ノ外勅令ヲ以テ司法警察官吏ヲ定ムルコトヲ得

第二百五十一條 森林、鐵道其ノ他特別ノ事項ニ付司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者及其ノ職務ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二百五十二條 第十一條第一項ノ規定ハ檢事及司法

警察官吏ノ爲ス捜査ニ付之ヲ準用ス

第二百五十三條 捜査ニ付テハ秘密ヲ保チ被疑者其ノ他ノ者ノ名譽ヲ毀損セサルコトニ注意スヘシ

第二百五十四條 捜査ニ付テハ其ノ目的ヲ達スル爲必

要ナル取調ヲ爲スコトヲ得但シ強制ノ處分ハ別段ノ

規定アル場合ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

捜査ニ付テハ公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告

ヲ求ムルコトヲ得

第二百五十五條 檢事捜査ヲ爲スニ付強制ノ處分ヲ必

要トスルトキハ公訴ノ提起前ト雖押收、搜索、檢證

及被疑者ノ勾留、被疑者若ハ證人ノ訊問又ハ鑑定ノ

處分ヲ其ノ所屬地方裁判所ノ豫審判事又ハ所屬區裁

判所ノ判事ニ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル請求ヲ受ケタル判事ハ其ノ處分ニ

關シ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

第二百五十六條 判事前條ノ處分ヲ爲シタルトキハ速

ニ之ニ關スル書類及證據物ヲ檢事ニ送付スヘシ

第二百五十七條 第二百五十五條ノ規定ニ依リ被疑者

ヲ勾留シタル事件ニ付十日内ニ公訴ヲ提起セサルト

キハ檢事ハ速ニ被疑者ヲ釋放スヘシ

第二百五十五條ノ規定ニ依リ押收ヲ爲シタル事件ニ

付公訴ヲ提起セサル處分ヲ爲シタルトキハ檢事ハ速

ニ押收物ヲ還付スヘシ但シ必要アル場合ニ於テハ公

訴ノ時効完成スルニ至ル迄之ヲ保管スルコトヲ得

第二百五十八條 犯罪ニ因リ害ヲ被リタル者ハ告訴ヲ

爲スコトヲ得

第二百五十九條 祖父母又ハ父母ニ對シテハ告訴ヲ爲

スコトヲ得ス

第二百六十條 被害者ノ法定代理人又ハ夫ハ獨立シテ

告訴ヲ爲スコトヲ得

被害者死亡シタルトキハ其ノ配偶者、家督相續人、

直系ノ親族又ハ兄弟姉妹ハ告訴ヲ爲スコトヲ得但シ

被害者ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ刑法第八十三條ノ罪ニ付テハ之ヲ

適用セス

第二百六十一條 被害者ノ法定代理人被疑者ナルト

キ、被疑者ノ配偶者ナルトキ又ハ被疑者ノ四親等内

ノ血族若ハ三親等内ノ姻族ナルトキハ被害者ノ親族

ハ獨立シテ告訴ヲ爲スコトヲ得

第二百六十二條 死者ノ名譽ヲ毀損シタル罪ニ付テハ

死者ノ親族、遺族又ハ後裔ハ告訴ヲ爲スコトヲ得

名譽ヲ毀損シタル罪ニ付被害者告訴ヲ爲サスシテ死

亡シタルトキ亦前項ニ同シ但シ被害者ノ明示シタル

意思ニ反スルコトヲ得ス

第二百六十三條 親告罪ニ付告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ

者ナキ場合ニ於テハ管轄裁判所ノ檢事ハ利害關係人

ノ申立ニ因リ告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ヲ指定スル

コトヲ得

第二百六十四條 刑法第八十三條ノ罪ニ付テハ婚姻

解消シ又ハ離婚ノ訴ヲ提起シタル後ニ非サレハ告訴

ヲ爲スコトヲ得ス再ヒ婚姻ヲ爲シ又ハ離婚ノ訴ヲ取

下ケタルトキハ告訴ヲ取消シタルモノト看做ス

第二百六十五條 親告罪ノ告訴ハ犯人ヲ知リタル日ヨ

リ六月ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

刑法第二百二十九條但書ノ場合ニ於ケル告訴ハ婚姻

ノ無効又ハ取消ノ裁判確定シタル日ヨリ六月内ニ之

ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ナシ

第二百六十六條 告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者數人アル

場合ニ於テ一人ノ期間ノ懈怠ハ他ノ者ニ對シ其ノ效

力ヲ及ホサス

第二百六十七條 告訴ハ第二審ノ判決アル迄之ヲ取消

スコトヲ得

告訴ノ取消ヲ爲シタル者ハ更ニ告訴ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ規定ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付テ

ノ請求キ之ヲ準用ス

第二百六十八條 親告罪ニ付共犯ノ一人又ハ數人ニ對

シテ爲シタル告訴又ハ其ノ取消ハ他ノ共犯ニ對シ亦

其ノ效力ヲ生ス

前項ノ規定ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付テノ

請求又ハ其ノ取消ニ之ヲ準用ス

刑法第八十三條ノ罪ニ付相姦者ノ一人ニ對シテ告

訴又ハ其ノ取消アリタルトキハ他ノ者ニ對シ亦其ノ

效力ヲ生ス

第二百六十九條 何人ト雖犯罪アリト思料スルトキハ

告發ヲ爲スコトヲ得

官吏又ハ公吏其ノ職務ヲ行フニ因リ犯罪アリト思料

スルトキハ告發ヲ爲スヘシ

第二百七十條 第二百五十九條ノ規定ハ告發ニ付之ヲ

準用ス

第二百七十一條 告訴ハ代理人ニ依リテ之ヲ爲スコト

ヲ得告訴ノ取消ニ付亦同シ

第二百七十二條 告訴又ハ告發ハ書面又ハ口頭ヲ以テ

檢事又ハ司法警察官ニ之ヲ爲スヘシ

第二百七十三條 檢事又ハ司法警察官口頭ノ告訴又ハ

告發ヲ受ケタルトキハ調書ヲ作ルヘシ

第五十六條第三項乃至第五項ノ規定ハ前項ノ調書ニ

付之ヲ準用ス

第二百七十四條 司法警察官告訴又ハ告發ヲ受ケタル

トキハ速ニ之ニ關スル書類及證據物ヲ管轄裁判所ノ

檢事ニ送付スヘシ

第二百七十五條 第二百七十二條、第二百七十三條及

前條ノ規定ハ告訴又ハ告發ノ取消ニ付之ヲ準用ス

第二百七十六條 第二百七十二條、第二百七十三條及

第二百七十四條ノ規定ハ自首ニ付之ヲ準用ス

第二百七十七條 犯罪ニ關シ匿名ノ申告又ハ風説アル

場合ニ於テハ特ニ其ノ出所ニ注意シ虛實ヲ探查スヘ

シ

第二章 公訴

第二百七十八條 公訴ハ檢事之ヲ行フ

第二百七十九條 犯人ノ性格、年齢及境遇竝犯罪ノ情

狀及犯罪後ノ情況ニ因リ訴追ヲ必要トセザルトキハ

公訴ヲ提起セザルコトヲ得

第二百八十條 公訴ハ檢事ノ指定シタル被告人以外ノ

者ニ其ノ效力ヲ及ホサス

第二百八十一條 時効ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因リテ

完成ス

一 死刑ニ該ル罪ニ付テハ十五年

二 無期ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ十年

三 長期十年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ

七年

四 長期十年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ

五年

五 長期五年未滿ノ懲役若ハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪

ニ付テハ三年

六 刑法第八十五條ノ罪ニ付テハ六月

七 拘留又ハ科料ニ該ル罪ニ付テハ六月

第二百八十二條 二以上ノ主刑ヲ併科シ又ハ二以上ノ

主刑中其ノ一ヲ科スヘキ罪ニ付テハ其ノ重キ刑ニ從

ヒ前條ノ規定ヲ適用ス

第二百八十三條 刑法ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕スヘキ

場合ニ於テハ加重又ハ減輕セザル刑ニ從ヒ第二百八

十一條ノ規定ヲ適用ス

第二百八十四條 時効ハ犯罪行為ノ終リタル時ヨリ進

行ス

共犯ノ場合ニ於テハ最終ノ行為ノ終リタル時ヨリ總

テノ共犯ニ對シテ時効ノ期間ヲ起算ス

第二百八十五條 時効ハ公訴ノ提起、公判若ハ豫審ノ

處分又ハ第二百五十五條ノ規定ニ依リ爲シタル判事

ノ處分ニ因リ中斷ス但シ其ノ手續規定ニ違反シタル

爲無効ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

共犯ノ一人ニ對シテ爲シタル手續ニ因ル時効ノ中斷

ハ他ノ共犯ニ對シテ其ノ效力ヲ有ス

第二百八十六條 時効ハ中斷ノ事由ノ終了シタル時ヨ

リ更ニ進行ス

第二百八十七條 時効ハ第三百五條第一項第二號ノ規

定ニ依リ豫審手續ヲ中止シ又ハ第三百五十二條ノ規

定ニ依リ公判手續ヲ停止シタル期間内ハ進行セス

第二百八十八條 公訴ノ提起ハ豫審又ハ公判ヲ請求ス

ルニ依リテ之ヲ爲ス

第二百八十九條 拘留又ハ科料ニ該ル事件ニ付テハ罰

金以上ノ刑ニ該ル事件ト同時ニ取調ヲ爲スヘキ場合

ニ限リ豫審ヲ請求スルコトヲ得

第二百九十條 公訴ノ提起ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘ

シ

請求ヲ爲シタルトキハ之ヲ調書ニ記載シ豫審判事裁

判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ

公判開廷中被告人ニ他ノ犯罪アルコトヲ發見シ公判

ヲ請求スル場合ニ於テハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ

得

第二百九十一條 公訴ヲ提起スルニハ被告人ヲ指定シ

犯罪事實及罪名ヲ示スヘシ

被告人ノ指定ハ氏名ヲ以テシ氏名知レザルトキハ容

貌、體格其ノ他ノ徵表ヲ以テスヘシ

第二百九十二條 公訴ハ豫審終結決定又ハ第一審ノ判

決アル迄之ヲ取消スコトヲ得

公訴ノ取消ハ理由ヲ記載シタル書面ヲ以テ之ヲ爲ス

ヘシ

第二百九十三條 檢事事件其ノ所屬裁判所ノ管轄ニ屬

セザルモノト思料スルトキハ書類及證據物ト共ニ其

ノ事件ヲ管轄裁判所ノ檢事又ハ相當官署ニ送致スヘ

シ

前項ノ場合ニ於テ被疑者ニ對シ勾留ヲ繼續スル必要

ナシト思料スルトキハ之ヲ釋放スヘシ

豫審ノ請求ハ急速ヲ要スル場合ニ限リ口頭又ハ電報

ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得口頭又ハ電報ヲ以テ豫審ノ

ヲ告訴人ニ通知スヘシ公訴ヲ取消シ又ハ事件ヲ他ノ裁判所ノ檢察若ハ相當官署ニ送致シタルトキ亦同シ

第三章 豫審

第二百九十五條 豫審ハ被告事件ヲ公判ニ付スヘキカ否ヲ決スル爲必要ナル事項ヲ取調フルヲ以テ其ノ目的トス

豫審判事ハ公判ニ於テ取調ヘ難シト思料スル事項ニ付亦取調ヲ爲スヘシ

第二百九十六條 豫審ニ於テハ取調ノ秘密ヲ保チ被告人其ノ他ノ者ノ名譽ヲ毀損セサルコトニ注意スヘシ

第二百九十七條 豫審判事豫審中共犯アルコト又ハ他ノ犯罪アルコトヲ發見シタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ檢察ノ請求ヲ待タス豫審ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得

豫審判事前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢察ニ通知スヘシ

第二百九十八條 檢察前條第二項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタル場合ニ於テ豫審ヲ請求スヘキモノト思料スルトキハ速ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ

豫審判事檢察ヨリ豫審ヲ請求セサル旨ノ通知ヲ受ケタルトキ又ハ前條第二項ノ規定ニ依ル通知ヲ爲シタル時ヨリ四十八時間内ニ豫審ノ請求ヲキトキハ前條ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得

ル時ヨリ四十八時間内ニ豫審ノ請求ヲキトキハ前條ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得

豫審判事ニ補助ヲ求ムルコトヲ得

第三百條 豫審判事ハ被告人ヲ訊問スヘシ

第三百一條 豫審判事ハ豫審終結前被告人ニ對シ嫌疑ヲ受ケタル原由ヲ告知シ辯解ヲ爲サシムヘシ但シ被告人正當ノ事由ヲ示シテ出頭セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三百二條 豫審判事公判ニ於テ召喚シ難シト思料スル證人ヲ訊問スル場合ニ於テハ檢察及辯護人ハ其ノ訊問ニ立會フコトヲ得

第三百三條 檢察、被告人又ハ辯護人ハ豫審中何時ニテモ必要トスル處分ヲ豫審判事ニ請求スルコトヲ得

豫審判事ハ豫審ノ進行ヲ妨ケサル限り書類及證據物ヲ閱覽スルコトヲ得

第三百九條 被告事件裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ豫審判事ハ決定ヲ以テ管轄違ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三百十條 豫審判事ハ其ノ所屬裁判所ノ管内ニ在ル區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付管轄違ノ言渡ヲ爲スコトヲ得

第三百十一條 豫審判事ハ被告人ノ申立ニ因ルニ非サレハ土地管轄ニ付管轄違ノ言渡ヲ爲スコトヲ得

第三百十二條 公判ニ付スルニ足ルヘキ犯罪ノ嫌疑アルトキハ豫審判事ハ決定ヲ以テ被告事件ヲ公判ニ付スル言渡ヲ爲スヘシ

第三百十三條 被告事件罪ト爲ラス又ハ公判ニ付スルニ足ルヘキ犯罪ノ嫌疑ナキトキハ豫審判事ハ決定ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三百十四條 左ノ場合ニ於テハ豫審判事ハ決定ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシ

一 確定判決ヲ經タルトキ

二 犯罪後ノ法令ニ因リ刑ノ廢止アリタルトキ

三 大赦アリタルトキ

四 時効完成シタルトキ

覽スルコトヲ得
辯護人ハ豫審判事ノ許可ヲ受ケ書類及證據物ヲ閱覽スルコトヲ得
第三百四條 豫審判事ハ公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得
第三百五條 豫審判事ハ左ノ場合ニ於テハ檢察ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ豫審手續ヲ中止スルコトヲ得
一 被告人ノ所在分明ナラサルトキ
二 被告人人心神喪失ノ状態ニ在ルトキ
前項ノ決定ハ之ヲ送達セス
第三百六條 豫審判事被告事件ニ付取調ヲ終ヘタルトキハ書類及證據物ヲ檢察ニ送付シテ其ノ意見ヲ求ムヘシ
第三百七條 檢察豫審判事ノ取調十分ナラスト思料スルトキハ事項ヲ指示シテ取調ヲ請求スルコトヲ得
豫審判事檢察ノ請求ニ應シタルトキハ更ニ其ノ取調ニ關スル書類及證據物ヲ檢察ニ送付スヘシ請求ニ應セサルトキハ速ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ
第三百八條 檢察前二條ノ規定ニ依リ書類及證據物ノ送付ヲ受ケタルトキハ速ニ意見ヲ付シテ之ヲ豫審判事ニ還付スヘシ

五 法令ニ於テ刑ヲ免除スルトキ

第三百十五條 左ノ場合ニ於テハ豫審判事ハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ

一 被告人ニ對シテ裁判權ヲ有セザルトキ

二 第三百十七條ノ規定ニ違反シテ公訴ヲ提起シタルトキ

三 公訴ノ取消ニ因リ公訴棄却ノ決定アリタル事件ニ付更ニ公訴ヲ提起シタルトキ

四 公訴ノ提起アリタル事件ニ付更ニ同一裁判所ニ公訴ヲ提起シタルトキ

五 告訴又ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付告訴又ハ請求ノ取消アリタルトキ

六 公訴ノ取消アリタルトキ

七 被告人死亡シ又ハ被告人タル法人存続セザルニ至リタルトキ

八 第九條又ハ第十條ノ規定ニ依リ審判ヲ爲スヘカラザルトキ

九 公訴提起ノ手續其ノ規定ニ違反シタル爲無効ナルトキ

第三百十六條 第三百九條及第三百十三條乃至前條ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百十七條 免訴ノ決定確定シタルトキハ左ノ場合ニ限り同一事件ニ付公訴ヲ提起スルコトヲ得

一 新ナル事實又ハ證據ヲ發見シタルトキ

二 決定若ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事、公訴ノ提起若ハ其ノ基礎ト爲リタル搜查ニ關與シタル檢事又ハ第二百五十五條ノ規定ニ依リ公訴提起ノ基礎ト爲リタル處分ヲ爲シタル判事被告事件ニ付職務ニ關スル罪ヲ犯シタルコト確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ決定ヲ爲ス前判事又ハ檢事ニ對スル公訴ノ提起アリタル場合ニ於テハ決定ヲ爲シタル豫審判事其ノ事實ヲ知ラザリシトキニ限ル

第三百十八條 免訴、公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲シタルトキハ勾留セラレタル被告人ニ對シテハ放免ノ言渡アリタルモノトス

公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ豫審判事ハ勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發スルコトヲ得

勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發シタル事件ニ付三日内ニ公訴ヲ提起セス又ハ管轄裁判所ノ檢事ニ事件ヲ送致セザルトキハ檢事ハ直ニ被告人ヲ釋放スヘシ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢事五日内ニ公訴ヲ提起セザ

ルトキ亦同シ

第三百十九條 免訴、公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲シタル事件ニ付押收物アルトキハ押收ヲ解ク言渡アリタルモノトス但シ必要アル場合ニ於テハ押收ヲ存続スルコトヲ得

押收ヲ存続シタル事件ニ付三日内ニ公訴ヲ提起セス又ハ管轄裁判所ノ檢事ニ事件ヲ送致セザルトキハ檢事ハ其ノ押收ヲ解クヘシ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢事五日内ニ公訴ヲ提起セザルトキ亦同シ

第四章 公判

第一節 公判準備

第三百二十條 裁判長ハ公判期日ヲ定ムヘシ

公判期日ニハ被告人、辯護人及輔佐人ヲ召喚スヘシ

第八十四條及第九十九條ノ規定ハ辯護人及輔佐人ノ召喚ニ付之ヲ準用ス

第三百二十一條 第一回ノ公判期日ト被告人ニ對スル召喚狀ノ送達トノ間ニハ少クトモ三日ノ猶豫期間ヲ存スヘシ

被告人異議ナキトキハ前項ノ猶豫期間ヲ存セザルコトヲ得

トヲ得

第三百二十二條 裁判長ハ公判期日ヲ變更スルコトヲ得

公判期日ノ變更ニ關スル請求ヲ却下スル命令ハ之ヲ送達スルコトヲ要セス

第三百二十三條 裁判所ハ第一回ノ公判期日ニ於ケル取調準備ノ爲メ公判期日前被告人ノ訊問ヲ爲シ又ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

檢事及辯護人ハ前項ノ訊問ニ立會フコトヲ得 訊問ヲ爲スヘキ日時及場所ハ豫メ之ヲ檢事及辯護人ニ通知スヘシ但シ急速ヲ要スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三百二十四條 裁判所ハ公判期日ニ於ケル取調準備ノ爲メ公判期日前證據物若ハ證據書類ノ提出ヲ命シ又ハ證人、鑑定人、通事若ハ翻譯人ニ對シ召喚狀ヲ發スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ召喚狀ヲ發シタル證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ氏名ハ直ニ之ヲ訴訟關係人ニ通知スヘシ

檢事、被告人又ハ辯護人ハ第一項ノ規定ニ依ル處分ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ却下スルトキハ決定ヲ爲スヘシ
第三百二十五條 檢事、被告人又ハ辯護人ハ公判期日
 前證據物又ハ證據書類ヲ裁判所ニ提出スルコトヲ得
第三百二十六條 裁判所ハ證人疾病其ノ他ノ事由ニ因
 リ公判期日ニ出頭スルコト能ハスト思料スルトキハ
 公判期日前之ヲ訊問スルコトヲ得

第三百二十三條 第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合
 ニ之ヲ準用ス

第三百二十七條 裁判所ハ公判期日前鑑定若ハ翻譯ヲ
 爲サシメ又ハ押收、搜索若ハ檢證ヲ爲スコトヲ得

第三百二十八條 裁判所ハ公判期日前公務所ニ照會シ
 テ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

第二節 公判手續

第三百二十九條 公判期日ニ於ケル取調ハ公判廷ニ於
 テ之ヲ爲スヘシ

公判廷ハ判事、檢事及裁判所書記列席シテ之ヲ開ク
第三百三十條 被告人公判期日ニ出頭セサルトキハ別
 段ノ規定アル場合ヲ除クノ外開廷スルコトヲ得ス

第三百三十一條 罰金以下ノ刑ニ該ル事件ノ被告人ハ
 代理人ヲシテ出頭セシムルコトヲ得但シ裁判所ハ本
 人ノ出頭ヲ命スルコトヲ得

第三百三十二條 被告人ハ公判廷ニ於テ身體ノ拘束ヲ
 受クルコトナシ但シ之ニ看守者ヲ附スルコトヲ得

第三百三十三條 被告人ハ裁判長ノ許可アルニ非サレ
 ハ退廷スルコトヲ得ス

裁判長ハ被告人ヲシテ在廷セシムル爲相當ノ處分ヲ
 爲スコトヲ得

第三百三十四條 死刑又ハ無期若ハ短期一年以上ノ懲
 役若ハ禁錮ニ該ル事件ニ付テハ辯護人ナクシテ開廷
 スルコトヲ得ス但シ判決ノ宣告ヲ爲ス場合ハ此ノ限
 ニ在ラス

辯護人出頭セサルトキ又ハ辯護人ノ選任ナキトキハ
 裁判長ハ職權ヲ以テ辯護人ヲ附スヘシ

第三百三十五條 左ノ場合ニ於テ辯護人出頭セサルト
 キ又ハ辯護人ノ選任ナキトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ辯
 護人ヲ附スルコトヲ得

一 被告人二十歳未満又ハ七十歳以上ナルトキ

二 被告人婦女ナルトキ

三 被告人聾者又ハ啞者ナルトキ

四 被告人心神喪失者又ハ心神耗弱者タル疑アルト
 五 其ノ他必要ト認ムルトキ

第三百三十六條 事實ノ認定ハ證據ニ依ル

第三百三十七條 證據ノ證明力ハ判事ノ自由ナル判斷
 ニ任ス

第三百三十八條 被告人訊問及證據調ハ裁判長之ヲ爲
 スヘシ

陪席判事ハ裁判長ニ告ケ被告人、證人、鑑定人、通
 事又ハ翻譯人ヲ訊問スルコトヲ得

檢事又ハ辯護人ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ被告人、證人、
 鑑定人、通事又ハ翻譯人ヲ訊問スルコトヲ得

被告人ハ必要トスル事項ニ付共同被告人、證人、鑑
 定人、通事又ハ翻譯人ヲ訊問スヘキコトヲ裁判長ニ
 請求スルコトヲ得

第三百三十九條 裁判長ハ證人其ノ他ノ者被告人又ハ
 或傍聽人ノ面前ニ於テ十分ナル供述ヲ爲スコトヲ得
 サルヘシト思料スルトキハ其ノ供述中之ヲ退廷セシ
 ムルコトヲ得被告人他ノ被告人ノ面前ニ於テ十分ナ
 ル供述ヲ爲スコトヲ得サルヘシト思料スルトキ亦同
 シ
 前項ノ規定ニ依リ被告人ヲ退廷セシメタル場合ニ於
 テ共同被告人、證人其ノ他ノ者ノ供述終リタルトキ
 ハ被告人ヲ入廷セシメ供述ノ要旨ヲ告クヘシ

第三百四十條 證據書類ハ裁判長之ヲ朗讀シ若ハ其ノ
 要旨ヲ告ケ又ハ裁判所書記ヲシテ之ヲ朗讀セシムヘ
 シ

單ニ風説又ハ素行ヲ記載シタル書類ニシテ人ノ名譽
 ヲ毀損ス、虞アルモノハ之ヲ朗讀スルコトヲ得ス

前項ノ書類ハ之ヲ被告人ニ示シ被告人文字ヲ解セサ
 ルトキニ限り其ノ要旨ヲ告クヘシ

第三百四十一條 證據物ハ裁判長之ヲ被告人ニ示スヘ
 シ

證據物中書面ノ意義證據ト爲ルモノニ付テハ被告人
 文字ヲ解セサルトキハ其ノ要旨ヲ告クヘシ

第三百四十二條 公判期日前訴訟關係人ヨリ提出シタ
 ル證據物及證據書類ハ公判廷ニ於テ之ヲ取調フヘシ

第三百二十六條 乃至第三百二十八條ノ規定ニ依リ作
 成シ又ハ集取シタルモノニ付亦同シ但シ訴訟關係人
 ニ異議ナキモノニ付テハ之ヲ取調ヘサルコトヲ得

第三百四十三條 被告人其ノ他ノ者ノ供述ヲ錄取シタ
 ル書類ニシテ法令ニ依リ作成シタル訊問調書ニ非サ
 ルモノハ左ノ場合ニ限り之ヲ證據ト爲スコトヲ得
 一 供述者死亡シタルトキ
 二 疾病其ノ他ノ事由ニ因リ供述者ヲ訊問スルコト

能ハサルトキ

三 訴訟關係人異議ナキトキ
區裁判所ノ事件ニ付テハ前項ニ規定スル制限ニ依ル
コトヲ要セス

第三百四十四條 證據調ノ請求ノ却下ハ決定ヲ以テ之
ヲ爲スヘシ

新期日ノ指定其ノ他別段ノ手續ヲ必要トスル證據調
ハ決定ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第三百四十五條 裁判長被告人ニ對シ第三百三十三條ノ
訊問ヲ爲シタル後檢事ハ被告事件ノ要旨ヲ陳述スヘ
シ

前項ノ陳述終リタルトキハ被告人訊問及證據調ヲ爲
スヘシ

第三百四十六條 區裁判所ニ於テ被告人自白シタルト
キハ訴訟關係人異議ナキトキニ限り他ノ證據ヲ取調
ヘサルコトヲ得

第三百四十七條 裁判長ハ各個ノ證據ニ付取調ヲ終ヘ
タル毎ニ被告人ニ意見アリヤ否ヲ問フヘシ

裁判長ハ被告人ニ對シ其ノ利益ト爲ルヘキ證據ヲ提
出スルコトヲ得ヘキ旨ヲ告クヘシ

第三百四十八條 檢事、被告人又ハ辯護人ハ裁判長ノ

處分ニ對シテハ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

裁判所ハ前項ノ申立ニ付決定ヲ爲スヘシ

第三百四十九條 證據調終リタル後檢事ハ事實及法律
ノ適用ニ付意見ヲ陳述スヘシ

被告人及辯護人ハ意見ヲ陳述スルコトヲ得
被告人又ハ辯護人ニハ最終ニ陳述スル機會ヲ與フヘ
シ

第三百五十條 裁判所ハ必要アル場合ニ於テハ辯論ヲ
再開スルコトヲ得

第三百五十一條 裁判所ハ計算其ノ他繁雜ナル事項ニ
付公判廷ニ於テ取調フルコトヲ不便トスルトキハ部
員ヲシテ其ノ取調ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ
於テハ受命判事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

檢事及辯護人ハ前項ノ取調ニ立會フコトヲ得
受命判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

第三百五十二條 被告人心神喪失ノ狀態ニ在ルトキハ
檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ其ノ狀態ノ繼續スル間
公判手續ヲ停止スヘシ但シ無罪、免訴、刑ノ免除又
ハ公訴棄却ノ裁判ヲ爲スヘキ事由明白ナル場合ニ於
テハ被告人ノ出頭ヲ待タス直ニ其ノ裁判ヲ爲スコト
ヲ得

被告人疾病ニ因リ出頭スルコト能ハサルトキハ檢事
ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ出頭スルコトヲ得ルニ至ル
迄公判手續ヲ停止スヘシ

第三百三十一條ノ規定ニ依リ代理人ヲシテ出頭セシ
メタル場合ニ於テハ前二項ノ規定ヲ適用セス

第三百五十三條 開廷後被告人ノ心神喪失ニ因リ公判
手續ヲ停止シ又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ引續キ十五日
以上開廷セザリシ場合ニ於テハ公判手續ヲ更新スヘ
シ

第三百五十四條 開廷後判事ノ更迭アリタルトキハ公
判手續ヲ更新スヘシ但シ判決ノ宣告ヲ爲ス場合ハ此
ノ限ニ在ラス

第三節 公判ノ裁判

第三百五十五條 被告事件裁判所ノ管轄ニ屬セザルト
キハ判決ヲ以テ管轄違ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三百五十六條 地方裁判所ハ其ノ管内ニ在ル區裁判
所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付管轄違ノ言渡ヲ爲スコト
ヲ得ス但シ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ管轄權ヲ有
スル區裁判所ニ事件ヲ移送スルコトヲ得

第三百五十七條 裁判所ハ被告人ノ申立ニ因ルニ非サ
レハ土地管轄ニ付管轄違ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス

管轄違ノ申立ハ被告事件ニ付供述ヲ爲シタル後ハ之
ヲ爲スコトヲ得ス

管轄違ノ申立ハ豫審ヲ經タル事件ニ付テハ豫審判事
ニ對シテ其ノ申立ヲ爲シタルトキニ非サレハ之ヲ爲
スコトヲ得ス

第三百五十八條 被告事件ニ付犯罪ノ證明アリタルト
キハ第三百五十九條ノ場合ヲ除クノ外判決ヲ以テ刑
ノ言渡ヲ爲スヘシ

刑ノ執行猶豫ハ刑ノ言渡ト同時ニ判決ヲ以テ其ノ言
渡ヲ爲スヘシ

第三百五十九條 被告事件ニ付刑ヲ免除スルトキハ判
決ヲ以テ其ノ旨ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三百六十條 有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事
實及證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ説明シ法令ノ適
用ヲ示スヘシ

法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ理由又ハ刑ノ加重減
免ノ理由タル事實上ノ主張アリタルトキハ之ニ對ス
ル判斷ヲ示スヘシ

第三百六十一條 區裁判所ニ在リテハ上訴ノ申立ナキ
場合又ハ判決宣告ノ日ヨリ七日内ニ判決書ノ謄本ノ
請求ナキ場合ニ於テ判決主文並罪ト爲ルヘキ事實ノ

要旨及適用シタル罰條ヲ公判調書ニ記載セシメ之ヲ以テ判決書ニ代フルコトヲ得

第三百六十二條 被告事件罪ト爲ラス又ハ犯罪ノ證明ナキトキハ判決ヲ以テ無罪ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三百六十三條 左ノ場合ニ於テハ判決ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシ

- 一 確定判決ヲ經タルトキ
- 二 犯罪後ノ法令ニ因リ刑ノ廢止アリタルトキ
- 三 大赦アリタルトキ
- 四 時効完成シタルトキ

第三百六十四條 左ノ場合ニ於テハ判決ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ

- 一 被告人ニ對シテ裁判權ヲ有セサルトキ
- 二 第三百十七條ノ規定ニ違反シテ公訴ヲ提起シタルトキ
- 三 公訴ノ取消ニ因リ公訴棄却ノ決定アリタル事件ニ付更ニ公訴ヲ提起シタルトキ
- 四 公訴ノ提起アリタル事件ニ付更ニ同一裁判所ニ公訴ヲ提起シタルトキ
- 五 告訴又ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付告訴又ハ請求ノ取消アリタルトキ

六 公訴提起ノ手續其ノ規定ニ違反シタル爲無効ナルトキ

第三百六十五條 左ノ場合ニ於テハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ

- 一 公訴ノ取消アリタルトキ
- 二 被告人死亡シ又ハ被告人タル法人存續セサルニ至リタルトキ
- 三 第九條又ハ第十條ノ規定ニ依リ審判ヲ爲スヘカラサルトキ

第三百六十六條 被告人陳述ヲ肯セス、許可ヲ受ケスシテ退廷シ又ハ秩序維持ノ爲裁判長ヨリ退廷ヲ命セラレタルトキハ其ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第三百六十七條 罰金以下ノ刑ニ該ル事件又ハ罰金以下ノ刑ニ處スヘキモノト認ムル事件ニ付被告人出頭セサルトキハ其ノ後ノ取調ニ因リ禁錮以上ノ刑ニ處スヘキモノト認ムル場合ヲ除クノ外被告人ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第三百六十八條 辯論終結ノ後ハ被告人出頭セスト雖宣告ニ依リ判決ヲ告知ス

第三百六十九條 有罪ノ判決ヲ告知スル場合ニハ被告人ニ對シ上訴期間及上訴申立書ヲ差出スヘキ裁判所ヲ告知スヘシ

第三百七十條 裁判長ハ判決ノ告知ヲ爲シタル後被告人ニ對シ將來ヲ戒ムル爲適當ナル訓諭ヲ爲スコトヲ得

第三百七十一條 無罪、免訴、刑ノ免除、刑ノ執行猶豫、公訴棄却、管轄違、罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲シタルトキハ勾留セラレタル被告人ニ對シテハ放免ノ言渡アリタルモノトス

公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所ハ勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發スルコトヲ得
勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發シタル事件ニ付三日内ニ公訴ヲ提起セス又ハ管轄裁判所ノ檢事ニ事件ヲ送致セサルトキハ檢事ハ直ニ被告人ヲ釋放スヘシ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢事五日内ニ公訴ヲ提起セサルトキ亦同シ

第三百七十二條 押收シタル物ニ付沒收ノ言渡ナキトキハ押收ヲ解ク言渡アリタルモノトス
公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所ハ押收ヲ存續スルコトヲ得

押收ヲ存續シタル事件ニ付三日内ニ公訴ヲ提起セス又ハ管轄裁判所ノ檢事ニ事件ヲ送致セサルトキハ檢事ハ其ノ押收ヲ解クヘシ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢事五日内ニ公訴ヲ提起セサルトキ亦同シ

第三百七十三條 押收シタル贓物ニシテ被害者ニ還付スヘキ理由明白ナルモノハ之ヲ被害者ニ還付スル言渡ヲ爲スヘシ

贓物ノ對價トシテ得タル物ニ付被害者ヨリ交付ノ請求アリタルトキハ前項ノ例ニ依ル
假ニ還付シタル物ニ付別段ノ言渡ナキトキハ還付ノ言渡アリタルモノトス

前三項ノ規定ハ民事訴訟ノ手續ニ從ヒ利害關係人ヨリ其ノ權利ヲ主張スルコトヲ妨ケス

第三百七十四條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消スヘキ場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ現在地又ハ最後ノ住所地ヲ管轄スル區裁判所ノ檢事其ノ裁判所ニ請求ヲ爲スヘシ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其ノ代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
第三百七十五條 刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規

定ニ依リ刑ヲ定ムヘキ場合ニ於テハ其ノ犯罪事實ニ付最終ノ判決ヲ爲シタル裁判所ノ檢事其ノ裁判所ニ請求ヲ爲スヘシ
前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其ノ代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三編 上訴

第一章 通則

第三百七十六條 上訴ハ檢事又ハ被告人之ヲ爲スコトヲ得

第三百七十七條 檢事又ハ被告人ニ非サル者ニシテ決定ヲ受ケタルモノハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百七十八條 被告人ノ法定代理人、保佐人又ハ夫ハ被告人ノ爲獨立シテ上訴ヲ爲スコトヲ得

第三百七十九條 原審ニ於ケル代理人又ハ辯護人ハ被告人ノ爲上訴ヲ爲スコトヲ得但シ被告人ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

第三百八十條 上訴ハ裁判ノ一部ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得其ノ部分ヲ限ラサルトキハ裁判ノ全部ニ對シテ爲シタルモノトス

第三百八十一條 上訴ノ提起期間ハ裁判告知ノ日ヨリ

進行ス

第三百八十二條 檢事、被告人又ハ第三百七十七條ニ規定スル者ハ上訴ノ拋棄又ハ取下ヲ爲スコトヲ得但シ被告人ハ第三百七十八條ニ規定スル者ノ同意ヲ得ルニ非サレハ拋棄又ハ取下ヲ爲スコトヲ得ス

第三百八十三條 第三百七十八條ニ規定スル者ハ被告人ノ同意ヲ得テ上訴ノ取下ヲ爲スコトヲ得

第三百八十四條 上訴拋棄ノ申立ハ原裁判所ニ之ヲ爲スヘシ

上訴取下ノ申立ハ上訴裁判所ニ之ヲ爲スヘシ訴訟記録ヲ上訴裁判所又ハ上訴裁判所檢事ニ送付スル前上訴ノ取下ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ申立書ヲ原裁判所ニ差出スコトヲ得

第三百八十五條 上訴ノ拋棄又ハ取下ノ申立ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ公判廷ニ於テハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ申立書ヲ調書ニ記載スヘシ

第三百八十六條 上訴ノ拋棄又ハ取下ヲ爲シタル者ハ其ノ事件ニ付更ニ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

第三百八十七條 第三百七十六條乃至第三百七十九條ノ規定ニ依リ上訴ヲ爲スコトヲ得ル者自己又ハ代人

ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ上訴ノ提起期間内ニ上訴ヲ爲スコト能ハサリシトキハ原裁判所ニ上訴權回復ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第三百八十八條 上訴權回復ノ請求ハ事由ノ止ミタル日ヨリ上訴ノ提起期間ニ相當スル期間内ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

上訴權回復ノ理由タル事實ハ之ヲ疏明スヘシ
上訴權回復ノ請求ヲ爲ス者ハ其ノ請求ト同時ニ原裁判所ニ上訴ノ申立書ヲ差出スヘシ

第三百八十九條 原裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ上訴權回復ノ請求ヲ許スヘキカ否ノ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百九十條 上訴權回復ノ請求アリタルトキハ原裁判所ハ前條ノ決定ヲ爲ス迄裁判ノ執行ヲ停止スル決定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ決定ヲ爲ストキハ被告人ニ對シ勾留狀ヲ發スルコトヲ得

第三百九十一條 監獄ニ在ル被告人上訴ヲ爲スニハ監獄ノ長又ハ其ノ代理人ヲ經由シテ申立書ヲ差出スヘシ此ノ場合ニ於テ上訴ノ提起期間内ニ申立書ヲ監獄ノ長又ハ其ノ代理人ニ差出シタルトキハ上訴ノ提起

期間内ニ上訴ヲ爲シタルモノト看做ス

被告人自ら申立書ヲ作ルコト能ハサルトキハ監獄ノ長又ハ其ノ代理人ハ之ヲ代書シ又ハ所屬吏員ヲシテ之ヲ代書セシムヘシ

監獄ノ長又ハ其ノ代理人ハ原裁判所ニ申立書ヲ送付シ且之ヲ受取リタル年月日時ヲ通知スヘシ

第三百九十二條 前條ノ規定ハ監獄ニ在ル被告人上訴ノ拋棄若ハ取下又ハ上訴權回復ノ請求ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第三百九十三條 上訴、上訴ノ拋棄若ハ取下又ハ上訴權回復ノ請求アリタルトキハ裁判所書記ハ速ニ之ヲ對手人ニ通知スヘシ

第二章 控訴

第三百九十四條 控訴ハ區裁判所又ハ地方裁判所ニ於テ爲シタル第一審ノ判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百九十五條 控訴ノ提起期間ハ七日トス

第三百九十六條 控訴ヲ爲スニハ申立書ヲ第一審裁判所ニ差出スヘシ

第三百九十七條 控訴ノ申立法律上ノ方式ニ違反シ又ハ控訴權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ第一審裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
第三百九十八條 前條ノ場合ヲ除クノ外第一審裁判所
 ハ訴訟記録及證據物ヲ其ノ裁判所ノ檢事ニ送付シ檢
 事ハ之ヲ控訴裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ
 控訴裁判所ノ檢事ハ訴訟記録及證據物ヲ其ノ裁判所
 ニ送付スヘシ
 被告人監獄ニ在ルトキハ第一審裁判所ノ檢事ハ被告
 人ヲ控訴裁判所所在地ノ監獄ニ移スヘシ
第三百九十九條 控訴裁判所ノ檢事ハ辯論ノ終結ニ至
 ル迄附帶控訴ヲ爲スコトヲ得
第四百條 控訴ノ申立法律上ノ方式ニ違反シ又ハ控訴
 權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ控訴裁判所ハ判
 決ヲ以テ控訴ヲ棄却スヘシ
第四百一條 控訴裁判所ハ前條及第四百二條ノ場合ヲ
 除クノ外被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘシ
 第一審裁判所不法ニ管轄ヲ認メタル場合ニ於テ控訴
 裁判所其ノ事件ニ付第一審ノ管轄權ヲ有スルトキハ
 第一審ノ判決ヲ爲スヘシ
第四百二條 第一審裁判所不法ニ管轄違フ言渡シ又ハ
 公訴ヲ棄却シタルトキハ判決ヲ以テ事件ヲ第一審裁
 判所ニ差戻スコトヲ得

第四百三條 被告人控訴ヲ爲シタル事件及被告人ノ爲
 ニ控訴ヲ爲シタル事件ニ付テハ原判決ノ刑ヨリ重キ
 刑ヲ言渡スコトヲ得ス
第四百四條 被告人出頭セサルトキハ更ニ期日ヲ定ム
 ヘシ被告人正當ノ事由ナクシテ其ノ期日ニ出頭セサ
 ルトキハ其陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得
第四百五條 控訴裁判所ノ判決ニハ第一審ノ判決ニ示
 シタル事實及證據ヲ引用スルコトヲ得
第四百六條 第三百六十五條ノ規定ニ該當スル事件ニ
 付第一審裁判所公訴ヲ棄却セザリシトキハ決定ヲ以
 テ公訴ヲ棄却スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ
 爲スコトヲ得
第四百七條 第二編中公判ニ關スル規定ハ別段ノ規定
 アル場合ヲ除クノ外控訴ノ審判ニ付之ヲ準用ス
 第三章 上告
第四百八條 上告ハ第二審ノ判決ニ對シテ之ヲ爲スコ
 トヲ得
第四百九條 上告ハ第四百十二條乃至第四百十五條ニ
 規定スル場合ノ外法令ノ違反ヲ理由トスルトキニ限
 リ之ヲ爲スコトヲ得
第四百十條 左ノ場合ニ於テハ常ニ上告ノ理由アルモ

ノトス
 一 法律ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セザリシトキ
 二 職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキ判事審判ニ關與
 シタルトキ
 三 判事偏頗ノ虞アリトシテ忌避セラレ其ノ忌避ノ
 申立理由アリト認メラレタルニ拘ラス審判ニ關與
 シタルトキ
 四 審理ニ關與セザリシ判事判決ニ關與シタルトキ
 五 不法ニ管轄又ハ管轄違フ認メタルトキ
 六 不法ニ公訴ヲ受理シ又ハ之ヲ棄却シタルトキ
 七 審判ノ公開ニ關スル規定ニ違反シタルトキ
 八 別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外被告人出頭スル
 コトナクシテ審判ヲ爲シタルトキ
 九 公判廷ニ於テ被告人ノ身體ヲ拘束シタルトキ
 十 法律ニ依リ辯護人ヲ要スル事件又ハ決定ニ依リ
 辯護人ヲ附シタル事件ニ付辯護人出頭スルコトナ
 クシテ審理ヲ爲シタルトキ
 十一 不法ニ辯護權ノ行使ヲ制限シタルトキ
 十二 檢事ノ爲ス被告事件ノ陳述ヲ聽カスシテ審判
 ヲ爲シタルトキ
 十三 法律ニ依リ公判ニ於テ取調フヘキ證據ノ取調

ヲ爲サザリシトキ
 十四 公判ニ於テ爲シタル證據調ノ請求ニ付決定ヲ
 爲スヘキ場合ニ於テ之ヲ爲サザリシトキ
 十五 公判ニ於テ爲シタル異議ノ申立ニ付決定ヲ爲
 サザリシトキ
 十六 法律ニ依リ公判手續ヲ停止シ又ハ更新スヘキ
 事由アル場合ニ於テ之ヲ停止シ又ハ更新セザリシ
 トキ
 十七 被告人又ハ辯護人ニ最終ニ陳述スル機會ヲ與
 ヘザリシトキ
 十八 審判ノ請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ爲サス
 又ハ審判ノ請求ヲ受ケサル事件ニ付判決ヲ爲シタ
 ルトキ
 十九 判決ニ理由ヲ附セス又ハ理由ニ齟齬アルトキ
 二十 判決ニ示スヘキ判斷ヲ遺脱シタルトキ
 二十一 判決書ニ判事ノ署名若ハ捺印又ハ契印ヲ缺
 キタルトキ
第四百十一條 前條ノ場合ヲ除クノ外法令ニ違反シタ
 ルコトアリト雖判決ニ影響ヲ及ホササルコト明白ナ
 ルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス
第四百十二條 刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ

顯著ナル事由アルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

第四百十三條 再審ノ請求ヲ爲シ得ヘキ場合ニ該ル事由アルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

第四百十四條 重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

第四百十五條 判決アリタル後刑ノ廢止若ハ變更又ハ大赦アリタルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

第四百十六條 左ノ場合ニ於テハ區裁判所又ハ地方裁判所ニ於テ爲シタル第一審ノ判決ニ對シ控訴ヲ爲サスシテ上告ヲ爲スコトヲ得

一 判決ニ依リ定リタル被告事件ノ事實ニ付法令ヲ適用セス又ハ不當ニ法令ヲ適用シタルコトヲ理由トスルトキ

二 判決アリタル後刑ノ廢止若ハ變更又ハ大赦アリタルコトヲ理由トスルトキ

第四百十七條 第一審ノ判決ニ對スル上告ハ控訴ノ申立アリタルトキハ其ノ效力ヲ失フ但シ控訴ノ取下又ハ控訴棄却ノ裁判アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四百十八條 上告ノ提起期間ハ五日トス

第四百十九條 上告ヲ爲スニハ申立書ヲ原裁判所ニ差出すヘシ

第四百二十條 上告ノ申立法律上ノ方式ニ違反シ又ハ上告權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ原裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百二十一條 前條ノ場合ヲ除クノ外原裁判所ハ訴訟記録ヲ其ノ裁判所ノ檢事ニ送付シ檢事ハ之ヲ上告裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ

第四百二十二條 上告裁判所ハ遅クトモ最初ニ定メタル公判期日ノ五十日前ニ其ノ期日ヲ上告申立人及對手人ニ通知スヘシ

第四百二十三條 上告申立人ハ遅クトモ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前ニ上告趣意書ヲ上告裁判所ニ差出すヘシ

第四百二十四條 上告ノ對手人ハ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前迄附帶上告ヲ爲スコトヲ得

附帶上告ハ上告趣意書ヲ上告裁判所ニ差出シテ之ヲ爲スヘシ

第四百二十五條 上告趣意書ニハ上告ノ理由ヲ明示スヘシ

訴訟手續ノ法令ニ違反スルコトヲ理由トスル場合ニ於テハ違反ニ關スル事實ヲ表示スヘシ

第四百二十二條及第四百十四條ノ場合ニ於テハ訴訟記録及原裁判所ニ於テ取調ヘタル證據ニ現ハレサル事實ヲ援用スルコトヲ得ス

第四百十三條ノ場合ニ於テハ事實ヲ表示シ其ノ證據ヲ差出すヘシ

第四百二十六條 上告裁判所上告趣意書ヲ受取リタルトキハ速ニ其ノ謄本ヲ對手人ニ送達スヘシ

第四百二十七條 上告申立人期間内ニ上告趣意書ヲ差出ササルトキハ上告裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ上告ヲ棄却スヘシ

第四百二十八條 上告ノ對手人ハ上告趣意書ノ謄本ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ十日内ニ答辯書ヲ上告裁判所ニ差出すコトヲ得

檢事對手人ナルトキハ重要ト認ムル上告ノ理由ニ付答辯書ヲ差出すヘシ

上告裁判所答辯書ヲ受取リタルトキハ速ニ其ノ謄本ヲ上告申立人ニ送達スヘシ上告申立人辯護人ヲ選任シタルトキハ其ノ送達ハ辯護人ニ之ヲ爲スヘシ

第四百二十九條 裁判長ハ部員ヲシテ上告申立書、上告趣意書及答辯書ヲ檢閲シテ報告書ヲ作ラシムルコトヲ得

第四百三十條 上告審ニ於テハ辯護士ニ非サル者ヲ辯護人ニ選任スルコトヲ得ス

第四百三十一條 上告審ニ於テハ被告人ノ爲ニスル辯論ハ辯護人ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得但シ第四百四十四條第一項ノ規定ニ依リ被告事件ニ付更ニ審理ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四百三十二條 公判期日ニハ受命判事ハ辯論前報告書ヲ朗讀スヘシ

第四百三十三條 辯護人出頭セサルトキ又ハ辯護人ノ選任ナキトキハ法律ニ依リ辯護人ヲ要スル場合又ハ決定ニ依リ辯護人ヲ附シタル場合ヲ除クノ外檢事ノ陳述ヲ聽キ判決ヲ爲スヘシ

第四百三十四條 上告裁判所ハ上告趣意書ニ包含セラレタル事項ニ限り調査ヲ爲スヘシ

裁判所ノ管轄、公訴ノ受理及判決ニ依リ定リタル事
實ニ對スル法令ノ適用ノ當否ニ付テハ職權ヲ以テ調
査ヲ爲スコトヲ得判決アリタル後ニ於ケル刑ノ廢止
若ハ變更又ハ大赦ニ付亦同シ
第二審判決ニ對スル上告事件ニ於テハ第四百十二條
乃至第四百十四條ニ規定スル事由ニ付職權ヲ以テ調
査ヲ爲スコトヲ得

第四百三十五條 上告裁判所ハ裁判所ノ管轄、公訴ノ
受理及訴訟手續並第四百十三條ニ規定スル事由ニ關
シテハ事實ノ取調ヲ爲スコトヲ得

前項ノ取調ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ豫審判事
若ハ區裁判所判事ニ之ヲ囑託スルコトヲ得此ノ場合
ニ於テハ受命判事及受託判事ハ豫審判事ト同一ノ權
ヲ有ス

受命判事又ハ受託判事必要ト認ムルトキハ檢事及辯
護人ヲシテ前項ノ取調ニ立會ハシムルコトヲ得
受命判事又ハ受託判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲ス
ヘシ

第四百三十六條 第一審判決ニ對スル上告事件ニ付テ
ハ第四百三十四條第一項及第二項ノ調査ヲ爲シタル
トキハ直ニ判決ヲ爲スヘシ

十四條ニ規定スル事由ナキコト明白ナリト認ムルト
キハ其ノ點ニ付辯論ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ
得

第四百四十三條 上告裁判所第四百十二條乃至第四百
十四條ニ規定スル事由アリト認ムルトキハ第四百四
十八條ノ二ノ場合ヲ除クノ外檢事ノ意見ヲ聽キ決定
ヲ以テ事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨ヲ言渡スヘシ

第四百四十四條 上告裁判所事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨
ヲ言渡シタルトキハ被告事件ニ付更ニ審理ヲ爲スヘ
シ

公判廷ニ於テ取調フルコトヲ不便トスル事項ノ取調
ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ豫審判事若ハ區裁判
所判事ニ之ヲ囑託スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受
命判事及受託判事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス
受命判事又ハ受託判事必要ト認ムルトキハ檢事及辯
護人ヲシテ前項ノ取調ニ立會ハシムルコトヲ得
受命判事又ハ受託判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲ス
ヘシ

第四百四十五條 上告ノ申立法律上ノ方式ニ違反シ又
ハ上告權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ判決ヲ以
テ上告ヲ棄却スヘシ
第四百四十六條 上告理由ナキトキハ判決ヲ以テ之ヲ
棄却スヘシ

第四百三十七條 第二審判決ニ對スル上告事件ニ付テ
ハ先ツ上告ノ理由ト爲ルヘキ法令ノ違反及第四百十
五條ニ規定スル事由ニ付調査ヲ爲スヘシ

第四百三十八條 不法ニ管轄若ハ管轄違ヲ認メ又ハ公
訴ヲ受理シ若ハ棄却シタルコトヲ理由トシテ原判決
ヲ破毀スヘキ場合ニ於テハ他ノ事項ヲ調査セスシテ
直ニ判決ヲ爲スヘシ

第四百三十九條 事實ノ確定ニ影響ヲ及ボササル法令
ノ違反又ハ判決アリタル後刑ノ廢止若ハ大赦アリタ
ルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀シ無罪又ハ免訴ノ
言渡ヲ爲スヘキ場合ニ於テ第四百十三條又ハ第四百
十四條ニ規定スル事由ニ因ル檢事ノ上告ナキトキハ
他ノ事項ヲ調査セスシテ直ニ判決ヲ爲スヘシ

第四百四十條 事實ノ確定ニ影響ヲ及ボスヘキ法令ノ
違反ヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スヘキモノト認ムル
トキハ第四百四十八條ノ二ノ場合ヲ除クノ外決定ヲ
以テ事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨ヲ言渡スヘシ

第四百四十一條 前三條ノ場合ヲ除クノ外上告裁判所
ハ第四百三十七條ノ調査ヲ終ヘタル後第四百十二條
乃至第四百十四條ニ規定スル事由ヲ調査スヘシ

第四百四十二條 上告裁判所第四百十二條乃至第四百

第四百四十七條 上告理由アルトキハ判決ヲ以テ原判
決ヲ破毀スヘシ

第四百四十八條 前條ノ規定ニ依リ原判決ヲ破毀スル
トキハ第四百四十八條ノ二乃至第四百五十條ノ場合
ヲ除クノ外被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘシ

第四百四十八條ノ二 上告裁判所事實ノ確定ニ影響ヲ
及ボスヘキ法令ノ違反アリト認メ又ハ第四百十二條
乃至第四百十四條ニ規定スル事由アリト認ムル場合
ニ於テ自ラ事實ノ審理ヲ爲スヲ適當ナラストスルト
キハ判決ヲ以テ原判決ヲ破毀シ事件ヲ原裁判所ニ差
戻シ又ハ原裁判所ハ同等ナル他ノ裁判所ニ移送スヘ
シ

前項ノ差戻又ハ移送アリタル事件ニ付裁判ヲ爲ス場
合ニ於テハ原判決又ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關
與シタル判事ハ其ノ裁判ニ關與スルコトヲ得ス

第四百四十九條 不法ニ管轄違ヲ言渡シ又ハ公訴ヲ棄
却シタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スルトキハ
判決ヲ以テ事件ヲ原裁判所ニ差戻スヘシ但シ必要ア
ルトキハ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スコトヲ得

第四百五十條 不法ニ管轄ヲ認メタルコトヲ理由トシ
テ原判決ヲ破毀スルトキハ判決ヲ以テ事件ヲ管轄控
訴裁判所又ハ管轄第一審裁判所ニ移送スヘシ
第四百五十一條 被告人ノ利益ノ爲ニ原判決ヲ破毀ス

ル場合ニ於テ破毀ノ理由上告ヲ爲シタル共同被告人ニ共通ナルトキハ其ノ共同被告人ノ爲ニモ原判決ヲ破毀スヘシ

第四百五十二條 被告人上告ヲ爲シ又ハ被告人ノ爲ニ上告ヲ爲シタル事件ニ付テハ原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス

第四百五十三條 判決書ニハ上告ノ趣意及重要ナル答辯ノ要旨ヲ記載スヘシ但シ第四百十二條乃至第四百十四條ニ規定スル事由アリト爲ス上告ノ趣意ハ其ノ一部ヲ省略スルコトヲ得

第四百五十四條 原裁判所不法ニ公訴棄却ノ決定ヲ爲サザリシトキハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ

第四百五十五條 第二編中公判ニ關スル規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外上告ノ審判ニ付テハ準用シ第四百四十四條ノ規定ニ依リ被告事件ニ付更ニ審理ヲ爲ス場合ニ於テハ尙本編第二章ノ規定ヲ準用ス

第四章 抗告
第四百五十六條 抗告ハ特ニ即時抗告ヲ爲シ得ヘキコトヲ定メタル場合ノ外裁判所ノ爲シタル決定ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四百五十七條 裁判所ノ管轄又ハ訴訟手續ニ關シ判決前ニ爲シタル決定ニ對シテハ特ニ即時抗告ヲ爲シ得ヘキコトヲ定メタル場合ヲ除クノ外抗告ヲ爲スコトヲ得

得ヘキコトヲ定メタル場合ヲ除クノ外抗告ヲ爲スコトヲ得ス

第四百五十八條 抗告ハ即時抗告ヲ除クノ外何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得但シ原決定ヲ取消スモ實益ナキニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四百五十九條 即時抗告ノ提起期間ハ三日トス

第四百六十條 抗告ヲ爲スニハ申立書ヲ原裁判所ニ差出スヘシ

原裁判所抗告ヲ理由アリトスルトキハ決定ヲ更正スヘシ抗告ノ全部又ハ一部ヲ理由ナシトスルトキハ申立書ヲ受取りタル日ヨリ三日内ニ意見書ヲ附シテ之ヲ抗告裁判所ニ送付スヘシ

第四百六十一條 抗告ハ即時抗告ヲ除クノ外裁判ノ執行ヲ停止スル效力ヲ有セス但シ原裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ抗告ノ裁判アルマテ執行ヲ停止スルコトヲ得

抗告裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ裁判ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第四百六十三條 原裁判所必要ト認ムルトキハ訴訟記録及證據物ヲ抗告裁判所ニ送付スヘシ

抗告裁判所ハ訴訟記録及證據物ノ送付ヲ求ムルコトヲ得

第四百六十四條 抗告裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

第四百六十五條 抗告裁判所ハ豫審終結決定ニ對スル抗告ニ付必要アル場合ニ於テハ部員ヲシテ事實ノ取調ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受命判事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

受命判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

第四百六十六條 抗告ノ手續其ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ抗告理由ナキトキハ抗告ヲ棄却スヘシ

抗告理由アルトキハ原決定ヲ取消シ必要アル場合ニ於テハ更ニ裁判ヲ爲スヘシ

第四百六十七條 抗告裁判所ノ決定ハ之ヲ原裁判所ニ通知スヘシ

第四百六十八條 第四百六十條、第四百六十三條及前條ノ規定ハ豫審終結決定ニ對スル抗告ニ付テハ準用ス

第四百六十九條 抗告裁判所ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得但シ左ニ掲グル抗告ニ付テハ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

一 公判ニ於ケル公訴棄却ノ決定ニ對スル抗告

二 控訴ノ申立ヲ棄却スル決定又ハ上訴權回復ノ請求ニ付テハ決定ニ對スル抗告

三 再審ノ請求ニ付テハ決定ニ對スル抗告

四 刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ムル決定ニ對スル抗告

五 裁判ノ疑義又ハ刑ノ執行ノ異議ニ付テハ決定ニ對スル抗告

六 證人、鑑定人、通事、翻譯人其ノ他ノ者ノ受ケタル決定ニ對スル抗告

第四百七十條 裁判長、受命判事又ハ豫審判事左ニ掲クル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テ不服アル者ハ判事所屬ノ裁判所ニ其ノ裁判ノ取消又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得

一 忌避ノ申立ヲ却下スル裁判

二 勾留、保釋、押収又ハ押收物ノ還付ニ關スル裁判

三 鑑定ノ爲被告人ノ留置ヲ命スル裁判

四 證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ニ對シテ過料又ハ費用ノ賠償ヲ命スル裁判

區裁判所判事前項第一號ノ裁判ヲ爲シ又ハ受託判事トシテ前項第二號乃至第四號ノ裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ニ其ノ裁

判ノ取消又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得

第一項第四號ノ裁判ノ取消又ハ變更ノ請求ハ其ノ裁判アリタル日ヨリ三日内ニ之ヲ爲スヘシ

前項ノ請求期間内及其ノ請求アリタルトキハ裁判ノ執行ヲ停止ス

第四百七十一條 檢事ノ爲シタル勾留、押收又ハ押收物ノ還付ニ關スル處分ニ不服アル者ハ檢事所屬ノ裁判所ニ其ノ處分ノ取消又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得

司法警察官ノ爲シタル押收又ハ押收物ノ還付ニ關スル處分ニ不服アル者ハ司法警察官ノ職務執行地ヲ管轄スル區裁判所ニ其ノ處分ノ取消又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得

第四百七十二條 前二條ニ規定スル請求ヲ爲スニハ請求書ヲ管轄裁判所ニ差出スヘシ

第四百七十三條 第四百六十一條、第四百六十三條、第四百六十四條、第四百六十六條及第四百六十七條ノ規定ハ第四百七十條又ハ第四百七十一條ノ請求アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第四百七十四條 第四百七十條及第四百七十一條ノ請求ニ付爲シタル決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

ス但シ第四百七十條第四號ノ裁判ノ取消又ハ變更ノ請求ニ付爲シタル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百七十五條 裁判所構成法第五十條第二號ニ掲クル大審院ノ特別權限ニ屬スル罪ニ付テハ檢事總長搜查ヲ爲スヘシ

第四百七十六條 控訴院、地方裁判所又ハ區裁判所ノ檢事ハ檢事總長ノ指揮ヲ受ケ大審院ノ特別權限ニ屬スル罪ニ付搜查ヲ爲スヘシ

第四百七十七條 第二百四十七條、第二百四十八條又ハ第二百五十條ニ規定スル司法警察官ハ檢事總長ノ指揮ヲ受ケ大審院ノ特別權限ニ屬スル罪ニ付搜查ヲ爲スヘシ

第四百七十八條 檢事又ハ司法警察官大審院ノ特別權限ニ屬スル罪アリト思料スルトキハ直ニ檢事總長ニ報告スヘシ急速ヲ要スル場合ニ於テハ報告前搜查ニ付必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第四百七十九條 檢事總長搜查ヲ爲シタル後大審院ノ特別權限ニ屬スル罪アリト思料スルトキハ豫審ヲ請求スヘシ

第四百八十條 檢事總長ハ大審院ノ特別權限ニ屬スル事件ト牽連スル他ノ事件ニ付併セテ豫審ヲ請求スルコトヲ得

第四百八十一條 大審院ハ檢事總長ノ請求ニ因リ前條ノ規定ニ依リ豫審ヲ請求シタル事件ヲ管轄地方裁判所ノ豫審判事ニ移送スルコトヲ得

第四百八十二條 大審院長ヨリ豫審ヲ命セラレタル判事被告事件ニ付取調ヲ終ヘタルトキハ意見書ヲ添ヘ書類及證據物ヲ大審院ニ送付スヘシ

第四百八十三條 大審院ハ檢事總長ノ意見ヲ聽キ左ノ區別ニ從ヒ決定ヲ爲スヘシ
一 被告事件公判ニ付スヘキモノト認ムルトキハ公判ヲ開始スル決定

二 被告事件下級裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト認ムルトキハ管轄權ヲ有スル裁判所ニ之ヲ移送スル決定
三 被告事件前二號ノ規定ニ該當セサル場合ニ於テハ第三百十三條乃至第三百十五條ノ規定ニ準シ免

訴シ又ハ公訴ヲ棄却スル決定

第四百八十四條 第二編ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外大審院ノ特別權限ニ屬スル事件ニ付之ヲ準用ス

第四百八十五條 再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ有罪ノ言渡ヲ爲シタル確定判決ニ對シテ其ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニ之ヲ爲スコトヲ得
一 原判決ノ證據ト爲リタル證據書類又ハ證據物確定判決ニ因リ偽造又ハ變造ナリシコト證明セラレタルトキ

二 原判決ノ證據ト爲リタル證言、鑑定、通譯又ハ翻譯確定判決ニ因リ虚偽ナリシコト證明セラレタルトキ

三 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ誣告シタル罪確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ誣告ニ因リ有罪ノ言渡ヲ受ケタルトキニ限ル

四 原判決ノ證據ト爲リタル通常裁判所又ハ特別裁判所ノ裁判確定判決ニ因リ變更セラレタルトキ
五 特許權、實用新案權、意匠權又ハ商標權ヲ害シタル罪ニ因リ有罪ノ言渡ヲ爲シタル事件ニ付其ノ

權利ノ無効ノ審決確定シタルトキ又ハ無効ノ判決
 三アリタルトキ
 六 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテ無罪若ハ免訴
 ヲ言渡シ、刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテ刑ノ免
 除ヲ言渡シ又ハ原判決ニ於テ認メタル罪ヨリ輕キ
 罪ヲ認ムヘキ明確ナル證據ヲ新ニ發見シタルトキ
 七 原判決若ハ前審ノ判決若ハ其ノ判決ノ基礎ト爲
 リタル取調ニ關與シタル判事、豫審終結決定若ハ
 其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事、公訴
 ノ提起若ハ其ノ基礎ト爲リタル搜查ニ關與シタル
 檢事又ハ第二百五十五條ノ規定ニ依リ公訴提起ノ
 基礎ト爲リタル處分ヲ爲シタル判事被告事件ニ付
 職務ニ關スル罪ヲ犯シタルコト確定判決ニ因リ證
 明セラレタルトキ但シ原判決ヲ爲ス前判事又ハ檢
 事ニ對シテ公訴ノ提起アリタル場合ニ於テハ原判
 決ヲ爲シタル裁判所其ノ事實ヲ知ラサリシトキニ
 限ル

第四百八十六條 再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ有罪ノ
 言渡ヲ爲スヘキ事件ニ付無罪若ハ免訴ノ言渡ヲ爲シ
 タル確定判決、刑ノ言渡ヲ爲スヘキ事件ニ付刑ノ免
 除ノ言渡ヲ爲シタル確定判決、相當ノ罪ヨリ輕キ罪

ニ付有罪ノ言渡ヲ爲シタル確定判決又ハ不法ニ公訴
 ヲ棄却シタル確定判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得
 一 前條第一號、第二號、第四號又ハ第七號ニ規定
 スル理由アリトキ
 二 死刑又ハ無期若ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮
 ニ該ル罪ヲ犯シタル者無罪又ハ相當ノ罪ヨリ輕キ
 罪ニ付有罪ノ言渡ヲ受ケタル後裁判上又ハ裁判外
 ニ於テ其ノ事實ヲ陳述シタルトキ
 三 死刑又ハ無期若ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮
 ニ該ル罪ヲ犯シタル者刑ノ免除若ハ免訴又ハ公訴
 棄却ノ言渡ヲ受ケタル後裁判上又ハ裁判外ニ於テ
 其ノ理由ナカリシコトヲ陳述シタルトキ

第四百八十七條 再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ控訴ヲ
 棄却シタル確定判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得
 一 第四百八十五條第一號又ハ第二號ニ規定スル原
 由アリトキ
 二 原判決又ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタ
 ル判事ニ付第四百八十五條第七號ニ規定スル理由
 アリトキ

第一審ノ確定判決ニ對シテ再審ノ請求ヲ爲シタル事
 件ニ付再審ノ判決アリタル後ハ控訴棄却ノ判決ニ對

シテ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第四百八十八條 再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ上告ヲ
 棄却シタル判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得
 一 第四百三十五條ノ規定ニ依リ取調ヘタル事實ニ
 付第四百八十五條第一號又ハ第二號ニ規定スル原
 由アリトキ
 二 原判決又ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタ
 ル判事ニ付第四百八十五條第七號ニ規定スル理由
 アリトキ

第四百八十九條 第四百八十五條乃至前條ノ規定ニ從
 ヒ確定判決ニ因リ犯罪ノ證明セラレタルコトヲ再審
 ノ理由ト爲スヘキ場合ニ於テ其ノ確定判決ヲ得ルコ
 ト能ハサルトキハ其ノ事實ヲ證明シテ再審ノ請求ヲ
 爲スコトヲ得但シ證據ナキノ理由ニ因リ確定判決ヲ
 得ルコト能ハサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四百九十條 再審ノ請求ハ別段ノ規定アル場合ヲ除
 タノ外原判決ヲ爲シタル裁判所之ヲ管轄ス

第四百九十一條 判決ノ一部第二審ニ於テ確定シ其ノ

部分ニ對スル再審ノ請求ニ付再審開始ノ決定アリタ
 ルトキハ第一審ニ於テ確定シタル部分ニ對スル再審
 ノ請求ハ控訴裁判所之ヲ管轄ス

判決ノ一部上告審ニ於テ確定シ其ノ部分ニ對スル再
 審ノ請求ニ付再審開始ノ決定アリタルトキハ第一審
 又ハ第二審ニ於テ確定シタル部分ニ對スル再審ノ請
 求ハ上告裁判所之ヲ管轄ス

第四百九十二條 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲
 ニスル再審ノ請求ハ左ニ掲ケタル者之ヲ爲スコトヲ得
 一 管轄裁判所ノ檢事
 二 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者
 三 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ法定代理人、保佐人
 及夫

第四百九十三條 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者死亡シ又ハ心神喪失ノ
 状態ニ在ル場合ニ於テハ其ノ配偶者、家督相續人、
 直系ノ親族及兄弟姉妹

第四百八十五條第七號、第四百八十七條第二號又ハ
 第四百八十八條第二號ニ規定スル理由ニ因リ再審ノ
 請求ニシテ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニス
 ルモノハ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ行爲罪ヲ犯スニ
 至ラシメタル場合ニ於テハ檢事ニ非サレハ之ヲ爲ス

コトヲ得ス

第四百八十六條ノ規定ニ依ル再審ノ請求ハ管轄裁判所ノ檢察之ヲ爲スコトヲ得第四百八十七條又ハ第四百八十八條ノ規定ニ依ル再審ノ請求ニシテ第一項ノ規定ニ該當セサルモノニ付亦同シ

第四百九十三條 檢察ニ非サル者再審ノ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ辯護人ヲ選任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル辯護人ノ選任ハ再審ノ判決アル迄其ノ效力ヲ有ス

第四百九十四條 再審ノ請求ハ刑ノ執行終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタルトキト雖之ヲ爲スコトヲ得

第四百九十五條 第四百八十六條ノ規定ニ依ル再審ノ請求ハ判決確定後公訴ノ時効期間ニ相當スル期間ヲ經過シタル後ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ得第四百八十七條又ハ第四百八十八條ノ規定ニ依ル再審ノ請求ニシテ第四百九十二條第一項ノ規定ニ該當セサルモノニ付亦同シ

第四百九十六條 再審ノ請求ハ刑ノ執行ヲ停止スル效力ヲ有セス但シ管轄裁判所ノ檢察ハ再審ノ請求ニ付テノ決定アル迄刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第四百九十七條 再審ノ請求ヲ爲スニハ其ノ趣意書ニ

原判決ノ謄本、證據書類及證據物ヲ添へ之ヲ管轄裁判所ニ差出スヘシ

第四百九十八條 再審ノ請求ハ之ヲ取下クルコトヲ得

再審ノ請求ヲ取下ケタル者ハ同一ノ理由ニ因リ更ニ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第四百九十九條 第三百八十五條、第三百九十一條及第三百九十三條ノ規定ハ再審ノ請求又ハ其ノ取下ニ付之ヲ準用ス

第五百條 第四百九十一條第一項ノ場合ニ於テ第一審裁判所控訴裁判所ノ再審開始ノ決定前再審ノ請求ヲ受ケタルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ控訴裁判所ニ送致スヘシ

第四百九十一條第二項ノ場合ニ於テ第一審裁判所又ハ控訴裁判所上告裁判所ノ再審開始ノ決定前再審ノ請求ヲ受ケタルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ上告裁判所ニ送致スヘシ

第五百一條 第一審ノ確定判決ト控訴ヲ棄却シタル確定判決トニ對シテ再審ノ請求アリタルトキハ控訴裁判所ハ決定ヲ以テ第一審裁判所ノ訴訟手續終了スル

ニ至ル迄訴訟手續ヲ停止スヘシ

第五百二條 第一審又ハ第二審ノ確定判決ト上告ヲ棄却シタル判決トニ對シテ再審ノ請求アリタルトキハ上告裁判所ハ決定ヲ以テ第一審裁判所又ハ控訴裁判所ノ訴訟手續終了スルニ至ル迄訴訟手續ヲ停止スヘシ

第五百三條 再審ノ請求ヲ受ケタル裁判所ハ必要アル場合ニ於テハ部員ヲシテ再審ノ理由ニ付事實ノ取調ヲ爲サシメ又ハ豫審判事若ハ區裁判所判事ニ其ノ取調ヲ囑託スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受命判事及受託判事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

受命判事又ハ受託判事必要ト認ムルトキハ檢察及辯護人ヲシテ前項ノ取調ニ立會ハシムルコトヲ得受命判事又ハ受託判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

第五百四條 再審ノ請求法律上ノ方式ニ違反シ又ハ請求權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第五百五條 再審ノ請求ヲ理由ナシトスルトキハ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

請求ヲ爲スコトヲ得ス

第五百六條 再審ノ請求ヲ理由アリトスルトキハ再審開始ノ決定ヲ爲スヘシ

再審開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ決定ヲ以テ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第五百七條 第五百一條ノ場合ニ於テ第一審裁判所再審ノ判決ヲ爲シタルトキハ控訴裁判所ハ決定ヲ以テ再審ノ請求ヲ棄却スヘシ

第五百八條 第五百二條ノ場合ニ於テ第一審裁判所又ハ控訴裁判所再審ノ判決ヲ爲シタルトキハ上告裁判所ハ決定ヲ以テ再審ノ請求ヲ棄却スヘシ

第五百九條 再審ノ請求ニ付決定ヲ爲ス場合ニ於テハ請求ヲ爲シタル者及其ノ對手人ノ意見ヲ聽クヘシ第四百九十二條第一項第三號ニ掲クル者請求ヲ爲シタル場合ニ於テハ尙有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ意見ヲ聽クヘシ

第五百十條 第五百四條、第五百五條、第五百六條第一項、第五百七條又ハ第五百八條ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第五百十一條 裁判所ハ再審開始ノ決定確定シタル事件ニ付テハ第五百條、第五百七條及第五百八條ノ場

合ヲ除クノ外其ノ審級ニ從ヒ更ニ審判ヲ爲スヘシ
第五百十二條 死亡者又ハ回復ノ見込ナキ心神喪失者ノ利益ノ爲ニ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付テハ公判ヲ開カス檢事及辯護人ノ意見ヲ聽キ判決ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ再審ノ請求ヲ爲シタル者辯護人ヲ選任セサルトキハ裁判長ハ職權ヲ以テ辯護人ヲ附スヘシ

有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付再審ノ判決ヲ爲ス前有罪ノ言渡ヲ受ケタル者死亡シ又ハ心神喪失ノ状態ニ在リテ回復ノ見込ナキニ至リタルトキ亦前項ニ同シ
 前二項ノ規定ニ依リ爲シタル判決ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

第四十三條ノ規定ハ第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ辯護人ヲ附スル場合ニ之ヲ準用ス

第五百十三條 第四百八十六條ノ規定ニ依リ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付再審ノ判決ヲ爲ス前有罪ノ言渡ヲ受ケタル者又ハ被告人タリシ者死亡シタルトキハ再審ノ請求及其ノ請求ニ付爲シタル決定ハ其ノ效力ヲ失フ第四百八十七條又ハ第四百八十八條ノ規定ニ依ル再審ノ請求ニシテ第四百九十二條第一項ノ規

定ニ該當セサルモノニ付亦同シ
第五百十四條 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニ爲シタル再審ニ於テハ原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス

第五百十五條 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニ爲シタル再審ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲シタルトキハ官報及新聞紙ニ掲載シテ其ノ判決ヲ公示スヘシ

第六編 非常上告

第五百十六條 判決確定後其ノ事件ノ審判法令ニ違反シタルコトヲ發見シタルトキハ檢事總長ハ大審院ニ非常上告ヲ爲スコトヲ得

第五百十七條 非常上告ヲ爲スニハ其ノ理由ヲ記載シタル申立書ヲ大審院ニ差出スヘシ

第五百十八條 公判期日ニハ檢事ハ申立書ニ基キ陳述ヲ爲スヘシ

第五百十九條 非常上告ヲ理由ナシトスルトキハ判決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第五百二十條 非常上告ヲ理由アリトスルトキハ左ノ區別ニ從ヒ判決ヲ爲スヘシ

一 原判決法令ニ違反シタルトキハ其ノ違反シタル部分ヲ破毀ス但シ原判決被告人ノ爲ニ利益ナルト

キハ之ヲ破毀シ被告事件ニ付判決ヲ爲ス

二 訴訟手續法令ニ違反シタルトキハ其ノ違反シタル手續ヲ破毀ス

第五百二十一條 非常上告ノ判決ハ前條第一號但書ノ規定ニ依リ爲シタルモノヲ除クノ外其ノ效力ヲ被告人ニ及ホサス

第五百二十二條 第四百三十四條第一項及第四百三十五條ノ規定ハ非常上告ニ付之ヲ準用ス

第七編 略式手續

第五百二十三條 區裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ其ノ管轄ニ屬スル事件ニ付公判前略式命令ヲ以テ罰金又ハ科料ヲ科スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ沒收ヲ科シ其ノ他附隨ノ處分ヲ爲スコトヲ得

略式命令ハ被告人ニ裁判書ノ謄本ヲ送達シテ之ヲ爲ス
 裁判所書記本人ニ謄本ヲ交付シタルトキハ送達アリタルモノト看做ス

第五百二十四條 略式命令ノ請求ハ公訴ノ提起ト同時ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第五百二十五條 前條ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ

事件略式命令ヲ爲スコトヲ得ス又ハ之ヲ爲スコトヲ相當ナラスト思料スルトキハ通常ノ規定ニ從ヒ審判ヲ爲スヘシ

第五百二十六條 裁判書ニハ罪ト爲ルヘキ事實、適用シタル法令、科スヘキ刑及附隨ノ處分並謄本ノ送達アリタル日ヨリ七日内ニ正式裁判ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘキ旨ヲ示スヘシ

第五百二十七條 略式命令ヲ爲シタルトキハ檢事ニ裁判書ノ謄本ヲ送達スヘシ

第五百二十八條 略式命令ヲ受ケタル者ハ謄本ノ送達アリタル日ヨリ七日内ニ正式裁判ノ請求ヲ爲スコトヲ得

正式裁判ノ請求ハ略式命令ヲ爲シタル裁判所ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ正式裁判ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ通知スヘシ

第五百二十九條 第三百八十七條乃至第三百九十條ノ規定ハ正式裁判ノ請求ニ付之ヲ準用ス

第五百三十條 正式裁判ノ請求ハ第一審ノ判決アル迄之ヲ取下クルコトヲ得

第五百三十一條 正式裁判ノ請求法律上ノ方式ニ違反シ又ハ請求權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ檢事

ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
正式裁判ノ請求ヲ適法トスルトキハ通常ノ規定ニ從ヒ審判ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ略式命令ニ拘束セラルルコトナシ

第五百三十二條 正式裁判ノ請求ニ因リ判決ヲ爲シタルトキハ略式命令ハ其ノ效力ヲ失フ

第五百三十三條 略式命令ハ正式裁判ノ請求期間ノ經過又ハ其ノ請求ノ取下ニ因リ確定判決ト同一ノ效力ヲ生ス正式裁判ノ請求ヲ棄却スル裁判確定シタルトキ亦同シ

第八編 裁判ノ執行

第五百三十四條 裁判ハ確定シタル後之ヲ執行ス但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五百三十五條 裁判ノ執行ハ其ノ裁判ヲ爲シタル裁判所ノ檢事之ヲ指揮ス但シ其ノ性質上裁判所又ハ裁判長、受命判事、豫審判事又ハ區裁判所判事ノ爲スヘキモノハ此ノ限ニ在ラス
上訴ノ裁判又ハ上訴ノ取下ニ因リ下級裁判所ノ裁判ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ上訴裁判所ノ檢事其ノ執行ヲ指揮ス但シ訴訟記録下級裁判所ニ在ルトキハ其

ノ裁判所ノ檢事之ヲ指揮ス
第五百三十六條 裁判執行ノ指揮ハ書面ヲ以テ之ヲ爲シ之ニ裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ヲ添附スヘシ但シ刑ノ執行ヲ指揮スル場合ヲ除クノ外裁判書ノ原本、謄本若ハ抄本又ハ調書ノ謄本若ハ抄本ニ認印シテ之ヲ爲スコトヲ得

第五百三十七條 二以上ノ主刑ノ執行ハ罰金及科料ヲ除クノ外其ノ重キモノヲ先ニス但シ檢事ハ重キ刑ノ執行ヲ停止シ他ノ刑ノ執行ヲ爲サシムルコトヲ得

第五百三十八條 死刑ノ執行ハ司法大臣ノ命令ニ依ル

第五百三十九條 死刑ヲ言渡シタル判決確定シタルトキハ檢事ハ速ニ訴訟記録ヲ司法大臣ニ差出スヘシ

第五百四十條 司法大臣死刑ノ執行ヲ命シタルトキハ五日内ニ其ノ執行ヲ爲スヘシ

第五百四十一條 死刑ノ執行ハ檢事及裁判所書記ノ立會ニテ之ヲ爲スヘシ
檢事又ハ監獄ノ長ノ許可ヲ得タル者ニ非サレハ刑場ニ入ルコトヲ得ス

第五百四十二條 死刑ノ執行ニ立會ヒタル裁判所書記ハ執行始末書ヲ作り檢事及監獄ノ長ト共ニ之ニ署名捺印スヘシ

第五百四十三條

死刑ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失ノ状態ニ在ルトキハ司法大臣ノ命令ニ因リ執行ヲ停止ス
死刑ノ言渡ヲ受ケタル婦女懷胎ナルトキハ司法大臣ノ命令ニ因リ執行ヲ停止ス
前二項ノ規定ニ依リ死刑ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テハ痊癒又ハ分娩ノ後司法大臣ノ命令アルニ非サレハ執行ヲ爲スコトヲ得ス

第五百四十四條

懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失ノ状態ニ在ルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ現在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事ノ指揮ニ因リ其ノ痊癒ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第五百四十五條

前條ノ規定ニ依リ刑ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テハ檢事ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ監護義務者又ハ市町村長ニ引渡シ病院其ノ他適當ノ場所ニ入レシムルコトヲ得

刑ノ執行ヲ停止セラレタル者ハ前項ノ處分アル迄之ヲ監獄ニ留置シ其ノ期間ヲ刑期ニ算入ス

第五百四十六條

懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付左ニ掲クル事由アルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シ

タル裁判所ノ檢事又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ現在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事ノ指揮ニ因リ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

一 刑ノ執行ニ因リ著シク健康ヲ害スルトキ又ハ生命ヲ保ツコト能ハサル處アルトキ

二 七十歳以上ナルトキ

三 受胎後百五十日以上ナルトキ

四 分娩後六十日ヲ經過セサルトキ

五 刑ノ執行ニ因リ回復スヘカラサル不利益ヲ生スル處アルトキ

六 祖父母又ハ父母七十歳以上又ハ癡篤疾ニシテ侍養ノ子孫ナキトキ

七 其ノ他重大ナル事由アルトキ

第五百四十七條 死刑、懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者拘禁中ニ非サルトキハ檢事ハ執行ノ爲之ヲ召喚スヘシ召喚ニ應セサルトキハ逮捕狀ヲ發スヘシ

第五百四十八條 死刑、懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者逃亡シタルトキ又ハ逃亡スル處アルトキハ檢事ハ直ニ逮捕狀ヲ發シ又ハ司法警察官ヲシテ之ヲ發セシムルコトヲ得

第五百四十九條 死刑、懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者ノ現在地ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ

檢察ハ檢察長ニ人相書ヲ送付シ其ノ逮捕ヲ請求スルコトヲ得

請求ヲ受ケタル檢察長ハ其ノ管内ノ檢察官ヲシテ逮捕狀ヲ發シ逮捕ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第五百五十條 逮捕狀ニハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ氏名、住居、年齢、刑名、刑期其ノ他逮捕ニ必要ナル事項ヲ記載シ檢察又ハ司法警察官之ニ記名捺印スヘシ

必要アル場合ニ於テハ逮捕狀ニ人相書ヲ添附スヘシ

第五百五十一條 逮捕狀ハ勾引狀ト同一ノ效力ヲ有ス

第五百五十二條 逮捕狀ノ執行ニ付テハ勾引狀ノ執行ニ關スル規定ヲ準用ス

第五百五十三條 罰金、科料、沒收、追徴、過料、沒收、訴訟費用又ハ費用賠償ノ裁判ハ檢察ノ命令ニ因リ之ヲ執行ス此ノ命令ハ執行力アル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス

前項ノ裁判ノ執行ニ付テハ民事訴訟法ヲ準用ス但シ執行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第五百五十四條 沒收又ハ租稅其ノ他ノ公課若ハ專賣

ニ關スル法令ノ規定ニ依リ言渡シタル罰金若ハ追徴ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者判決確定後死亡シタル場合ニ於テハ相續財産ニ就キ之ヲ執行スルコトヲ得

刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ死亡ニ非サル事由ニ因リ相續開始シタルトキハ罰金、沒收又ハ追徴ハ相續財産ニ就キ之ヲ執行スルコトヲ得

第五百五十五條 法人ニ對シ罰金、科料、沒收又ハ追徴ヲ言渡シタル場合ニ於テ其ノ判決確定後合併ニ因リ法人消滅シタルトキハ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リ設立シタル法人ニ對シテ執行ヲ爲スコトヲ得

第五百五十六條 上訴申立後ノ未決勾留ノ日數ハ左ノ例ニ依リ之ヲ本刑ニ通算ス

- 一 檢察ノ上訴ナルトキハ勾留日數ノ全部
- 二 檢察ニ非サル者ノ上訴ニシテ其ノ理由アルトキハ勾留日數ノ全部

前項ノ規定ニ依ル通算ニ付テハ未決勾留一日ヲ刑期ノ一日又ハ金額ノ一圓ニ折算ス

上告裁判所原判決ヲ破毀シタル後ノ未決勾留ハ上告中ノ未決勾留日數ニ準シ之ヲ通算ス

第五百五十七條 沒收物ハ檢察之ヲ處分スヘシ

第五百五十八條 沒收ノ執行後三月内ニ權利ヲ有スル者ヨリ沒收物ノ交付ヲ請求シタルトキハ檢察ハ破壊又ハ廢棄スヘキ物ヲ除クノ外之ヲ交付スヘシ

沒收物ヲ處分シタル後前項ノ請求アリタル場合ニ於テハ檢察ハ公賣ニ因リテ得タル代價ヲ交付スヘシ

第五百五十九條 偽造又ハ變造ニ係ル物ヲ返還スル場合ニ於テハ偽造又ハ變造ノ部分ヲ其ノ物ニ表示スヘシ

偽造又ハ變造ニ係ル物押收セラレサルトキハ之ヲ提出セシメテ前項ニ規定スル手續ヲ爲スヘシ但シ其ノ物公務所ニ屬スルトキハ偽造又ハ變造ノ部分ヲ公務所ニ通知シテ相當ノ處分ヲ爲サシムヘシ

第五百六十條 押收物ノ還付ヲ受クヘキ者ノ所在不明ナル爲又ハ其ノ事由ニ因リ其ノ物ヲ還付スルコト能ハサル場合ニ於テハ檢察ハ其ノ旨ヲ公告スヘシ

公告ヲ爲シタル時ヨリ六月内ニ還付ノ請求ナキトキハ其ノ物ハ國庫ニ歸屬ス

前項ノ期間内ト雖價值ナキ物ハ之ヲ廢棄シ保管ニ不便ナル物ハ之ヲ公賣シテ其ノ代價ヲ保管スルコトヲ得

第五百六十一條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者裁判ノ解釋ニ付疑アルトキハ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ疑義ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第五百六十二條 裁判ノ執行ヲ受クル者又ハ其ノ法定代理人、保佐人若ハ夫執行ニ關シ檢察ノ爲シタル處分ヲ不當トスルトキハ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第五百六十三條 疑義又ハ異議ノ申立ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

疑義又ハ異議ノ申立ハ決定アル迄之ヲ取下クルコトヲ得

疑義又ハ異議ノ取下ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第五百六十四條 疑義又ハ異議ノ申立ヲ受ケタル裁判所ハ檢察ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第五百六十五條 罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル爲爲シタル勞役場留置ノ執行ニ付テハ刑ノ執行ニ關スル規定ヲ準用ス

第五百六十六條 第五百五十三條第一項ノ裁判ノ執行

ノ費用ハ執行ヲ受クル者ノ負擔トシ民事訴訟法ニ準シ執行ト同時ニ之ヲ取立ツヘシ

第九編 私訴

第一章 通則

第五百六十七條 犯罪ニ因リ身體、自由、名譽又ハ財産ヲ害セラレタル者ハ其ノ損害ヲ原因トスル請求ニ付公訴ニ附帶シ公訴ノ被告人ニ對シテ私訴ヲ提起スルコトヲ得

第五百六十八條 私訴ハ公訴ニ付第一審ノ辯論終結スルニ至ル迄之ヲ提起スルコトヲ得但シ豫審中ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第五百六十九條 公訴ニ付第三條、第四條、第六條、第七條、第九條第二項、第十條第二項、第二十三條又ハ第三百五十六條但書ノ決定アリタルトキハ私訴ニ付亦同一ノ決定アリタルモノト看做ス

公訴ニ付管轄違ノ言渡ヲ爲シタルトキハ私訴ニ付亦同一ノ言渡ヲ爲スヘシ
第五百七十條 私訴ノ判決ハ公訴ノ判決ニ於テ認メタル事實ニ基キ之ヲ爲スヘシ

第五百七十一條 私訴ニ關スル書類ニハ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス但シ民事部ニ差戻シ又ハ移送シタル

トキハ此ノ限ニ在ラス
第五百七十二條 民事訴訟法中左ニ掲クル事項ニ關スル規定ハ私訴ニ付之ヲ準用ス但シ即時抗告ノ提起期間ハ決定ノ告知アリタル日ヨリ三日トス

- 一 訴訟能力
- 二 共同訴訟人
- 三 第三者ノ訴訟參加
- 四 訴訟代理及輔佐
- 五 訴訟費用
- 六 擔保
- 七 訴訟上ノ救助
- 八 訴訟手續ノ中斷及中止
- 九 當事者本人ノ出頭
- 十 訴訟上ノ和解
- 十一 請求ノ拋棄
- 十二 訴又ハ上訴ノ取下
- 十三 強制執行

第五百七十三條 當事者ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ辯護士ニ非サル者ヲシテ訴訟ノ代理ヲ爲サシムルコトヲ得

第五百七十四條 辯護人ハ私訴ニ付被告人ノ代理人トシテ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得

第五百七十五條 當事者及其ノ訴訟代理人ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ訴訟ニ關スル書類及證據物ヲ閱覽シ且之ヲ謄寫スルコトヲ得

第五百七十六條 私訴ノ判決ニ對スル再審ノ訴ハ民事訴訟法ニ依リ原判決ヲ爲シタル裁判所ノ民事部ニ之ヲ爲スヘシ

第五百七十七條 私訴ニ付テハ審級ニ從ヒ公訴ニ關スル規定ヲ準用ス但シ民事部ニ差戻シ又ハ移送シタルトキハ民事訴訟法ニ依ル

第二章 第一審

第五百七十八條 私訴ヲ提起スルニハ民事訴訟法ニ準シ訴狀ヲ裁判所ニ差出スヘシ

第五百七十九條 訴狀其ノ他對手人ニ交付スヘキ書類ハ裁判所ニ差出スモノノ外對手人ノ數ニ應ジテ之ヲ差出スヘシ

第五百八十條 裁判所訴狀ヲ受取リタルトキハ速ニ之ヲ被告ニ送達スヘシ

公判期日ニ出頭シタル被告ニ對シ公判廷ニ於テ訴狀ヲ交付シタルトキハ送達アリタルモノト看做ス

第五百八十一條 公訴ノ公判期日ニハ私訴關係人ヲ召喚スヘシ

第五百八十二條 原告公判期日ニ出頭シ訴狀ヲ差出スコト能ハサル事由ヲ疏明シタルトキハ口頭ヲ以テ私訴ヲ提起スルコトヲ得但シ被告出頭セサル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第五百八十三條 私訴ノ取調ハ公訴ノ審理ヲ終ヘタル後之ヲ爲スヘシ但シ裁判長ハ公訴ノ審理中ト雖職權ヲ以テ私訴ニ付取調ヲ爲スコトヲ得

第五百八十四條 原告ハ請求ノ原因タル事實ヲ陳述シ判決ヲ受クヘキ事項ヲ申立ツヘシ

被告ハ答辯ヲ爲スヘシ

第五百八十五條 裁判所ハ相當ノ陳述ヲ爲スコト能ハサル當事者、訴訟代理人又ハ輔佐人ニ對シ決定ヲ以テ其ノ後ノ陳述ヲ禁スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ新期日ヲ定メ辯護士ヲシテ訴訟代理ヲ爲サシムヘキコトヲ命スヘシ

第五百八十六條 公訴ニ付取調ヘタル證據ハ私訴ニ付取調ヘタルモノト看做ス

第五百八十七條 裁判所ハ私訴判決ヲ受クヘキ事項ノ申立ノ範圍内ニ於テハ請求ノ原因タル事實ニ關スル原告ノ陳述ニ拘束セラルルコトナシ

第五百八十八條 檢事ハ私訴ノ審判ニ立會フコトヲ要

セス

檢察私訴ノ審判ニ立會ヒタル場合ニ於テハ當事者ノ辯論終リタル後意見ヲ陳述スルコトヲ得

第五百八十九條 裁判所ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス數多ノ日時ヲ費スニ非サレハ私訴ノ審判ヲ終結シ難キモノト認ムルトキハ決定ヲ以テ私訴ヲ却下スヘシ此ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

第五百九十條 公訴ニ付無罪、免訴又ハ公訴棄却ノ判決アリタルトキハ判決ヲ以テ私訴ヲ却下スヘシ公訴ニ付公訴棄却ノ決定アリタルトキハ決定ヲ以テ私訴ヲ却下スヘシ

前二項ノ規定ニ依リ私訴ヲ却下シタル判決又ハ決定ニ對シテハ公訴ニ付上訴アリタルトキニ非サレハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

第五百九十一條 略式命令確定判決ト同一ノ效力ヲ有スルニ至リタルトキハ決定ヲ以テ私訴ヲ却下スヘシ此ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

第五百九十二條 裁判所ハ公訴ノ判決ト同時ニ私訴ノ判決ヲ爲スヘシ

第五百九十三條 當事者召喚ヲ受ケテ期日ニ出頭セス又ハ出頭スルモ辯論ヲ爲サス若ハ秩序維持ノ爲退廷

ヲ命セラレタルトキハ其ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第三章 上訴 第五百九十四條 私訴ニ付區裁判所又ハ地方裁判所ニ於テ爲シタル第一審ノ判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得

第五百九十五條 公訴ノ第一審判決ニ對シテ上告ノ申立アリタルトキハ私訴ノ判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得ス

公訴ノ第一審判決ニ對シテ上告ノ申立アリタルトキハ私訴ノ判決ニ對シテ爲シタル控訴ハ其ノ效力ヲ失フ

前二項ノ規定ハ上告ノ取下アリタルトキ、第四百十七條ノ規定ニ依リ上告其ノ效力ヲ失ヒタルトキ又ハ第四百二十條、第四百二十七條若ハ第四百四十五條ノ規定ニ依リ上告ヲ棄却スル裁判アリタルトキハ之ヲ適用セス

第五百九十六條 公訴ノ第一審判決ニ對シテ上告ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ私訴ニ付控訴ヲ爲シタル當事者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

控訴ヲ爲シタル當事者ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨ

カ五日內ニ上告ヲ爲スコトヲ得此ノ上告ハ控訴ニ付前條第三項ノ規定ノ適用アル場合ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ

第五百九十七條 左ノ場合ニ於テハ私訴ニ付爲シタル第二審ノ判決ニ對シテ上告ヲ爲スコトヲ得

一 公訴ノ判決ニ對シテ上告アリタルトキ
二 法令ノ違反ヲ理由トスルトキ

第五百九十八條 左ノ場合ニ於テハ私訴ニ付爲シタル第一審ノ判決ニ對シテ控訴ヲ爲サスシテ上告ヲ爲スコトヲ得

一 公訴ノ判決ニ對シテ上告アリタルトキ
二 判決ニ依リ定リタル事實ニ付法令ヲ適用セス又ハ不當ニ法令ヲ適用シタルコトヲ理由トスルトキ

第五百九十九條 公訴ノ第一審判決ニ對シテ控訴ノ申立アリタルトキハ私訴ノ判決ニ對シテ上告ヲ爲スコトヲ得ス

公訴ノ第一審判決ニ對シテ控訴ノ申立アリタルトキハ私訴ノ判決ニ對シテ爲シタル上告ハ其ノ效力ヲ失フ
前二項ノ規定ハ控訴ノ取下アリタルトキ又ハ控訴ヲ棄却スル裁判アリタルトキハ之ヲ適用セス

第六百條 公訴ノ第一審判決ニ對シテ控訴ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ私訴ニ付上告ヲ爲シタル當事者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

上告ヲ爲シタル當事者ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ七日內ニ控訴ヲ爲スコトヲ得此ノ控訴ハ上告ニ付前條第三項ノ規定ノ適用アル場合ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ

第六百一條 公訴ノ判決ニ對シテ上告アリタル場合ニ於テ私訴ニ付上告ヲ爲シタルトキハ上告趣意書ヲ差出ササルコトヲ得

第六百二條 上告裁判所ニ於ケル辯論ハ辯護士ヨリ選任シタル訴訟代理人ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第六百三條 當事者訴訟代理人ヲ選任セサルトキ又ハ訴訟代理人出頭セサルトキハ辯論ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第六百四條 第四百四十條又ハ第四百四十三條ノ規定ニ依リ公訴ニ付事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨ノ言渡アリタルトキハ私訴ニ付同一ノ言渡アリタルモノト看做ス

第六百五條 第四百四十六條ノ規定ニ依リ公訴ニ付上告棄却ノ判決ヲ爲ス場合ニ於テ私訴ニ付上告ノ理由

ト爲ルヘキ法令ノ違反ナキトキハ判決ヲ以テ上告ヲ棄却スヘシ

第六百六條 第四百四十六條ノ規定ニ依リ公訴ニ付上告棄却ノ判決ヲ爲ス場合ニ於テ私訴ニ付上告ノ理由ト爲ルヘキ法令ノ違反アルトキハ第六百七條ノ場合ヲ除ク外判決ヲ以テ原判決ヲ破毀シ事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘシ

第六百七條 前條ノ場合ニ於テ事件ニ付更ニ判決ヲ爲ス爲事實ノ審理ヲ必要トスルトキハ事件ヲ原裁判所ノ民事部ニ差戻シ又ハ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ノ民事部ニ移送スヘシ

第六百八條 公訴ニ付原判決ヲ破毀シ被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲シタル場合ニ於テハ左ノ區別ニ從ヒ私訴ニ付判決ヲ爲スヘシ
一 公訴ノ判決私訴ニ影響ヲ及ホスヘキ變更ヲ爲シタルトキ又ハ私訴ニ付上告ノ理由ト爲ルヘキ法令ノ違反アルトキハ原判決ヲ破毀ス

二 公訴ノ判決私訴ニ影響ヲ及ホスヘキ變更ヲ爲サス且私訴ニ付上告ノ理由ト爲ルヘキ法令ノ違反ナキトキハ上告ヲ棄却ス
第六百九條 前條ノ規定ニ依リ私訴ニ付原判決ヲ破毀

スル場合ニ於テハ第六百十條ノ場合ヲ除ク外事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘシ

第六百十條 第六百八條ノ規定ニ依リ私訴ニ付原判決ヲ破毀スル場合ニ於テ事件ニ付更ニ判決ヲ爲ス爲私訴ノミニ付事實ノ審理ヲ必要トスルトキハ事件ヲ原裁判所ノ民事部ニ差戻シ又ハ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ノ民事部ニ移送スヘシ

第六百十一條 公訴ニ付原判決ヲ破毀シ差戻又ハ移送ノ判決ヲ爲ス場合ニ於テハ私訴ニ付同一ノ判決ヲ爲スヘシ
第六百十二條 上訴裁判所私訴ノミニ付審判ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ決定ヲ以テ事件ヲ其ノ裁判所ノ民事部ニ移送スヘシ此ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

第六百十三條 本編第二章ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外上訴ノ審判ニ付之ヲ準用ス

附則
第六百十四條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
(大正十二年勅令第二百十五號ヲ以テ大正十三年一月一日ヨリ施行)
第六百十五條 明治二十三年法律第九十六號刑事訴訟

法及刑事略式手續法ハ之ヲ廢止ス

第六百十六條 本法ハ本法施行前ニ生シタル事件ニ亦之ヲ適用ス
前項ノ規定ハ本法施行前舊法ニ依リ爲シタル訴訟手續ノ效力ヲ妨ケス
本法施行前舊法ニ依リ爲シタル訴訟手續ニシテ本法ニ之ニ相當スル規定アルモノハ之ヲ本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

第六百十七條 本法施行前裁判所構成法第十條第一號ノ規定ニ依リ爲シタル管轄指定ノ申請ハ之ヲ管轄移轉ノ請求ト看做ス

第六百十八條 本法施行前忌避ノ申請ヲ爲シ其ノ理由ノ疏明ヲ爲ササリシ者ハ本法施行ノ日ヨリ三日内ニ之ヲ爲スヘシ

第六百十九條 本法施行前法人ヲ處罰スヘキモノトシテ其ノ代表者ヲ被告人ト爲シタル事件ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ法人ヲ被告人トス

第六百二十條 本法施行前始リタル法定期間ニ付訴訟行爲ヲ爲スヘキ者ノ住居又ハ事務所ノ所在地ト裁判所所在地トノ距離ニ從ヒ加フヘキ期間ハ仍從前ノ規定ニ依ル

第六百二十一條 本法施行前闕席判決ヲ受ケタル者ニ對シテハ從前ノ規定ニ依リ逮捕狀ヲ發スルコトヲ得

第六百二十二條 本法施行前保釋ヲ許ササル言渡ニ對シテ爲シタル異議ノ申立ニ付テハ從前ノ規定ニ依リ裁判ヲ爲スヘシ

第六百二十三條 第二百六十五條ニ規定スル期間ハ本法施行前犯人ヲ知り又ハ婚姻ノ無效若ハ取消ノ裁判確定シタル場合ニ於テハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第六百二十四條 本法施行前免訴ノ決定確定シタル事件ニ付明治二十三年法律第九十六號刑事訴訟法第七十五條第二項ノ規定ニ依リ爲シタル請求ニシテ未タ決定ナキモノハ其ノ效力ヲ失フ

第六百二十五條 本法施行前爲シタル本案前ノ判決ニシテ未タ確定セサルモノハ其ノ效力ヲ失フ

第六百二十六條 本法施行前明治二十三年法律第九十六號刑事訴訟法第二百四十一條第二項又ハ同法第二百六十四條第一項ノ規定ニ依リ取調ヲ命セラレタル受命判事ハ事件ニ付第三百五十一條ノ規定ニ準シ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第六百二十七條 本法施行前言渡シタル闕席判決ニ對

シテハ控訴ノ申立アリタル場合ヲ除クノ外從前ノ規定ニ依リ故障ヲ申立ツルコトヲ得
 本法施行前開席判決ニ對シテ爲シタル故障申立ヲ不適法トスルトキハ從前ノ規定ニ依リ裁判ヲ爲スヘシ
 第六百二十八條 本法施行前爲シタル抗告ハ之ヲ本法ニ依リ爲シタル即時抗告ト看做ス
 第六百二十九條 本法施行前爲シタル再審ノ訴ニシテ上告裁判所ノ判決ヲ經サルモノハ本法ニ依リ管轄裁判所ニ再審ノ請求ヲ爲シタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ上告裁判所ハ書類及證據物ヲ管轄裁判所ニ送付スヘシ
 第六百三十條 本法施行前進行ヲ始メタル私訴ノ時效ハ從前ノ規定ニ從フ
 第六百三十一條 本法施行前提起シタル要價ノ訴判決ヲ經サルモノナルトキハ民事訴訟法ニ從ヒ事件ヲ管轄スヘキ裁判所ノ民事部ニ移送スヘシ
 第六百三十二條 本法中市町村吏員ニ關スル規定ハ北海道ノ區ニ於テハ區吏員ニ之ヲ適用ス
 本法中市町村長ニ關スル規定ハ市制第六條ノ市又ハ北海道ノ區ニ於テハ區長ニ、町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ町村長ニ準スヘキ者ニ之ヲ適用ス

第六百附則 (大正十五年法律第七十二號附則)
 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和四年勅令第五百九號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行)
 附則 (昭和十二年法律第七十一號附則)
 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十二年勅令第五百九號ヲ以テ同年十月十五日ヨリ施行)

○司法警察官吏及司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者ノ指定等ニ關スル件

改正 昭和三年第二三八號、昭和九年第一〇〇號、
 昭和十五年第八七四號
 勅令第五百二十八號
 大正十二年十二月二十九日
 司法警察官吏及司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者ノ指定等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 第一條 外務省ノ警察官ハ之ヲ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官トス
 第二條 地方裁判所檢察局又ハ其ノ管内區裁判所檢察局勤務ノ書記又ハ雇員ニシテ檢察正ノ指命シタル者ハ其ノ局ニ於テ受理シタル事件ニ付書記ニ在リテハ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ、雇員ニ在リテハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ
 第三條 監獄又ハ分監ノ長ハ監獄又ハ分監ニ於ケル犯罪ニ付刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ行フ
 第三條ノ二 警察官タル内務事務官及警務官補タル内務屬ハ特別高等警察事務又ハ外事警察事務ニ關係アル犯罪ニ付刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ行フ
 第四條 左ニ掲クル者ニシテ其ノ所屬長官其ノ官廳所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢察正ト協議シテ指命シタルモノハ第一號乃至第八號ニ掲クル者ニ在リテハ刑事訴訟法第二百

四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ、第九號乃至第十號ニ掲クル者ニ在リテハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ
 一 帝室林野局ノ事務官、技師、事務官補、屬及技手
 二 獵場監守長
 三 監獄又ハ分監ノ長タラサル典獄、典獄補、看守長及副看守長
 四 國營鐵區事務所長並營林局署勤務ノ事務官、技師、山林事務官、屬、技手及森林主事
 五 國有鐵道ノ驛長又ハ車掌監督タル鐵道局ノ副參事及書記
 六 北海道廳ノ營林區署勤務ノ技師並營林區署又ハ營林區分署勤務ノ屬、技手及森林主事
 七 公有林野ノ事務ヲ擔當スル北海道廳ノ地方農林主事、地方農林技師、農林主事補及農林技手
 八 狩獵取締ノ事務ヲ擔當スル廳府縣技手
 九 帝室林野局技手補
 十 獵場監守
 十一 看守
 十二 國有鐵道ノ助役又ハ車掌監督助手タル鐵道局書記並國有鐵道ノ車掌タル鐵道局ノ書記、鐵道手及雇員
 十三 北海道廳河川監守
 第五條 前條ノ規定ニ依リ司法警察官吏ノ職務ヲ行フ者ノ職務ノ範圍ハ左ニ掲クル罪ニ關スルモノニ限ル
 一 前條第一號及第九號ニ掲クル者ニ在リテハ御料林野又ハ其ノ產物ニ關スル罪
 二 前條第二號及第十號ニ掲クル者ニ在リテハ御獵場ニ於ケル狩獵ニ關スル罪

司法警察官吏及司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者ノ指定等ニ關スル件

- 三 前條第三號及第十一號ニ掲クル者ニ在リテハ監獄又ハ分監ニ於ケル犯罪
- 四 前條第四號ニ掲クル者ノ中國警備區事務所長ニ在リテハ國警備區ニ於ケル狩獵ニ關スル罪、其ノ他ノ者ニ在リテハ國有林野、部分林、公有林野官行造林、其ノ林野ノ產物又ハ其ノ林野ニ於ケル狩獵ニ關スル罪
- 五 前條第五號及第十二號ニ掲クル者ニ在リテハ停車場又ハ列車ニ於ケル現行犯
- 六 前條第六號ニ掲クル者ニ在リテハ北海道ニ於ケル國有林野、部分林、其ノ林野ノ產物又ハ其ノ林野ニ於ケル狩獵ニ關スル罪
- 七 前條第七號ニ掲クル者ニ在リテハ北海道ニ於ケル公有林野、其ノ林野ノ產物又ハ其ノ林野ニ於ケル狩獵ニ關スル罪
- 八 前條第八號ニ掲クル者ニ在リテハ狩獵ニ關スル罪
- 九 前條第十三號ニ掲クル者ニ在リテハ北海道ニ於ケル河川又ハ其ノ附屬物ニ關スル罪
- 第六條 警察官吏ノ駐在セサル島嶼ニシテ町村制ヲ施行セサル地ニ於ケル犯罪ニ付テハ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ハ町村長ニ準スヘキ者之ヲ行ヒ司法警察吏ノ職務ハ町村吏員ニ準スヘキ者之ヲ行フ
- 警察官吏ノ駐在セサル島嶼ニシテ町村制第六十八條ノ規定ニ依リ區長ヲ置ク地ニ於ケル犯罪ニ付テハ司法警察吏ノ職務ハ區長之ヲ行フ
- 第七條 海船(沿海航路以上ノ航路ヲ航路定限トスル總噸數二十噸以上又ハ積石數二百石以上ノモノ)ノ船長ハ其ノ船

内ニ於テ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ行フ
前項ノ海船内ニ於ケル司法警察吏ノ職務ハ甲板部、機關部又ハ事務部ノ海員中其ノ各部ニ於テ職掌ノ上位ニ在ル者之ヲ行フ

附則
本令ハ大正十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○刑事訴訟費用法 (大正十年四月十二日)
(法律第六十八號)

- 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル刑事訴訟費用法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
- 刑事訴訟費用法
- 第一條 左ニ掲クルモノヲ以テ公訴ニ關スル訴訟費用トス
 - 一 豫審又ハ公判ニ付呼出シタル證人、鑑定人及通事ニ給スヘキ日當、旅費及止宿料
 - 二 第三條第二項ニ規定スル費用
 - 第二條 證人ノ日當ハ出頭一度ニ付二圓以内ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム
 - 第三條 鑑定人及通事ノ日當ハ出頭一度ニ付二圓以上十圓以内ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム
 - 鑑定又ハ通譯ニ付特別ノ技能若ハ費用又ハ長時間ヲ要スルトキハ日當ノ外豫審判事、受託判事又ハ裁判所ノ相當ト認ムル金額ヲ給スルコトヲ得
 - 第四條 證人、鑑定人及通事ノ旅費ハ鐵道又ハ汽船ヲ通スル水路ニ在リテハ二等以下ノ汽車賃又ハ船賃ニシテ豫審判

- 事、受託判事又ハ裁判所ノ相當ト認ムルモノニ依リ汽船ヲ通セサル水路ニ在リテハ一海里毎ニ五錢其ノ他ニ在リテハ一里毎ニ三十錢トス但シ一海里未滿又ハ一里未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ
- 第五條 證人、鑑定人及通事ノ止宿料ハ一日五圓以内ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム
- 第六條 證人、鑑定人及通事ノ日當、旅費及止宿料ハ豫審ニ付テハ其ノ終結前公判ニ付テハ判決前ニ請求スルニ非サレハ之ヲ給セス
- 第七條 共犯人ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムル場合ニ於テハ連帶負擔トス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正十年勅令第百七十四號ヲ以テ同年五月一日ヨリ施行)

刑事訴訟法第六十二條乃至第六十七條ヲ削ル
陸軍刑法施行法第三十一條中「刑法施行法第六十三條乃至第六十六條ノ規定」ヲ「刑事訴訟費用法」ニ改ム
海軍刑法施行法第三十一條中「刑法施行法第六十三條乃至第六十六條ノ規定」ヲ「刑事訴訟費用法」ニ改ム
本法施行前ニシタル費用ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

○刑事補償法 (昭和六年四月二日)
(法律第六十號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル刑事補償法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布

セシム

- 刑事補償法
- 第一條 刑事訴訟法ニ依ル通常手續又ハ再審若ハ非常上告ノ手續ニ於テ無罪ノ言渡ヲ受ケタル者又ハ同法第三百十三條ノ規定ニ依リ免訴ノ言渡ヲ受ケタル者未決勾留ヲ受ケタル場合ニ於テハ國ハ其ノ者ニ對シ勾留ニ因ル補償ヲ爲ス
 - 再審又ハ非常上告ノ手續ニ於テ無罪ノ言渡ヲ受ケタル者原判決ニ因リ既ニ刑ノ執行ヲ受ケ又ハ刑法第十一條第二項ノ規定ニ依リ拘留ヲ受ケタル場合ニ於テハ國ハ其ノ者ニ對シ刑ノ執行又ハ拘留ニ因ル補償ヲ爲ス
 - 第二條 前條ノ規定ニ依リ補償ヲ受ケベキ者死亡シタル場合ニ於テハ本人ノ遺族ニ對シ前條ノ補償ヲ爲ス死亡シタル者ニ付再審又ハ非常上告ノ手續ニ於テ無罪ノ言渡アリタル場合亦同シ
 - 補償ヲ受ケベキ遺族死亡シタルトキハ次順位ノ遺族ニ對シ其ノ補償ヲ爲ス
 - 第三條 本法ニ於テ遺族ト稱スルハ本人ノ配偶者、子、孫、父、母、祖父及祖母ニシテ本人死亡ノ當時之ト戸籍ヲ同ジウシ引續キ其ノ戸籍内ニ在ル者ヲ謂フ
 - 補償ヲ受ケベキ遺族ノ順位ハ前項ニ記載スル順序ニ依ル父母及祖父母ニ付テハ養方ヲ先ニシ實方ヲ後ニス
 - 子及孫數人アルトキハ其ノ順位ハ本人ヲ被相續人トシタル家督相續ノ順位ニ準ジ之ヲ定ム
 - 第四條 無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付左ノ事由アルトキハ補償ヲ爲サズ
 - 一 刑法第三十九條乃至第四十一條ニ規定スル事由ニ因

リ無罪又ハ免訴ノ言渡アリタルトキ
二 起訴セラレタル行爲ガ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反
シ著シク非難スベキモノナルトキ

本人ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因ル行爲ガ起訴、勾留、公
判ニ付スル處分又ハ再審請求ノ原由ト爲リタルトキハ第一
條第一項ノ補償ヲ爲サズ

本人ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因ル行爲ガ原有罪判決ノ遺
據ト爲リタルトキハ第一條第二項ノ補償ヲ爲サズ

一個ノ裁判ニ依リ併合罪ノ一部ニ付無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ
受クルモ他ノ部分ニ付有罪ノ言渡ヲ受クル者ニ對シテハ補
償ヲ爲サザルコトヲ得

第五條 勾留ニ因ル補償ニ於テハ勾引狀又ハ勾留狀執行後ノ
拘禁日數ニ對シテ一日五圓以内ノ補償金ヲ交付ス
懲役、禁錮又ハ拘留ノ執行ニ因ル補償ニ於テハ其ノ日數ニ
對シテ一日五圓以内ノ補償金ヲ交付ス拘置ニ因ル補償ニ付
亦同ジ

死刑ノ執行ヲ受ケタル者ノ遺族ニ對スル補償ニ於テハ拘置
ニ因ル補償ノ外裁判所ノ相當ト認ムル補償金ヲ交付ス

罰金又ハ科料ノ執行ニ因ル補償ニ於テハ既ニ徵收シタル罰
金又ハ科料ニ等シキ金額ヲ還付ス勞務場留置ノ執行ヲ爲シ
タルトキハ第二項ノ規定ニ準ジ補償金ヲ交付ス

沒收ノ執行ニ因ル補償ニ於テハ破壊若ハ廢棄ニ係ラザル沒
收物又ハ沒收物ノ處分ニ因リテ得タル代價若ハ徵收シタル
追徴金ニ等シキ金額ヲ還付ス

第六條 補償ヲ受ケントスル者ハ無罪ノ言渡ヲ爲シタル裁判
所又ハ免訴ノ言渡ヲ爲シタル豫審判事ノ屬スル裁判所ニ對

シ補償ノ請求ヲ爲スベシ
前項ノ請求ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スベシ請求書ニハ戶籍謄本
ヲ添附スベシ
補償ヲ受ケベキ者請求ヲ爲シタル後死亡シタルトキハ其ノ
請求ハ順次順位ニ於テ補償ヲ受ケベキ者ヨリ之ヲ爲シタ
ルモノト看做ス

第七條 補償ヲ受ケベキ者ハ先順位者ノ明示シタル意思ニ反
シ補償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ズ

補償ヲ受ケベキ者請求ヲ取消シタルトキハ其ノ取消ヲ爲シ
タル者及後順位者ニ於テ更ニ請求ヲ爲スコトヲ得ズ

第八條 補償ノ請求ハ代理人ニ依リテモ之ヲ爲スコトヲ得
第九條 補償ノ請求ハ無罪又ハ免訴ノ裁判確定ノ日ヨリ六十
日以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十條 補償ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽
キ請求ニ付決定ヲ爲スベシ決定ノ謄本ハ檢事及請求人ニ送
達スベシ

請求理由アルトキハ補償ノ決定ヲ爲スベシ請求理由ナキト
キ又ハ期間經過後ニ係ルトキハ之ヲ棄却スベシ

刑ノ執行又ハ拘留ニ因ル補償ノ請求ト同時ニ勾留ニ因ル補
償ノ請求アリタルトキハ主文ヲ區別シテ決定ヲ爲スベシ

第十一條 補償ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得
補償ノ請求ヲ棄却スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコト
ヲ得

第十二條 補償ノ決定アリタル後之ニ依リテ補償ヲ受ケベキ
者其ノ拂渡ヲ受ケズシテ死亡シタルトキハ其ノ決定ハ順次

次順位ニ於テ補償ヲ受ケベキ者ニ對シ之ヲ爲シタルモノト
看做ス補償ヲ受ケベキ遺族其ノ拂渡ヲ受ケズシテ其ノ家ヲ
去リタルトキ亦同ジ

第十三條 補償ノ拂渡ヲ受ケントスル者ハ其ノ決定ヲ爲シタ
ル裁判所ニ請求書ヲ差出スベシ請求書ニハ戶籍謄本ヲ添附
スベシ

補償ノ決定ノ送達アリタル後一年以内ニ補償拂渡ノ請求ヲ爲
サザルトキハ權利ヲ失フ

第十四條 補償拂渡ノ請求權ハ之ヲ讓渡スルコトヲ得ズ
第十五條 補償ノ請求ニ關スル事件繫屬中再審ノ請求又ハ刑
事訴訟法第三百十七條ノ規定ニ依ル公訴ノ提起アリタルト
キハ其ノ裁判確定ニ至ル迄決定ノ手續ヲ停止スベシ

前項ノ場合ニ於テ被告人ニ對シテ有罪ノ判決アリタルトキ
ハ補償ノ請求ハ其ノ效力ヲ失フ

第十六條 補償ノ決定アリタル後再審ノ請求又ハ刑事訴訟法
第三百十七條ノ規定ニ依ル公訴ノ提起アリタルトキハ其ノ
裁判確定ニ至ル迄補償拂渡ノ手續ヲ停止スベシ

前項ノ場合ニ於テ被告人ニ對シテ有罪ノ判決アリタルトキ
ハ補償ノ決定ハ其ノ效力ヲ失フ

第十七條 前條第二項ノ場合ニ於テ既ニ補償ノ拂渡アリタル
トキハ有罪ノ判決ヲ爲シタル裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決
定ヲ以テ補償ノ返還ヲ命ズベシ此ノ決定ノ執行ニ付テハ刑
事訴訟法第五百五十三條乃至第五百五十五條ノ規定ヲ準用
ス

第十八條 本法ノ決定及之ニ對スル即時抗告ニ付テハ別段ノ
規定アル場合ヲ除クノ外刑事訴訟法ヲ準用ス期間ニ付亦同

第十九條 裁判所補償ノ決定ヲ爲シタルトキハ其ノ決定ヲ受
ケタル者ノ申立ニ因リ速ニ無罪又ハ免訴ノ裁判ノ主文及要
旨竝ニ補償ヲ爲シタル旨ヲ官報ニ掲載スベシ

第二十條 本法ハ軍法會議ニ於テ無罪ノ言渡アリタル場合ニ
之ヲ準用ス但シ補償ノ請求ヲ棄却スル決定ニ對シテハ即時
抗告ヲ爲スコトヲ得ズ

軍法會議ニ於テ補償ノ返還ヲ命ズル決定ノ執行ニ付テハ陸
軍軍法會議法第五百十八條乃至第五百二十條又ハ海軍軍法
會議法第五百二十條乃至第五百二十二條ノ規定ヲ準用ス

軍法會議ニ於テ補償ニ關スル決定ヲ爲ス場合ノ判士ノ區別
ニ付テハ陸軍軍法會議法第五十九條第一項又ハ海軍軍法會
議法第五十九條第一項ノ規定ヲ準用ス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和六年勅令第二百
五十八號ヲ以テ昭和七年一月一日ヨリ施行)

○刑事交渉法(大正十年四月二十六日)
法律第九十二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル刑事交渉法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布
セシム

刑事交渉法
第一條 通常裁判所ノ裁判權ニ屬スル事件ト軍法會議ノ裁判
權ニ屬スル事件ト牽連スルトキハ檢事及司法警察官ハ軍法

會議ノ裁判權ニ屬スル事件ニ付、陸海軍ノ檢察官陸軍司法警察官及海軍司法警察官ハ通常裁判所ノ裁判權ニ屬スル事件ニ付捜査ヲ爲スコトヲ得

一 一人數罪ヲ犯シタルトキ
二 數人共ニ同一又ハ別個ノ罪ヲ犯シタルトキ
三 數人通謀シテ各別ニ罪ヲ犯シタルトキ
四 數人同時ニ同一場所ニ於テ各別ニ罪ヲ犯シタルトキ

第二條 陸海軍ノ檢察官、陸軍司法警察官及海軍司法警察官ハ陸軍又ハ海軍ノ部隊内ノ犯罪事件ニシテ通常裁判所ノ裁判權ニ屬スルモノニ付捜査ヲ爲スコトヲ得

第三條 檢察官及陸海軍ノ檢察官ハ前二條ノ規定ニ依リ捜査ヲ爲スコトヲ得ヘキ事件ニ付豫審ヲ請求スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ豫審ヲ請求ヲ受ケタル豫審判事又ハ豫審官ハ必要ナル處分ヲ爲シタル後豫審判事ハ檢察官、豫審官ハ陸海軍ノ檢察官ニ事件ヲ交付スヘシ此ノ場合ニ於テ豫審判事又ハ豫審官ハ前二條ノ規定ニ依リ豫審ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發スルコトヲ得

第四條 陸軍軍法會議法第一條第一項第一號又ハ海軍軍法會議法第一條第一項第一號ニ記載シタル者ニ對シ通常裁判所又ハ豫審判事ノ發シタル勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ現行犯ニ關スルモノヲ除ク外其ノ所屬ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾ヲ求ムヘシ所屬ノ長又ハ之ニ代ル

ニ送致スヘシ
前二項ノ場合ニ於テ送致前ニ發シタル勾留狀ハ送致後ニ於テモ其ノ效力ヲ有ス
前項ノ勾留狀ハ送致ヲ受ケタル官署五日内ニ豫審ヲ請求シ又ハ公訴ヲ提起セサルトキハ其ノ效力ヲ失フ

第八條 豫審判事ノ爲シタル免訴ノ決定確定シタルトキハ陸海軍ノ檢察官ハ新ナル事實又ハ證據ヲ發見シタルトキニ非サレハ同一事件ニ付豫審ヲ請求シ又ハ公訴ヲ提起スルコトヲ得ス

陸海軍ノ檢察官豫審ノ取調終了後不起訴處分ヲ爲シ又ハ豫審ノ請求ヲ取消シタルトキハ檢察官ハ新ナル事實又ハ證據ヲ發見シタルトキニ非サレハ同一事件ニ付公訴ヲ提起スルコトヲ得ス

軍法會議公訴ノ取消ニ因リ公訴棄却ノ決定ヲ爲シタルトキハ檢察官ハ同一事件ニ付公訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第九條 前條ノ規定ニ違反シテ豫審ヲ請求シ又ハ公訴ヲ提起シタルトキハ豫審官又ハ軍法會議ハ豫審ノ請求ヲ却下シ又ハ判決ヲ以テ公訴棄却ノ言渡ヲ爲スヘシ

第十條 刑事訴訟法ニ依ル時効ノ中斷ハ軍法會議ノ裁判權ニ屬スル事件ニ付、陸軍軍法會議法又ハ海軍軍法會議法ニ依ル時効ノ中斷ハ通常裁判所ノ裁判權ニ屬スル事件ニ付其ノ效力ヲ有ス

第十一條 本法ハ陸海軍官憲ト朝鮮、臺灣、關東州ノ司法官憲其ノ他ノ特別司法官憲トノ間ニ於ケル刑事交渉事項及陸軍司法官憲ト海軍司法官憲トノ間ニ於ケル刑事交渉事項ニ付之ヲ準用ス

逃亡犯罪人引渡條例

ヘキ者ハ軍事上已ムコトヲ得サル事由アルニ非サレハ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス
陸軍軍法會議法第一條第一項第一號又ハ海軍軍法會議法第一條第一項第一號ニ記載シタル者ニ對シ現行犯ニ關シ通常裁判所、豫審判事、檢察官又ハ司法警察官ノ發シタル勾引狀又ハ勾留狀ノ執行アリタルトキハ之ヲ發シタル者連ニ其ノ旨ヲ執行ヲ受ケタル者ノ所屬ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ通知スヘシ

第五條 通常裁判所ノ裁判權及軍法會議ノ裁判權ニ屬スル同一事件ニ付雙方ニ公訴ノ提起アリタルトキハ最初ニ公訴ノ提起アリタル官署之ヲ審判ス

第六條 通常裁判所、豫審判事又ハ檢察官ト軍法會議、豫審官又ハ陸海軍ノ檢察官トハ相互ニ牽連事件ニ關スル調書其ノ他ノ書類又ハ證據物ノ送付又ハ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第七條 檢察官又ハ證據物ノ送付又ハ閱覽ヲ求ムルコトヲ得ニ關スル書類又ハ證據物ノ送付又ハ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第七條 檢察官又ハ證據物ノ送付又ハ閱覽ヲ求ムルコトヲ得又ハ通常裁判所若ハ豫審判事ヨリ事件ノ交付ヲ受ケタルトキハ速ニ之ヲ陸海軍ノ檢察官ニ送致スヘシ
陸海軍ノ檢察官、陸軍司法警察官又ハ海軍司法警察官通常裁判所ノ裁判權ニ屬スル事件ニ付捜査ヲ爲シ又ハ軍法會議若ハ豫審官ヨリ事件ノ交付ヲ受ケタルトキハ速ニ之ヲ檢察

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正十一年勅令第七十八號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行)
明治十八年第十二號布告ハ之ヲ廢止ス

○逃亡犯罪人引渡條例 (明治二十年八月十日勅令第四十二號)

朕逃亡犯罪人引渡條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 本條例ニ於テ締約國ト稱スルハ既ニ帝國ト犯罪人引渡條約ヲ締結シ若クハ今後締結スル外國ヲ謂フ
引渡犯罪ト稱スルハ外國ト締結シタル犯罪人引渡條約ニ掲タル犯罪ヲ謂フ

逃亡犯罪人ト稱スルハ締約國ノ管轄内ニ於テ犯シタル引渡犯罪ニ付告訴發受ケ若クハ有罪ノ宣告ヲ受ケタル帝國臣民外ノ人ニシテ帝國ノ管轄内ニ逃避シタル者又ハ逃避シタルノ嫌疑若クハ逃避セントスルノ嫌疑アル者ヲ謂フ但左ノ場合ニ於テハ帝國臣民ヲ包含ス

一 帝國ト請求國トノ犯罪人引渡條約ニ交互其臣民ノ引渡ヲ爲スヘキ條款アルトキ
二 犯罪人引渡條約ニ交互ノ任意ヲ以テ其臣民ノ引渡請求ニ應スルコトアルヘキ旨ノ條款アリ且請求國ニ於テ同様ノ場合ニハ自國ノ臣民ヲ引渡スヘキ旨ヲ申出テタルトキ

第二條 締約國ヨリ逃亡犯罪人ノ引渡請求アリ之カ引渡ノ目

的ヲ以テ其手續ヲ爲ストキハ本條例ニ定ムル所ノ條款ニ據ルヘキモノトス

第三條 左ノ場合ニ於テハ逃亡犯罪人ヲ引渡スコトヲ得ス

一 引渡ノ請求ニ係ル者ノ所犯政事上ノ犯罪ナルトキ

二 引渡ノ請求ハ實際政事上ノ犯罪ニ付審問シ若クハ處刑セントスルノ目的ニ出テタル旨ヲ本人ニ於テ證明シタルトキ

第四條 逃亡犯罪人其引渡請求ニ係ル犯罪外ノ事件ニ付帝國

内ニ於テ告訴發シ受ケ又ハ處刑中ナルトキハ無罪又ハ刑期滿限若クハ其他ノ事由ニ因リ釋放セラレタル後ニアラサレハ之ヲ引渡スコトヲ得ス

第五條 帝國ト外國ト犯罪人引渡條約ヲ締結シタルトキハ逃

亡犯罪人ノ犯時其締約以前ニ係ルト雖モ該締約國ノ請求ニ應シ其引渡ヲ爲スコトアルヘシ

第六條 引渡犯罪ニ付帝國裁判所ニ於テ締約國裁判所ト均シ

ク裁判權ヲ有スト雖モ若シ司法大臣ノ意見ニ於テ其審判ヲ便ナラシメンカ爲メ逃亡犯罪人ノ引渡ヲ可トスルトキハ之ヲ引渡スコトアルヘシ

第七條 本條例ニ據リ發シタル總テノ逮捕狀ハ帝國内何レノ

地ニ於テモ效力アルモノトス

第八條 一逃亡犯罪人ヲ二國以上ノ締約國ヨリ各其國ニ於テ

犯シタル罪ノ爲メ引渡請求ヲ爲シタルトキハ最初請求ヲ爲シタル國ニ之ヲ引渡スヘシ但其請求ヲ爲シタル締約國間ニ特別ノ約束若クハ協議アル場合ハ此限ニ在ラス

第九條 司法大臣ハ外務大臣ノ請求ニ依リ一名若クハ二名以

上ノ上席檢察事ニ命シ逃亡犯罪人ヲ假ニ逮捕スル爲メ附録第

一號書式ニ依リ假逮捕狀ヲ發セシムルコトヲ得

外務大臣ハ締約國ヨリ相當ノ順序ヲ經由シ書面又ハ電信ヲ

以テ逃亡犯罪人ヲ逮捕スル爲メ既ニ逮捕狀ヲ發シタルコト

ノ通知ト其引渡ハ正式ニ依リ請求スヘキ旨ノ保證トニ接シタル後ニ限リ本條ノ請求ヲ爲スヘシ

第十條 假逮捕狀ニ據リ逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル場合ニ於テ

二月ヲ過キサル相當ノ期限内ニ其引渡ノ請求ナキトキハ之ヲ釋放スヘシ但此場合ニ於テ逮捕シタル者ヲ釋放スルモ再ヒ之ヲ逮捕シ及引渡スコトヲ妨ケサルモノトス

假逮捕狀ニ據リ逮捕シタル者ノ引渡請求アリタルトキハ更

ニ附録第二號書式ノ逮捕狀ヲ發シ假逮捕狀ト交換スヘシ

第十一條 第九條ニ定メタル例外ノ場合ヲ除ク外ハ引渡請

求ヲ爲シタル國トノ條約ニ定メタル相當ノ順序ヲ經由シ左ノ書類ヲ添ヘ引渡ノ請求アリタル後ニアラサレハ何人ヲモ引渡ノ目的ヲ以テ逮捕スルコトヲ得ス

一 告訴發シ受ケタル者ノ場合ニ於テハ其所犯ニ付訴アリタル國ノ相當官吏ニ於テ發シタルト認メ得ヘキ逮捕狀ノ公寫及該逮捕狀ヲ發スルノ根據ト爲リタル口供書

若クハ陳述書ノ公寫

二 有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ其宣告ヲ爲シタル裁判所ノ封印アル宣告書ノ寫

第十二條 外務大臣引渡請求書ニ接シ犯罪人引渡條約ノ條款ニ適合シタルト思量スルトキハ該請求書ニ其關係書類ヲ添ヘ之ヲ司法大臣ニ送付スヘシ

司法大臣本條ノ請求ニ接シ妥當ノ事由アル請求ト思量スルトキハ逃亡犯罪人ノ所在又ハ其到着スヘシト認ムル地ノ上

席檢察事ニ命シ逮捕狀ヲ發セシムルヘシ

第十三條 上席檢察事前條ニ掲ケタル司法大臣ノ命令ニ接シタルトキハ附録第二號書式ニ依リ逮捕狀ヲ發スヘシ

第十四條 請求ニ係ル逃亡犯罪人ヲ逮捕シ若クハ假逮捕シタルトキハ其逮捕狀ヲ發シタル上席檢察事又ハ之ヲ逮捕シタル地ノ上席檢察事ニ引渡スヘシ

上席檢察事ハ逃亡犯罪人逮捕ノ願末ヲ直ニ司法大臣ニ具申ス

ヘシ司法大臣上席檢察事ノ具申ニ接シタルトキ引渡請求書アレハ其寫及附屬書類ヲ速ニ該檢察事ニ送付スヘシ但被告人ヲ釋放スヘキノ命令ヲ發スルトキハ此手續ヲ爲スニ及ハス

第十五條 告訴發シ受ケタル者ノ場合ニ於テハ上席檢察事ハ

速ニ之ヲ訊問シ其人違ナキコト及引渡請求書ニ附屬セル書類ノ確實公正ナルコトヲ認定スヘシ但上席檢察事該書類ノミニテハ證據不充分ナリト認ムルトキハ仍ホ被告人ノ犯罪ニ對スル證據ヲ取ルコトヲ得

有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ上席檢察事ハ速ニ之

ヲ訊問シ其人違ナキコト及其引渡ヲ請求シタル締約國ノ相當裁判所ニ於テ宣告ヲ爲シタルノ確實ナルコトヲ認定スヘシ

第十六條 上席檢察事被告人ノ訊問ヲ結了シタルトキハ訊問書

ニ其處分方ニ關スル意見書ヲ添ヘ之ヲ司法大臣ニ具申スヘシ但上席檢察事ハ之ト共ニ引渡請求書寫及附屬書類ヲ返却スヘシ

司法大臣該檢察事ノ具申ニ接シタルトキハ附録第三號書式ニ

依リ引渡狀ヲ發スルカ又ハ逮捕シタル者ヲ釋放スヘシ

第十七條 逃亡犯罪人ハ逮捕狀ニ據リ逮捕セラレタル後二月

以上留置セラル、コトナカルヘシ

第十八條 司法大臣ハ左ノ場合ニ限リ引渡狀ヲ發スルコトヲ

得

一 引渡犯罪ニ付告訴發シ受ケタル者ノ場合ニ於テハ若

シ其告訴發シ受ケタル罪ヲ帝國内ニ於テ犯シタルモノトセハ帝國ノ法律ニ據リ被告人ヲ審判ニ付スルニ充分ナル犯罪ノ證據アリト認メタルトキ

二 有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ相當裁判所ニ

於テ其宣告ヲ爲シタルコトヲ認メタルトキ

第十九條 關席裁判ニ由リ有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ハ其引渡

ヲ請求シタル締約國トノ間ニ特別ノ約款アルニ非サレハ本條例ニ於テハ之ヲ告訴發シ受ケタル者ト爲シ有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ト認メス

第二十條 逮捕シタル者ヲ釋放シ又ハ其引渡ノ爲メ引渡狀ヲ

發シタルトキハ司法大臣ハ引渡請求書及附屬書類ニ其執行シタル手續及其理由ノ略記ヲ添ヘ之ヲ外務大臣ニ返付スヘシ

第二十一條 引渡狀ヲ發シタル後何人ヲモ一月以上留置スル

コトヲ得ス但此期限内ニ之ヲ帝國外ニ引取ラサルトキハ請求國相當官吏ニ於テ正當ノ事由ヲ示スニアラサレハ釋放スヘシ

第二十二條 逃亡犯罪人ヲ引渡ストキハ其逮捕ノ際差押ヘタル本人ノ携帶品ハ正當ノ理由アルニアラサレハ其引渡ノ節

本人ト共ニ悉ク之ヲ交付スヘシ

第二十三條 司法大臣ハ外務大臣ノ請求ニ依リ一外國ヨリ他

ノ外國ニ引渡シタル者ノ帝國内海陸ノ通行ヲ認可スルコト

ヲ得
本條ノ請求ハ引渡ヲ受クヘキ國ノ政府ヨリ引渡狀ノ公寫ヲ
添ヘ相當ノ順序ヲ經由シタル照會書ヲ外務大臣ニ於テ受領
シタルトキニ限ル但帝國ト請求國トノ間ニ特別ノ約款ナキ
トキハ該照會書ノ外仍ホ請求國ノ政府ニ於テ之ト同一ノ場
合即チ第三國ヨリ帝國ニ逃亡犯罪人ヲ引渡シタル場合ニ該
請求國內海陸ノ通行ヲ均シク認可スヘキノ保證ヲ爲シタル
トキニ限ル
(附録書式略ス)

○違警罪即決例(明治十八年九月二十四日)

改正 昭和六年第六六號

明治十四年第九拾四號布告及ヒ同年第十二號第八拾號布告ヲ廢止
シ違警罪即決例別紙ノ通制定ス
右奉 勅旨布告候事

第一條 警察署長及ヒ分署長又ハ其代理タル官吏ハ其管轄地
内ニ於テ犯シタル(違警罪)ヲ即決スヘシ但私訴ハ此限ニ在
ラス
第二條 即決ハ裁判ノ正式ヲ用ヒス被告人ノ陳述ヲ聽キ證據
ヲ取調ヘ直チニ其言渡ヲ爲スヘシ
又被告人ヲ呼出スコトナク若クハ呼出シタリト雖モ出廷セ
サル時ハ直チニ其言渡書ヲ本人又ハ其住所ニ送達スルコト

ヲ得

第三條 即決ノ言渡ニ對シテハ(違警罪裁判所)ニ正式ノ裁判
ヲ請求スルコトヲ得但正式ノ裁判ヲ經スシテ直チニ上訴ヲ
爲スコトヲ得ス
被告人ノ法定代理人、保佐人又ハ配偶者ハ被告人ノ爲獨立
シテ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得
第四條 即決ノ言渡書ニハ被告人ノ氏名年齢身分職業住所犯
罪ノ場所年月日時罪名刑名及ヒ正式ノ裁判ヲ請求スルコト
ヲ得ヘキ期限並ニ其言渡ヲ爲シタル警察署年月日警察官ノ
氏名ヲ記載スヘシ
第五條 正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ即決ノ言渡ヲ爲シタル警
察署ニ申立書ヲ差出スヘシ但其期限ハ第二條第一項ノ場合
ニ於テハ言渡アリタルヨリ三日内第二項ノ場合ニ於テハ言
渡書ノ送達アリタルヨリ五日内トス
第六條 警察署ニ於テ前條ノ申立ヲ受ケタル時ハ二十四時内
ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ(違警罪裁判所)檢察官ニ送致
スヘシ
第七條 第五條ニ定メタル期限内ニ正式ノ裁判ヲ請求セサル
時ハ即決ノ言渡ヲ以テ確定ノモノトス
第八條 科料拘留ノ言渡ヲ爲シタル時必要ト認ムル場合ニ於
テハ後ノ數條ニ定メタル處分ヲ爲スコトヲ得
第九條 科料ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其金額ヲ假納セシムヘシ
若シ納メサル者ハ(一圓ヲ一日)ニ折算シテ之ヲ留置ス其
(一圓)ニ滿サル者ト雖モ仍ホ(一日)ニ計算ス
第十條 拘留ノ言渡ヲ爲シタル時ハ(一日ヲ一圓)ニ折算シ其
刑期ニ相當ノ金額ヲ保證トシテ差出サシムヘシ若シ差出サ

、ル者ハ第五條ニ定メタル期限内之ヲ留置ス但刑期五日内
ナル時ハ其日數ニ過クルコトヲ得ス
第十條ノ二 前二條ノ規定ニ依リ留置シタル場合ニ於テハ速
ニ被告人ノ法定代理人、保佐人、直系尊屬、直系卑屬、配
偶者及ビ被告人ノ屬スル家ノ戶主中被告人ノ指定スル者ニ
其旨ヲ通知スベシ
第十一條 保證金ヲ差出シタル者ハ刑ノ言渡確定シタル後直
チニ出廷シテ其執行ヲ受クヘシ若シ出廷セサル時ハ保證金
ヲ没入シテ本刑ニ換フ
第十二條 留置シタル者正式ノ裁判ヲ請求シ因テ呼出狀ノ送
達アリタル時ハ直チニ留置ヲ解除ヘシ
第十三條 留置ノ日數ハ(一日ヲ一圓)ニ折算シテ科料ノ金額
ニ算入シ又ハ拘留ノ刑期ニ算入スヘシ
第十四條 第九條又ハ第十條ノ規定ニ依リ留置セラレタル者
ノ接見又ハ書類其他ノ物ノ接受ニ付テハ刑事訴訟法第百十
一條及ビ第百十二條第一項ノ規定ヲ準用ス但接見ハ之ヲ禁
止スルコトヲ得ズ

○間接國稅犯則者處分法(明治三十三年三月十七日)

改正 明治三十七年第一一號、明治四一年第八號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル間接國稅犯則者處分法改正法律ヲ
裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
間接國稅犯則者處分法

間接國稅犯則者處分法

第一條 間接國稅ニ關スル犯罪則アルトキハ收稅官吏ハ犯罪事
實ヲ證明スヘキ物件、帳簿、書類等ノ差押ヲ爲スコトヲ得
第二條 收稅官吏ハ犯罪事實ヲ證明スヘキ物件、帳簿、書類
等ヲ藏匿スト認ムル場所ニ臨檢シ搜索ヲ爲スコトヲ得
第三條 收稅官吏ハ犯罪事件ヲ調査スル爲必要ト認ムルトキ
ハ犯罪嫌疑者、參考人ヲ尋問スルコトヲ得
第四條 收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲ストキハ其
ノ身分ヲ證明スヘキ證據ヲ携帯スヘシ
第五條 收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲スニ當リ必
要ナルトキハ警察官吏ノ援助ヲ求ムルコトヲ得
第六條 收稅官吏搜索ヲ爲ストキハ搜索スヘキ家宅、倉庫、
船車其ノ他ノ場所ノ所有主、借主、管理者、事務員又ハ同
居ノ親族、雇人、鄰佑ニシテ成年ニ達シタル者ヲシテ立會
ハシムヘシ
前項ニ掲ケタル者其ノ地ニ在ラサルトキ又ハ立會ヲ拒ミタル
トキハ其ノ地ノ警察官吏又ハ市町村吏員ヲシテ立會ハシム
ヘシ
第七條 收稅官吏犯罪事實ヲ證明スヘキ物件、帳簿、書類等
ヲ差押ヘタルトキハ其ノ差押目録ヲ作ルヘシ但シ所有者又
ハ所持者ハ其ノ差押目録ノ謄本ヲ請求スルコトヲ得
差押物件ハ便宜ニ依リ保管證ヲ徵シ所有者、所持者又ハ市
町村ヲシテ保管セシムルコトヲ得差押物件ノ保管證ニ關シ
テハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス
差押物件腐敗其ノ他損傷ノ虞アルトキハ稅務署長ハ之ヲ公
賣ニ付シ其ノ代金ヲ供託スルコトヲ得
第八條 收稅官吏ハ日没ヨリ日出マテノ間臨檢、搜索又ハ差

八五

押ヲ爲スコトヲ得ス但シ現行犯ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス
日没前ヨリ開始シタル臨檢、搜索又ハ差押ニシテ必要アル
場合ハ日没後迄之ヲ繼續スルコトヲ得
第九條 收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲ス間ハ何人
ニ限ラス許可ヲ得スシテ其ノ場所ニ出入スルヲ禁スルコト
ヲ得
第十條 收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲シタルトキ
ハ其ノ頭末ヲ記載シ立會人又ハ尋問ヲ受ケタル者ニ示シ共
ニ署名捺印スヘシ立會人又ハ尋問ヲ受ケタル者署名捺印セ
ス又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ附記スヘ
シ
第十一條 犯則事件ノ證據集取ハ事件發見地ヲ所轄スル稅務
監督局又ハ稅務署ノ收稅官吏之ヲ爲ス
稅務監督局收稅官吏ノ集取シタル證據ハ之ヲ所轄稅務署收
稅官吏ニ引續クヘシ
同一犯則事件ニ付數箇所ニ於テ發見セラレタル時ハ各發見
地ニ於テ集取セラレタル證據ハ之ヲ最初ノ發見地所轄稅務
署ノ收稅官吏ニ引續クヘシ
第十二條 收稅官吏前各條ニ依リ臨檢、搜索、尋問又ハ差押
ヲ爲スハ其ノ所屬稅務監督局又ハ所屬稅務署ノ管轄區域内
ニ限ル但シ既ニ著手シタル犯則事件ニ關聯シ他ノ稅務監督
局又ハ稅務署ノ管轄區域ニ於テ臨檢、搜索、尋問又ハ差押
ヲ爲スヲ必要トスルトキハ此ノ限ニ在ラス
稅務署長ハ其ノ管轄區域外ニ於テ犯則事件ノ調査ヲ必要ト
スルトキハ之ヲ其ノ地ノ稅務署長ニ囑託スルコトヲ得
第十三條 收稅官吏犯則事件ノ調査ヲ終リタルトキハ之ヲ稅

務署長ニ報告スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ直ニ告發スヘシ
一 犯則嫌疑者ノ居所分明ナラサルトキ
二 犯則嫌疑者逃走ノ虞アルトキ
三 證據湮滅ノ虞アルトキ
第十四條 稅務署長ハ犯則事件ノ調査ニ依リ犯則ノ心證ヲ得
タルトキハ其ノ理由ヲ明示シ罰金若ハ科料ニ相當スル金
額、沒收品ニ該當スル物品、徵收金ニ相當スル金額及書類
送達並差押物件ノ運搬、保管ニ要シタル費用ヲ指定ノ場所
ニ納付スヘキ旨ヲ通告スヘシ但シ沒收品ニ該當スル物品ニ
付テハ納付ノ申出ノミヲ爲スヘキ旨ヲ通知スルコトヲ得
犯則者通告ノ旨ヲ履行スルノ資力ナシト認ムルトキハ前項
ノ通告ヲ要セス直ニ告發スヘシ
第十五條 第十四條ノ通告アリタルトキハ公訴ノ時効ヲ中斷
ス
第十六條 犯則者通告ノ旨ヲ履行シタルトキハ同一事件ニ付
訴ヲ受クルコトナシ
第十四條第一項但書ニ依リ通告ニ對シ犯則者通告ノ旨ヲ履
行シタル場合ニ於テ沒收品ニ該當スル物品ヲ所持スルトキ
ハ公賣其ノ他必要ノ處分ヲ爲ス迄之ヲ保管スルノ義務アル
モノトス但シ保管ニ要スル費用ハ之ヲ請求スルコトヲ得ス
第十七條 犯則者通告ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ之ヲ履行
セサルトキハ稅務署長ハ告發ノ手續ヲ爲スヘシ但シ七日ヲ
過クルモ告發前ニ履行シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
犯則者ノ居所分明ナラサル爲又ハ犯則者書類ノ受領ヲ拒ミ
タル爲通告スルコト能ハサルトキ亦前項ニ同シ
第十八條 犯則事件ヲ告發シタル場合ニ於テ差押物件アルト

キハ差押目錄ト共ニ裁判所ニ引續クヘシ
前項ノ差押物件所有者、所持者又ハ市町村ノ保管ニ係ルト
キハ保管證ヲ以テ引續ク爲シ差押物件引續ノ旨ヲ保管者ニ
通知スヘシ
第十九條 稅務署長犯則事件ヲ調査シ犯則ノ心證ヲ得サルト
キハ其ノ旨ヲ犯則嫌疑者ニ通知シ物件ノ差押アルトキハ之
カ解除ヲ命スヘシ
第二十條 本法ニ於テ間接國稅ト稱スルハ勅令ノ定ムル所ニ
依ル
第二十一條 本法中市町村吏員又ハ市町村トアルハ市制町村
制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノニ適用ス

間接國稅犯則者處分法施行規則
第一條 間接國稅犯則者處分法ニ於テ間接國稅ト稱スルハ左
ノ國稅トス
一 酒造稅
二 酒精及酒精含有飲料稅
三 出港稅
四 麥酒稅
五 清涼飲料稅
六 砂糖消費稅
七 織物消費稅
八 揮發油稅
九 取引稅
十 印紙稅
十一 骨牌稅
十二 物品特別稅
十三 物品稅
十四 遊興飲食稅
十五 酒稅
十六 馬券稅
十七 廣告稅
第二條 收稅官吏物件、帳簿、書類等ヲ差押ヘタル場合ニ於
テ所有者、所持者又ハ市町村ヲシテ保管セシムルトキハ之
ニ封印ヲ爲シ若ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスヘシ
第三條 差押目錄ニハ物件ノ品名、數量、帳簿、書類ノ名稱、
箇數、差押ノ場所及時、所持者ノ住所又ハ居所、氏名ヲ記
載スヘシ
第四條 收稅官吏物件、帳簿、書類等ヲ差押ヘタル場合ニ於

○間接國稅犯則者處分法施行規則

(明治三十三年三月二十三日)
勅令 第五十二號

改正 明治三十四年第一七〇號、明治三十五年第一四五
號、同年第二五三號、明治三十七年第九二號、
明治三十八年第九號、同年第一三五號、明治四
一年第四二號、大正元年第一三號、大正三年
第一五三號、大正一二年第五二三號、大正一
五年第四〇號、昭和一二年第六五號、同年第
四二四號、昭和一三年第二〇二號、昭和十四
年第一七八號、昭和十五年第一六二號、昭和
一十七年第一一四號、同年第一九八號

テ之ヲ官廳又ハ市町村ニ送致スルトキハ差押目録ノ謄本ヲ其ノ所持者ニ交付スヘシ

第五條 收稅官吏市町村ヲシテ差押物件ノ保管ヲ爲サシムルトキハ其ノ旨ヲ差押當時ノ所持者ニ通知スヘシ

第六條 稅務署長間接國稅犯則者處分法第七條ニ依リ差押物件ヲ公賣スルトキハ物件ノ品名、數量、公賣ノ事由、公賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ公告スヘシ

第七條 稅務署長間接國稅犯則者處分法第七條ニ依リ差押物件ノ公賣代金ヲ供託シタルトキハ其ノ金額ト共ニ其ノ旨ヲ差押當時ノ所持者ニ通知スヘシ

第八條 收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲シタルトキ調製スル願末書ニハ臨檢、搜索、尋問又ハ差押ノ事實、場所及時並供述ノ要領ヲ記載スヘシ

第九條 間接國稅犯則者處分法第十四條ノ通告ハ通告書ヲ送達シテ之ヲ爲スヘシ

第十條 通告書ノ送達ハ使丁ニ依リテ之ヲ爲シ其ノ受領證ヲ徵スヘシ但シ配達證明郵便ヲ以テ送達ヲ爲スコトヲ得

第十一條 稅務署長間接國稅犯則者處分法第十九條ニ依リ犯則ノ心證ヲ得サル旨ヲ犯則嫌疑者ニ通知スル場合ニ於テ同法第七條ニ依リ供託シタル金額アルトキハ供託受領證ニ供託金ヲ受取ルヘキ事由ヲ證スヘキ書面ヲ添付シ之ヲ差押當時ノ物件所持者ニ交付スヘシ

第十二條 犯則事件ノ調査及處分ニ關スル書類ニハ每葉契印スヘシ文字ノ挿入、削除又ハ欄外ノ記入ヲ爲シタルトキハ文字ヲ削除スルトキハ其ノ字體ヲ存シ置キ其ノ字數ヲ記載スヘシ

スヘシ

第十三條 收稅官吏ハ直接ト間接ト問ハス差押物件又ハ沒收物件ヲ買受クルコトヲ得ス

第十四條 本令中稅務署長ノ職務ハ樺太ニ在リテハ樺太廳支廳長之ヲ行フ

附則
本令ハ間接國稅犯則者處分法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○陪審法 (大正十二年四月十八日) 法律第五十號

改正 昭和四年第五一號、昭和一六年第六二號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國議會ノ協贊ヲ經タル陪審法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 總則

第一條 裁判所ハ本法ノ定ムル所ニ依リ刑事事件ニ付陪審ノ評議ニ付シテ事實ノ判斷ヲ爲スコトヲ得

第二條 死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル事件ハ之ヲ陪審ノ評議ニ付ス

第三條 長期三年ヲ超ユル有期ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル事件ニシテ地方裁判所ノ管轄ニ屬スルモノニ付被告人ノ請求アリタルトキハ之ヲ陪審ノ評議ニ付ス

第四條 左ニ掲ケル罪ニ該ル事件ハ前二條ノ規定ニ拘ラス之ヲ陪審ノ評議ニ付セス

一 大審院ノ特別權限ニ屬スル罪

二 刑法第二編第一章乃至第四章及第八章ノ罪

三 治安維持法ノ罪

四 軍機保護法、陸軍刑法又ハ海軍刑法ノ罪其ノ他軍機ニ關シ犯シタル罪

五 法令ニ依リテ行フ公選ニ關シ犯シタル罪

第五條 第三條ノ請求ハ第一回公判期日前ニ之ヲ爲スヘシ但シ其ノ期日前ト雖最初ニ定メタル公判期日ノ召喚ヲ受ケタル日ヨリ十日ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 被告人ハ檢事ノ被告事件陳述前ハ何時ニテモ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ又ハ請求ヲ取下クルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ得ス

第七條 被告人公判又ハ公判準備ニ於ケル取調ニ於テ公訴事實ヲ認メタルトキハ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ得ス但シ共同被告人中公訴事實ヲ認メサル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 地方ノ情況ニ由リ陪審ノ評議公平ヲ失スルノ虞アルトキハ檢事ハ直近上級裁判所ニ管轄移轉ノ請求ヲ爲スコトヲ得

公判ニ繫屬スル事件ニ付前項ノ請求アリタルトキハ訴訟手續ヲ停止スヘシ

第九條 前條第一項ノ請求ヲ爲スニハ理由ヲ附シタル請求書ヲ管轄裁判所ニ差出スヘシ

前項ノ請求書ヲ差出スニハ管轄裁判所ノ檢事ヲ經由スヘシ

公判ニ繫屬スル事件ニ付管轄移轉ノ請求ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ裁判所ニ通知シ且請求書ノ謄本ヲ被告人ニ交付スヘシ

被告人ハ謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三日内ニ意見書ヲ差出スコトヲ得

管轄裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

第十條 管轄移轉ノ請求アリタルトキハ被告人ハ檢事ノ被告事件陳述後ト雖其ノ決定アル迄事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ又ハ請求ヲ取下クルコトヲ得

被告人事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ又ハ請求ヲ取下ケタルニ因リ事件陪審ノ評議ニ付スヘカラサルニ至リタルトキハ檢事ノ管轄移轉ノ請求ハ之ヲ取下ケタルモノト看做ス

共同被告人中事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ又ハ請求ヲ取下ケタル者アルトキハ其ノ被告人ニ關スル管轄移轉ノ請求ニ付亦前項ニ同シ

第十一條 上訴裁判所ニ於テハ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ得ス

第二章 陪審員及陪審ノ構成

- 第十二條 陪審員ハ左ノ各號ニ該當スル者タルコトヲ要ス
- 一 帝國臣民タル男子ニシテ三十歳以上タルコト
 - 二 引續キ二年以上同一市町村内ニ住居スルコト
 - 三 引續キ二年以上直接國稅三圓以上ヲ納ムルコト
 - 四 讀ミ書キヲ爲シ得ルコト
- 前項第二號及第三號ノ要件ハ其ノ年九月一日ノ現在ニ依ル
- 第十三條 左ニ掲クル者ハ陪審員タルコトヲ得ス
- 一 禁治產者、準禁治產者
 - 二 破產者ニシテ復權ヲ得サルモノ
 - 三 聾者、啞者、盲者
 - 四 懲役、六年以上ノ禁錮、舊刑法ノ重罪ノ刑又ハ重禁錮ニ處セラレタル者
- 第十四條 左ニ掲クル者ハ陪審員ノ職務ニ就カシムルコトヲ得ス
- 一 國務大臣
 - 二 在職ノ判事、檢事、陸軍法務官、海軍法務官

- 三 在職ノ行政裁判所長官、行政裁判所評定官
 - 四 在職ノ宮内官吏
 - 五 現役ノ陸軍軍人、海軍軍人
 - 六 在職ノ廳府縣長官、郡長、島司、廳支廳長
 - 七 在職ノ警察官吏
 - 八 在職ノ監獄官吏
 - 九 在職ノ裁判所書記長、裁判所書記
 - 十 在職ノ收稅官吏、稅關官吏、專賣官吏
 - 十一 郵便電信電話鐵道及軌道ノ現業ニ従事スル者並勤員
 - 十二 市町村長
 - 十三 辯護士、辨理士
 - 十四 公證人、執達吏、代書人
 - 十五 在職ノ小學校教員
 - 十六 神官、神職、僧侶、諸宗教師
 - 十七 醫師、齒科醫師、藥劑師
 - 十八 學生、生徒
- 第十五條 陪審員ハ左ノ場合ニ於テ職務ノ執行ヨリ除斥セラレシ
- 一 陪審員被害者ナルトキ
 - 二 陪審員私訴當事者ナルトキ
 - 三 陪審員被告人、被害者若ハ私訴當事者ノ親族ナルトキ又ハ親族タリシトキ
 - 四 陪審員被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ屬スル家ノ戶主又ハ家族ナルトキ
 - 五 陪審員被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ法定代理人、後見監督人又ハ保佐人ナルトキ

- 六 陪審員被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ同居人又ハ雇人ナルトキ
- 七 陪審員事件ニ付告發ヲ爲シタルトキ
- 八 陪審員事件ニ付證人又ハ鑑定人ト爲リタルトキ
- 九 陪審員事件ニ付被告人ノ代理人、辯護人、輔佐人又ハ私訴當事者ノ代理人ト爲リタルトキ
- 十 陪審員事件ニ付判事、檢事、司法警察官又ハ陪審員トシテ職務ヲ行ヒタルトキ
- 第十六條 左ニ掲クル者ハ陪審員ノ職務ヲ辭スルコトヲ得

 - 一 六十歳以上ノ者
 - 二 在職ノ官吏、公吏、教員
 - 三 貴族院議員、衆議院議員及法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員但シ會期中ニ限ル

- 第十七條 市町村長ハ四年毎ニ陪審員資格者名簿ヲ調製シ其ノ年ノ九月一日現在ニ依リ其ノ市町村内ニ於テ資格ヲ有スル者ヲ之ニ登載スヘシ
- 陪審員資格者名簿ニハ資格者ノ氏名、身分、職業、住居地、生年月日及納稅額ヲ記載スヘシ
- 市町村長ハ陪審員資格者名簿ノ副本ヲ調製シ之ヲ管轄區裁判所判事ニ送付スヘシ
- 第十八條 市町村長ハ十月一日ヨリ七日間其ノ廳ニ於テ陪審員資格者名簿ヲ縦覽ニ供スヘシ
- 第十九條 法律ニ違反シテ陪審員資格者名簿ニ登載セラレタル者ハ縦覽期間内及其ノ後七日内ニ市町村長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得
- 法律ニ違反シテ陪審員資格者名簿ニ登載セラレサル者ハ前項ノ規定ニ依リ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

- 異議ノ申立ハ書面ヲ以テシ其ノ理由ヲ疏明スヘシ
- 第二十條 市町村長異議ノ申立ヲ正當トスルトキハ遲滞ナク陪審員資格者名簿ヲ修正シ其ノ旨ヲ管轄區裁判所判事及異議申立人ニ通知スヘシ
- 市町村長異議ノ申立ヲ不當トスルトキハ遲滞ナク意見ヲ附シ申立書ヲ管轄區裁判所判事ニ送付スヘシ
- 第二十一條 前條第二項ノ場合ニ於テ區裁判所判事異議ノ申立ヲ理由ナシトスルトキハ其ノ旨ヲ市町村長及異議申立人ニ通知スヘシ異議ノ申立ヲ理由アリトスルトキハ陪審員資格者名簿ヲ修正スヘキコトヲ命シ其ノ旨ヲ異議申立人ニ通知スヘシ
- 前項ノ通知ハ異議申立書ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ爲スヘシ
- 第二十二條 地方裁判所長ハ陪審員資格者名簿ヲ調製スル年ノ九月一日迄ニ其ノ翌年ヨリ四年間所要ノ陪審員ノ員數ヲ定メ管轄區域内ノ市町村ニ割當テ之ヲ市町村長ニ通知スヘシ
- 第二十三條 市町村長前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ第二十條及第二十一條ノ規定ニ依リ整理シタル陪審員資格者名簿ニ基キ抽籤ヲ以テ前條ノ規定ニ依リ割當テラレタル員數ノ陪審員候補者ヲ選定シ陪審員候補者名簿ヲ調製スヘシ
- 前項ノ抽籤ハ資格者三人以上ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
- 第十七條第二項及第三項ノ規定ハ陪審員候補者名簿ニ之ヲ準用ス
- 第二十四條 區裁判所判事ハ陪審員候補者ノ選定ニ關スル事務ニ付市町村長ヲ監督ス

區裁判所判事ハ前項ノ事務ニ付市町村長ニ必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 市町村長ハ十一月三十日迄ニ陪審員候補者名簿ヲ管轄地方裁判所長ニ送付スヘシ

市町村長ハ陪審員候補者名簿ニ登載セラレタル者ニ其ノ旨ヲ通知シ且其ノ氏名ヲ告示スヘシ

第二十六條 市町村長前條ノ規定ニ依リ陪審員候補者名簿ヲ送付シタル後其ノ候補者中死亡シ若ハ國籍ヲ喪失シタル者アルトキ又ハ第十三條若ハ第十四條ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタル者アルトキハ市町村長ハ遲滞ナク之ヲ管轄地方裁判所長ニ通知スヘシ

第二十七條 陪審ノ評議ニ付スヘキ事件ニ付公判期日定リタルトキハ地方裁判所長ハ豫メ定メタル市町村ノ順序ニ依リ各陪審員候補者名簿ヨリ一人又ハ數人ノ陪審員ヲ抽籤シ陪審員三十六人ヲ選定スヘシ

前項ノ抽籤ハ裁判所書記ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十八條 陪審員トシテ呼出ニ應シタル者ハ其ノ市町村ニ於ケル陪審員候補者名簿ニ登載セラレタル者四分ノ三呼出ニ應シタル後ニ非サレハ其ノ陪審員候補者名簿調製ノ年ノ翌年ヨリ四年間再ヒ陪審員ニ選定セラルルコトナシ

第二十九條 陪審ハ十二人ノ陪審員ヲ以テ之ヲ構成ス

第三十條 陪審ハ檢察被告事件ヲ陳述スル時ヨリ裁判所書記陪審ノ答申ヲ朗讀スル迄同一ノ陪審員ヲ以テ之ヲ構成スルコトヲ要ス

第三十一條 裁判長ハ事件二日以上引續キ開廷ヲ要スト思料スルトキハ十二人ノ陪審員ノ外一人又ハ數人ノ補充陪審員

ヲ公判ニ立會ハシムルコトヲ得

補充陪審員ハ陪審ヲ構成スヘキ陪審員疾病其ノ他ノ事由ニ因リ職務ヲ行フコト能ハサル場合ニ於テ之ニ代ルモノトス

補充陪審員數人アル場合ニ於テ前項ノ職務ヲ行フハ第六十五條ノ規定ニ依リ爲シタル抽籤ノ順序ニ依ル

第三十二條 同日ニ數箇ノ事件ノ公判ヲ開ク場合ニ於テハ數箇ノ事件ニ付同一ノ陪審員ヲ以テ陪審ヲ構成スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ最初ノ事件ノ取調前其ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十三條 檢察及被告人異議ナキトキハ一ノ事件ノ爲構成セラレタル陪審ヲシテ同日ニ審理スヘキ他ノ事件ノ爲其ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第三十四條 陪審員ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ旅費、日當及止宿料ヲ給與ス

第三章 陪審手續

第一節 公判準備

第三十五條 陪審ノ評議ニ付スヘキ事件ニ付テハ裁判長ハ公判準備期日ヲ定ムヘシ

第三十六條 被告人公判準備期日前辯護人ヲ選任セサルトキハ裁判長ハ其ノ裁判所所在地ノ辯護士中ヨリ之ヲ選任スヘシ

被告人ノ利害相反セサルトキハ同一ノ辯護人ヲシテ數人ノ辯護ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十七條 公判準備期日ニハ被告人及辯護人ヲ召喚スヘシ

公判準備期日ハ之ヲ檢察ニ通知スヘシ

第三十八條 召喚狀ノ送達ノ日ト公判準備期日トノ間ニハ少クトモ五日ノ猶豫期間ヲ存スヘシ

第三十九條 公判期日ヲ定メタル後被告人ノ請求ニ因リ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スヘキモノトシタルトキハ其ノ公判期日ヲ公判準備期日トス

第四十條 公判準備期日ニ於ケル取調ハ定數ノ判事、檢察及裁判所書記列席シテ之ヲ爲ス

公判準備期日ニ於テハ辯護人出頭スルニ非サレハ取調ヲ爲スコトヲ得ス辯護人數人アルトキハ其ノ一人ノ出頭ヲ以テ足ル

公判準備期日ニ於ケル取調ハ之ヲ公行セス

第四十一條 第二條ノ規定ニ依リ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルトキハ裁判長ハ被告人ニ對シ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ得ヘキ旨ヲ告知スヘシ

第四十二條 公判準備期日ニ於テハ裁判長ハ公訴事實ニ付出席シタル被告人ヲ訊問スヘシ

陪席判事ハ裁判長ニ告ケ被告人ヲ訊問スルコトヲ得

檢察及辯護人ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ被告人ヲ訊問スルコトヲ得

第四十三條 公判準備期日ニ於テハ裁判所ハ必要ナル證據調ノ決定ヲ爲スヘシ

檢察、被告人及辯護人ハ證人訊問、鑑定、檢證又ハ證據物若ハ證據書類ノ集取ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ却下スルトキハ裁判所ハ決定ヲ爲スヘシ

第四十四條 裁判所書記ハ公判準備調書ヲ作り公判準備期日ニ於ケル被告人ニ對スル訊問及其ノ供述、檢察被告人辯護

人ノ申立、裁判所ノ裁判其ノ他一切ノ訴訟手續ヲ記載スヘシ

第四十五條 公判準備調書ニハ前條ニ規定スル事項ノ外被告事件、被告人及出頭シタル辯護人ノ氏名並手續ヲ爲シタル裁判所年月日及裁判長陪席判事檢察裁判所書記ノ官氏名ヲ記載シ被告人出頭セサルトキハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第四十六條 公判準備調書ハ三日内ニ之ヲ整理シ裁判長及裁判所書記署名捺印スヘシ

裁判長ハ署名捺印前ニ公判準備調書ヲ檢閲シ意見アルトキハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第四十七條 檢察、被告人及辯護人ハ公判準備期日前第四十三條第二項ノ請求ヲ爲スコトヲ得公判期日七日前迄亦同シ

第四十三條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十八條 裁判所公判準備期日外ニ於テ證據決定ヲ爲シタルトキハ之ヲ檢察、被告人及辯護人ニ通知スヘシ

第四十九條 公判準備期日外ニ於テ證人又ハ鑑定人ノ訊問ヲ爲ストキハ被告人モ亦之ニ立會フコトヲ得

裁判所外ニ於テ前項ノ手續ヲ爲ストキハ拘禁セラレタル被告人ハ之ニ立會フコトヲ得ス但シ裁判所必要ト認ムルトキハ之ニ立會ハシムルコトヲ得

第五十條 前條第一項ノ手續ヲ爲スヘキ日時及場所ハ被告人ニ之ヲ通知スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十一條 公判準備中陪審ノ評議ニ付スヘカラサル事由生シタルトキハ通常ノ手續ニ從ヒ審判ヲ爲スヘシ

公判準備期日ニ於テ前項ノ事由生シタルトキハ其ノ期日ヲ

陪審法 陪審手續 公判準備

公判期日トス但シ訴訟關係人中出頭セサル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條 被告人ハ公判準備期日ニ管轄違ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ申立ハ豫審ヲ經タル事件ニ付テハ豫審判事ニ對シテ其ノ申立ヲ爲シタル場合ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五十三條 裁判所公判準備期日ニ公訴棄却又ハ管轄違ノ原由アルコトヲ認メタルトキハ決定ヲ爲スヘシ

第五十四條 裁判所公判準備期日ニ免訴ノ原由アルコトヲ認メタルトキハ決定ヲ爲スヘシ

免訴ノ決定確定シタルトキハ同一ノ事件ニ付更ニ公訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第五十五條 前二條ノ決定ヲ爲スニハ訴訟關係人ノ意見ヲ聽クヘシ

決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第五十六條 第五十一條又ハ第五十三條ノ場合ニ於テ公判準備中ニ爲シタル手續ハ其ノ效力ヲ失ハス

第五十七條 公判期日ニハ第二十七條ノ規定ニ依リテ選定シタル陪審員ヲ呼出スヘシ

第三十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十八條 陪審員ニ對スル呼出狀ニハ出頭スヘキ日時、場所及呼出ニ應セサルトキハ過料ニ處スルコトアルヘキ旨ヲ記載スヘシ

第五十九條 陪審員疾病其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ呼出ニ應スルコト能ハサル場合ニ於テハ其ノ職務ヲ辭スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ書面ヲ以テ其ノ事由ヲ説明スヘシ

シ

第二節 公判手續及公判ノ裁判

第六十條 陪審構成ノ手續ハ判事、檢事、裁判所書記、被告人、辯護人及陪審員列席シ公判廷ニ於テ之ヲ行フ

前項ノ手續ハ之ヲ公行セス

第六十一條 前條第一項ノ手續ハ陪審員二十四人以上出頭スルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

出頭シタル陪審員二十四人ニ達セサルトキハ裁判長ハ之ヲ補充スル爲メ裁判所所在地又ハ其ノ附近ノ市町村ノ陪審員候補者名簿ヨリ抽籤ヲ以テ必要ナル員數ノ陪審員ヲ選定シ便宜ノ方法ニ依リ之ヲ呼出スヘシ

前項ノ抽籤ハ裁判所書記ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第六十二條 陪審員二十四人以上出頭シタルトキハ裁判長ハ其ノ氏名、職業及住居地ヲ記載シタル書面ヲ示シ檢事及被告人ニ對シ陪審員中除斥セラルヘキ者アリヤ否ヲ問フヘシ

裁判長ハ陪審員ニ被告人ノ氏名、職業及住居地ヲ告ケ除斥ノ原由アリヤ否ヲ問フヘシ

檢事、被告人及陪審員除斥ノ原由アリトスルトキハ其ノ旨ノ申立ヲ爲スヘシ

除斥ノ原由アリトスルトキハ裁判所ハ決定ヲ爲スヘシ

第六十三條 出頭シタル陪審員中第十二條乃至第十四條ノ規定ニ依リ陪審員タル資格ヲ有セサル者アリトスルトキハ裁判所ハ決定ヲ爲スヘシ

第六十四條 檢事及被告人ハ陪審員構成スヘキ陪審員及補充陪審員ノ員數ヲ超過スル員數ニ付各其ノ半數ヲ忌避スルコトヲ得

トヲ得忌避スルコトヲ得ヘキ人員奇數ナルトキハ被告人ハ尙一人ヲ忌避スルコトヲ得

被告人數人アルトキハ忌避ハ共同シテ之ヲ行フ共同ノ方法ニ付協議整ハサルトキハ忌避ヲ行ハシムル方法ハ裁判長之ヲ定ム

第六十五條 裁判長ハ陪審員ノ氏名票ヲ抽籤函ニ入レタル後檢事及被告人ノ忌避スルコトヲ得ル員數ヲ告知スヘシ

裁判長ハ氏名票ヲ一票宛抽籤函ヨリ抽出シ之ヲ讀上クヘシ

裁判長氏名ヲ讀上ケタルトキハ檢事及被告人ハ承認又ハ忌避スル旨ヲ陳述スヘシ其ノ順序ハ檢事ヲ先ニシ被告人ヲ後ニス

忌避ノ理由ハ之ヲ陳述スルコトヲ得ス

次ノ氏名票ヲ抽籤函ヨリ抽出ス迄ニ陳述ヲ爲ササルトキハ承認ノ陳述ヲ爲シタルモノト看做ス裁判長抽籤終リタル旨ヲ宣言スル迄陳述ヲ爲ササルトキ亦同シ

陳述ハ次ノ氏名票ヲ抽出シタル後ハ之ヲ取消スコトヲ得ス

裁判長抽籤終リタル旨ヲ宣言シタル後亦同シ

第六十六條 前條ノ手續ニ依リ陪審員構成スヘキ陪審員及補充陪審員ノ數ヲ充シタルトキハ裁判長ハ抽籤終リタル旨ヲ宣言スヘシ

第六十七條 陪審員構成スヘキ陪審員ハ初ニ當籤シタル十二人ヲ以テ之ニ充テ補充陪審員ハ其ノ他ノ當籤者ヲ以テ之ニ充ツ

第六十八條 陪審員ハ第六十五條ノ規定ニ依リ爲シタル抽籤ノ順序ニ從ヒ著席スヘシ

第六十九條 裁判長ハ檢事ノ被告事件陳述前陪審員ニ對シ陪審員ノ心得ヲ諭告シ之ヲシテ宣誓ヲ爲サシムヘシ

宣誓ハ宣誓書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

宣誓書ニハ良心ニ從ヒ公平誠實ニ其ノ職務ヲ行フヘキコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ

裁判長ハ起立シテ宣誓書ヲ朗讀シ陪審員ヲシテ之ニ署名捺印セシムヘシ

第七十條 裁判長ハ陪審判事ノ一人ヲシテ被告人ノ訊問及證據ヲ爲サシムルコトヲ得

陪審員ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ被告人、證人、鑑定人、通事及翻譯人ヲ訊問スルコトヲ得

第七十一條 證據ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外裁判所ノ直接ニ取調ヘタルモノニ限ル

第七十二條 左ニ掲クル書類圖畫ハ之ヲ證據ト爲スコトヲ得

一 公判準備手續ニ於テ取調ヘタル證人ノ訊問調書

二 檢證、押收又ハ搜索ノ調書及之ヲ補充スル書類圖畫

三 公務員ノ職務ヲ以テ證明スルコトヲ得ヘキ事實ニ付公務員ノ作リタル書類

四 前號ノ事實ニ付外國ノ公務員ノ作リタル書類ニシテ其ノ眞正ナルコトノ證明アルモノ

五 鑑定書又ハ鑑定調書及之ヲ補充スル書類圖畫

第七十三條 裁判所、豫審判事、受命判事、受託判事其ノ他法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署、檢事、司法警察官又ハ訴訟上ノ共助ヲ爲ス外國ノ官署ノ作リタル訊問調書及之ヲ補充スル書類圖畫ハ左ノ場合ニ限り之ヲ證據ト爲スコトヲ得

一 共同被告人若ハ證人死亡シタルトキ又ハ疾病其ノ他ノ事由ニ因リ之ヲ召喚シ難キトキ
 二 被告人又ハ證人公判外ノ訊問ニ對シテ爲シタル供述ノ重要ナル部分ヲ公判ニ於テ變更シタルトキ
 三 被告人又ハ證人公判廷ニ於テ供述ヲ爲ササルトキ
 第七十四條 前二條ノ場合ノ外裁判外ニ於テ被告人其ノ他ノ者ノ供述ヲ錄取シタル書類又ハ裁判外ニ於テ作成シタル書類圖畫ハ供述者若ハ作成者死亡シタルトキ又ハ疾病其ノ他ノ事由ニ因リ召喚シ難キトキニ限り之ヲ證據ト爲スコトヲ得

第七十五條 證據ト爲スコトニ付訴訟關係人ノ異議ナキ書類圖畫ハ前三條ノ規定ニ拘ラス之ヲ證據ト爲スコトヲ得

第七十六條 證據調終リタル後檢事、被告人及辯護人ハ犯罪ノ構成要素ニ關スル事實上及法律上ノ問題ノミニ付意見ヲ陳述スヘシ

辯護人數人アル場合ニ於テ被告人ノ爲ニスル意見ノ陳述ハ重複シテ之ヲ爲スコトヲ得ス

公判廷ニ現ハレサル證據ハ之ヲ援用スルコトヲ得ス

被告人又ハ辯護人ニハ最終ニ陳述スル機會ヲ與フヘシ

第七十七條 前條ノ辯論終結後裁判長ハ陪審ニ對シ犯罪ノ構成ニ關シ法律上ノ論點及問題ト爲ルヘキ事實並證據ノ要領ヲ説示シ犯罪構成事實ノ有無ヲ問ヒ評議ノ結果ヲ答申スヘキ旨ヲ命スヘシ但シ證據ノ信否及罪責ノ有無ニ關シ意見ヲ表示スルコトヲ得ス

第七十八條 裁判長ノ説示ニ對シテハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第七十九條 裁判長ノ問ハ主問ト補問トニ區別シ陪審ニ於テ然リ又ハ然ラスト答ヘ得ヘキ文言ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
 主問ハ公判ニ付セラレタル犯罪構成事實ノ有無ヲ評議セシムル爲メニ付セラレタルモノトス
 補問ハ公判ニ付セラレタルモノト異リタル犯罪構成事實ノ有無ヲ評議セシムル必要アリト認ムル場合ニ於テ之ヲ爲スモノトス

犯罪ノ成立ヲ阻却スル理由ト爲ルヘキ事實ノ有無ヲ評議セシムル必要アリト認ムルトキハ其ノ問ハ他ノ問ト分別シテ之ヲ爲スヘシ

第八十條 陪審員、檢事、被告人及辯護人ハ問ノ變更ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ決定ヲ爲スヘシ

第八十一條 裁判長ハ問書ニ署名捺印シ之ヲ陪審ニ交付スヘシ

陪審員ハ問書ノ謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第八十二條 裁判長ハ評議ヲ爲サシムル爲陪審員ヲシテ評議室ニ退カシムヘシ

裁判長ハ公判廷ニ於テ示シタル證據物及證據書類ヲ陪審ニ交付スルコトヲ得

第八十三條 陪審員ハ裁判長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ評議ヲ了ル前評議室ヲ出テ又ハ他人ト交通スルコトヲ得ス

陪審員ニ非サル者ハ裁判長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ評議室ニ入ルコトヲ得ス

第八十四條 陪審ノ答申前陪審員ヲシテ裁判所ヲ退出セシムル場合ニ於テハ裁判長ハ陪審員ニ對シ滯留ノ場所及他人ト

ノ交通ニ關シ遵守スヘキ事項ヲ指示スヘシ

第八十五條 陪審員第八十三條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ前條ノ規定ニ依リ指示セラレタル事項ヲ遵守セサルトキハ裁判所ハ其ノ陪審員ニ對シ職務ノ執行ヲ禁止スルコトヲ得

第八十六條 陪審員ハ陪審長ヲ互選スヘシ

陪審長ハ議事ヲ整理ス

第八十七條 陪審ハ評議ヲ了ル前更ニ説示ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ公判廷ニ於テ其ノ申立ヲ爲スヘシ

第八十八條 答申ハ問ニ對シ然リ又ハ然ラスノ語ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ問ニ掲クル事實ノ一部ヲ肯定又ハ否定スルトキハ之ニ付然リ又ハ然ラスノ語ヲ以テ答申スヘシ

第八十九條 評議ハ先ツ主問ニ付之ヲ爲スヘシ
 主問ヲ否定シタル場合ニ於テ補問アルトキハ之ニ付評議ヲ爲スヘシ

第九十條 陪審員ハ問ニ付各其ノ意見ヲ表示スヘシ
 陪審長ハ最後ニ其ノ意見ヲ表示スヘシ

第九十一條 犯罪構成事實ヲ肯定スルニハ陪審員ノ過半数ノ意見ニ依ルコトヲ要ス

犯罪構成事實ヲ肯定スル陪審員ノ意見其ノ過半数ニ達セサルトキハ之ヲ否定シタルモノトス

第九十二條 答申ハ問書ニ記載シ陪審長署名捺印シテ之ヲ裁判長ニ提出スヘシ

答申ニ不備又ハ齟齬アルトキハ裁判長ハ問書ヲ返付シ更ニ評議ヲ爲シ答申ヲ訂正スヘキ旨ヲ命スヘシ

第九十三條 裁判長ハ公判廷ニ於テ裁判所書記ヲシテ問及之

ニ對スル陪審ノ答申ヲ朗讀セシムヘシ

第九十四條 前條ノ手續終リタルトキハ裁判長ハ陪審員ヲ退廷セシムヘシ

第九十五條 裁判所陪審ノ答申ヲ不當ト認ムルトキハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス決定ヲ以テ事件ヲ更ニ他ノ陪審ニ評議ニ付スルコトヲ得

第九十六條 陪審犯罪構成事實ヲ肯定スルノ答申ヲ爲シタル場合ニ於テ裁判所前條ノ決定ヲ爲ササルトキハ檢事ハ適用スヘキ法令及刑ニ付意見ヲ陳述スヘシ

被告人及辯護人ハ意見ヲ陳述スルコトヲ得

被告人又ハ辯護人ニハ最終ニ陳述スル機會ヲ與フヘシ

第九十七條 陪審ノ答申ヲ採擇シテ判決ノ言渡ヲ爲スニハ裁判所ハ陪審ノ評議ニ付シテ事實ノ判斷ヲ爲シタル旨ヲ示スヘシ

有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及法令ノ適用ヲ示スヘシ刑ノ加重減免ノ理由タル事實上ノ主張アリタルトキハ之ニ對スル判斷ヲ示スヘシ

無罪ノ言渡ヲ爲スニハ犯罪構成事實ヲ認メサルコト又ハ被告事件罪ト爲ラサルコトヲ示スヘシ

第九十八條 引續キ七日以上開廷セザリシ場合ニ於テハ公判手續ヲ更新スヘシ

陪審ヲ構成スヘキ陪審員疾病其ノ他ノ事由ニ因リ職務ヲ行フコト能ハサル場合ニ於テ補充陪審員ナキトキ亦前項ニ同シ

前二項ノ場合ニ於テハ新ニ陪審構成ノ手續ヲ爲スヘシ

第九十九條 裁判所ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス公

訴棄却、管轄違又は免訴ノ裁判ヲ爲スヘキ理由アルコトヲ認メタル場合ニ於テハ陪審ノ評議ニ付セスシテ審判ヲ爲スヘシ

第百條 裁判所書記ハ陪審員ノ氏名、陪審ノ構成其ノ他陪審ニ關スル訴訟手續及裁判長ノ説示ノ要領ヲ公判調書ニ記載スヘシ

第三節 上訴

第百一條 陪審ノ答申ヲ採擇シテ事實ノ判斷ヲ爲シタル事件ノ判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得ス

第百二條 陪審ノ答申ヲ採擇シテ事實ノ判斷ヲ爲シタル事件ノ判決ニ對シテハ大審院ニ上告ヲ爲スコトヲ得

第百三條 上告ハ刑事訴訟法ニ於テ第二審ノ判決ニ對シ上告ヲ爲スコトヲ得ル理由アル場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得但シ事實ノ誤認ヲ理由トスル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百四條 左ノ場合ニ於テハ常ニ上告ノ理由アルモノトス

一 法律ニ從ヒ陪審ヲ構成セザリシトキ

二 第十二條第一項第一號又ハ第十三條ノ規定ニ依リ陪審員タルコトヲ得サル者評議ニ關シタルトキ但シ評議ヲ了ル前訴訟關係人異議ヲ述ヘザリシトキハ此ノ限ニ在ラス

三 法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキ陪審員評議ニ關シタルトキ但シ第六十二條第三項ノ申立ヲ爲サザリシトキハ此ノ限ニ在ラス

四 忌避セラレタル陪審員評議ニ關シタルトキ但シ評議ヲ了ル前訴訟關係人異議ヲ述ヘザリシトキハ此ノ限ニ在ラス

五 第八十四條ノ指示ニ違反シタルトキ

第百九條 陪審員評議ノ願末又ハ各員ノ意見若ハ其ノ多少ノ數ヲ漏泄シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ事項ヲ新聞紙其ノ他ノ出版物ニ掲載シタルトキハ新聞紙ニ在リテハ編輯人及發行人其ノ他ノ出版物ニ在リテハ著作者及發行者ヲ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第百十條 裁判長ノ許可ヲ受ケスシテ陪審ノ評議室ニ入り又ハ陪審ノ評議ヲ了ル前裁判所内ニ於テ陪審員ト交通シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百十一條 陪審ノ評議ニ付セラレタル事件ニ付陪審員ニ對シテ請託ヲ爲シ又ハ評議ヲ了ル前私ニ意見ヲ述ヘタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第百十二條 過料ノ裁判ハ陪審員ヲ呼出シタル裁判所檢察ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得此ノ抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有ス

過料ノ裁判ノ執行ニ付テハ非訟事件手續法第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第六章 補則

第百十三條 市制第六條ノ市ニ於テハ本法中市ニ關スル規定ハ區ニ、市長ニ關スル規定ハ區長ニ之ヲ適用ス

町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ本法中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準スヘキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準スヘキ者ニ之ヲ適用ス

第百十四條 第十二條ノ直接國稅ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則 本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和二年勅

令第四百四十四號ヲ以テ第十二條乃至第十四條、第十七條乃至第二十六條、第百十三條及第百十四條ノ規定ヲ同年六月一日ヨリ施行、昭和三年勅令第百六十五號ヲ以テ上掲ノ規定ヲ除ク外同年十月一日ヨリ施行)

本法施行前公判期日ノ定リタル事件ニ付テハ本法ヲ適用セス

附則(昭和十六年法律第六十二號附則)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十六年勅令第三百四號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行)

本法施行後最初ノ陪審員資格者名簿及陪審員候補者名簿ノ調製ハ昭和十九年ニ於テ之ヲ行フ

本法施行ノ際現ニ效力ヲ有スル陪審員資格者名簿及陪審員候補者名簿ハ引續キ昭和十九年十二月三十一日迄其ノ效力ヲ有ス

○陪審法施行規則(昭和二年五月二十八日)

改正 昭和三年第一八號、昭和七年第三五號、昭和

一六年第二五號 陪審法施行規則

第一條 陪審員資格者名簿及陪審員候補者名簿ハ別記様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條 前條ノ名簿ニハ丁數ヲ記入シ職印ヲ以テ每葉ノ綴目ニ契印スヘシ

第三條 陪審員資格者名簿ノ副本ハ陪審員資格者名簿ヲ調製スル年ノ九月三十日迄ニ管轄區裁判所判事ニ送付スヘシ

第五 裁判長ノ説示法律ニ違反シタルトキ

第六 裁判長證據トシテ説示シタルモノ法律上證據ト爲スコトヲ得サルモノナルトキ

第七 裁判長法律上ノ論點ニ關シ不當ノ説示ヲ爲シタルトキ

第百五條 上告裁判所原判決ヲ破毀スル場合ニ於テハ事實ノ審理ヲ爲サスシテ自ら裁判ヲ爲ス場合ヲ除クノ外事件ノ原裁判所ニ差戻シ又ハ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移送スヘシ

破毀ノ理由ト爲リタル事項陪審ノ評議ノ結果ニ影響ナキモノナルトキハ陪審ノ答申ハ其ノ效力ヲ有ス此ノ場合ニ於テハ事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ハ答申以後ノ手續ノミヲ爲スヘシ

第四章 陪審費用

第百六條 左ニ掲クルモノヲ以テ陪審費用トシ訴訟費用ノ一部トス

一 陪審員ノ呼出ニ要スル費用

二 陪審員ニ給與スヘキ旅費、日當及止宿料

第百七條 陪審費用ハ第三條ノ場合ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲ストキハ其ノ全部又ハ一部ヲ被告人ノ負擔トス

第五章 罰則

第百八條 陪審員ハ左ノ場合ニ於テハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

一 故ナク呼出ニ應ゼサルトキ

二 宣誓ヲ拒ミタルトキ

三 第八十三條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ

四 故ナク退廷シタルトキ

第五條 陪審員資格者名簿縦覧ノ期間ハ其ノ初日ヨリ少クトモ五日前ニ之ヲ告示スヘシ

第六條 陪審員資格者名簿ハ之ヲ縦覧ニ供シタル後ハ名簿中脱漏誤載等アルモ異議ノ申立又ハ區裁判所判事ノ命ニ依ル場合ノ外市町村長限リ之ヲ修正スルコトヲ得ス

第七條 市町村長陪審員資格者名簿ヲ修正シタルトキハ其ノ年月日及陪審法第二十條又ハ第二十一條ノ規定ニ依リ削除又ハ追加シタル旨ヲ欄外ニ朱書シ捺印スヘシ

第八條 陪審法第二十條及第二十一條ノ規定ニ依リ陪審員資格者名簿ヲ整理シタル後其ノ資格者中死亡シ若ハ國籍ヲ喪失シタル者アルトキ又ハ陪審法第十三條若ハ第十四條ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタル者アルトキハ市町村長ハ名簿ノ欄外ニ其ノ旨ヲ記入シ之ヲ管轄區裁判所判事ニ通知スヘシ

第八條ノ二 市町村ノ境界變更アリタル爲陪審員資格者名簿ニ異動ヲ生シタルトキハ市町村長ハ其ノ管理ニ屬スル陪審員資格者名簿中異動ニ係ル部分ヲ新ニ屬シタル市町村ノ市町村長ニ送付スヘシ

市町村ノ廢置分合アリタル爲陪審員資格者名簿ノ引繼ヲ要スルトキハ前項ノ例ニ依ル

前二項ノ場合ニ於テハ承繼市町村長ハ直ニ其ノ旨告示シ併セテ管轄區裁判所判事ニ報告スヘシ

第八條ノ三 前條ノ規定ニ依リ分合整備シタル名簿ハ變動後ノ市町村ノ陪審員資格者名簿ト看做ス

第八條ノ四 陪審員資格者名簿ノ縦覧期間中又ハ其ノ後ノ異議申立期間内ニ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更アリタルト

キハ承繼市町村長ハ其ノ應ニ於テ第八條ノ二ニ依リ分合整備シタル陪審員資格者名簿ヲ引繼キ縦覧ニ供シ又ハ異議ノ申立ヲ受ケ但シ變動前既ニ異議ノ申立アリタルモノニ付テハ從前ノ市町村長ニ於テ之ヲ取扱フ

前項ノ場合ニ於テハ新舊市町村長ハ承繼ノ日迄ニ陪審員資格者名簿ノ縦覧又ハ異議申立ニ關スル事項ヲ告示スヘシ

第九條 地方裁判所長ハ豫メ陪審員資格者名簿ヲ調整スル年ノ翌年一月以降四年間ニ於ケル陪審事件ノ總數ヲ推算シ之ニ基キテ所要ノ陪審員ノ總數ヲ定メ各市町村ニ於ケル陪審員資格者ノ員數ニ之ヲ按分シテ各市町村ニ割當ツヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ適宜ノ標準ニ依リ割當ヲ爲スコトヲ得

陪審法第二十二條ノ割當通知後陪審員候補者選定前ニ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更アリタルトキハ地方裁判所長ハ其ノ割當ヲ分合スルコトヲ得

第十條 市町村長地方裁判所長ヨリ割當テラレタル陪審員ノ員數ノ通知ヲ受ケタルトキハ陪審員候補者抽籤ノ場所及日時ヲ定メ之ヲ告示スヘシ

市町村長ハ抽籤ノ立會人ヲ選定シ前項ノ期日ヨリ少クトモ五日前ニ之ヲ本人ニ通知スヘシ

立會人ハ正當ノ事由ナクシテ立會ヲ拒ムコトヲ得ス

第十一條 陪審員候補者ノ抽籤ハ陪審員資格者名簿ニ掲ケル資格者ノ番號ニ符合スル番號票ヲ作製シ之ヲ抽籤函ニ入レ攪拌シタル後一票宛抽籤函ヨリ所要員數ニ達スル迄抽出スヘシ

第十二條 第八條ニ掲ケル者ハ之ヲ抽籤ヨリ除クヘシ

第十三條 抽籤函及番號票ハ別記様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十四條 市町村長陪審員候補者ヲ選定シタルトキハ陪審員候補者選定録ヲ作成スヘシ

陪審員候補者選定録ニハ左ノ事項ヲ記載シ市町村長抽籤ノ立會人ト共ニ署名捺印シ陪審員候補者名簿ノ副本ト併セテ之ヲ保存スヘシ

- 一 選定ノ日時及場所
- 二 抽籤ニ立會ヒタル立會人ノ住所氏名年齢
- 三 割當テラレタル陪審員候補者ノ員數
- 四 第十二條ニ依リ抽籤ヲ除キタル者アルトキハ其ノ氏名及事由
- 五 抽出シタル番號票ノ番號
- 六 其ノ他市町村長ニ於テ必要ト認ムル事項

第十五條 市町村長ハ區裁判所判事ニ送付スルモノノ外陪審員候補者名簿ノ副本ヲ調製シ其ノ應ニ保存スヘシ

第十六條 陪審員資格者名簿及陪審員候補者名簿ノ原本ハ調製ノ日ヨリ七年間之ヲ保存スヘシ

第十七條 陪審法第二十七條及第六十一條第二項ノ抽籤ニ付テハ第十三條ニ定ムル様式ニ依ル抽籤函及番號票ヲ使用スヘシ

第十八條 陪審法第六十五條ノ氏名票及抽籤函ハ別記様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十九條 地方裁判所長陪審法第二十六條ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ陪審員候補者名簿ノ欄外ニ其ノ旨ヲ記入捺印シ當該陪審員候補者ハ之ヲ陪審法第二十七條及第六十一條第二項ノ抽籤ヨリ除クヘシ

第二十條 地方裁判所長陪審法第二十七條ノ規定ニ依リ陪審員ヲ選定シタルトキハ陪審員選定録ヲ調製スヘシ

陪審員選定録ハ毎年之ヲ編綴シテ帳簿ト爲シ翌年一月一日ヨリ五年間保存スヘシ

第二十一條 地方裁判所長陪審員ノ選定手續ヲ終リタルトキハ陪審員氏名通知書ヲ作成シ之ヲ當該事件擔當ノ裁判長ニ送付スヘシ

第二十二條 陪審員選定録及陪審員氏名通知書ノ様式ハ別ニ之ヲ定ム

第二十三條 裁判長ハ陪審員トシテ呼出ニ應シタル者ノ氏名ヲ地方裁判所長ニ通知スヘシ

地方裁判所長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ陪審員候補者名簿中當該氏名欄ニ出ノ朱印ヲ捺捺スヘシ

附則
本令ハ昭和二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス
附則(昭和七年司法省令第三十五號附則)
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(別記様式略ス)

○陪審法第十二條ノ直接國稅ノ種類ニ關スル件
昭和二年五月二十七日
勅令第四百四十六號

改正 昭和五年第五二七號
陪審法第十二條ノ直接國稅ノ種類ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陪審法第十二條ノ規定ニ依ル内地又ハ樺太ニ於ケル直接國稅ノ種類左ノ如シ

一 地租
 二 分類所得税(所得税法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債又ハ預金(法人ニ對スル預金ニ限ル)ノ利子及合同運用信託ノ利益ニ對スルモノ)並ニ退職所得ニ對スルモノヲ除ク)

- 三 營業稅
- 四 礦區稅
- 五 家屋稅
- 六 第三種所得稅
- 七 營業收益稅
- 八 乙種資本利子稅
- 九 市街宅地稅
- 十 漁業稅

本令ハ昭和二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス
 國稅營業稅ハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ營業收益稅ト看做ス
 附 則 (昭和十五年勅令第五百二十七號附則)
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 砂礦區稅及漁業稅ハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ礦區稅ト看做ス

○少年法 (大正十一年四月十七日法律第四十二號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル少年法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 少年法

第一章 通則

- 第一條 本法ニ於テ少年ト稱スルハ十八歳ニ滿タサル者ヲ謂フ
- 第二條 少年ノ刑事處分ニ關スル事項ハ本法ニ定ムルモノノ外一般ノ例ニ依ル
- 第三條 本法ハ第七條、第八條、第十條乃至第十四條ノ規定ヲ除クノ外陸軍刑法第八條、第九條及海軍刑法第八條、第九條ニ據ケタル者ニ之ヲ適用セス
- 第二章 保護處分
- 第四條 刑罰法令ニ觸ルル行爲ヲ爲シ又ハ刑罰法令ニ觸ルル行爲ヲ爲ス虞アル少年ニ對シテハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得
 - 一 訓誡ヲ加フルコト
 - 二 學校長ノ訓誡ニ委スルコト
 - 三 書面ヲ以テ改心ノ誓約ヲ爲サシムルコト
 - 四 條件ヲ附シテ保護者ニ引渡スコト
 - 五 寺院、教會、保護團體又ハ適當ナル者ニ委託スルコト
 - 六 少年保護司ノ觀察ニ付スルコト
 - 七 感化院ニ送致スルコト
 - 八 矯正院ニ送致スルコト
 - 九 病院ニ送致又ハ委託スルコト

前項各號ノ處分ハ適宜併セテ之ヲ爲スコトヲ得
 第五條 前條第一項第五號乃至第九號ノ處分ハ二十三歳ニ至ル迄其ノ執行ヲ繼續シ又ハ其ノ執行ノ繼續中何時ニテモ之ヲ取消シ若ハ變更スルコトヲ得
 第六條 少年ニシテ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケ又ハ假出獄ヲ許サレタル者ハ猶豫又ハ假出獄ノ期間内少年保護司ノ觀察ニ付ス
 前項ノ場合ニ於テ必要アルトキハ第四條第一項第四號、第五號、第七號乃至第九號ノ處分ヲ爲スコトヲ得
 前項ノ規定ニ依リ第四條第一項第七號又ハ第八號ノ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ執行ノ繼續中少年保護司ノ觀察ヲ停止ス

第三章 刑事處分

第七條 罪ヲ犯ス時十六歳ニ滿タサル者ニハ死刑及無期刑ヲ科セス死刑又ハ無期刑ヲ以テ處斷スヘキトキハ十年以上十五年以下ニ於テ懲役又ハ禁錮ヲ科ス
 刑法第七十三條、第七十五條又ハ第二百條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ前項ノ規定ヲ適用セス
 第八條 少年ニ對シ長期三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ以テ處斷スヘキトキハ其ノ刑ノ範圍内ニ於テ短期ト長期トヲ定メ之ヲ言渡ス但シ短期五年ヲ超ユル刑ヲ以テ處斷スヘキトキハ短期ヲ五年ニ短縮ス
 前項ノ規定ニ依リ言渡スヘキ刑ノ短期ハ五年長期ハ十年ヲ超ユルコトヲ得ス
 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ニハ前二項ノ規定ヲ適用セス

第九條 懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタル少年ニ對シテハ特ニ設ケタル監獄又ハ監獄内ノ特ニ分界ヲ設ケタル場所ニ於テ其ノ刑ヲ執行ス
 本人十八歳ニ達シタル後二十三歳ニ至ル迄ハ前項ノ規定ニ依リ執行ヲ繼續スルコトヲ得
 第十條 少年ニシテ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタル者ニハ左ノ期間ヲ經過シタル後假出獄ヲ許スコトヲ得

- 一 無期刑ニ付テハ七年
- 二 第七條第一項ノ規定ニ依リ言渡シタル刑ニ付テハ三年
- 三 第八條第一項及第二項ノ規定ニ依リ言渡シタル刑ニ付テハ其ノ刑ノ短期ノ三分ノ一
- 第十一條 少年ニシテ無期刑ノ言渡ヲ受ケタル者假出獄ヲ許サレタル後其ノ處分ヲ取消サルルコトナクシテ十年ヲ經過シタルトキハ刑ノ執行終リタルモノトス
 少年ニシテ第七條第一項又ハ第八條第一項及第二項ノ規定ニ依リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者假出獄ヲ許サレタル後其ノ處分ヲ取消サルルコトナクシテ假出獄前ニ刑ノ執行ヲ爲シタルト同一ノ期間ヲ經過シタルトキハ前項ニ同シ
- 第十二條 少年ノ假出獄ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十三條 少年ニ對シテハ勞務場留置ノ言渡ヲ爲サス
- 第十四條 少年ノ時犯シタル罪ニ因リ死刑又ハ無期刑ニ非サル刑ニ處セラレタル者ニシテ其ノ執行ヲ終ヘ又ハ執行免除ヲ受ケタルモノハ人ノ資格ニ關スル法令ノ適用ニ付テハ將來ニ向テ刑ノ言渡ヲ受ケサリシモノト看做ス
 少年ノ時犯シタル罪ニ付刑ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルモノハ其ノ猶豫期間中刑ノ執行ヲ

終ハタルモノト看做シ前項ノ規定ヲ適用ス
前項ノ場合ニ於テ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サレタルトキ
ハ入ノ資格ニ關スル法令ノ適用ニ付テハ其ノ取消サレタル
時刑ノ言渡アリタルモノト看做ス

第四章 少年審判所ノ組織

第十五條 少年ニ對シ保護處分ヲ爲ス爲少年審判所ヲ置ク
第十六條 少年審判所ノ設立、廢止及管轄ニ關スル規程ハ勅
令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 少年審判所ハ司法大臣ノ監督ニ屬ス

司法大臣ハ控訴院長及地方裁判所長ニ少年審判所ノ監督ヲ
命スルコトヲ得

第十八條 少年審判所ニ少年審判官、少年保護司及書記ヲ置
ク

第十九條 少年審判官ハ單獨ニテ審判ヲ爲ス

第二十條 少年審判官ハ少年審判所ノ事務ヲ管理シ所部ノ職
員ヲ監督ス

二人以上ノ少年審判官ヲ置キタル少年審判所ニ於テハ上席
者前項ノ規定ニ依ル職務ヲ行フ

第二十一條 少年審判官ハ判事ヲシテ之ヲ兼シムルコトヲ
得

判事タル資格ヲ有スル少年審判官ハ判事ヲ兼スルコトヲ得

第二十二條 少年審判官審判ノ公平ニ付嫌疑ヲ生スヘキ事由
アリト思料スルトキハ職務ヲ執行ヲ避クヘシ

第二十三條 少年保護司ハ少年審判官ヲ輔佐シテ審判ノ資料
ヲ供シ觀察事務ヲ掌ル

少年保護司ハ少年ノ保護又ハ教育ニ經驗ヲ有スル者其ノ他

適當ナル者ニ對シ司法大臣之ヲ囑託スルコトヲ得
第二十四條 書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ審判ニ關スル書類ノ調
製ヲ掌リ庶務ニ從事ス

第二十五條 少年審判所及少年保護司ハ其ノ職務ヲ行フニ付
公務所又ハ公務員ニ對シ囑託ヲ爲シ其ノ他必要ナル補助ヲ
求ムルコトヲ得

第五章 少年審判所ノ手續
第二十六條 大審院ノ特別權限ニ屬スル罪ヲ犯シタル者ハ少
年審判所ノ審判ニ付セス

第二十七條 左ニ記載シタル者ハ裁判所又ハ檢事ヨリ送致ヲ
受ケタル場合ヲ除クノ外少年審判所ノ審判ニ付セス

一 死刑、無期又ハ短期三年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ルヘ
キ罪ヲ犯シタル者

二 十六歳以上ニシテ罪ヲ犯シタル者

第二十八條 刑事手續ニ依リ審理中ノ者ハ少年審判所ノ審判
ニ付セス

十四歳ニ滿タサル者ハ地方長官ヨリ送致ヲ受ケタル場合ヲ
除クノ外少年審判所ノ審判ニ付セス

第二十九條 少年審判所ニ於テ保護處分ヲ爲スヘキ少年アル
コトヲ認知シタル者ハ之ヲ少年審判所又ハ其ノ職員ニ通告
スヘシ

第三十條 通告ヲ爲スニハ其ノ事由ヲ開示シ成ルヘタ本人及
其ノ保護者ノ氏名、住所、年齢、職業、性行等ヲ申立テ且
參考ト爲ルヘキ資料ヲ差出スヘシ

通告ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得口頭ノ通告ア
リタル場合ニ於テハ少年審判所ノ職員其ノ申立ヲ錄取スヘ

第三十一條 少年審判所審判ニ付スヘキ少年アリト思料シタ
ルトキハ事件ノ關係及本人ノ性行、境遇、經歷、心身ノ狀
況、教育ノ程度等ヲ調査スヘシ

心身ノ狀況ニ付テハ成ルヘク醫師ヲシテ診察ヲ爲サシムヘ
シ

第三十二條 少年審判所ハ少年保護司ニ命シテ必要ナル調査
ヲ爲サシムヘシ

第三十三條 少年審判所ハ事實ノ取調ヲ保護者ニ命シ又ハ之
ヲ保護團體ニ委託スルコトヲ得

保護者及保護團體ハ參考ト爲ルヘキ資料ヲ差出スコトヲ得

第三十四條 少年審判所ハ參考人ニ出頭ヲ命シ調査ノ爲必要
ナル事實ノ供述又ハ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ供述又ハ鑑定ノ要領
ヲ錄取スヘシ

第三十五條 參考人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ費用ヲ請求スル
コトヲ得

第三十六條 少年審判所ハ必要ニ依リ何時ニテモ少年保護司
ヲシテ本人ヲ同行セシムルコトヲ得

第三十七條 少年審判所ハ事情ニ從ヒ本人ニ對シ假ニ左ノ處
分ヲ爲スコトヲ得

一 條件ヲ附シ又ハ附セスシテ保護者ニ預クルコト

二 寺院、教會、保護團體又ハ適當ナル者ニ委託スルコト

三 病院ニ委託スルコト

四 少年保護司ノ觀察ニ付スルコト
已ムコトヲ得サル場合ニ於テハ本人ヲ假ニ感化院又ハ矯正

院ニ委託スルコトヲ得
第一項第一號乃至第三號ノ處分アリタルトキハ本人ヲ少年
保護司ノ觀察ニ付ス

第三十八條 前條ノ處分ハ何時ニテモ之ヲ取消シ又ハ變更ス
ルコトヲ得

第三十九條 前三條ノ場合ニ於テハ速ニ其ノ旨ヲ保護者ニ通
知スヘシ

第四十條 少年審判所調査ノ結果ニ因リ審判ヲ開始スヘキモ
ノト思料シタルトキハ審判期日ヲ定ムヘシ

第四十一條 審判ヲ開始セサル場合ニ於テハ第三十七條ノ處
分ハ之ヲ取消スヘシ

第三十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十二條 少年審判所審判ヲ開始スル場合ニ於テ必要アル
トキハ本人ノ爲附添人ヲ附スルコトヲ得

本人、保護者又ハ保護團體ハ少年審判所ノ許可ヲ受ケ附添
人ヲ選任スルコトヲ得

附添人ハ辯護士、保護事業ニ從事スル者又ハ少年審判所ノ
許可ヲ受ケタル者ヲ以テ之ニ充ツヘシ

第四十三條 審判期日ニハ少年審判官及書記出席スヘシ
少年保護司ハ審判期日ニ出席スルコトヲ得

審判期日ニハ本人、保護者及附添人ヲ呼出スヘシ但シ實益
ナシト認ムルトキハ保護者ハ之ヲ呼出ササルコトヲ得

第四十四條 少年保護司、保護者及附添人ハ審判ノ席ニ於テ
意見ヲ陳述スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ本人ヲ退席セシムヘシ但シ相當ノ事由
アルトキハ本人ヲ在席セシムルコトヲ得

第四十五條 審判ハ之ヲ公行セス但シ少年裁判所ハ本人ノ親族、保護事業ニ従事スル者其ノ他相當ト認ムル者ニ在席ヲ許スコトヲ得

第四十六條 少年裁判所審理ヲ終ヘタルトキハ第四十七條乃至第五十四條ノ規定ニ依リ終結處分ヲ爲スヘシ

第四十七條 刑事訴訟ノ必要アリト認メタルトキハ事件ヲ管轄裁判所ノ檢察ニ送致スヘシ

發見ニ因リ刑事訴訟ノ必要アリト認メタルトキハ管轄裁判所ノ檢察ノ意見ヲ聽キ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

前二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ本人及保護者ニ通知スヘシ

檢察ハ第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ送致ヲ受ケタル事件ニ付爲シタル處分ヲ少年裁判所ニ通知スヘシ

第四十八條 訓誡ヲ加フヘキモノト認メタルトキハ本人ニ對シ其ノ非行ヲ指摘シ將來遵守スヘキ事項ヲ諭告スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ成ルヘク保護者及附添人ヲシテ立會ハシムヘシ

第四十九條 學校長ノ訓誡ニ委スヘキモノト認メタルトキハ學校長ニ對シ必要ナル事項ヲ指示シ本人ニ訓誡ヲ加フヘキ旨ヲ告知スヘシ

第五十條 改心ノ誓約ヲ爲サシムヘキモノト認メタルトキハ本人ヲシテ誓約書ヲ差出サシムヘシ

前項ノ場合ニ於テハ成ルヘク保護者ヲシテ立會ハシメ且誓約書ニ連署セシムヘシ

第五十一條 條件ヲ附シテ保護者ニ引渡スヘキモノト認メタルトキハ保護者ニ對シ本人ノ保護監督ニ付必要ナル條件ヲ指示シ本人ヲ引渡スヘシ

第五十二條 寺院、教會、保護團體又ハ適當ナル者ニ委託スヘキモノト認メタルトキハ委託ヲ受ケヘキ者ニ對シ本人ノ處遇ニ付參考ト爲ルヘキ事項ヲ指示シ保護監督ノ任務ヲ委嘱スヘシ

第五十三條 少年保護司ノ觀察ニ付スヘキモノト認メタルトキハ少年保護司ニ對シ本人ノ保護監督ニ付必要ナル事項ヲ指示シ觀察ニ付スヘシ

第五十四條 感化院、矯正院又ハ病院ニ送致又ハ委託スヘキモノト認メタルトキハ其ノ長ニ對シ本人ノ處遇ニ付參考ト爲ルヘキ事項ヲ指示シ本人ヲ引渡スヘシ

第五十五條 刑罰法令ニ觸ルル行爲ヲ爲ス虞アル少年ニ對シ前三條ノ處分ヲ爲ス場合ニ於テ適當ナル親權者、後見人、戶主其ノ他ノ保護者アルトキハ其ノ承諾ヲ經ヘシ

第五十六條 少年裁判所ノ審判ニ付テハ始末書ヲ作り審判ヲ經タル事件及終結處分ヲ明確ニシ其ノ他必要ト認メタル事項ヲ記載スヘシ

第五十七條 少年裁判所第四十八條乃至第五十二條及第五十四條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ保護者、學校長、受託者又ハ感化院、矯正院若ハ病院ノ長ニ對シ成績報告ヲ求ムルコトヲ得

第五十八條 少年裁判所第五十一條及第五十二條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ少年保護司ヲシテ其ノ成績ヲ觀察シ適當ナル指示ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十九條 少年裁判所第四十八條乃至第五十四條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ少年保護司ニ囑託シテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第六十條 裁判所ハ公判期日前前條ノ調査ヲ爲シ又ハ受命判事ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第六十一條 裁判所又ハ豫審判事ハ職權ヲ以テ又ハ檢察ノ申立ニ因リ第三十七條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲スコトヲ得

第三十八條及第三十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十二條 勾留狀ハ已ムコトヲ得サル場合ニ非サレハ少年ニ對シテ之ヲ發スルコトヲ得ス

第六十三條 於テハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外少年ヲ獨居セシムヘシ

第六十四條 少年ノ被告人ハ他ノ被告人ト分離シ其ノ接觸ヲ避ケシムヘシ

第六十五條 少年ニ對スル被告事件ハ他ノ被告事件ト牽連スル場合ト雖審理ニ妨ナキ限リ其ノ手續ヲ分離スヘシ

第六十六條 裁判所ハ事情ニ依リ公判中一時少年ノ被告人ヲ退廷セシムルコトヲ得

第六十七條 第一審裁判所又ハ控訴裁判所審理ノ結果ニ因リ被告人ニ對シ第四條ノ處分ヲ爲スヲ相當ト認メタルトキハ少年裁判所ニ送致スル旨ノ決定ヲ爲スヘシ

第六十八條 第六十六條ノ處分ハ事件ヲ終局セシムル裁判ノ確定ニ因リ其ノ效力ヲ失フ

第六十九條 第四十二條、第四十三條第二項第三項及第四十四條ノ規定ハ公判ノ手續ニ第六十條及第六十一條ノ規定ハ

依ル處分ヲ爲シタル後審判ヲ經タル事件第二十六條又ハ第二十七條第一號ニ記載シタルモノナルコトヲ發見シタルトキハ裁判所又ハ檢察ヨリ送致ヲ受ケタル場合ト雖管轄裁判所ノ檢察ノ意見ヲ聽キ處分ヲ取消シ事件ヲ檢察ニ送致スヘシ

禁錮以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者ニ付第四條第一項第七號又ハ第八號ノ處分ヲ繼續スルニ適セサル事情アリト認メタルトキ亦前項ニ同シ

第六十條 少年裁判所本人ヲ寺院、教會、保護團體若ハ適當ナル者ニ委託シ又ハ病院ニ送致若ハ委託シタルトキハ委託又ハ送致ヲ受ケタル者ニ對シ之ニ因リ生シタル費用ノ全部又ハ一部ヲ給與スルコトヲ得

第六十一條 第三十五條及前條ノ費用並矯正院ニ於テ生シタル費用ハ少年裁判所ノ命令ニ依リ本人又ハ本人ヲ扶養スル義務アル者ヨリ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得

前項費用ノ徵收ニ付テハ非訟事件手續法第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第六章 裁判所ノ刑事手續

第六十二條 檢察少年ニ對スル刑事事件ニ付第四條ノ處分ヲ爲スヲ相當ト思料シタルトキハ事件ヲ少年裁判所ニ送致スヘシ

第六十三條 第四條ノ處分ヲ受ケタル少年ニ對シテハ審判ヲ經タル事件又ハ之ヨリ輕キ刑ニ該ルヘキ事件ニシテ處分前ニ犯シタルモノニ付刑事訴訟ヲ爲スコトヲ得但シ第五十九條ノ規定ニ依リ處分ヲ取消シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條 少年ニ對スル刑事事件ニ付テハ第三十一條ノ調

遺棄又ハ公判ノ手續ニ之ヲ準用ス

第七章 罰則

第七十四條 少年審判所ノ審判ニ付セラレタル事項又ハ少年ニ對スル刑事事件ニ付豫審又ハ公判ニ付セラレタル事項ハ之ヲ新聞紙其ノ他ノ出版物ニ掲載スルコトヲ得ス
前項ノ規定ニ違反シタルトキハ新聞紙ニ在リテハ編輯人及發行人、其ノ他ノ出版物ニ在リテハ著作者及發行者ヲ一年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十一年勅令第四百八十七號ヲ以テ大正十二年一月一日ヨリ施行）

○矯正院法

（大正十一年四月十七日法律第四十三號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル矯正院法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

矯正院法

第一條 矯正院ハ少年審判所ヨリ送致シタル者及民法第八百八十二條ノ規定ニ依リ入院ノ許可アリタル者ヲ收容スル所トス
第二條 矯正院ニ收容シタル者ノ在院ハ二十三歳ヲ超ユルコトヲ得ス
第三條 矯正院ニハ特ニ區劃シタル場所ヲ設ケ少年審判所、裁判所又ハ豫審判事ヨリ假ニ委託シタル者ヲ置ク

第四條 矯正院ハ收容スヘキ者ノ男女ノ別ニ從ヒ之ヲ設ケ
第五條 十六歳ニ滿タサル者ト十六歳以上ノ者トハ分界ヲ設ケタル場所ニ各別ニ之ヲ收容ス

第六條 矯正院ハ之ヲ國立トス

第七條 矯正院ハ司法大臣ノ管理ニ屬ス

第八條 司法大臣ハ少クトモ六月毎ニ一回官吏ヲシテ矯正院ヲ巡察セシムヘシ

少年審判官ハ隨時矯正院ヲ巡視スヘシ

第九條 在院者ニハ其ノ性格ヲ矯正スル爲メ嚴格ナル規律ノ下ニ教養ヲ施シ其ノ生活ニ必要ナル實業ヲ練習セシム

第十條 矯正院ノ長ハ勅令ヲ定ムル所ニ依リ在院者ヲ懲戒スルコトヲ得

第十一條 矯正院ノ長ハ已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ於テハ少年審判所ノ許可ヲ受ケ未成年ノ在院者及假退院者ノ爲メ親權者又ハ後見人ノ職務ニ屬スル行爲ヲ爲スコトヲ得

第十二條 矯正院ノ長少年審判所ヨリ送致シタル在院者ニ對シ執行ノ目的ヲ達シタリト認ムルトキハ少年審判所ノ許可ヲ受ケ之ヲシテ退院セシムヘシ

第十三條 矯正院ノ長ハ少年審判所ヨリ送致シタル在院者ニシテ收容後六月ヲ經過シタルモノニ對シ少年審判所ノ許可ヲ受ケ條件ヲ指定シテ假ニ退院ヲ許スコトヲ得

假退院ヲ許サレタル者ハ假退院ノ期間内少年保護司ノ觀察ニ付ス

第十四條 假退院者指定ノ條件ニ違背シタルトキハ矯正院ノ長ハ少年審判所ノ許可ヲ受ケ假退院ヲ取消スコトヲ得

第十五條 在院者又ハ假退院者逃走シタルトキハ少年審判所

及矯正院ノ職員ハ之ヲ逮捕スルコトヲ得

少年法第二十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外在院者ノ處遇ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

矯正院ノ長ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ在院者ノ處遇ニ關スル細則ヲ定ムヘシ

第十七條 前二條ノ規定ハ少年審判所、裁判所又ハ豫審判事ヨリ假ニ委託シタル者ニ付之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十一年勅令第四百八十七號ヲ以テ大正十二年一月一日ヨリ施行）

○少年教護法

（昭和八年五月五日法律第五十五號）

改正 昭和一六年第一二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル少年教護法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

少年教護法

第一條 本法ニ於テ少年ト稱スルハ十四歳ニ滿タザル者ニシテ不良行爲ヲ爲シ又ハ不良行爲ヲ爲ス虞アル者ヲ謂フ

第二條 北海道及府縣ハ少年教護院ヲ設置スベシ

前項少年教護院ノ數及收容定員ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

國ハ必要ノ場所ニ少年教護院ヲ設置ス

國立教護院ニハ教護事務ニ従事スル職員養成所ヲ附設スル

コトヲ得

第三條 少年教護院ニ於ケル教護ノ本旨、教科、設備及職員ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 少年教護院内ニ少年鑑別機關ヲ設クルコトヲ得

第五條 道府縣ノ設置スル少年教護院及少年鑑別機關ハ地方長官、國立少年教護院ハ内務大臣之ヲ管理ス

第六條 道府縣ハ勅令ヲ定ムル所ニ依リ少年教護ノ爲メ少年教護委員ヲ置クベシ

第七條 道府縣ニ非ザル者本法ニ依ル教護ヲ目的トスル少年教護院ヲ設置セントスルトキハ内務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第八條 地方長官ハ左記各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ之ヲ少年教護院ニ入院セシムベシ

一 少年ニシテ親權者又ハ後見人ヨリ入院ノ出願アリタル者

二 少年ニシテ親權者又ハ後見人ヨリ入院ノ出願アリタル者

三 少年審判所ヨリ送致セラレタル者

四 裁判所ノ許可ヲ得テ懲戒場ニ入ルベキ者

地方長官ハ前項第一號及第二號ニ該當スル者ニ對シ前項ノ處分ヲ爲スノ外之ヲ少年教護委員ノ觀察ニ付スルコトヲ得

第九條 内務大臣ハ前條第一項第一號又ハ第二號ニ掲グル者左記各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ國立教護院ニ入院セシムルコトヲ得

一 性狀特ニ不良ニシテ地方長官ヨリ入院ノ申請アリタル者

二 前號ニ該當セズト雖特ニ入院ノ必要アリト認メタル者

第十條 地方長官ハ第八條第一項第一號又ハ第二號ニ該當スル在院者ヲ何時ニテモ條件ヲ指定シテ假ニ退院セシムルコトヲ得

前項ノ假退院者ハ之ヲ家庭其ノ他適當ナル施設ニ委託シ又ハ少年教護委員ノ觀察ニ付スルコトヲ得

假退院者ハ之ヲ在院者ト看做ス

第十一條 少年ノ在院期間及觀察期間ハ少年ノ滿二十歳ニ至ル迄トス但シ第八條第三號又ハ第四號ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條 内務大臣又ハ地方長官ハ在院者ニ對シ教護ノ目的ヲ達シタリト認ムルトキハ之ヲ退院セシムルコトヲ得

第十三條 學校長、市町村長、少年教護委員又ハ警察署長第八條第一項第一號ニ該當スル者アリト認ムルトキハ之ヲ地方長官ニ具申スベシ

第十四條 地方長官、警察署長又ハ市町村長必要アリト認ムルトキハ第八條第一項第一號ニ該當スル者ノ處分決定ニ至ル迄一時保護ノ爲適當ナル施設者ハ家庭ニ委託スルコトヲ得仍警察署長ニ於テ特ニ必要アリト認ムルトキハ五日ヲ超エザル期間假ニ留置ヲ爲スコトヲ得

第十五條 少年教護院長ハ在院者ニ對シ親權ヲ行フ但シ親權者又ハ後見人アル者ノ財産管理ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條 内務大臣又ハ地方長官ハ本人又ハ扶養義務者ヨリ

在院委託及一時保護ニ要シタル費用ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得

前項費用ノ徵收ハ必要ニ應ジ納付義務者ノ居住地又ハ財産所在地ノ地方長官又ハ市町村長ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

第十七條 第八條乃至第十條ノ處分ヲ受ケタル者ノ親族又ハ後見人ハ入院後六箇月ヲ經過シタル場合其ノ處分ノ解除又ハ變更ヲ内務大臣又ハ地方長官ニ出願スルコトヲ得

第十八條 第八條第九條第十條又ハ第十六條第一項及第三項ノ處分ニ不服アル者及前條ノ出願ヲ許可セラレザル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第十九條 道府縣ノ設置スル少年教護院及少年鑑別機關、少年教護委員、一時保護及地方長官ノ爲シタル委託ニ關スル費用ハ道府縣ノ負擔トス

第二十條 國庫ハ前條第一項ノ規定ニ依ル道府縣ノ支出ニ對シ勸令ノ定ムル所ニ依リ六分ノ一乃至二分ノ一ヲ補助ス

第二十一條 第七條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル少年教護院ノ用ニ供スル土地建物ニ對シテハ地方稅ヲ課セズ但シ有料ニテ之ヲ使用セシメタル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條 内務大臣及地方長官ハ第七條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル少年教護院ヲ監督シ之ガ爲必要ナル命令ヲ發シ

又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 第七條ノ規定ニ依リ認可セラレタル少年教護院本法若ハ本法ニ基キ發スル命令又ハ認可ノ條件ニ違反シタルトキハ内務大臣ハ認可ヲ取消スコトヲ得

第二十四條 少年教護院長ハ在院中前項ノ教科ヲ履修シ性行改善シタル者ニ對シテハ其ノ退院後ニ於テ勸令ノ定ムル所ニ依リ國民學校ノ課程ヲ修了シタル者ト認定スルコトヲ得但シ少年教護院ノ教科ハ國民學校令ニ遵據シ文部大臣ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス

第二十五條 本法中町村又ハ町村費トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在テハ之ニ準ズベキモノトス

第二十六條 少年ノ教護處分ニ付セラレタル事項ハ之ヲ新聞紙其ノ他ノ出版物ニ掲載スルコトヲ得ズ

前項ノ規定ニ違反シタルトキハ新聞紙ニ在リテハ編輯人及發行人、其ノ他ノ出版物ニ在リテハ著作者及發行者ヲ三月以下ノ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勸令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和九年勸令第二百七十九號ヲ以テ同年十月十日ヨリ施行)

感化法ハ之ヲ廢止ス
少年法ニ依ル保護處分ノ實施セラレザル地區ニ限リ第一條ノ年齡ハ之ヲ十八歳未滿トス
本法施行ノ際現ニ存スル國立感化院及道府縣立感化院ハ之ヲ本法ニ依リ設置シタル少年教護院ト看做シ其ノ在院者ハ之ヲ

兒童虐待防止法

本法ニ依リ入院セシメラレタルモノト看做ス
本法施行ノ際現ニ存スル代用感化院ハ之ヲ第七條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル少年教護院ト看做シ其ノ在院者ニシテ感化法第五條ノ規定ニ依リ入院セシメラレタルモノハ之ヲ本法ニ依リ入院セシメラレタルモノト看做ス
本法施行ノ際道府縣立感化院ノ設置ナキ道府縣ハ本法施行ノ日ヨリ五年以内ニ少年教護院ヲ設置スルコトヲ要ス

○兒童虐待防止法 (昭和八年四月一日) (法律第四十號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル兒童虐待防止法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

兒童虐待防止法

第一條 本法ニ於テ兒童ト稱スルハ十四歳未滿ノ者ヲ謂フ
第二條 兒童ヲ保護スベキ責任アル者兒童ヲ虐待シ又ハ著シク其ノ監護ヲ怠リ因テ刑罰法令ニ觸レ又ハ觸ルル虞アル場合ニ於テハ地方長官ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 兒童ヲ保護スベキ責任アル者ニ對シ訓誡ヲ加フルコト
二 兒童ヲ保護スベキ責任アル者ニ對シ條件ヲ附シテ兒童ノ監護ヲ爲サシムルコト
三 兒童ヲ保護スベキ責任アル者ヨリ兒童ヲ引取り之ヲ其ノ親族其ノ他ノ私人ノ家庭又ハ適當ナル施設ニ委託スルコト

前項第三號ノ規定ニ依ル處分ヲ爲スベキ場合ニ於テ兒童ヲ保護スベキ責任アル者親權者又ハ後見人ニ非ザルトキハ地

方長官ハ兒童ヲ親權者又ハ後見人ニ引渡スベシ但シ親權者又ハ後見人ニ引渡スコト能ハザルトキ又ハ地方長官ニ於テ兒童保護ノ爲適當ナラズト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三條 地方長官ハ前條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ兒童ガ十四歳ニ達シタル後ト雖モ一年ヲ經過スル迄仍其ノ者ニ付前條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲スコトヲ得

第四條 前二條ノ規定ニ依ル處分ノ爲必要ナル費用ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本人又ハ其ノ扶養義務者ノ負擔トス但シ費用ノ負擔ヲ爲シタル扶養義務者ハ民法第九百五十五條及第九百五十六條ノ規定ニ依リ扶養義務ヲ履行スベキ者ニ對シ求償ヲ爲スコトヲ得

第五條 前條ノ費用ハ道府縣ニ於テ一時之ヲ繰替支辨スベシ

前項ノ規定ニ依リ繰替支辨シタル費用ノ辨償金徵收ニ付テハ府縣稅徵收ノ例ニ依ル

本人又ハ其ノ扶養義務者ヨリ辨償ヲ得ザル費用ハ道府縣ノ負擔トス

第六條 國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ道府縣ノ負擔スル費用ニ對シ其ノ二分ノ一以內ヲ補助ス

第七條 地方長官ハ輕業、曲馬又ハ戸戶ニ就キ若ハ道路ニ於テ行フ諸藝ノ演出者ハ物品ノ販賣其ノ他ノ業務及行爲ニシテ兒童ノ虐待ニ涉リ又ハ之ヲ誘發スル虞アルモノニ付必要アリト認ムルトキハ兒童ヲ用フルコトヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

前項ノ業務及行爲ノ種類ハ主務大臣之ヲ定ム

第八條 地方長官ハ第二條若ハ第三條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シ又ハ前條第一項ノ規定ニ依ル禁止若ハ制限ヲ爲ス爲必要アリト認ムルトキハ當該官吏又ハ吏員ヲシテ兒童ノ住所若ハ居所又ハ兒童ノ從業スル場所ニ立入り必要ナル調査ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ證票ヲ携帶セシムベシ

第九條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ地方長官ノ爲ス處分ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第十條 第七條第一項ノ規定ニ依ル禁止若ハ制限ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

兒童ヲ使用スル者ハ兒童ノ年齢ヲ知ラザルノ故ヲ以テ前項ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ但シ過失ナカリシ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十一條 正當ノ理由ナクシテ第八條ノ規定ニ依ル當該官吏若ハ吏員ノ職務執行ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ兒童ヲシテ答辯ヲ爲サシメズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲サシメタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和八年勅令第二百十七號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行)

○思想犯保護觀察法

(昭和十一年五月二十九日法律第二十九號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル思想犯保護觀察法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

思想犯保護觀察法

第一條 治安維持法ノ罪ヲ犯シタル者ニ對シ刑ノ執行猶豫ノ言渡アリタル場合又ハ訴追ヲ必要トセザル爲公訴ヲ提起セザル場合ニ於テハ保護觀察審査會ノ決議ニ依リ本人ヲ保護觀察ニ付スルコトヲ得本人刑ノ執行ヲ終リ又ハ假出獄ヲ許サレタル場合亦同ジ

第二條 保護觀察ニ於テハ本人ヲ保護シテ更ニ罪ヲ犯スノ危険ヲ防止スル爲其ノ思想及行動ヲ觀察スルモノトス

第三條 保護觀察ハ本人ヲ保護觀察所ノ保護司ノ觀察ニ付シ又ハ保護者ニ引渡シ若ハ保護團體、寺院、教會、病院其ノ他適當ナル者ニ委託シテ之ヲ爲ス

第四條 保護觀察ニ付セラレタル者ニ對シテハ居住、交友又ハ通信ノ制限其ノ他適當ナル條件ノ遵守ヲ命ズルコトヲ得

第五條 保護觀察ノ期間ハ二年トス特ニ繼續ノ必要アル場合ニ於テハ保護觀察審査會ノ決議ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得

第六條 第一條ニ定ムル事由ノ生ジタル場合ニ於テ必要アルトキハ本人ニ對シ保護觀察審査會ノ決議前假ニ第三條ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第七條 第三條又ハ第四條ノ處分ハ其ノ執行中何時ニテモ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得前條ノ處分ニ付亦同ジ

思想犯保護觀察法

第八條 保護觀察所ハ必要アルトキハ保護司ヲシテ本人ヲ同行セシムルコトヲ得

第九條 保護觀察所及保護司ハ其ノ職務ヲ行フニ付公務所又ハ公務員ニ對シ囑託ヲ爲シ其ノ他必要ナル補助ヲ求ムルコトヲ得

第十條 本人ヲ保護團體、寺院、教會、病院又ハ適當ナル者ニ委託シタルトキハ委託ヲ受ケタル者ニ對シ之ニ因リテ生ジタル費用ノ全部又ハ一部ヲ給付スルコトヲ得

第十一條 前條ノ費用ハ保護觀察所ノ命令ニ依リ本人又ハ本人ヲ扶養スル義務アル者ヨリ其ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得此ノ命令ニ付テハ非訟事件手續法第二百八條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ命令ニ不服アル者ハ命令ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ一月內ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ出訴ハ執行停止ノ效力ヲ有セズ

第十二條 少年ニシテ治安維持法ノ罪ヲ犯シタル者ニハ少年法ノ保護處分ニ關スル規定ヲ適用セズ

第十三條 本法ハ陸軍刑法第八條、第九條及海軍刑法第八條、第九條ニ掲グル者ニハ之ヲ適用セズ

第十四條 保護觀察所及保護觀察審査會ノ組織及權限並ニ保護觀察ノ實行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和十一年勅令第四百號ヲ以テ同年十一月二十日ヨリ施行)

本法ハ本法施行前ニ第一條ニ定ムル事由ノ生ジタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

○監獄法 (明治四十一年三月二十八日)

法律第二十八號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル監獄法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

監獄法

第一章 總則

第一條 監獄ハ之ヲ左ノ四種トス

- 一 懲役監 懲役ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
- 二 禁錮監 禁錮ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
- 三 拘留場 拘留ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
- 四 拘留監 刑事被告人及ヒ死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ拘禁スル所トス

拘留監ニハ懲役、禁錮又ハ拘留ニ處セラレタル者ヲ一時拘禁スルコトヲ得

警察官署ニ附屬スル留置場ハ之ヲ監獄ニ代用スルコトヲ得但懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ヲ一月以上繼續シテ拘禁スルコトヲ得ス

第二條 二月以上ノ懲役ニ處セラレタル十八歳未満ノ者ハ特ニ設ケタル監獄又ハ監獄内ニ於テ特ニ分界ヲ設ケタル場所ニ之ヲ拘禁ス

前項ノ規定ニ依ル者ハ滿二十歳ニ至ルマテ又滿二十歳ニ至リタル後三月内ニ刑期終了ス可キ者ハ其殘刑期間仍ホ繼續シテ之ヲ拘禁スルコトヲ得
心身發育ノ狀況ニ因リ必要ト認ムル者ハ前二項ノ適用ニ付キ年齡ニ拘ハラサルコトヲ得

第三條 監獄ニ男監及ヒ女監ヲ設ケ之ヲ分隔ス

懲役監、禁錮監、拘留場及ヒ拘留監ノ同一區劃内ニ在ルモノハ之ヲ分界ス

第四條 主務大臣ハ少クトモ二年毎ニ一回官吏ヲシテ監獄ヲ巡閱セシム可シ

判事及ヒ檢察官ハ監獄ヲ巡視スルコトヲ得

第五條 監獄ノ參觀ヲ請フ者アルトキハ學術ノ研究其他正當ノ理由アリト認ムル場合ニ限り命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ許スコトヲ得

第六條 本法ニ依リ没入シ又ハ國庫ニ歸屬シタル物ハ之ヲ監獄懲罰ニ用ニ充ツ

第七條 在監者監獄ノ處理ニ對シ不服アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣又ハ巡閱官吏ニ情願ヲ爲スコトヲ得

第八條 勞役場ハ之ヲ監獄ニ附設ス

前五條ノ規定ハ之ヲ勞役場ニ準用ス

第九條 本法中別段ノ規定アルモノヲ除ク外刑事被告人ニ適用ス可キ規定ハ死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用シ懲役囚ニ適用ス可キ規定ハ勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス

第十條 本法ハ陸海軍ニ屬スル監獄ニ之ヲ適用セス

第二章 收監

第十一條 新ニ入監スル者アルトキハ令狀又ハ判決書及ヒ執行指揮書其他適法ノ文書ヲ査閱シタル後入監セシム可シ
第十二條 新ニ入監スル婦女其子ヲ携帶センコトヲ請フトキハ必要ト認ムル場合ニ限り滿一歳ニ至ルマテ之ヲ許スコトヲ得

第十九條 在監中逃走、暴行若クハ自殺ノ虞アルトキ又ハ監外ニ在ルトキハ戒具ヲ使用スルコトヲ得

戒具ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 法令ニ依リ監獄官吏ノ携帶スル銃又ハ銃ハ左ノ各號ノ一ニ該ル場合ニ限り在監者ニ對シ之ヲ使用スルコトヲ得

一 一人ノ身體ニ對シテ危險ナル暴行ヲ爲シ又ハ爲ス可キ脅迫ヲ加フルトキ

二 危險ナル暴行ノ用ニ供シ得可キ物ヲ所持シ其放棄ヲ背セサルトキ

三 逃走ノ目的ヲ以テ多衆騷擾スルトキ

四 逃走ヲ企テタル者暴行ヲ爲シテ捕拿ヲ免カレントシ又ハ制止ニ從ハスシテ逃走セントスルトキ

第二十一條 天災事變ニ際シ必要ト認ムルトキハ在監者ヲシテ應急ノ用務ニ就カシムルコトヲ得

前項ノ用務ニ就キタル者ニハ第二十八條ノ規定ヲ準用ス

第二十二條 天災事變ニ際シ監獄内ニ於テ避難ノ手段ナシト認ムルトキハ在監者ヲ他所ニ護送ス可シ若シ護送スルノ途ナキトキハ一時之ヲ解放スルコトヲ得

解放セラレタル者ハ監獄又ハ警察官署ニ出頭ス可シ解放後二十四時間内ニ出頭セサルトキハ刑法第九十七條ニ依リ處斷ス

第二十三條 在監者逃走シタルトキハ監獄官吏ハ逃走後四十八時間内ニ限り之ヲ逮捕スルコトヲ得

前項ノ規定ハ刑事訴訟法第六十條ノ適用ヲ妨ケス

第五章 作業

監獄ニ於テ分焼シタル子ニ付テモ亦前項ノ例ニ依ル

第十三條 新ニ入監スル者傳染病預防法ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要トスル傳染病ニ罹リタルモノナルトキハ之ヲ入監セシメサルコトヲ得

第十四條 新ニ入監スル者アルトキハ其ノ身體及ヒ衣類ノ検査ヲ爲ス可シ在監中ノ者ニ付キ必要ト認ムルトキ亦同シ

第三章 拘禁

第十五條 在監者ハ心身ノ狀況ニ因リ不適當ト認ムルモノヲ除ク外之ヲ獨居拘禁ニ付スルコトヲ得

第十六條 雜居拘禁ニ在テハ在監者ノ罪質、性格、犯數、年齡等ヲ斟酌シテ其ノ監房ヲ別異ス

第一條第二項及ヒ第三項ノ場合ニ於テハ在監者ノ種類ニ依リ其監房ヲ別異ス

十八歳未満ノ者ハ第二條第二項ノ場合ヲ除ク外十八歳以上ノ者ト其監房ヲ別異ス但心身發育ノ狀況ニ因リ其必要ナシト認ムルトキハ此限ニ在ラス

前三項ノ規定ハ工場ニ於ケル就業ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十七條 刑事被告人ニシテ被害事件ノ相關連スルモノハ互ニ其監房ヲ別異シ監房外ニ於テモ其交通ヲ遮斷ス

第十八條 懲役監、禁錮監、拘留場、拘留監及ヒ勞役場ノ同一區劃内ニ在ル場合ニ於テハ同性者ニ付キ同一ノ病監又ハ救護堂ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ在監者ノ種題ニ因リ監房若クハ座席又ハ診察若クハ教誨ノ時間ヲ異ニス

病監ニ在テハ第二條及ヒ第十六條ヲ適用セサルコトヲ得

第四章 戒護

第二十四條 作業ハ衛生、經濟及ヒ在監者ノ刑期、健康、技能、職業、將來ノ生計等ヲ斟酌シテ之ヲ課ス

十八歳未満ノ者ニ課ス可キ作業ニ付テハ前項ノ外特ニ教養ニ關スル事項ヲ斟酌ス

第二十五條 大祭祝日、一月一日二日及ヒ十二月三十一日ニハ就業ヲ免ス

父母ノ計ニ接シタル者ハ三日間其就業ヲ免ス

主務大臣ハ必要ト認ムルトキハ臨時就業ヲ免スルコトヲ得

飲事、酒掃、看護其他監獄ノ經理ニ關シ必要ナル作業ニ就ク者ニ付テハ就業ヲ免セサルコトヲ得

第二十六條 刑事被告人、拘留囚又ハ禁錮囚作業ニ就カントラ請フトキハ其選擇スルモノニ就キ之ヲ許スコトヲ得

第二十七條 作業ノ收入ハ總テ國庫ノ所得トス

在監者ニシテ作業ニ就タモノニハ命令ノ定ムル所ニ依リ作業賞與金ヲ給スルコトヲ得

作業賞與金ハ行狀、作業ノ成績等ヲ斟酌シテ其額ヲ定ム

第二十八條 在監者就業ニ因リ創傷ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之カ爲メニ死亡シ又ハ業務ヲ營ミ難キニ至リタルトキハ情狀ニ因リ手當金ヲ給スルコトヲ得

前項ノ手當金ハ釋放ノ際本人ニ之ヲ給シ死亡ノ場合ニ於テハ死亡者ノ父、母、配偶者又ハ子ニ之ヲ給ス

第六章 教誨及ヒ教育

第二十九條 受刑者ニハ教誨ヲ施ス可シ其他ノ在監者教誨ヲ請フトキハ之ヲ許スコトヲ得

第三十條 十八歳未満ノ受刑者ニハ教育ヲ施ス可シ其他ノ受

刑者ニシテ特ニ必要アリト認ムルモノニハ年齢ニ拘ハラス教育ヲ施スコトヲ得

第三十一條 在監者文書、圖書ノ閱讀ヲ請フトキハ之ヲ許ス

文書、圖書ノ閱讀ニ關スル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七章 給養

第三十二條 受刑者ニハ一定ノ衣類器具ヲ着用セシム但拘留囚ニハ自衣ノ着用ヲ許シ其他ノ者ニハ襦袢衣ノ自辨ヲ許スコトヲ得

第三十三條 刑事被告人及ヒ勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ノ衣類器具ハ自辨トシ其自辨スルコト能ハサル者ニハ之ヲ貸與ス

自辨ノ衣類器具ニ關スル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 在監者ニハ其體質、健康、年齢、作業等ヲ斟酌シテ必要ナル糧食及ヒ飲料ヲ給ス

第三十五條 刑事被告人ニハ糧食ノ自辨ヲ許スコトヲ得

第八章 衛生及ヒ醫療

第三十六條 在監者ノ頭髮鬚髯ハ之ヲ翦剃セシムルコトヲ得但刑事被告人ノ頭髮鬚髯ハ衛生上特ニ必要アリト認ムル場合ヲ除ク外其意思ニ反シテ之ヲ翦剃セシムルコトヲ得

第三十七條 在監者ハ其拘禁セラルル監房ノ清潔ヲ保ツニ必要ナル用務ニ服ス可シ

第三十八條 在監者ニハ其健康ヲ保ツニ必要ナル運動ヲ爲サシム

第三十九條 在監者ニハ種痘其他傳染病豫防ニ必要ト認ムル醫術ヲ行フコトヲ得

第四十條 在監者疾病ニ罹リタルトキハ醫師ヲシテ治療セシム必要アルトキハ之ヲ病監ニ收容ス

第四十一條 傳染病者ハ嚴ニ之ヲ隔離シ健康者及ヒ他ノ病者ニ接近セシムルコトヲ得ズ但懲役囚ヲシテ看護セシムルハ此限ニ在ラス

第四十二條 病者醫師ヲ指定シ自費ヲ以テ治療ヲ補助セシム

ソコトヲ請フトキハ情狀ニ因リ之ヲ許スコトヲ得

第四十三條 精神病、傳染病其他ノ疾病ニ罹リ監獄ニ在テ適當ノ治療ヲ施スコト能ハスト認ムル病者ハ情狀ニ因リ假ニ之ヲ病院ニ移送スルコトヲ得

前項ニ依リ病院ニ移送シタル者ハ之ヲ在監者ト看做ス

第四十四條 妊婦、産婦、老弱者及ヒ不具者ハ之ヲ病者ニ準スルコトヲ得

第九章 接見及ヒ信書

第四十五條 在監者ニ接見セソコトヲ請フ者アルトキハ之ヲ許ス

受刑者ニハ其親族ニ非サル者ト接見ヲ爲サシムルコトヲ得

ス但特ニ必要アリト認ルム場合ハ此限ニ在ラス

第四十六條 在監者ニハ信書ヲ發シ又ハ之ヲ受クルコトヲ許ス

受刑者ニハ其親族ニ非サル者ト信書ノ發受ヲ爲サシムルコトヲ得

ト但特ニ必要アリト認ルム場合ハ此限ニ在ラス

第四十七條 受刑者ニ係ル信書ニシテ不適當ト認ムルモノハ發受ヲ許サス

前項ニ依リ發受ヲ許ササル信書ハ二年ヲ經過シタル後之ヲ廢棄スルコトヲ得

第四十八條 裁判所其他ノ公務所ヨリ在監者ニ宛テタル文書ハ封筒シテ之ヲ本人ニ交付ス

第四十九條 在監者ニ交付シタル信書及ヒ前條ノ文書ハ本人閱讀ノ後之ヲ領置ス

第五十條 接見ノ立會、信書ノ檢閱其他接見及ヒ信書ニ關スル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十章 領置

第五十一條 在監者ノ携有スル物ハ點檢シテ之ヲ領置ス

保存ノ價值ナク又ハ保存ニ不適當ト認ムル物ハ其領置ヲ爲サス又ハ之ヲ解クコトヲ得

領置ヲ爲サス又ハ之ヲ解キタル物ニ付キ在監者相當ノ處分ヲ爲ササルトキハ之ヲ廢棄スルコトヲ得

第五十二條 在監者領置物ヲ以テ其父、母、配偶者又ハ子ノ扶助其他正當ノ用途ニ充テソコトヲ請フトキハ情狀ニ因リ之ヲ許スコトヲ得

第五十三條 在監者ニ差入ヲ爲サソコトヲ請フ者アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ許スコトヲ得

在監者ニ宛テ送致シ來リタル物ニシテ其差出人ノ氏名若クハ居所不明ナルトキ、其差入ヲ許ス可カラスト認ムルトキ又ハ在監者ニ於テ其受領ヲ拒ミタルトキハ之ヲ没入又ハ廢棄スルコトヲ得

第五十四條 在監者ノ私ニ所持スル物ハ之ヲ没入又ハ廢棄スルコトヲ得

第五十五條 領置物ハ釋放ノ際之ヲ交付ス

第五十六條 死亡者ノ遺留物ハ請求ニ因リ相続人、家族又ハ親族ニ之ヲ交付ス

第五十七條 死亡者ノ遺留物ハ死亡ノ日ヨリ一年內ニ前條ニ掲ケタル者ノ請求ナキトキハ國庫ニ歸屬ス
逃走者ノ遺留物ニシテ逃走ノ日ヨリ一年內ニ居所分明セザルトキ亦同シ

第五十八條 受刑者改悛ノ狀アルトキハ賞遇ヲ爲スコトヲ得

賞遇ノ種類及ヒ方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條 在監者紀律ニ違ヒタルトキハ懲罰ニ處ス
第六十條 處罰ハ左ノ如シ

- 一 叱責
 - 二 賞遇ノ三月以内ノ停止
 - 三 賞遇ノ廢止
 - 四 文書、圖書閱讀ノ三月以内ノ禁止
 - 五 請願作業ノ十日以内ノ停止
 - 六 自辨ニ係ル衣類器具着用ノ十五日以内ノ停止
 - 七 糧食自辨ノ十五日以内ノ停止
 - 八 運動ノ五日以内ノ停止
 - 九 作業賞與金計算高ノ一部又ハ全部減額
 - 十 七日以内ノ減食
 - 十一 二日以内ノ輕屏禁
 - 十二 七日以内ノ重屏禁
- 屏禁ハ受罰者ヲ罰室內ニ晝夜屏居セシメ情狀ニ因リ就業セシメサルコトヲ得重屏禁ニ在テハ仍ホ罰室ヲ暗クシ臥具ヲ禁ス
- 第一項各號ノ懲罰ハ之ヲ併科スルコトヲ得

第六十一條 前條第一項第十號ノ懲罰ハ刑事被告人及ヒ十八歳未満ノ在監者ニ之ヲ科セス

第六十二條 懲罰ニ處セラレタル者疾病其他特別ノ事由アルトキハ其懲罰ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

懲罰ニ處セラレタル者改悛ノ狀著シキトキハ其懲罰ヲ免除スルコトヲ得

第十二章 釋放

第六十三條 在監者ノ釋放ハ恩赦、職權アル者ノ命令又ハ刑期ノ終了ニ因リ關係文書ヲ查閱シテ其手續ヲ爲スコトヲ得

第六十四條 恩赦ヲ受ケ又ハ假出獄若クハ假出場ヲ許サレタル者ハ其裁可狀又ハ許可書ノ監獄ニ達シタル後二十四時間内ニ之ヲ釋放ス

第六十五條 前條ノ場合ヲ除ク外命令ニ因リ釋放ヲ爲スコキ者ハ命令書ノ監獄ニ達シタル後十時間内ニ之ヲ釋放ス

第六十六條 假出獄又ハ假出場ヲ許サレタル者ヲ釋放スルトキハ之ニ證據ヲ交付ス

第六十七條 假出獄ヲ許サレタル者ハ其期間左ノ規定ヲ遵守ス可シ

- 一 正業ニ就キ善行ヲ保ツコト
 - 二 警察官署ノ監督ヲ受ケタルコト但警察官署ハ監獄ノ意見ヲ聽キ他ニ其監督ヲ委任スルコトヲ得
 - 三 住居ヲ轉移シ又ハ十日以上旅行ヲ爲サントスルトキハ監督者ノ許可ヲ請フコト
- 主務大臣ハ假出獄ヲ許サレタル者ノ帝國外ニ旅行ヲ爲スヲ許スコトヲ得
- 第六十八條 滿期ノ者ハ其刑期終了ノ翌日午後六時マテニ之

ヲ釋放ス

第六十九條 釋放セラル可キ者重キ疾病ニ罹リ監獄ニ於テ醫療中ナルトキハ其請求ニ因リ仍ホ在監セシムルコトヲ得

第七十條 釋放セラル可キ者歸住旅費若クハ相當ノ衣類ヲ有セザルトキ又ハ監獄行政ノ便宜ニ因リ移監セシメタルカ爲メ歸住旅費ノ増加ヲ要スルニ至リタルトキハ衣類又ハ旅費ヲ給與スルコトヲ得

第十三章 死亡

第七十一條 死刑ノ執行ハ監獄内ノ刑場ニ於テ之ヲ爲ス
大祭祝日、一月一日二日及ヒ十二月三十一日ニハ死刑ヲ執行セズ

第七十二條 死刑ヲ執行スルトキハ絞首ノ後死相ヲ檢シ仍ホ五分時ヲ經ルニ非サレハ絞繩ヲ解クコトヲ得

第七十三條 在監者死亡シタルトキハ之ヲ假葬ス
死體ハ必要ト認ムルトキハ之ヲ火葬スルコトヲ得

第七十四條 死亡者ノ親族故舊ニシテ死體又ハ遺骨ヲ請フ者アルトキハ何時ニテモ之ヲ交付スルコトヲ得但合葬後ハ此限ニ在ラス

第七十五條 受刑者ノ死體ハ命令ノ定ムル所ニ依リ解剖ノ爲メ病院、學校又ハ其他ノ公務所ニ之ヲ送付スルコトヲ得

本法ハ刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
監獄則ハ之ヲ廢止ス但懲治人ニ關スル規定ハ當分ノ内仍ホ其效力ヲ有ス

○恩赦令 (大正元年九月二十六日勅令第二十三號)

改正 昭和二年第一〇號、昭和九年第三九三號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ恩赦令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

恩赦令

第一條 大赦、特赦、減刑及復權ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 大赦ハ勅令ヲ以テ罪ノ種類ヲ定メ之ヲ行フ

第三條 大赦ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外大赦アリタル罪ニ付左ノ效力ヲ有ス

一 刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ其ノ言渡ハ將來ニ向テ效力ヲ失フ

二 未タ刑ノ言渡ヲ受ケサル者ニ付テハ公訴權ハ消滅ス

第四條 特赦ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル特定期ノ者ニ對シ之ヲ行フ

第五條 特赦ハ刑ノ執行ヲ免除ス但シ特別ノ事情アルトキハ將來ニ向テ刑ノ言渡ノ效力ヲ失ハシムルコトヲ得

第六條 減刑ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シ勅令ヲ以テ罪若ハ刑ノ種類ヲ定メ之ヲ行ヒ又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル特定期ノ者ニ對シ之ヲ行フ

第七條 勅令ニ依ル減刑ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外將來ニ向テ刑ヲ變更ス

特定ノ者ニ對スル減刑ハ刑ノ執行ヲ減輕ス但シ特別ノ事情アルトキハ刑ヲ變更スルコトヲ得

第八條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテハ刑ノ言渡ノ效力ヲ失ハシムル特赦若ハ刑ヲ變更スル減刑ヲ行ヒ又ハ其ノ減刑ト共ニ猶豫ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得

第九條 復権ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル爲法令ノ定ムル所ニ依リ資格ヲ喪失シ又ハ停止セラレタル者ニ對シ勅令ヲ以テ要件ヲ定メ之ヲ行ヒ又ハ特定ノ者ニ付之ヲ行フ但シ刑ノ執行ヲ終ラサル者又ハ執行ノ免除ヲ得サル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第十條 復権ハ將來ニ向テ資格ヲ回復ス

復権ハ特定ノ資格ニ付之ヲ行フコトヲ得

第十一條 刑ノ言渡ニ基ク既成ノ效果ハ大赦、特赦、減刑又ハ復権ニ因リ變更セラルルコトナシ

第十二條 特赦又ハ特定ノ者ニ對スル減刑若ハ復権ハ司法大臣之ヲ上奏ス

第十三條 刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事又ハ受刑者ノ在監スル監獄ノ長ハ司法大臣ニ特赦又ハ減刑ノ申立ヲ爲スコトヲ得

監獄ノ長前項ノ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ヲ經由スヘシ

第十四條 特赦又ハ減刑ノ申立書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

- 一 判決ノ謄本又ハ抄本
- 二 刑期計算書
- 三 犯罪ノ情狀、本人ノ性行、受刑中ノ行狀、將來ノ生計其ノ他參考ト爲ルヘキ事項ニ關スル調査書類

第十五條 刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ハ職權ヲ以テ又ハ本人ノ出願ニ依リ司法大臣ニ復権ノ申立ヲ爲スコトヲ得

復権ノ出願ハ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル日ヨリ三年ヲ經過シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十六條 復権ノ申立書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

- 一 判決ノ謄本又ハ抄本
- 二 刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタルコトヲ證スル書類
- 三 刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル後ニ於ケル本人ノ行狀、現在及將來ノ生計其ノ他參考ト爲ルヘキ事項ニ關スル調査書類

本人ノ出願ニ依リ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ前項ノ書類ノ外其ノ願書ヲ添附スヘシ

第十七條 特赦、減刑又ハ復権ノ裁可アリタルトキハ司法大臣ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ニ特赦狀、減刑狀又ハ復権狀ヲ送付シ之ヲ本人ニ下付セシムヘシ

第十八條 大赦、特赦、減刑又ハ復権アリタルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ハ判決ノ原本ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第十九條 本令中司法大臣ノ職務ハ軍法會議ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ陸軍大臣又ハ海軍大臣、朝鮮臺灣關東州南洋群島又ハ帝國カ治外法權ヲ行使スル地域ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ朝鮮總督臺灣總督滿洲國駐劄特命全權大使拓務大臣又ハ外務大臣之ヲ行ヒ檢事ノ職務ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議ノ檢察官、法院ノ檢察官、領事官又ハ犯罪即決官廳之ヲ行フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十一年勅令第二百十五號、第二百十六號及第二百三十號ハ之ヲ廢止ス

諸

法

諸法

○特許法	一
○實用新案法	九
○意匠法	二五
○商標法	三〇
○不正競争防止法	三六
○商店法	三九
○商店法施行令	四一
○宗教團體法	四三
○著作權法	四六
○出版法	五三

○豫約出版法	五七
○新聞紙法	五九
○土地收用法	六三
○森林法	七二
○牧野法	八三
○礦業法	九〇
○礦害賠償ニ關スル調停及仲裁判斷ノ手續料等ニ關スル件	一〇三
○砂礦法	一〇五
○漁業法	一〇九

諸法目次

○特許法（大正一〇年法律第九六號）……………一

第一章 總則……………一

第二章 特許權……………五

第三章 登錄、特許證、公報及明細書、特許標記並特許料……………八

第四章 審查……………一〇

第五章 審判、抗告審判及出訴……………一一

第六章 再審……………一五

第七章 罰則……………一七

附則……………一八

○實用新案法（大正一〇年法律第九七號）……………一九

○意匠法（大正一〇年法律第九八號）……………二五

○商標法（大正一〇年法律第九九號）……………三〇

○不正競爭防止法（昭和九年法律第一四號）……………三六

○商店法（昭和十三年法律第二八號）……………三九

○商店法施行令（昭和十三年勅令第六一九號）……………四一

○宗教團體法（昭和十四年法律第七七號）……………四三

○著作權法（明治三十二年法律第三九號）……………四八

第一章 著作者ノ權利……………四八

第二章 出版權……………五一

第三章 偽作……………五一

第四章 罰則……………五三

第五章 附則……………五三

○出版法（明治二六年法律第一五號）……………五五

○豫約出版法（明治四三年法律第五五號）……………五七

○新聞紙法（明治四二年法律第四一號）……………五九

○土地收用法（明治三三年法律第二九號）……………六三

第一章 總則……………六三

第二章 事業ノ準備……………六四

第三章 事業ノ認定……………六四

第四章 收用ノ手續……………六五

第五章 收用審査會……………六七

第六章 損失ノ補償……………六八

第七章 收用ノ效果……………六九

第八章 費用ノ負擔……………七〇

第九章 監督、強制及罰則……………七〇

第十章 訴願及訴訟……………七一

附則……………七一

○森林法（明治四〇年法律第四三號）……………七三

第一章 總則……………七三

第二章 營林ノ監督……………七三

第三章 保安林……………七四

第四章 土地ノ使用及收用……………七六

第五章 森林組合及森林組合聯合會……………七八

第六章 森林警察……………八一

第七章 罰則……………八二

第八章 附則……………八三

附則……………八四

○牧野法 (昭和六年法律第三七號)……………八五

○鑛業法 (明治三八年法律第四五號)……………九〇

第一章 總則……………九〇

第二章 鑛業權……………九三

第三章 土地使用……………九五

第四章 鑛業警察……………九七

第五章 鑛害ノ賠償……………九七

第六章 鑛夫……………九九

第七章 鑛業稅……………九九

第八章 訴訟、訴訟及裁決……………一〇〇

第九章 罰則……………一〇〇

附則……………一〇一

○鑛害賠償ニ關スル調停及仲裁判斷ノ手数料等

二關スル件 (昭和十四年勅令第八七六號)……………一〇五

○砂鑛法 (明治四二年法律第一三號)……………一〇五

○漁業法 (明治四三年法律第五八號)……………一〇六

○特許法 (大正十年四月三十日 法律第九十六號)

改正 昭和四年第四七號、昭和一三年第三號、第五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル特許法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

特許法

第一章 總則

第一條 新規ナル工業的發明ヲ爲シタル者ハ其ノ發明ニ付特許ヲ受クルコトヲ得

第二條 特許權者又ハ特許出願者ハ其ノ發明ノ改良又ハ擴張ニ係ル新規ノ發明ニ付獨立ノ特許ニ代ヘ追加ノ特許ヲ受クルコトヲ得

第二條 左ニ掲クル發明ニ付テハ之ヲ特許セス

一 飲食物又ハ嗜好物

二 醫藥又ハ其ノ調合法

三 化學方法ニ依リ製造スヘキ物質

四 秩序若ハ風俗ヲ紊リ又ハ衛生ヲ害スルノ虞アルモノ

第四條 本法ニ於テ發明ノ新規ト稱スルハ發明力左ノ各號ノ一ニ該當スルコトナキヲ謂フ

一 該當スルコトナキヲ謂フ

一 特許出願前帝國内ニ於テ公然知ラレ又ハ公然用キラレタルモノ

二 特許出願前帝國内ニ頒布セラレタル刊行物ニ容易ニ實施スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ記載セラレタルモノ

第五條 特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者カ試驗ノ爲其ノ者ノ

特許法 總則

發明ヲ前條各號ノ一ニ該當スルニ至ラシメタル場合ニ於テ其ノ日ヨリ六月以内ニ其ノ者カ特許ヲ出願シタルトキハ其ノ者ノ發明ハ之ヲ新規ナルモノト看做ス

特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者ノ意ニ反シテ其ノ者ノ發明カ前條各號ノ一ニ該當スルニ至リタル場合ニ於テ其ノ日ヨリ六月以内ニ其ノ者カ特許ヲ出願シタルトキ亦前項ニ同シ

第六條 特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者カ政府ノ開設シ、道府縣若ハ之ニ準スヘキモノノ開設シ若ハ政府ノ認可ヲ得テ開設スル博覽會又ハ工業所有權保護同盟條約國ノ版圖内ニ開設スル官設若ハ官許ノ萬國博覽會ニ出品ノ爲其ノ者ノ發明ヲ第四條各號ノ一ニ該當スルニ至ラシメタル場合ニ於テ其ノ開會ノ日ヨリ六月以内ニ其ノ者カ特許ヲ出願シタルトキハ其ノ者ノ發明ハ之ヲ新規ナルモノト看做ス

前項ニ掲クル萬國博覽會ヲ除クノ外外國ノ版圖内ニ開設スル官設又ハ官許ノ博覽會ニ出品スル發明ニ付保護ヲ與フルノ必要アルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 特許出願ハ一發明毎ニ之ヲ爲スヘシ但シ二以上ノ發明カ牽連シテ利用上一發明ヲ爲スモノト認メ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 同一發明ニ付テハ最先ノ出願者ニ限り特許ス但シ同日ノ各別ノ出願者アルトキハ出願者ノ協議ニ依リ特許シ協議ハサルトキハ共ニ特許セス

第九條 二以上ノ發明ヲ包含スル特許出願ヲ二以上ノ出願ト爲シタルトキハ各出願ハ最初出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

追加ノ特許出願ヲ獨立ノ特許出願ニ、獨立ノ特許出願ヲ追

發明ヲ前條各號ノ一ニ該當スルニ至ラシメタル場合ニ於テ其ノ日ヨリ六月以内ニ其ノ者カ特許ヲ出願シタルトキハ其ノ者ノ發明ハ之ヲ新規ナルモノト看做ス

特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者ノ意ニ反シテ其ノ者ノ發明カ前條各號ノ一ニ該當スルニ至リタル場合ニ於テ其ノ日ヨリ六月以内ニ其ノ者カ特許ヲ出願シタルトキ亦前項ニ同シ

第六條 特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者カ政府ノ開設シ、道府縣若ハ之ニ準スヘキモノノ開設シ若ハ政府ノ認可ヲ得テ開設スル博覽會又ハ工業所有權保護同盟條約國ノ版圖内ニ開設スル官設若ハ官許ノ萬國博覽會ニ出品ノ爲其ノ者ノ發明ヲ第四條各號ノ一ニ該當スルニ至ラシメタル場合ニ於テ其ノ開會ノ日ヨリ六月以内ニ其ノ者カ特許ヲ出願シタルトキハ其ノ者ノ發明ハ之ヲ新規ナルモノト看做ス

前項ニ掲クル萬國博覽會ヲ除クノ外外國ノ版圖内ニ開設スル官設又ハ官許ノ博覽會ニ出品スル發明ニ付保護ヲ與フルノ必要アルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 特許出願ハ一發明毎ニ之ヲ爲スヘシ但シ二以上ノ發明カ牽連シテ利用上一發明ヲ爲スモノト認メ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 同一發明ニ付テハ最先ノ出願者ニ限り特許ス但シ同日ノ各別ノ出願者アルトキハ出願者ノ協議ニ依リ特許シ協議ハサルトキハ共ニ特許セス

第九條 二以上ノ發明ヲ包含スル特許出願ヲ二以上ノ出願ト爲シタルトキハ各出願ハ最初出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

追加ノ特許出願ヲ獨立ノ特許出願ニ、獨立ノ特許出願ヲ追

加ノ特許出願ニ變更シタルトキ亦前項ニ同シ
 第十條 特許出願カ特許ヲ受クルノ權利ノ承繼人ニ非サル者
 又ハ特許ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ノ爲シタルモノナ
 ルニ因リ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テ
 其ノ特許出願ノ後ニ爲シタル正當權利者ノ出願ハ其ノ特許
 ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル特許出願ノ時ニ於テ之ヲ
 爲シタルモノト看做ス但シ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至
 リタル日ヨリ三十日ヲ、出願公告アリタル場合ニ於テハ出
 願公告ノ日ヨリ三十日ヲ經過シタル後ノ出願ニ係ルトキハ
 此ノ限ニ在ラス

第十一條 特許カ特許ヲ受クルノ權利ノ承繼人ニ非サル者又
 ハ特許ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ノ受ケタルモノナル
 ニ因リ其ノ特許ヲ無効トスル審決確定シ又ハ判決アリタル
 場合ニ於テ其ノ特許ノ出願ノ後ニ爲シタル正當權利者ノ出
 願ハ其ノ無効ト爲リタル特許ノ出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタ
 ルモノト看做ス但シ其ノ特許ノ出願公告ノ日ヨリ五年ヲ經
 過シタル後ノ出願又ハ其ノ審決確定シ若ハ判決アリタル日
 ヨリ三十日ヲ經過シタル後ノ出願ニ係ルトキハ此ノ限ニ在
 ラス

第十二條 特許ヲ受クルノ權利ハ之ヲ移轉スルコトヲ得但シ
 擔保ニ供スルコトヲ得ス
 特許ヲ受クルノ權利カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ
 他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スルコト
 ヲ得ス
 特許ヲ受クルノ權利ノ承繼ハ承繼人カ特許出願前ニ在リテ
 ハ特許ヲ出願シ特許出願後ニ在リテハ出願人名義ノ變更ヲ

届出タルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
 但シ同日ノ出願又ハ届出ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ
 協議調ハサルトキハ共ニ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
 第十三條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ法定又ハ
 指定ノ期間ノ計算ハ左ノ規定ニ依ル
 一 期間ノ初日ハ之ヲ算入セス但シ其ノ期間カ午前零時ヨ
 リ始ルトキハ此ノ限ニ在ラス
 二 期間ヲ定ムルニ月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從フ
 月又ハ年ノ始ヨリ期間ヲ起算セサルトキハ其ノ期間ハ最
 後ノ月又ハ年ニ於テ其ノ起算日ニ應當スル日ノ前日ヲ以
 テ満了ス但シ最後ノ月ニ應當日ナキトキハ其ノ月ノ末日
 ヲ以テ満了ス

特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ニ付テノ法定又ハ指
 定ノ期間ノ末日カ日曜日又ハ一般ノ祝祭日ニ當ルヘキトキ
 ハ其ノ日ノ翌日ヲ以テ其ノ期間ノ末日トス
 第十四條 被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ其ノ勤務ニ關シ
 爲シタル發明ニ付テハ性質上使用者、法人又ハ職務ヲ執行
 セシムル者ノ業務範圍ニ屬シ且其ノ發明ヲ爲スニ至リタル
 行爲カ被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ任務ニ屬スル場合
 ノモノヲ除クノ外豫メ使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシム
 ル者ヲシテ特許ヲ受クルノ權利又ハ特許權ヲ承繼セシムル
 コトヲ定メタル契約又ハ勤務規程ノ條項ハ之ヲ無効トス
 使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ハ被用者、法人ノ
 役員又ハ公務員ノ其ノ勤務ニ關シ爲シタル發明ニシテ性質
 上使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ノ業務範圍ニ屬
 シ且其ノ發明ヲ爲スニ至リタル行爲カ被用者、法人ノ役員

又ハ公務員ノ任務ニ屬スル場合ノモノニ付其ノ被用者、法
 人ノ役員若ハ公務員カ特許ヲ受ケタルトキ又ハ其ノ者ノ特
 許ヲ受クルノ權利ヲ承繼シタル者カ特許ヲ受ケタルトキハ
 其ノ發明ニ付實施權ヲ有ス
 被用者、法人ノ役員又ハ公務員ハ前項ノ發明ニ付テノ特許
 ヲ受クルノ權利又ハ特許權ヲ豫メ定メタル契約又ハ勤務規
 程ニ依リ使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ヲシテ承
 繼セシメタル場合ニ於テ相當ノ補償金ヲ受クルノ權利ヲ有
 ス

使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ニ於テ既ニ支拂ヒ
 タル報酬アルトキハ裁判所ハ前項ノ補償金ヲ定ムルニ付之
 ヲ斟酌スルコトヲ得

本條ニ於テ法人ノ役員ト稱スルハ法人ノ業務ヲ執行スル役
 員ヲ謂ヒ公務員ト稱スルハ刑法第七條第一項ノ公務員ヲ謂
 フ

第十五條 特許出願ニ係ル發明カ軍事上秘密ヲ要シ又ハ軍事
 上若ハ公益上必要ナルモノナルトキハ特許ヲ與ヘス、特許
 ヲ受クルノ權利ヲ政府ニ於テ收用シ又ハ制限ヲ附シテ特許
 ヲ與フルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ特許ヲ與ヘス、權利ヲ收用シ又ハ制限ヲ
 附シテ特許ヲ與フル場合ニ於テハ政府ハ相當ノ補償金ヲ支
 給ス

收用及補償金支給ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第十六條 帝國內ニ住所ヲモ居所ヲモ有セサル者ハ命令ニ別
 段ノ規定アル場合ヲ除クノ外帝國內ニ住所又ハ居所ヲ有ス
 ル代理人ニ依ルニ非サレハ特許ニ關スル出願、請求其ノ他

ノ手續ヲ爲シ又ハ特許權若ハ特許ニ關スル權利ヲ主張スル
 コトヲ得ス
 前項ノ規定ニ依リ出願若ハ請求又ハ主張ヲ爲ス代理人ハ特
 ニ授ケラレタル權限ノ外本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令
 ニ依ル手續並民事訴訟、私訴及告訴ニ付本人ヲ代表ス
 特許權者又ハ特許權ニ關シ登錄シタル權利ヲ有スル者ノ代
 理人ニシテ第一項ノ規定ニ依リ手續又ハ主張ヲ爲スモノノ
 選任若ハ變更又ハ代理權者ハ其ノ變更消滅ハ登錄ヲ受クル
 ニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十七條 特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス者ノ
 代理人ニシテ前條第三項ニ規定スル代理人ニ非サルモノノ
 選任若ハ變更又ハ代理權者ハ其ノ變更消滅ハ特許局ニ届出
 ツルニ非サレハ之ヲ以テ特許局ニ對抗スルコトヲ得ス
 第十七條ノ二 特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス
 者ノ委任ニ因ル代理人ノ代理權ハ本人ノ死亡若ハ能力ノ喪
 失、本人タル法人ノ合併ニ因ル消滅、本人タル受託者ノ信
 託ノ任務終了又ハ法定代理人ノ死亡、能力ノ喪失若ハ代理
 權ノ變更消滅ニ因リテ消滅セス

第十八條 特許ニ關スル代理人數人アルトキハ特許局ニ對シ
 テハ各別ニ本人ヲ代表ス

第十九條 特許局長官ニ於テ特許ニ關スル代理人ヲ適當ナラ
 スト認ムルトキハ其ノ改任ヲ命スルコトヲ得

特許局長官又ハ審判長ニ於テ當事者、參加人若ハ特許異議
 申立人又ハ其ノ代理人カ手續又ハ演述ヲ爲スノ能力ナシト
 認ムルトキハ辨理士ヲ以テ代理セシムヘキコトヲ命スルコ
 トヲ得

前二項ニ規定スル命令アリタル後第一項ノ代理人又ハ前項ノ當事者、参加人、特許異議申立人若ハ代理人ノ特許局ニ對シ爲シタル行爲ハ之ヲ無効ト爲スコトヲ得

第二十條 (削除)

第二十一條 數人共同シテ特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス者又ハ特許權ノ共有者ハ特許局ニ對シ各人互ニ代表スルモノトス但シ特ニ代表者ヲ定メ特許局ニ届出テタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七條ノ規定ハ前項但書ノ代表者ニ付之ヲ準用ス

第二十二條 特許權者帝國内ニ住所ヲモ居所ヲモ有セザルトキハ第十六條第二項ノ代理人ノ住所又ハ居所、其ノ代理人ナキモノニ在リテハ特許局ノ所在地ヲ以テ民事訴訟法第八條ノ財産所在地ト看做ス

第二十三條 特許局長官ハ外國又ハ遠隔若ハ交通不便ノ地ニ在ル者ノ爲請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ特許局又ハ裁判所ニ對シ手續ヲ爲スヘキ法定ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第二十四條 出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲シタル者之ニ關スル爾後ノ行爲ニ付指定ノ期間ヲ懈怠シタルトキ又ハ登録ヲ受クル際納付スヘキ特許料ノ納付ヲ怠リタルトキハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外特許局長官ハ其ノ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ無効ト爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ無効ト爲シタル場合ニ於テ其ノ期間ノ懈怠力宥恕スヘキ障礙ニ因ルモノト認ムルトキハ其ノ障礙ノ止ミタル日ヨリ十四日以内ニシテ其ノ期間滿了後一年以内ノ請求ニ依リ特許局長官ハ懈怠

ノ結果ヲ免レシムルコトヲ得

第二十五條 特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス者其ノ實ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ第九條、第一百十五條、第一百二十二條第一項又ハ本法ニ於テ準用スル民事訴訟法第四百十五條ニ規定スル期間ヲ遵守スルコト能ハサル場合ニ於テハ其ノ事由ノ止ミタル日ヨリ十四日以内ニシテ且其ノ期間滿了後一年以内ニ限り懈怠シタル手續ノ追完ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 特許局ニ差出スヘキ書類其ノ他ノ物件ニ付差出ノ效力ヲ生スヘキ時期ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ特許權者又ハ特許ニ關スル權利ヲ有スル者ノ爲シタル又ハ其ノ者ニ對シ爲サレタル手續ノ效力ハ其ノ特許權又ハ特許ニ關スル權利ノ承繼人ニ及ブ

第二十八條 特許局ニ事件ノ繫屬中ニ於テ特許權又ハ特許ニ關スル權利ノ移轉アリタルトキハ特許局ハ承繼人ニ對シ手續ヲ續行スルコトヲ得

第二十九條 本法ニ規定スルモノノ外特許局ニ繫ル手續ノ中斷中止及中斷中止シタル手續ノ續行ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十條 特許ニ關シ證明、特許證ノ複本、書類ノ謄本若ハ圖面ノ複製ヲ求メ又ハ書類ノ閱覽若ハ謄寫ヲ爲サントスル者ハ特許局長官ニ之ヲ申請スルコトヲ得但シ特許局長官ニ於テ秘密ヲ要スト認ムルモノニ付テハ之ヲ許可セス

第三十一條 軍事上秘密ヲ要スル發明ニ付テハ本法ニ規定スルモノノ外命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第三十二條 外國人ニシテ帝國内ニ住所ヲモ營業所ヲモ有セサルモノハ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ規定アル場合ヲ除ク外特許權又ハ特許ニ關スル權利ヲ享有スルコトヲ得ス

第三十三條 特許ニ關シ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

第二章 特許權

第三十四條 特許權ハ登録ニ依リ發生ス

第三十五條 特許權者ハ物ノ特許發明ニ在リテハ其ノ物ヲ製作、使用、販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有シ方法ノ特許發明ニ在リテハ其ノ方法ヲ使用シ及其ノ方法ニ依リテ製作シタル物ヲ使用、販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專用ス

新規ナル同一ノ物ハ同一ノ方法ニ依リテ製作シタルモノト推定ス

第三十六條 特許權ノ效力ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ及ハス

- 一 研究又ハ試験ノ爲ニスル特許發明ノ實施
 - 二 單ニ帝國内ヲ通過スルニ過キサル運輸具又ハ其ノ裝置
 - 三 特許出願ノ際ヨリ帝國内ニ在ル物
- 第三十七條 特許出願ノ際現ニ善意ニ帝國内ニ於テ其ノ發明實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ特許發明ニ付事業ノ目的タル發明範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス

第三十八條 特許ノ無効審判請求ノ登録前善意ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ帝國内ニ於テ其ノ發明實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ特許發明ニ付事業ノ目的タル發明範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス

- 一 同一發明ニ對スル二以上ノ特許中其ノ一カ無効ト爲リタル場合ニ於ケル登録ヲ受ケタル原特許權者
- 二 特許ヲ無効トシ同一發明ニ付正當權利者ニ特許ヲ與ヘタル場合ニ於ケル登録ヲ受ケタル原特許權者
- 三 前二號ニ掲ケル場合ニ於テ其ノ無効ト爲リタル特許權ニ付實施權ヲ得テ其ノ登録ヲ受ケタル者但シ實施權カ登録ナキモ第五十二條第一項ノ效力ヲ有スル場合ハ登録アルヲ要セス

特許出願ノ日前又ハ之ト同日ノ出願ニ係リ其ノ特許權ト抵觸スル實用新案權ノ存續期間滿了シタル場合ニ於テ其ノ實用新案權ニ付實施權ヲ得テ登録ヲ受ケタル者ハ其ノ特許發明ニ付原實施權ノ範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス但シ原實施權カ登録ナキモ實用新案法第十三條第一項ノ效力ヲ有スル場合ハ登録アルヲ要セス

第三十九條 特許出願ノ日前又ハ之ト同日ノ出願ニ係リ其ノ特許權ト抵觸スル實用新案權ノ存續期間滿了後ニ於ケル原實用新案權者ハ其ノ特許發明ニ付原權利ノ範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス

第四十條 特許發明カ軍事上秘密ヲ要シ又ハ軍事上若ハ公益上必要ナルモノナルトキハ特許權ヲ制限シ若ハ政府ニ於テ

收用シ、特許ヲ取消シ又ハ政府ニ於テ特許發明ヲ實施スルコトヲ得

特許權ノ收用アリタルトキハ其ノ特許發明ニ關スル特許權以外ノ權利ハ消滅ス

第一項ノ規定ニ依ル制限、收用、取消又ハ實施ノ場合ニ於テハ政府ハ相當ノ補償金ヲ特許權者又ハ實施權者ニ支給ス

收用、實施及補償金支給ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十一條 特許アリタル後ニ於テ引續キ三年以上正當ノ理由ナクシテ其ノ發明カ帝國内ニ適當ニ實施セラレサル場合ニ於テ公益上必要アルトキハ特許局長官ハ利害關係人ノ請求ニ依リ其ノ實施權ヲ許與スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル最初ノ實施權ノ許與アリタル後ニ於テ引續キ二年以上正當ノ理由ナクシテ其ノ發明カ帝國内ニ適當ニ實施セラレサル場合ニ於テ公益上必要アルトキハ特許局長官ハ利害關係人ノ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ其ノ特許ヲ取消スルコトヲ得

特許權者又ハ請求人ハ第一項ノ規定ニ依ル實施權許與若ハ前項ノ規定ニ依ル特許取消ノ處分又ハ前二項ノ請求ノ却下ニ對シ不服アルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ實施權ヲ許與スル場合ニ於テハ特許局長官ハ補償金ニ付テモ亦之カ決定ヲ爲スヘシ

第四十二條 前條ノ規定ニ依リ實施權ヲ取得シタル者適當ニ其ノ特許發明ヲ實施セラサル場合ニ於テハ特許局長官ハ利害關係人ノ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ其ノ實施權ヲ取消スルコトヲ得

實施權者又ハ請求人ハ前項ノ規定ニ依ル取消ノ處分又ハ前項ノ請求ノ却下ニ對シ不服アルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

トヲ得

特許權カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ特許發明ノ實施ヲ他人ニ許諾スルコトヲ得ス

第四十九條 特許權者ハ他人ノ特許發明又ハ登錄實用新案ヲ實施スルニ非サレハ自己ノ特許發明ヲ實施スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ他人カ正當ノ理由ナクシテ實施ヲ許諾セサルトキ又ハ其ノ他人ノ實施許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得但シ他人ノ特許發明ノ實施ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ實施セラレヘキ發明ノ特許權發生ノ日ヨリ三年ヲ經過セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ特許發明ヲ實施セラルル者其ノ實施ヲ必要トスル相手方ノ特許發明ニ付實施ノ許諾ヲ求メタル場合ニ於テ其ノ相手方カ正當ノ理由ナクシテ實施ヲ許諾セサルトキ又ハ其ノ相手方ノ實施許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得

第五十條 第四十一條又ハ前條ノ規定ニ依ル實施權者ハ特許權者又ハ實用新案權者ニ對シ相當ノ補償金ヲ支拂フヘシ

前項ノ實施權者ハ補償金ノ支拂ヲ爲シ又ハ支拂ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ供託ヲ爲スニ非サレハ其ノ特許發明又ハ登錄實用新案ヲ實施スルコトヲ得但シ第四十一條ノ決定、審決又ハ判決ノ確定前ト雖決定、審決又ハ判決ニ依ル補償金ニ相當スル金額ヲ供託シタルトキハ實施スルコトヲ得

第五十一條 第四十九條ノ規定ニ依ル實施權ハ其ノ特許權ニ附隨ス

特許法 特許權

特許權ノ存續期間ハ出願公告アリタル場合ニ在リテハ其ノ出願公告ノ日ヨリ、出願公告ナカリシ場合ニ在リテハ特許ノ日ヨリ十五年ヲ以テ終了ス

第十條ノ規定ニ依リ正當權利者ニ特許ヲ與ヘタル場合ニ於テ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル特許出願ニ付出願公告アリタルトキハ前項ノ十五年ノ期間ハ其ノ出願公告ノ日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第十一條ノ規定ニ依リ正當權利者ニ特許ヲ與ヘタルトキハ第一項ノ十五年ノ期間ハ無効ト爲リタル特許ノ出願公告ノ日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

追加ノ特許權カ獨立ノ特許權ト爲リタルトキハ其ノ存續期間ハ原特許權ノ殘期間トス第五十三條第二項ノ規定ニ依ル各別ノ特許權ノ存續期間ニ付亦同シ

特許權ノ存續期間ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ三年以上十年以下ニ延長スルコトヲ得

第四十四條 特許權ハ制限ヲ附シ又ハ附セスシテ之ヲ移轉スルコトヲ得

特許權カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得ス

第四十五條 特許權ノ移轉、拋棄ニ依ル消滅若ハ處分ノ制限又ハ特許權ヲ目的トスル質權ノ設定、移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限ハ其ノ登録ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四十六條 追加ノ特許權ハ原特許權ニ附隨ス

第四十七條 特許權カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ契約ヲ以テ別段ノ定メ爲ササルトキハ他ノ共有者ノ同意ヲ要セスシテ特許發明ヲ實施スルコトヲ得

特許發明ノ實施權ニシテ前項ノ實施權ニ非サルモノハ其ノ實施ノ事業ト共ニスル場合又ハ特許權者ノ承諾アル場合ニ於テハ之ヲ移轉スルコトヲ得

第五十二條 特許發明ノ實施權ハ之ヲ登録シタルトキハ其ノ特許權ヲ爾後取得シタル者及其ノ特許權ヲ目的トスル爾後設定ノ質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

第十四條第二項又ハ第三十七條乃至第三十九條ノ規定ニ依ル實施權ハ其ノ登録ナキ場合ト雖前項ノ效力ヲ有ス

第四十九條ノ規定ニ依ル實施權ハ其ノ登録前設定ノ質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

第四十五條ノ規定ハ實施權ノ移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限又ハ實施權ヲ目的トスル質權ノ設定、移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限ニ付之ヲ準用ス

第五十三條 特許權者ハ特許發明ノ明細書又ハ圖面カ不完全ニ作製セラレタルコトヲ發見シタルトキハ左ノ各號ノ一ニ掲クル事項ヲ目的トスル場合ニ限り其ノ明細書又ハ圖面ノ訂正ノ許可ノ審判ヲ請求スルコトヲ得

一 特許請求範圍ノ減縮

二 誤記ノ訂正

三 不明瞭ナル記載ノ釋明

特許權者ハ錯誤ニ因リ二以上ノ發明ヲ一特許出願ニ包含セシメタルコトヲ疏明シタル場合ニ限り各發明毎ニ各別ノ特許權ト爲スノ許可ノ審判ヲ請求スルコトヲ得

第一項第一號ノ場合ニ於テハ其ノ殘部、前項ノ場合ニ於テハ其ノ各發明カ特許出願ノ際獨立シテ新規ノ發明ナルコトヲ要ス

七

第五十四條 前條ノ場合ニ於テハ特許請求範圍ヲ實質上擴張

シ又ハ實質上變更スルコトヲ得ス

第五十五條 特許權者ハ制限附移轉ノ特許權ヲ有スル者、質

權者又ハ第十四條第二項若ハ第四十八條ノ規定ニ依ル實施

權者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ特許權ヲ拋棄シ又ハ第五十三

條ノ規定ニ依ル許可ノ審判ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第五十六條 先取特權又ハ質權ハ本法ニ依リ受クヘキ補償金

其ノ他特許權ノ對價又ハ特許發明ノ實施ニ對シテ受クヘキ

金錢若ハ金錢以外ノ物ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其

ノ拂渡又ハ引渡前ニ差押ヲ爲スヘシ

第五十七條 特許カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ審判ニ依

リ之ヲ無効ト爲スヘシ

一 特許カ第一條乃至第三條、第八條又ハ第三十二條ノ規

定ニ違反シテ與ヘラレタルトキ

二 特許カ特許ヲ受クルノ權利ノ承繼人ニ非サル者又ハ特

許ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ニ對シテ與ヘラレタル

トキ

三 特許發明ノ明細書又ハ圖面ニ其ノ實施ニ必要ナル事項

ヲ故意ニ記載セズ又ハ其ノ實施ヲ不能若ハ困難ナラシム

ル爲必要ナラサル事項ヲ故意ニ記載シタルトキ

四 特許カ第三十三條ノ規定スル條約又ハ之ニ準スヘキモ

ノニ違反シテ與ヘラレタル場合ニ於テ其ノ違反カ第一號

乃至前號ニ掲クルモノニ準スヘキモノナルトキ

五 特許カ第三十二條ノ規定ニ違反スルニ至リタルトキ又

ハ特許カ第三十三條ノ規定スル條約若ハ之ニ準スヘキモ

ノニ違反スルニ至リタル場合ニ於テ其ノ違反カ第一號乃

至第三號ニ掲クルモノニ準スヘキモノナルトキ

第五十三條ノ許可カ同條第三項又ハ第五十四條ノ規定ニ違

反シタルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

特許又ハ第五十三條ノ許可ハ特許權消滅後ト雖前二項ノ規

定ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

第五十八條 特許カ無効ト爲リタルトキハ特許權ハ初ヨリ存

在セザリシモノト看做ス但シ前條第一項第五號ノ規定ニ依

リ特許カ無効ト爲リタルトキハ特許權ハ特許カ同號ニ該當

制限其ノ他法令ニ定ムル事項ヲ登錄ス

第六十二條 特許スヘシトノ査定若ハ審決確定シ又ハ判決ア

リタルトキハ之ヲ特許原簿ニ登錄シ特許證ヲ下付ス第五十

三條ノ許可ノ審決確定シ又ハ判決アリタルトキ亦同シ

第六十三條 特許局ハ特許公報及特許發明明細書ヲ發行シ本

法ニ規定スル事項其ノ他特許發明ニ關スル必要ナル事項ヲ

之ニ記載スヘシ但シ軍事上秘密ヲ要スル特許發明ニ付テハ

此ノ限ニ在ラス

第六十四條 特許標記ハ特許ニ係ル物ニ之ヲ附スヘシ物ノ性

質ニ依リ其ノ物ニ附スルコト能ハサルトキハ其ノ物ノ容器

包裝ノ類ニ之ヲ附スヘシ

特許權者ハ實施權者又ハ第三十六條第一號ノ實施ヲ爲ス者

ニ對シ特許標記ヲ附スヘキコトヲ請求スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ特許ニ係ル物ノ要部ヲ分離シテ販賣又ハ擴

布スル場合ニ之ヲ準用ス

第六十五條 特許權ヲ登錄ヲ受クル者又ハ特許證主ハ特許料

トシテ第四十三條第一項ニ規定スル十五年ノ各年ニ付毎件

左ノ金額ヲ納付スヘシ

一 第一年乃至第三年 毎年 十圓

二 第四年及第五年 毎年 十五圓

三 第六年乃至第九年 毎年 二十五圓

四 第十年乃至第十二年 毎年 三十五圓

五 第十三年乃至第十五年 毎年 五十圓

特許法 登錄、特許證、公報及明細書、特許標記並特許料

至第三號ニ掲クルモノニ準スヘキモノナルトキ

第五十三條ノ許可カ同條第三項又ハ第五十四條ノ規定ニ違

反シタルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

特許又ハ第五十三條ノ許可ハ特許權消滅後ト雖前二項ノ規

定ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

第五十八條 特許カ無効ト爲リタルトキハ特許權ハ初ヨリ存

在セザリシモノト看做ス但シ前條第一項第五號ノ規定ニ依

リ特許カ無効ト爲リタルトキハ特許權ハ特許カ同號ニ該當

スルニ至リタル時ヨリ存在セザリシモノト看做ス

第五十三條ノ許可カ無効ト爲リタルトキハ初ヨリ許可ナカ

リシモノト看做ス

特許ノ取消又ハ第四十二條ノ規定ニ依ル實施權ノ取消アリ

タルトキハ特許權又ハ實施權ハ爾後其ノ效力ナキモノトス

第六十條 特許權ハ相續人ナキトキハ消滅ス

第六十一條 特許カ取消サレ若ハ無効ト爲リ又ハ特許權カ消滅

シタル場合ニ於テ追加ノ特許權アルトキハ其ノ追加ノ特許

權ハ獨立ノ特許權ト爲ル第六十九條第二項ノ規定ニ依リ特

許權カ消滅シタルトキハ同條第一項ニ規定スル追納期間ノ

滿了ノ時獨立ノ特許權ト爲ル

前項ノ場合ニ於テ獨立ノ特許權ト爲リタルモノニ係ル追加

ノ特許權アルトキハ其ノ追加ノ特許權ハ獨立ト爲リタル特

許權ノ追加ノ特許權ト爲ル

第三章 登錄、特許證、公報及明細書、特許標記

並特許料

第六十一條 特許局ニ特許原簿ヲ備ヘ特許權及實施權並之ヲ

目的トスル質權ノ設定、保存、移轉、變更、消滅、處分ノ

特許權存續期間延長ノ登錄ヲ受クル者又ハ其ノ特許證主ハ

特許料トシテ毎件左ノ金額ヲ納付スヘシ

一 第一年乃至第三年 毎年 百圓

二 第四年乃至第六年 毎年 百五十圓

三 第七年乃至第十年 毎年 二百圓

追加ノ特許權ノ登錄ヲ受クル者ハ其ノ登錄ヲ受クル時特許

料トシテ毎件一時ニ三十圓ヲ納付スヘシ特許權存續期間延

長ノ場合ニ於テ追加ノ特許權アルトキハ其ノ登錄ヲ受クル

時特許料トシテ毎件一時ニ六十圓ヲ納付スヘシ

第五十三條第二項ノ規定ニ依ル各別ノ特許權ノ登錄ヲ受ク

ル者又ハ特許證主ハ各別ノ特許權ニ付原特許權ノ當該年分

ヨリノ特許料ヲ納付スヘシ但シ既納ノ特許料ノ金額ハ納付

スヘキ特許料ノ金額中ニ之ヲ充當ス

追加ノ特許權カ獨立ノ特許權ト爲リタル場合又ハ第十一條

ノ規定ニ依リ正當權利者ニ特許ヲ與ヘタル場合ニ於テハ特

許權ノ登錄ヲ受クル者又ハ特許證主ハ原特許權ノ當該年分

ヨリノ特許料ヲ納付スヘシ

前六項ノ規定ハ國ニ屬スル特許權ニ付之ヲ適用セズ

第六十六條 前條第一項ノ規定ニ依ル第一年乃至第三年ノ特

許料ハ一時ニ之ヲ前納シ其ノ第四年以後ノ特許料及前條第

二項ノ規定ニ依ル特許料ハ前年ニ之ヲ納付スヘシ但シ數年

分ヲ前納スルコトヲ妨ケス

特許局長官ハ前條第一項ノ規定ニ依ル第一年乃至第三年ノ

特許料又ハ前條第三項ノ規定ニ依ル特許料ヲ納付スヘキ者

カ其ノ特許發明ノ發明者又ハ其ノ相續人ナル場合ニ於テ之

ヲ納付スルノ責力ナシト認ムルトキハ二年以内ノカ納付ヲ
猶豫シ又ハ之ヲ減免スルコトヲ得
第六十七條 利害關係人ハ特許料ヲ納付スヘキ者ニ代リ納付
スルコトヲ得

第六十八條 既納ノ特許料ハ之ヲ還付セス
第六十九條 特許證主ハ特許料ヲ納付スヘキ期限ヲ經過シタ
ル後ト雖六月間ヲ限リ特許料ヲ追納スルコトヲ得此ノ場合
ニ於テハ第六十五條ニ規定スル特許料ノ二倍ニ相當スル金
額ヲ特許料トシテ納付スヘシ

前項ニ規定スル追納期間内ニ特許料ヲ追納セザルトキハ特
許料ヲ納付スヘキ期限經過ノ時ニ遡リ特許權ハ消滅シタル
モノト看做ス
第四章 審査

第七十條 特許ノ出願アリタルトキハ審査官ヲシテ之ヲ審査
セシム

第七十一條 第九十一條ノ規定ハ審査官ノ審査ノ干與ヨリノ
除外ニ付之ヲ準用ス

第七十二條 審査官ハ出願ヲ拒絕スヘキモノト認メタルトキ
ハ出願人ニ對シ拒絕ノ理由ヲ示シ期間ヲ指定シテ之ニ意見
書提出ノ機會ヲ與フヘシ

第七十三條 審査官ハ出願拒絕ノ理由ヲ發見セザルトキハ出
願公告ヲ爲スヘキモノト決定スヘシ

前項ノ規定ニ依ル決定アリタルトキハ特許局ハ出願年月
日、發明者ノ氏名、出願人ノ氏名名稱及住所並出願ノ要旨
ヲ特許公報ニ掲載シテ出願公告ヲ爲スヘシ
出願公告アリタルトキハ其ノ出願ニ係ル發明ニ付し出願公告

ノ時ヨリ特許權ノ效力ヲ生シタルモノト看做ス
特許局ハ出願公告ト同時ニ出願書類及其ノ附屬物件ヲ特許
局ニ於テ並命令ノ定ムル所ニ依リ出願書類及其ノ附屬物件
ヲ其ノ他ノ場所ニ於テ公衆ノ閱覽ニ供スヘシ

特許局ハ出願人ノ請求ニ依リ出願公告ノ決定アリタル日ヨ
リ六月以内出願公告ヲ猶豫スルコトヲ得

軍事上秘密ヲ要スル發明ノ出願ニ付テハ出願公告ノ決定ヲ
爲サスシテ査定ヲ爲スヘシ

第七十四條 出願公告アリタルトキハ何人ト雖出願公告ノ日
ヨリ二月以内ニ特許局ニ特許異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得
特許異議ノ申立ハ特許異議申立書ヲ提出シテ之ヲ爲シ理由
ヲ之ニ記載スヘシ

利害關係人ハ特許異議ノ決定アル迄其ノ特許異議ニ參加ス
ルコトヲ得

特許異議ノ參加ニ關シテハ審判ノ參加ニ關スル規定ヲ準用
ス

第七十五條 特許異議ノ申立アリタルトキハ審査官ハ特許異
議申立書ノ副本ヲ出願人ニ送達シ期間ヲ指定シテ之ニ答辯
書提出ノ機會ヲ與フヘシ

審査官ハ前條第一項ニ規定スル特許異議申立期間及前項ノ
期間ノ經過後特許異議ノ決定ヲ爲シ同時ニ其ノ出願ニ對シ
特許スヘキヤ否ヲ査定スヘシ

特許異議ノ決定ニハ理由ヲ附スヘシ

特許異議ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
審査官ハ特許異議申立ノ結果必要アルトキハ特許發明ノ明
細書又ハ圖面ノ訂正ヲ命スルコトヲ得

第七十六條 特許異議ニ關シテ爲シタル證據調ノ費用ニ付テハ
審判ニ關スル費用ノ規定ヲ準用ス

第七十七條 特許異議ノ申立ナキトキハ審査官ハ査定ヲ爲ス
ヘシ

第七十八條 出願公告後出願ノ拋棄、取下若ハ無効處分アリ
タルトキ、拒絕ノ査定若ハ審決確定シ若ハ判決アリタルト
キ又ハ第五十八條第一項但書ノ場合ヲ除クノ外特許力無効
ト爲リタルトキハ第七十三條第三項ノ規定ニ依ル效力ハ初
ヨリ生セザリシモノト看做ス

第七十九條 第十條又ハ第十一條ニ規定スル正當權利者ノ出
願アリタルトキハ審査官ハ既ニ出願公告ヲ爲シタルモノニ
付テハ更ニ出願公告ヲ爲スコトナク査定ヲ爲スヘシ

第八十條 第百條及第百十八條第一項ノ規定ハ審査ニ付之ヲ
準用ス

第八十一條 査定ニハ理由ヲ附スヘシ

第八十二條 本法ニ規定スルモノノ外審査ニ關スル書類ニシ
テ送達スヘキモノ及送達ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定
ム

第八十三條 民事又ハ刑事ノ訴訟ニ於テ必要アルトキハ裁判
所ハ特許又ハ拒絕査定確定アル迄其ノ訴訟手續ヲ中止スル
コトヲ得

第五章 審判、抗告審判及出訴

第八十四條 審判ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ規定
スルモノノ外左ニ掲クル事項ニ付之ヲ請求スルコトヲ得

一 第五十七條ノ規定ニ依ル特許又ハ許可ノ無効
二 特許權ノ範圍ノ確認

前項第一號ノ無効ノ審判ハ利害關係人及審査官ニ限り之ヲ
請求スルコトヲ得但シ審査官ハ第八條ノ規定ニ違反シ又ハ
第五十七條第一項第二號ニ該當ストノ理由ニ依ル無効ノ審
判ヲ請求スルコトヲ得ス

第一項第二號ノ確認ノ審判ハ利害關係人ニ限り之ヲ請求ス
ルコトヲ得

第八十五條 前條第一項第一號ノ無効ノ審判ハ特許又ハ第五
十三條ノ許可ノ登録ノ日ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ之ヲ
請求スルコトヲ得ス

前項ニ規定スル期間ハ第五十七條第一項第五號ニ該當スト
ノ理由ニ依ル無効ノ審判ノ請求ニ付テハ同號ニ該當スルニ
至リタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第八十六條 審判ノ請求ハ審判請求書ヲ提出シテ之ヲ爲スヘ
シ審判請求書ニハ一定ノ申立及理由ヲ記載スヘシ

第八十七條 審判請求書カ法令ニ定メタル方式ニ違背シタル
場合ニ於テハ審判長ハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ欠缺
ヲ補正スヘキコトヲ命スヘシ成規ノ手数料ヲ納付セザル場
合亦同シ

請求人カ欠缺ノ補正ヲ爲サザルトキハ審判長ハ決定ヲ以テ
審判請求書ヲ却下スヘシ

前項ノ決定ニハ理由ヲ附スヘシ

第二項ノ決定ニ不服アル者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ即時抗告ニ付テハ民事訴訟法中即時抗告ニ關スル規
定ヲ準用ス

抗告狀ニハ却下セラレタル審判請求書ヲ添付スヘシ

第八十八條 審判長ハ審判請求書ヲ受理シタルトキハ其ノ副

本ヲ被請求人ニ送達シ期間ヲ指定シテ之ニ答辯書提出ノ機會ヲ與ヘ其ノ答辯書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ相手方ニ送達スヘシ

審判ニ關シテハ當事者ノ提出シタル書類ニ對シ相手方ヲシテ答辯書ヲ提出セシメ又ハ當事者ニ訊問書ヲ發シテ之ニ對スル意見書ヲ提出セシムルコトヲ得

第八十八條ノ二 不適法ナル審判ノ請求ニシテ其ノ欠缺カ補正スルコト能ハサルモノナル場合ニ於テハ被請求人ニ答辯書提出ノ機會ヲ與ヘスシテ審決ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ得

第八十九條 審判ハ審判官三人ノ合議ニ依リ之ヲ行フ合議ハ過半数ニ依リ之ヲ決ス

審判長ハ審判官中ノ上席者ヲ以テ之ニ充ツ

審判長ハ其ノ審判事件ニ關スル事務ヲ掌理ス

第九十條 審判官ハ各審判事件ニ付特許局長官之ヲ指定ス

審判官中審判ニ干與スルニ故障アル者アルトキハ其ノ指定ヲ解キ更ニ他ノ審判官ヲ以テ之ヲ補充ス

第九十一條 審判官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ審判ノ干與ヨリ除斥セラル

一 審判官又ハ其ノ妻若ハ妻タリシ者カ事件ノ當事者、參加人若ハ特許異議申立人ナルトキ又ハナリシトキ

二 審判官カ事件ノ當事者、參加人又ハ特許異議申立人ノ四親等内ノ血族若ハ三親等内ノ姻族ナルトキ又ハナリシトキ

三 審判官カ事件ノ當事者、參加人又ハ特許異議申立人ノ法定代理人、後見監督人、保佐人又ハ戸主若ハ家族ナル

八十トキ

四 審判官カ事件ニ付證人又ハ鑑定人ト爲リタルトキ

五 審判官カ事件ノ當事者、參加人又ハ特許異議申立人ノ代理人ナルトキ又ハナリシトキ

六 審判官カ事件ニ付審査官、審判官又ハ判事トシテ査定、審決又ハ判決ニ干與シタルトキ

七 審判官カ事件ニ付直接ノ利害關係ヲ有スルトキ

第九十二條 除斥ノ原因アルトキハ當事者又ハ參加人ハ除斥ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第九十三條 審判官ニ付審判ノ公正ヲ妨クヘキ事情アルトキハ當事者又ハ參加人ハ之ヲ忌避スルコトヲ得

當事者又ハ參加人ハ事件ニ付申述ヲ爲シタル後ハ審判官ヲ忌避スルコトヲ得ズ但シ忌避ノ原因アルコトヲ知ラザリシトキ又ハ忌避ノ原因カ其ノ後ニ生シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九十四條 前二條ニ規定スル申立ハ其ノ原因ヲ開示シテ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ口頭審理ニ於テハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

除斥又ハ忌避ノ原因ハ申立ヲ爲シタル日ヨリ三日以内ニ之ヲ疏明スヘシ前條第二項但書ノ事實亦同シ

第九十五條 除斥又ハ忌避ノ申立アリタルトキハ審判ニ依リ決定ヲ爲スヘシ

審判官ハ其ノ除斥又ハ忌避ニ付審判ニ干與スルコトヲ行ス但シ意見ヲ述フルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依ル決定ニハ理由ヲ附スヘシ

第一項ノ規定ニ依ル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ

得ス

第九十六條 除斥又ハ忌避ノ申立アリタルトキハ其ノ申立ニ付テノ決定アル迄審判手續ヲ停止スヘシ但シ急速ヲ要スル行爲ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九十七條 第八十四條第一項第一號ノ無効ノ審判ハ口頭審理ニ依ル但シ審判長ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ書面審理ニ依ルモノト爲スコトヲ得

前項ノ審判以外ノ審判ハ書面審理ニ依ル但シ審判長ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ口頭審理ニ依ルモノト爲スコトヲ得

口頭審理ハ之ヲ公開ス但シ公益又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九十七條ノ二 審判ニ於テハ通事ヲ用キルコトヲ得

民事訴訟法第三百三十四條ノ規定ハ通事ニ付之ヲ準用ス

第九十八條 利害關係人ハ審理ノ終結ニ至ル迄其ノ審判ニ參加スルコトヲ得

第九十九條 參加ノ申請ハ參加申請書ヲ提出シテ之ヲ爲スヘシ

審判長ハ參加申請書ヲ受理シタルトキハ之ヲ當事者及參加人ニ送達シ期間ヲ指定シテ之ニ異議申立ノ機會ヲ與フヘシ

參加ノ申請アリタルトキハ審判ニ依リ其ノ許否ヲ決定ス

第九十五條第三項及第四項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル決定ニ付之ヲ準用ス

第一百條 審判ニ於テハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ證據調ヲ爲スコトヲ得

前項ノ證據調ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所其ノ他區裁判所ノ事務ヲ行フ官廳ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

民事訴訟法中證據調ニ關スル規定ハ前二項ノ規定ニ依リ證據調ニ付之ヲ準用ス但シ審判官ハ過料ノ決定ヲ爲シ、勾引ヲ命ジ又ハ保證金ヲ供託セシムルコトヲ得

第一百條 當事者又ハ參加人カ法定若ハ指定ノ期間内ニ手續ヲ爲サス又ハ期日ニ出頭セサルトキト雖審判長ハ審判ヲ進行スルコトヲ得

第一百二條 審判ノ請求ハ其ノ審理ノ終結ニ至ル迄之ヲ取下クルコトヲ得但シ答辯書ノ提出アリタル後ニ於テハ相手方ノ承諾ヲ要ス

第一百三條 審判ニ於テハ當事者又ハ參加人ノ申立テサル理由又ハ取下ケタル理由ニ付テモ之ヲ審理スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ理由ニ付當事者又ハ參加人ニ期間ヲ指定シテ意見申立ノ機會ヲ與フヘシ

第一百四條 審判官ハ當事者ノ雙方又ハ一方ノ同一ナル二以上ノ審判ニ付其ノ審理又ハ審決ノ併合ヲ爲スコトヲ得

審判官ハ前項ノ規定ニ依リ審理ノ併合ヲ爲シタル場合ニ於テ更ニ審理又ハ審決ノ分離ヲ爲スコトヲ得

第一百五條 審判ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外審決ヲ以テ之ヲ終了ス

前項ノ審決ニハ理由ヲ附スヘシ

事件カ審決ヲ爲スニ熟シタルトキハ審判長ハ審理ノ終結ヲ當事者及參加人ニ通知スヘシ

審判長ハ必要アルトキハ前項ノ規定ニ依リ審理ノ終結ヲ通知シタル後ト雖申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ審理ノ再開ヲ爲

得ス

第九十六條 除斥又ハ忌避ノ申立アリタルトキハ其ノ申立ニ付テノ決定アル迄審判手續ヲ停止スヘシ但シ急速ヲ要スル行爲ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九十七條 第八十四條第一項第一號ノ無効ノ審判ハ口頭審理ニ依ル但シ審判長ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ書面審理ニ依ルモノト爲スコトヲ得

前項ノ審判以外ノ審判ハ書面審理ニ依ル但シ審判長ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ口頭審理ニ依ルモノト爲スコトヲ得

口頭審理ハ之ヲ公開ス但シ公益又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九十七條ノ二 審判ニ於テハ通事ヲ用キルコトヲ得

民事訴訟法第三百三十四條ノ規定ハ通事ニ付之ヲ準用ス

第九十八條 利害關係人ハ審理ノ終結ニ至ル迄其ノ審判ニ參加スルコトヲ得

第九十九條 參加ノ申請ハ參加申請書ヲ提出シテ之ヲ爲スヘシ

審判長ハ參加申請書ヲ受理シタルトキハ之ヲ當事者及參加人ニ送達シ期間ヲ指定シテ之ニ異議申立ノ機會ヲ與フヘシ

參加ノ申請アリタルトキハ審判ニ依リ其ノ許否ヲ決定ス

第九十五條第三項及第四項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル決定ニ付之ヲ準用ス

第一百條 審判ニ於テハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ證據調ヲ爲スコトヲ得

スコトヲ得
 審決ハ審理ノ終結ノ通知ヲ發シタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ爲スヘシ
 第九十九條ノ審判ニ於テハ補償金額ニ付テモ亦之ヲ審決スヘシ
 第八十二條ノ規定ハ審判ニ付テ之ヲ準用ス
 第七十二條、第七十三條第一項第二項第四項第六項及第七十四條乃至第七十七條ノ規定ハ第五十三條ノ審判ニ付テ之ヲ準用ス
 第九十八條、第九十九條及第四百條ノ規定ハ前項ノ審判ニ付テ之ヲ準用セズ
 第九條 査定又ハ審判ノ審決ヲ受ケタル者不服アルトキハ其ノ査定又ハ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ抗告審判ヲ請求スルコトヲ得但シ第六條ノ規定ニ依ル補償金額ノ審決及第九十九條第一項ノ規定ニ依ル費用ノ審決ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 第八十六條乃至第一百條及第三百三條乃至第三百八條ノ規定ハ抗告審判ニ付テ之ヲ準用ス但シ審判官ノ合議ハ三人又ハ五人ヲ以テ之ヲ爲シ第九十二條、第九十三條及第一百條ニ於テ當事者又ハ參加人トアルハ當事者、參加人又ハ特許異議申立人トス
 第十條ノ二 不適法ナル審判ノ請求ニシテ其ノ欠缺ヲ補正スルコト能ハサルモノナル場合ニ於テハ被請求人ニ答辯書提出ノ機會ヲ與ヘスシテ抗告審判ノ審決ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ得
 第十條ノ三 抗告審判ノ請求ハ其ノ審理ノ終結ニ至ル迄之

ヲ取下クルコトヲ得
 第九條ノ四 抗告審判ヲ請求スル權利ハ其ノ審理ノ終結ニ至ル迄之ヲ拋棄スルコトヲ得
 抗告審判ヲ請求シタル後抗告審判請求權ヲ拋棄シタルトキハ抗告審判ノ請求ニ付テモ之ヲ取下ケタルモノト看做ス
 第九十一條 抗告審判ニ於テハ審判請求ノ理由ヲ變更シ又ハ新ナル事實若ハ證據方法ヲ提出スルコトヲ得
 第九十一條ノ二 審査又ハ審判ニ於テ爲シタル手續ハ抗告審判ニ於テモ其ノ效力ヲ有ス
 第九十二條 抗告審判ニ於テハ其ノ事件ニ付審決ヲ爲スヘシ
 第九十二條ノ二 査定又ハ審判ノ審決ノ手續ヲ法令ニ違反シタルトキハ抗告審判ノ審判官ハ其ノ査定又ハ審決ヲ破毀スヘシ
 第七十二條ノ規定ハ拒絕ノ査定ニ對スル抗告審判ニ於テ其ノ査定ノ理由ト異ル拒絕ノ理由ヲ發見シタル場合ニ之ヲ準用ス
 第七十三條乃至第七十九條ノ規定ハ拒絕ノ査定ニ對スル抗告審判ノ請求ヲ理由アリトスル場合ニ之ヲ準用ス但シ特許スヘキ出願ニシテ出願公告アリタルモノニ付テハ更ニ出願公告ヲ爲スコトナク審決ヲ爲スヘシ
 前二項ノ規定ハ第五十三條ノ許可ヲ與ヘサル審決ニ對スル抗告審判ニ付テ之ヲ準用ス
 第九十四條 抗告審判ニ於テ査定又ハ審判ノ審決ヲ破毀スル場合ニ於テハ査定ニ對スル抗告審判ニ在リテハ更ニ審査ニ、審判ノ審決ニ對スル抗告審判ニ在リテハ更ニ審判ニ付スヘシトノ審決ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル審決アリタル場合ニ於テハ其ノ破毀ノ基本ト爲シタル理由ハ其ノ事件ニ付テハ審査官又ハ審判官ヲ繩束ス
 第九十五條 抗告審判ノ審決ヲ受ケタル者不服アルトキハ其ノ審決ヲ法令ニ違反シタルコトヲ理由トスル場合ニ限り審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ大審院ニ出訴スルコトヲ得
 前項ノ規定ニ依ル出訴及其ノ裁判ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外民事訴訟ノ上告及其ノ裁判ニ關スル規定ヲ準用ス
 大審院ノ判決ニ於テ審決又ハ査定ノ破毀ノ基本ト爲シタル理由ハ其ノ事件ニ付テハ特許局ヲ繩束ス
 第九十五條ノ二 前條第二項ノ規定ニ依ル上告狀ハ大審院ニ之ヲ提出スヘシ
 抗告審判ノ審判官又ハ審判長ノ決定ニ對スル抗告ハ大審院ニ之ヲ爲スヘシ
 第九十六條 第十五條、第四十條又ハ第五十條ニ規定スル補償金額ノ通知又ハ決定若ハ審決ヲ受ケタル者補償金額ニ付不服アルトキハ其ノ通知又ハ決定若ハ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 第九十七條 特許若ハ第五十三條ノ許可ノ效力又ハ特許權ノ範圍ニ關スル確定審決又ハ判決ノ登錄アリタルトキハ何人ト雖同一事實及同一證據ニ基キ同一審判ヲ請求スルコトヲ得ス
 第九十八條 審判又ハ抗告審判ニ於テ必要アルトキハ民事又ハ刑事ノ訴訟手續ノ完結ニ至ル迄其ノ手續ヲ中止スルコト

ヲ得
 民事又ハ刑事ノ訴訟ニ於テ必要アルトキハ裁判所ハ特許ニ關シ審決ノ確定又ハ判決アル迄其ノ訴訟手續ヲ中止スルコトヲ得
 第九十九條 審判、抗告審判及出訴ニ關スル費用ノ負擔ハ職權ニ依リ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ事件ノ審決ヲ以テ之ヲ定ム此ノ場合ニ於テハ事情ニ依リ其ノ額モ亦之ヲ定ムルコトヲ得
 審決、判決又ハ決定ヲ以テ審判、抗告審判又ハ出訴ニ關スル費用ノ負擔ノミヲ定メタルトキハ其ノ額ハ請求ニ依リ特許局長官之ヲ決定ス
 第九十九條ノ二 審判又ハ抗告審判ニ於テハ費用ヲ要スル行爲ニ付其費用ノ豫納ヲ命スルコトヲ得
 第一百條 審判、抗告審判及出訴ニ關スル費用ノ額ノ決定竝本法ニ規定スル補償金額ノ確定ノ決定及審決ハ強制執行ニ關シテハ民事訴訟法第五百五十九條第一號ノ規定ニ依ル債務名義ト看做ス但シ其ノ執行力アル正本ハ特許局長官更之ヲ付與ス
 第六章 再審
 第一百零一條 左ニ掲クル審判若ハ抗告審決又ハ出訴ニ付爲シタル確定審決又ハ判決ニ對シテハ再審ノ請求ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得
 一 特許若ハ第五十三條ノ許可ノ效力、特許權ノ範圍又ハ實施權ノ取得ニ關スル審判
 二 前號ノ審判ノ審決ニ對スル抗告審判

三 前號ノ抗告審判ノ審決ニ對スル出訴
民事訴訟法第四百二十條ノ規定ハ再審ノ請求ニ付之ヲ準用
ス

第三百二十二條 再審ハ當事者カ不服ノ理由ヲ知リタル日ヨリ
三十日以内ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得

審決ノ確定又ハ判決ノ前ニ當事者カ不服ノ理由ヲ知リタル
トキハ前項ニ規定スル期間ハ審決確定シ又ハ判決アリタル
日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

審判、抗告審判又ハ出訴ノ手續ニ於テ當事者カ法律ノ規定
ニ從ヒ代理セラレザリシコトヲ理由トシテ再審ヲ請求スル
場合ニ於テハ第一項ニ規定スル期間ハ當事者又ハ其ノ法律
上代理人カ送達ニ依リ審決又ハ判決アリタルコトヲ知リタ
ル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

審決確定シ又ハ判決アリタル日ヨリ三年ヲ經過シタルトキ
ハ再審ヲ請求スルコトヲ得ス

不服ノ理由カ審決確定シ又ハ判決アリタル後ニ生シタルト
キハ前項ニ規定スル期間ハ其ノ理由發生シタル日ノ翌日ヨ
リ之ヲ起算ス

第一項及第四項ノ規定ハ不服ノ申立アル審決又ハ判決カ前
ニ爲サレタル確定審決又ハ判決ト牴觸スルコトヲ理由トス
ル再審ノ請求ニ付之ヲ適用セス

第三百二十三條 審判、抗告審判又ハ出訴ニ於テ爲ス再審ノ請
求及其ノ後ノ手續ニ付テハ本章ニ別段ノ規定アル場合ヲ除
クノ外各其ノ審級ノ手續ニ關スル規定ヲ準用ス

第三百二十四條 民事訴訟法第四百二十一條、第四百二十二條
及第四百二十六條乃至第四百二十八條ノ規定ハ審判、抗告

審判又ハ出訴ニ於テ爲ス再審ニ關シ之ヲ準用ス

第三百二十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ特許權ノ
效力ハ審決確定シ又ハ判決アリタル後ニシテ再審請求ノ登
録前善意ニ輸入シ又ハ帝國内ニ於テ製作者ハ取得
シタル物ニ及ハス

一 無効ト爲リタル特許權カ再審ニ依リ回復シタルトキ
二 特許權ノ範圍ニ屬セスト審決確定シ又ハ判決アリタ
ルモノニ付再審ニ依リ之ニ反スル審決確定シ又ハ判決ア
リタルトキ

第三百二十六條 前條各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ審決確定
シ又ハ判決アリタル後ニシテ再審請求ノ登録前善意ニ帝國
内ニ於テ其ノ發明實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル
者ハ其ノ特許發明ニ付事業ノ目的タル發明範圍内ニ於テ實
施權ヲ有ス

第五十二條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百二十七條 實施權ノ取得ノ審決確定シ又ハ判決アリタル
後再審ニ依リ之ニ反スル審決確定シ又ハ判決アリタル場合
ニ於テ再審請求ノ登録前善意ニシテ帝國内ニ於テ其ノ發明
實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ特許發明
ニ付原實施權ノ範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス

第三十八條第三項及第五十二條第二項ノ規定ハ前項ノ場合
ニ之ヲ準用ス

第三百二十八條 第三者カ請求人及被請求人ノ共謀ニ依リ其ノ
第三者ノ權利又ハ利益ヲ詐害スル目的ヲ以テ審決又ハ判決
ヲ爲シメタルコトヲ理由トスル不服ノ申立ニ付テハ再審
ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ請求人及被請求人ヲ以テ共同被請求人
トス

第七章 罰則
第三百二十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五年以下ノ懲役
又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 特許權ヲ侵害シタル者
二 特許權ヲ侵害スヘキ物ヲ輸入又ハ移入シタル者
三 特許アリタル場合ニ於テ第七十三條第三項ニ規定スル
權利ヲ特許前ニ侵害シタル者

四 特許アリタル場合ニ於テ第七十三條第三項ニ規定スル
權利ヲ侵害スヘキ物ヲ特許前ニ輸入又ハ移入シタル者
前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第三百三十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又
ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 詐偽ノ行爲ヲ以テ特許ヲ受ケ又ハ審決若ハ判決ヲ受ケ
タル者
二 特許ニ係ラサル物又ハ其ノ物ノ容器包裝ノ類ニ特許標
記ヲ附シ又ハ特許標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

三 特許ニ係ラサル物ニシテ其ノ物又ハ其ノ物ノ容器包裝
ノ類ニ特許標記ヲ附シ又ハ特許標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲
シタルモノヲ販賣又ハ擴布シタル者

四 特許ニ係ラサル物又ハ特許ニ係ラサル方法ニ依リ製作
シタル物ヲ製作若ハ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ擴布ス
ル爲廣告、看板、引札ノ類ニ其ノ物若ハ方法カ特許ニ係
ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

五 特許ニ係ラサル方法ヲ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ擴

布スル爲廣告、看板、引札ノ類ニ其ノ方法カ特許ニ係ル
コトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

布スル爲廣告、看板、引札ノ類ニ其ノ方法カ特許ニ係ル
コトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

第三百三十一條 第二百二十九條第一項ニ掲クル行爲ヲ組成シタ
ル物又ハ其ノ行爲ヨリ生シタル物ニシテ刑法第十九條ノ規
定ニ依リ沒收スルコトヲ得ヘキモノニ付判決言渡前被害者
ノ請求アリタルトキハ其ノ物ヲ沒收シ之ヲ被害者ニ交付ス
ルノ言渡ヲ爲スヘシ

被害者ハ前項ノ規定ニ依ル物ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テ
ハ其ノ物ノ價額ヲ超過スル損害ノ額ニ限り賠償ノ請求ヲ爲
スコトヲ得

第三百三十二條 法律ニ依リ宣誓シタル證人、鑑定人又ハ通事
特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官廳ニ對シ虛偽
ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自
白シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三百三十三條 特許局職員又ハ其ノ職ニ在リタル者故ナク其
ノ義務上知得タル特許出願中ノ發明又ハ特許出願者ノ事業
上ノ秘密ヲ漏泄シ又ハ竊用シタルトキハ一年以下ノ懲役又
ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百三十四條 本法ニ於テ準用スル民事訴訟法第二百六
十七條第二項又ハ第三百三十六條ノ規定ニ依リ宣誓ヲ爲シ
タル者カ特許局ニ對シ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ五百圓
以下ノ過料ニ處ス

第三百三十五條 特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出
サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務
ヲ盡ササルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第三百三十四條ノ二 特許局ヨリ證據調ニ關シ書類其ノ他ノ物件ノ提出又ハ提示ヲ命セラレタル者正當ノ理由ナクシテ其ノ命ニ從ハサルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第三百三十四條ノ三 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ過料ニ付テハ準用ス

第三百三十五條 (削除)

附則

第三百三十六條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十年勅令第四百五十九號ヲ以テ大正十一年一月十一日ヨリ施行)

第三百三十七條 舊法ニ依ル特許、特許權ノ改訂又ハ分割ノ許可、處分及手續ハ本附則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

第三百三十八條 本法施行ノ際現ニ繫屬スル特許又ハ特許權ノ改訂若ハ分割ノ許可ノ出願ノ處理ニ付テハ仍舊法ニ依ル但シ其ノ出願ニ係ル發明カ本法ニ依ル特許出願ニ係ル發明ニ抵觸スルトキハ其ノ發明者ハ之ヲ先ニ發明ヲ爲シタル者ト看做ス

第三百三十九條 特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者カ試験ノ爲其ノ者ノ發明ヲ本法施行前第四條各號ノ一ニ該當スルニ至ラシメタル場合ニ於テ其ノ日ヨリ二年以内ニシテ本法施行ノ

日ヨリ六月以内ニ其ノ者カ特許ヲ出願シタルトキハ其ノ者ノ發明ハ之ヲ新規ナルモノト看做ス

特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者ノ意ニ反シテ其ノ者ノ發明カ本法施行前第四條各號ノ一ニ該當スルニ至リタル場合ニ於テハ第五條第二項ノ規定ヲ適用セス

第四百十條 舊法ニ依ル使用權ハ第四十八條又ハ第四十九條ノ規定ニ依ル實施權ト看做ス

第四百十一條 本法施行前發生シタル特許權ニ關シテハ舊法第二十九條第二號ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ第三十七條ノ規定ハ之ヲ適用セス

第四百十二條 特許カ舊法施行中無効ト爲リタル場合ニ付テハ舊法第三十五條乃至第三十七條ノ規定及同法第三十六條ノ規定ニ依リ準用スル同法第三十三條ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ第三十八條ノ規定ハ之ヲ適用セス

特許カ舊法施行前無効ト爲リタル場合ニ付テハ第三十八條ノ規定ヲ適用セス

第四百十三條 舊法施行前發生シタル實施權ニ關シテハ第五十一條第二項ノ規定ヲ適用セス仍從前ノ例ニ依ル

第四百十四條 舊法ニ依ル特許權ノ存續期間ニ付テハ仍舊法ニ依ル

本法施行前既ニ納メタル又ハ納付スヘキ期限ヲ經過シタル特許料及追加特許料ニ付亦前項ニ同シ

第四百十五條 特許料又ハ追加特許料ノ納付ヲ怠リタル場合ニ於テ本法施行ノ際未タ其ノ特許又ハ追加特許ノ取消ナキモノニ付テハ本法施行ノ日ヨリ六月間ヲ限リ特許料又ハ追加特許料ヲ追納スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ舊法ニ依ル

追納特許料トシテ納付スヘシ

前項ニ規定スル追納期間内ニ特許料又ハ追加特許料ヲ追納セサルトキハ本法施行ノ時ニ遡リ特許權又ハ追加特許權ハ消滅シタルモノト看做ス

第四百十六條 舊法ニ依ル特許又ハ特許權ノ改訂若ハ分割ノ許可ニ關シテハ本法施行後ニ特許又ハ許可アリタル場合ト雖舊法第四十九條ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ同條ノ規定ノ適用ノ範圍内ニ於テ同條ニ掲クル舊法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ特許又ハ許可カ同條第一項各號ノ一ニ該當スル場合ニ限り審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

第四百十七條 前條ノ規定ニ依ル無効ノ審判ハ本法施行前登錄セラレタル特許又ハ許可ニ關シテハ本法施行ノ日ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

附則 (昭和四年法律第四十七號附則)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和四年勅令第二百八十九號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行)

本法ハ本法施行前ニ生シタル事項ニモ之ヲ適用ス但シ從前ノ規定ニ依リ生シタル效力ヲ妨ケス

第十七條ノ二ノ改正規定ハ本法施行前同條ニ掲クル事由ヲ生シタル委任代理ニシテ本法施行前代理權消滅ノ登錄ヲ受ケサリシモノ又ハ其ノ届出ヲ爲ササリシモノニモ之ヲ適用ス

本法施行前抗告事件ニ付決定ヲ受ケタル者ハ仍從前ノ規定ニ依リ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

本法ニ依リ新ニ期間ヲ定メタル手續ニシテ本法施行ノ際爲スヘキモノニ付テハ其ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

日ヨリ六月以内ニ其ノ者カ特許ヲ出願シタルトキハ其ノ者ノ發明ハ之ヲ新規ナルモノト看做ス

特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者ノ意ニ反シテ其ノ者ノ發明カ本法施行前第四條各號ノ一ニ該當スルニ至リタル場合ニ於テハ第五條第二項ノ規定ヲ適用セス

第四百十條 舊法ニ依ル使用權ハ第四十八條又ハ第四十九條ノ規定ニ依ル實施權ト看做ス

第四百十一條 本法施行前發生シタル特許權ニ關シテハ舊法第二十九條第二號ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ第三十七條ノ規定ハ之ヲ適用セス

第四百十二條 特許カ舊法施行中無効ト爲リタル場合ニ付テハ舊法第三十五條乃至第三十七條ノ規定及同法第三十六條ノ規定ニ依リ準用スル同法第三十三條ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ第三十八條ノ規定ハ之ヲ適用セス

特許カ舊法施行前無効ト爲リタル場合ニ付テハ第三十八條ノ規定ヲ適用セス

第四百十三條 舊法施行前發生シタル實施權ニ關シテハ第五十一條第二項ノ規定ヲ適用セス仍從前ノ例ニ依ル

第四百十四條 舊法ニ依ル特許權ノ存續期間ニ付テハ仍舊法ニ依ル

本法施行前既ニ納メタル又ハ納付スヘキ期限ヲ經過シタル特許料及追加特許料ニ付亦前項ニ同シ

第四百十五條 特許料又ハ追加特許料ノ納付ヲ怠リタル場合ニ於テ本法施行ノ際未タ其ノ特許又ハ追加特許ノ取消ナキモノニ付テハ本法施行ノ日ヨリ六月間ヲ限リ特許料又ハ追加特許料ヲ追納スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ舊法ニ依ル

追納特許料トシテ納付スヘシ

前項ニ規定スル追納期間内ニ特許料又ハ追加特許料ヲ追納セサルトキハ本法施行ノ時ニ遡リ特許權又ハ追加特許權ハ消滅シタルモノト看做ス

第四百十六條 舊法ニ依ル特許又ハ特許權ノ改訂若ハ分割ノ許可ニ關シテハ本法施行後ニ特許又ハ許可アリタル場合ト雖舊法第四十九條ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ同條ノ規定ノ適用ノ範圍内ニ於テ同條ニ掲クル舊法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ特許又ハ許可カ同條第一項各號ノ一ニ該當スル場合ニ限り審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

第四百十七條 前條ノ規定ニ依ル無効ノ審判ハ本法施行前登錄セラレタル特許又ハ許可ニ關シテハ本法施行ノ日ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

附則 (昭和四年法律第四十七號附則)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和四年勅令第二百八十九號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行)

本法ハ本法施行前ニ生シタル事項ニモ之ヲ適用ス但シ從前ノ規定ニ依リ生シタル效力ヲ妨ケス

第十七條ノ二ノ改正規定ハ本法施行前同條ニ掲クル事由ヲ生シタル委任代理ニシテ本法施行前代理權消滅ノ登錄ヲ受ケサリシモノ又ハ其ノ届出ヲ爲ササリシモノニモ之ヲ適用ス

本法施行前抗告事件ニ付決定ヲ受ケタル者ハ仍從前ノ規定ニ依リ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

本法ニ依リ新ニ期間ヲ定メタル手續ニシテ本法施行ノ際爲スヘキモノニ付テハ其ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

日ヨリ六月以内ニ其ノ者カ特許ヲ出願シタルトキハ其ノ者ノ發明ハ之ヲ新規ナルモノト看做ス

特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者ノ意ニ反シテ其ノ者ノ發明カ本法施行前第四條各號ノ一ニ該當スルニ至リタル場合ニ於テハ第五條第二項ノ規定ヲ適用セス

第四百十條 舊法ニ依ル使用權ハ第四十八條又ハ第四十九條ノ規定ニ依ル實施權ト看做ス

第四百十一條 本法施行前發生シタル特許權ニ關シテハ舊法第二十九條第二號ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ第三十七條ノ規定ハ之ヲ適用セス

第四百十二條 特許カ舊法施行中無効ト爲リタル場合ニ付テハ舊法第三十五條乃至第三十七條ノ規定及同法第三十六條ノ規定ニ依リ準用スル同法第三十三條ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ第三十八條ノ規定ハ之ヲ適用セス

特許カ舊法施行前無効ト爲リタル場合ニ付テハ第三十八條ノ規定ヲ適用セス

第四百十三條 舊法施行前發生シタル實施權ニ關シテハ第五十一條第二項ノ規定ヲ適用セス仍從前ノ例ニ依ル

第四百十四條 舊法ニ依ル特許權ノ存續期間ニ付テハ仍舊法ニ依ル

本法施行前既ニ納メタル又ハ納付スヘキ期限ヲ經過シタル特許料及追加特許料ニ付亦前項ニ同シ

第四百十五條 特許料又ハ追加特許料ノ納付ヲ怠リタル場合ニ於テ本法施行ノ際未タ其ノ特許又ハ追加特許ノ取消ナキモノニ付テハ本法施行ノ日ヨリ六月間ヲ限リ特許料又ハ追加特許料ヲ追納スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ舊法ニ依ル

追納特許料トシテ納付スヘシ

前項ニ規定スル追納期間内ニ特許料又ハ追加特許料ヲ追納セサルトキハ本法施行ノ時ニ遡リ特許權又ハ追加特許權ハ消滅シタルモノト看做ス

第四百十六條 舊法ニ依ル特許又ハ特許權ノ改訂若ハ分割ノ許可ニ關シテハ本法施行後ニ特許又ハ許可アリタル場合ト雖舊法第四十九條ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ同條ノ規定ノ適用ノ範圍内ニ於テ同條ニ掲クル舊法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ特許又ハ許可カ同條第一項各號ノ一ニ該當スル場合ニ限り審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

第四百十七條 前條ノ規定ニ依ル無効ノ審判ハ本法施行前登錄セラレタル特許又ハ許可ニ關シテハ本法施行ノ日ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

附則 (昭和四年法律第四十七號附則)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和四年勅令第二百八十九號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行)

本法ハ本法施行前ニ生シタル事項ニモ之ヲ適用ス但シ從前ノ規定ニ依リ生シタル效力ヲ妨ケス

第十七條ノ二ノ改正規定ハ本法施行前同條ニ掲クル事由ヲ生シタル委任代理ニシテ本法施行前代理權消滅ノ登錄ヲ受ケサリシモノ又ハ其ノ届出ヲ爲ササリシモノニモ之ヲ適用ス

本法施行前抗告事件ニ付決定ヲ受ケタル者ハ仍從前ノ規定ニ依リ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

本法ニ依リ新ニ期間ヲ定メタル手續ニシテ本法施行ノ際爲スヘキモノニ付テハ其ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

日ヨリ六月以内ニ其ノ者カ特許ヲ出願シタルトキハ其ノ者ノ發明ハ之ヲ新規ナルモノト看做ス

特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者ノ意ニ反シテ其ノ者ノ發明カ本法施行前第四條各號ノ一ニ該當スルニ至リタル場合ニ於テハ第五條第二項ノ規定ヲ適用セス

第四百十條 舊法ニ依ル使用權ハ第四十八條又ハ第四十九條ノ規定ニ依ル實施權ト看做ス

第四百十一條 本法施行前發生シタル特許權ニ關シテハ舊法第二十九條第二號ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ第三十七條ノ規定ハ之ヲ適用セス

第四百十二條 特許カ舊法施行中無効ト爲リタル場合ニ付テハ舊法第三十五條乃至第三十七條ノ規定及同法第三十六條ノ規定ニ依リ準用スル同法第三十三條ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ第三十八條ノ規定ハ之ヲ適用セス

特許カ舊法施行前無効ト爲リタル場合ニ付テハ第三十八條ノ規定ヲ適用セス

第四百十三條 舊法施行前發生シタル實施權ニ關シテハ第五十一條第二項ノ規定ヲ適用セス仍從前ノ例ニ依ル

第四百十四條 舊法ニ依ル特許權ノ存續期間ニ付テハ仍舊法ニ依ル

本法施行前既ニ納メタル又ハ納付スヘキ期限ヲ經過シタル特許料及追加特許料ニ付亦前項ニ同シ

第四百十五條 特許料又ハ追加特許料ノ納付ヲ怠リタル場合ニ於テ本法施行ノ際未タ其ノ特許又ハ追加特許ノ取消ナキモノニ付テハ本法施行ノ日ヨリ六月間ヲ限リ特許料又ハ追加特許料ヲ追納スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ舊法ニ依ル

追納特許料トシテ納付スヘシ

前項ニ規定スル追納期間内ニ特許料又ハ追加特許料ヲ追納セサルトキハ本法施行ノ時ニ遡リ特許權又ハ追加特許權ハ消滅シタルモノト看做ス

第四百十六條 舊法ニ依ル特許又ハ特許權ノ改訂若ハ分割ノ許可ニ關シテハ本法施行後ニ特許又ハ許可アリタル場合ト雖舊法第四十九條ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ同條ノ規定ノ適用ノ範圍内ニ於テ同條ニ掲クル舊法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ特許又ハ許可カ同條第一項各號ノ一ニ該當スル場合ニ限り審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

第四百十七條 前條ノ規定ニ依ル無効ノ審判ハ本法施行前登錄セラレタル特許又ハ許可ニ關シテハ本法施行ノ日ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

實用新案法

本法施行前從前ノ規定ニ依リ過料ニ處スヘキ行爲ヲ爲シタル者ニシテ本法施行ノ際未タ其ノ裁判ヲ受ケサルモノハ本法ニ於テ過料ニ處スヘキ場合ニ限り本法ニ依リ處罰ス但シ過料ノ額ハ從前ノ規定ノ過料ノ額ヲ超ユルコトヲ得ス

附則 (昭和十三年法律第三號附則)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十三年勅令第五百二十一號ヲ以テ同年八月一日ヨリ施行)

○實用新案法 (大正十年四月三十日) (法律第九十七號)

改正 昭和四年第四八號、昭和一三年第五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル實用新案法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

實用新案法

- 第一條 物品ニ關シ形状、構造又ハ組合ハセニ係ル實用アル新規ノ型ノ工業的考案ヲ爲シタル者ハ其ノ物品ノ型ニ付實用新案ノ登録ヲ受クルコトヲ得
- 第二條 左ニ掲クル實用新案ニ付テハ之ヲ登録セス
- 一 菊花御紋章ト同一又ハ類似ノ形状ヲ有スルモノ
 - 二 秩序若ハ風俗ヲ紊リ又ハ衛生ヲ害スルノ虞アルモノ
- 第三條 本法ニ於テ實用新案ノ新規ト稱スルハ實用新案カ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトナキヲ謂フ
- 一 登録出願前帝國内ニ於テ公然知ラレ若ハ公然用キラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ
 - 二 登録出願前帝國内ニ頒布セラレタル刊行物ニ容易ニ實

施スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ記載セラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

第四條 同一又ハ類似ノ實用新案ニ付テハ最先ノ出願者ニ限リ登録ス但シ同日ノ各別ノ出願者アルトキハ出願者ノ協議ニ依リ登録シ協議調ハサルトキハ共ニ登録セス

第五條 特許出願者又ハ意匠登録出願者カ其ノ特許出願又ハ意匠登録出願ヲ其ノ出願ニ係ル型ニ付テノ實用新案登録出願ニ變更シタルトキハ其ノ實用新案登録出願ハ特許出願又ハ意匠登録出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ特許出願又ハ意匠登録出願ニ付特許又ハ登録スヘカラストノ査定ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ最初ノ査定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日ヲ経過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條 實用新案權ハ登録ニ依リ發生ス

實用新案權者ハ其ノ登録實用新案ニ係ル物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有ス

實用新案權カ其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル特許權者ハ意匠權ト抵觸スル場合又ハ登録實用新案カ其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル特許發明若ハ登録意匠ヲ利用スルモノナル場合ニ於テハ實用新案權者ハ特許權者又ハ意匠權者ノ實施許諾アルニ非サレハ其ノ登録實用新案ヲ實施スルコトヲ得ス

第七條 實用新案登録出願ノ際現ニ善意ニ帝國内ニ於テ其ノ實用新案實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ登録實用新案ニ付事業ノ目的タル實用新案範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス

第八條 登録ノ無効審判請求ノ登録前善意ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ帝國内ニ於テ其ノ實用新案實施ノ事業ヲ爲シ又

ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ登録實用新案ニ付事業ノ目的タル實用新案範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス

一 同一又ハ類似ノ實用新案ニ對スル二以上ノ登録中其ノ一カ無効ト爲リタル場合ニ於ケル登録ヲ受ケタル原實用新案權者

二 登録ヲ無効トシ同一又ハ類似ノ實用新案ニ付正當權利者ノ爲ニ登録ヲ爲シタル場合ニ於ケル登録ヲ受ケタル原實用新案權者

三 前二號ニ掲ケル場合ニ於テ其ノ無効ト爲リタル實用新案權ニ付實施權ヲ得テ其ノ登録ヲ受ケタル者但シ實施權カ登録ナキモ第十三條第一項ノ效力ヲ有スル場合ハ登録アルヲ要セス

實用新案登録出願ノ日前又ハ之ト同日ノ出願ニ係リ其ノ實用新案權ト抵觸スル特許權又ハ意匠權ノ存續期間滿了シタル場合ニ於テ其ノ特許權又ハ意匠權ニ付實施權ヲ得テ登録ヲ受ケタル者ハ其ノ登録實用新案ニ付原實施權ノ範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス但シ原實施權カ登録ナキモ特許法第五十二條第一項又ハ意匠法第十五條第一項ノ效力ヲ有スル場合ハ登録アルヲ要セス

實用新案權者ハ前二項ノ規定ニ依ル實施權者ヨリ相當ノ補償金ヲ受ケルノ權利ヲ有ス

第九條 實用新案登録出願ノ日前又ハ之ト同日ノ出願ニ係リ其ノ實用新案權ト抵觸スル特許權又ハ意匠權ノ存續期間滿了後ニ於ケル原特許權者又ハ原意匠權者ハ其ノ登録實用新案ニ付原權利ノ範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス

第十條 實用新案權ノ存續期間ハ登録ノ日ヨリ十年ヲ以テ終

了ス

第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第十一條ノ規定ニ依リ正當權利者ノ爲ニ登録ヲ爲シタルトキハ前項ノ十年ノ期間ハ無効ト爲リタル登録ノ爲サレタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第十一條 實用新案權者ハ他人ノ登録實用新案又ハ登録意匠ヲ實施スルニ非サレハ自己ノ登録實用新案ヲ實施スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ他人カ正當ノ理由ナクシテ實施ヲ許諾セサルトキ又ハ其ノ他人ノ實施許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ實施セラルヘキ實用新案又ハ意匠ノ實用新案權又ハ意匠權發生ノ日ヨリ二年ヲ経過セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 前條ノ規定ニ依ル實施權者ハ實用新案權者又ハ意匠權者ニ對シ相當ノ補償金ヲ支拂フヘシ

前項ノ實施權者ハ補償金ノ支拂ヲ爲シ又ハ支拂ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ供託ヲ爲スニ非サレハ其ノ登録實用新案又ハ登録意匠ヲ實施スルコトヲ得但シ審決又ハ判決ノ確定前ト雖審決又ハ判決ニ依ル補償金ニ相當スル金額ヲ供託シタルトキハ實施スルコトヲ得

第十三條 登録實用新案ノ實施權ハ之ヲ登録シタルトキハ其ノ實用新案權ヲ爾後取得シタル者及其ノ實用新案權ヲ目的

トスル爾後設定ノ質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生

第七條乃至第九條又ハ第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第十四條第二項ノ規定ニ依ル實施權ハ其ノ登録ナキ場合ト雖前項ノ效力ヲ有ス

第十一條ノ規定ニ依ル實施權ハ其ノ登録前設定ノ質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

特許法第四十五條ノ規定ハ實施權ノ移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限又ハ實施權ヲ目的トスル質權ノ設定、移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限ニ付之ヲ準用ス

第十四條 實用新案權者ハ登録實用新案ノ圖面又ハ説明書カ不完全ニ作製セラレタルコトヲ發見シタルトキハ左ノ各號ノ一ニ掲ケル事項ヲ目的トスル場合ニ限リ其ノ圖面又ハ説明書ノ訂正ノ許可ノ審判ヲ請求スルコトヲ得

一 登録請求範圍ノ減縮

二 誤記ノ訂正

三 不明瞭ナル記載ノ釋明

前項第一號ノ場合ニ於テハ其ノ殘部カ登録出願ノ際獨立シテ新規ノ實用新案ナルコトヲ要ス

第十五條 前條ノ場合ニ於テハ登録請求範圍ヲ實質上擴張シ又ハ實質上變更スルコトヲ得ス

第十六條 登録カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

一 登録カ第一條、第二條又ハ第四條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

二 登録カ第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第三十

二條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ
 三 登録カ登録ヲ受クルノ權利ノ承繼人ニ非サル者又ハ登録ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ノ爲ニ爲サレタルトキ
 四 登録カ第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第三十三條ニ規定スル條約又ハ之ニ準スヘキモノニ違反シテ爲サレタル場合ニ於テ其ノ違反カ第一號乃至前號ニ掲クルモノニ準スヘキモノナルトキ
 五 登録カ第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第三十二條ノ規定ニ違反スルニ至リタルトキ又ハ特許法第三十三條ニ規定スル條約若ハ之ニ準スヘキモノニ違反スルニ至リタル場合ニ於テ其ノ違反カ第一號乃至第三號ニ掲クルモノニ準スヘキモノナルトキ
 第十四條ノ許可カ同條第二項又ハ前條ノ規定ニ違反シタルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ
 登錄又ハ第十四條ノ許可ハ實用新案權消滅後ト雖前二項ノ規定ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ
 第十七條 特許局ニ實用新案原簿ヲ備ヘ實用新案權及實施權並之ヲ目的トスル質權ノ設定、保存、移轉、變更、消滅、處分ノ制限其ノ他法令ニ定ムル事項ヲ登録ス
 登錄ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
 第十八條 登録スヘシトシテ査定若ハ審決確定シ又ハ判決アリタルトキハ之ヲ實用新案原簿ニ登録シ實用新案登録證ヲ下付ス第十四條ノ許可ノ審決確定シ又ハ判決アリタルトキ亦同シ
 第十九條 特許局ハ實用新案公報ヲ發行シ登録實用新案ニ關スル必要ナル事項ヲ之ニ記載スヘシ但シ軍事上秘密ヲ要スル

ル登録實用新案ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 第二十條 實用新案ノ登録ヲ受クル者又ハ登録證主ハ登録料トシテ毎件左ノ金額ヲ納付スヘシ
 一 第一年乃至第三年 毎年 七圓
 二 第四年乃至第六年 毎年 十五圓
 三 第七年乃至第十年 毎年 二十五圓
 第二十一條 實用新案登録ノ出願アリタルトキハ審査官ヲシテ之ヲ審査セシム
 第二十二條 審判ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ規定スルモノノ外左ニ掲クル事項ニ付テ之ヲ請求スルコトヲ得
 一 第十六條ノ規定ニ依ル登録又ハ許可ノ無効
 二 實用新案權ノ範圍ノ確認
 前項第一號ノ無効ノ審判ハ利害關係人及審査官ニ限り之ヲ請求スルコトヲ得但シ審査官ハ第四條ノ規定ニ違反シ又ハ第十六條第一項第三號ニ該當ストノ理由ニ依ル無効ノ審判ヲ請求スルコトヲ得
 第一項第二號ノ確認ノ審判ハ利害關係人ニ限り之ヲ請求スルコトヲ得
 第二十三條 前條第一項第一號ノ無効ノ審判ハ實用新案ノ登録又ハ第十四條ノ許可ノ登録ノ日ヨリ三年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス
 前項ニ規定スル期間ハ第十六條第一項第五號ニ該當ストノ理由ニ依ル無効ノ審判ノ請求ニ付テハ同號ニ該當スルニ至リタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス
 第二十四條 第十一條ノ審判ニ於テハ補償金額ニ付テモ亦之ヲ審決スヘシ

第二十五條 査定又ハ審判ノ審決ヲ受ケタル者不服アルトキハ其ノ査定又ハ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ抗告審判ヲ請求スルコトヲ得但シ前條ノ規定ニ依ル補償金額ノ審決及第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第九十九條第一項ノ規定ニ依ル費用、審決ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 第二十六條 特許法第六條、第十條乃至第十九條、第二十一條乃至第三十三條、第三十六條、第四十條、第四十四條、第四十五條、第四十七條、第四十八條、第五十一條、第五十五條、第五十六條、第五十八條、第五十九條、第六十四條、第六十五條第六項第七項、第六十六條乃至第六十九條、第七十一條乃至第八十三條、第八十六條乃至第九十五條、第九十七條、第九十八條、第九十九條乃至第一百零八條ノ規定ハ實用新案ニ關シ之ヲ準用ス
 第二十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
 一 他人ノ登録實用新案ニ係ル物品ト同一ノ物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ擴布シタル者
 二 他人ノ登録實用新案ニ係ル物品ト類似ノ物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ擴布シタル者
 三 他人ノ登録實用新案ニ係ル物品ト同一又ハ類似ノ物品ヲ業トシテ輸入又ハ移入シタル者
 前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス
 第二十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
 一 詐偽ノ行爲ヲ以テ實用新案ノ登録ヲ受ケ又ハ審決若ハ判決ヲ受ケタル者

二 登録實用新案ニ係ラサル物品又ハ其ノ物品ノ容器包裝ノ類ニ實用新案登録標記ヲ附シ又ハ實用新案登録標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者
 三 登録實用新案ニ係ラサル物品ニシテ其ノ物品又ハ其ノ物品ノ容器包裝ノ類ニ實用新案登録標記ヲ附シ又ハ實用新案登録標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタルモノヲ販賣又ハ擴布シタル者
 四 登録實用新案ニ係ラサル物品ヲ製作若ハ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ擴布スル爲廣告、看板、引札ノ類ニ其ノ物品カ登録實用新案ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者
 第二十九條 第二十七條第一項ニ掲クル行爲ヲ組成シタル物又ハ其ノ行爲ヨリ生シタル物ニシテ刑法第十九條ノ規定ニ依リ沒收スルコトヲ得ヘキモノニ付判決言渡前被害者ノ請求アリタルトキハ其ノ物ヲ沒收シ之ヲ被害者ニ交付スルノ言渡ヲ爲スヘシ
 被害者ハ前項ノ規定ニ依ル物ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ物ノ價額ヲ超過スル損害ノ額ニ限り賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第三十條 法律ニ依リ宣誓シタル證人、鑑定人又ハ通事特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官廳ニ對シ虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス
 前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得
 第三十一條 特許局職員又ハ其ノ職ニ在リタル者故ナク其ノ職務上知得タル實用新案登録出願中ノ考案又ハ實用新案登

録出願者ノ事業上ノ秘密ヲ漏泄シ又ハ竊用シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條ノ二 第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル民事訴訟法第二百六十七條第二項又ハ第三百三十六條ノ規定ニ依リ宣誓ヲ爲シタル者カ特許局ニ對シ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十二條 特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十二條ノ二 特許局ヨリ證據調ニ關シ書類其ノ他ノ物件ノ提出又ハ提示ヲ命セラレタル者正當ノ理由ナクシテ其ノ命ニ從ハサルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十二條ノ三 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ過料ニ付テ之ヲ準用ス

第三十三條 (削除)

附則

第三十四條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十年勅令第四百五十九號ヲ以テ大正十一年一月十一日ヨリ施行)

第三十五條 舊法ニ依ル實用新案ノ登録、處分及手續ハ本附則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

舊法ニ依リ實用新案ニ關シ爲シタル出願、請求其ノ他ノ手續ニ付亦前項ニ同シ

第三十六條 本法施行ノ際現ニ繫屬スル實用新案登録ノ出願ヲ處理ニ付テハ仍舊法ニ依ル

本法施行前送達ヲ受ケタル審決ニ對スル不服申立ノ期間ニ付テハ仍舊法ニ依ル補償金額ニ對スル不服申立ノ期間ニ付亦同シ

第三十七條 本法施行前發生シタル實用新案權ニ關シテハ舊特許法第二十九條第二號ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ同號ノ規定ヲ準用シ第七條ノ規定ハ之ヲ適用セス

第三十八條 實用新案ノ登録カ舊法施行中無効ト爲リタル場合ニ付テハ舊法第十條ノ規定及同條ノ規定ニ基キ準用スル舊特許法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ第八條ノ規定ハ之ヲ適用セス

第三十九條 舊法ニ依ル實用新案ノ登録ニ關シテハ本法施行後ニ登録カ爲サレタル場合ト雖舊法第十一條ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ同條ノ規定ノ適用ノ範圍内ニ於テ同條ニ掲ケル舊法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ登録カ同條ノ規定ニ該當スル場合ニ限リ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

第四十條 前條ノ規定ニ依ル無効ノ審判ハ本法施行前爲サレタル實用新案ノ登録ニ關シテハ本法施行ノ日ヨリ三年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

附則 (昭和四年法律第四十八號附則)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和四年勅令第二百八十九號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行)

本法ハ本法施行前ニ生シタル事項ニモ之ヲ適用ス但シ從前ノ規定ニ依リ生シタル效力ヲ妨ケス

第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第十七條ノ二ノ改正

規定ハ本法施行前同條ニ掲ケル事由ヲ生シタル委任代理ニシテ本法施行前代理權消滅ノ登録ヲ受ケサリシモノ又ハ其ノ因出ヲ爲ササリシモノニモ之ヲ適用ス

本法施行前抗告事件ニ付決定ヲ受ケタル者ハ仍從前ノ規定ニ依リ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

本法ニ依リ新ニ期間ヲ定メタル手續ニシテ本法施行ノ際爲スヘキモノニ付テハ其ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

本法施行前從前ノ規定ニ依リ過料ニ處スヘキ行爲ヲ爲シタル者ニシテ本法施行ノ際未タ其ノ裁判ヲ受ケサルモノハ本法ニ於テ過料ニ處スヘキ場合ニ限リ本法ニ依リ處罰ス但シ過料ノ額ハ從前ノ規定ノ過料ノ額ヲ超ユルコトヲ得ス

○意匠法 (大正十年四月三十日 法律第九十八號)

改正 昭和四年第四九號、昭和八年第一〇號、昭和十三年第五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル意匠法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

意匠法

第一條 物品ニ關シ形狀、模様若ハ色彩又ハ其ノ結合ニ係ル新規ノ意匠ノ工業的考案ヲ爲シタル者ハ其ノ物品ノ意匠ニ付意匠ノ登録ヲ受クルコトヲ得

第二條 左ニ掲ケル意匠ニ付テハ之ヲ登録セス

一 菊花繡紋章ト同一又ハ類似ノ形狀又ハ模様ヲ有スルモノ

二 秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アルモノ

三 世人ヲ欺瞞スルノ虞アルモノ

第三條 本法ニ於テ意匠ノ新規ト稱スルハ意匠カ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲキテ得

一 登録出願前帝國内ニ於テ公然知ラレ若ハ公然用キラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

二 登録出願前帝國内ニ頒布セラレタル刊行物ニ容易ニ實施スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ記載セラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

意匠ニシテ自己ノ登録意匠ノミニ類似スルモノハ之ヲ新規ナルモノト看做ス

第四條 同一又ハ類似ノ意匠ニ付テハ最先ノ出願者ニ限リ登録ス但シ同日ノ各別ノ出願者アルトキハ出願者ノ協議ニ依リ登録シ協議調ハサルトキハ共ニ登録セス

第五條 意匠登録出願者ハ命令ノ定ムル類別内ニ於テ其ノ意匠ヲ現スヘキ物品ヲ指定スヘシ

第六條 意匠登録出願者ハ登録ノ日ヨリ三年以内其ノ意匠ヲ秘密ニセムコトヲ請求スルコトヲ得

第七條 實用新案登録出願者カ其ノ實用新案登録出願ヲ其ノ出願ニ係ル意匠ニ付テノ意匠登録出願ニ變更シタルトキハ其ノ意匠登録出願ハ實用新案登録出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ實用新案登録出願ニ付登シスヘカラストノ査定ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ最初ノ査定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 意匠權ハ登録ニ依リ發生ス

意匠権者ハ其ノ登録意匠ニ係ル物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ譲渡スルノ権利ヲ専有ス
 自己ノ登録意匠ニ類似スル意匠ノ意匠権ハ最先ニ發生シタル意匠権ト合體スルモノトス
 意匠権カ其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル實用新案權者ハ商標權ト抵觸スル場合又ハ登録意匠カ其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル登録實用新案ヲ利用スルモノナル場合ニ於テハ意匠権者ハ實用新案權者ノ實施許諾又ハ商標權者ノ許諾アルニ非サルレハ其ノ登録意匠ヲ實施スルコトヲ得ス
 第九條 意匠登録出願ノ際現ニ善意ニ帝國内ニ於テ其ノ意匠實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ登録意匠ニ付事業ノ目的タル意匠範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス
 第十條 登録ノ無効審判請求ノ登録前善意ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ帝國内ニ於テ其ノ意匠實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ登録意匠ニ付事業ノ目的タル意匠範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス
 一 同一又ハ類似ノ意匠ニ對スル二以上ノ登録中其ノ一カ無効ト爲リタル場合ニ於ケル登録ヲ受ケタル原意匠權者
 二 登録ヲ無効トシ同一又ハ類似ノ意匠ニ付正當權利者ノ爲ニ登録ヲ爲シタル場合ニ於ケル登録ヲ受ケタル原意匠權者
 三 前二號ニ掲ケル場合ニ於テ其ノ無効ト爲リタル意匠權ニ付實施權ヲ得テ其ノ登録ヲ受ケタル者但シ實施權カ登録ナキモ第十五條第一項ノ效力ヲ有スル場合ハ登録アルヲ要セス
 意匠登録出願ノ日前又ハ之ト同日ノ出願ニ係リ其ノ意匠權

ト抵觸スル實用新案權ノ存続期間満了シタル場合ニ於テ其ノ實用新案權ニ付實施權ヲ得テ登録ヲ受ケタル者ハ其ノ登録意匠ニ付原實施權ノ範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス但シ原實施權カ登録ナキモ實用新案法第十三條第一項ノ效力ヲ有スル場合ハ登録アルヲ要セス
 意匠権者ハ前二項ノ規定ニ依ル實施權者ヨリ相當ノ補償金ヲ受クルノ権利ヲ有ス
 第十一條 意匠登録出願ノ日前又ハ之ト同日ノ出願ニ係リ其ノ意匠權ト抵觸スル實用新案權ノ存続期間満了後ニ於ケル原實用新案權者ハ其ノ登録意匠ニ付原權利ノ範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス
 第十二條 意匠権ノ存続期間ハ登録ノ日ヨリ十年ヲ以テ終了ス
 第二十五條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第十一條ノ規定ニ依リ正當權利者ノ爲ニ登録ヲ爲シタルトキハ前項ノ十年ノ期間ハ無効ト爲リタル登録ノ爲サレタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス
 第十三條 意匠権者ハ他人ノ登録實用新案又ハ登録意匠ヲ實施スルニ非サルレハ自己ノ登録意匠ヲ實施スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ他人カ正當ノ理由ナクシテ實施ヲ許諾セザルトキ又ハ其ノ他人ノ實施許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ實施セラルヘキ實用新案又ハ意匠ノ實用新案權又ハ意匠權發生ノ日ヨリ二年ヲ經過セザルトキハ此ノ限ニ在ラス
 前項ノ規定ニ依リ登録實用新案又ハ登録意匠ヲ實施セラルル者其ノ實施ヲ必要トスル相手方ノ登録意匠ニ付實施ノ許

諾ヲ求メタル場合ニ於テ其ノ相手方カ正當ノ理由ナクシテ實施ヲ許諾セザルトキ又ハ其ノ相手方ノ實施許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得
 第十四條 前條ノ規定ニ依ル實施權者ハ實用新案權者又ハ意匠権者ニ對シ相當ノ補償金ヲ支拂フヘシ
 前項ノ實施權者ハ補償金ノ支拂ヲ爲シ又ハ支拂ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ供託ヲ爲スニ非サルレハ其ノ登録實用新案又ハ登録意匠ヲ實施スルコトヲ得但シ審決又ハ判決ノ確定前ト雖審決又ハ判決ニ依ル補償金ニ相當スル金額ヲ供託シタルトキハ實施スルコトヲ得
 第十五條 登録意匠ノ實施權ハ之ヲ登録シタルトキハ其ノ意匠權ヲ爾後取得シタル者及其ノ意匠權ヲ目的トスル爾後設定ノ質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス
 第九條乃至第十一條又ハ第二十五條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第十四條第二項ノ規定ニ依ル實施權ハ其ノ登録ナキ場合ト雖前項ノ效力ヲ有ス
 第十三條ノ規定ニ依ル實施權ハ其ノ登録前設定ノ質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス
 特許法第四十五條ノ規定ハ實施權ノ移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限又ハ實施權ヲ目的トスル質權ノ設定、移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限ニ付之ヲ準用ス
 第十六條 意匠権ハ第五條ノ規定ニ依リ指定シタル物品ニ依リ之ヲ分割シテ移轉スルコトヲ得
 第十七條 登録カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ
 一 登録カ第一條、第二條又ハ第四條ノ規定ニ違反シテ爲

二 登録カ第二十五條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第三十二條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ
 三 登録カ登録ヲ受クルノ權利ノ承繼人ニ非サル者又ハ登録ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ノ爲ニ爲サレタルトキ
 四 登録カ第二十五條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第三十三條ノ規定ニ違反シタル者ノ爲ニ爲サレタルトキ
 五 登録カ第二十五條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第三十二條ノ規定ニ違反スルニ至リタルトキ又ハ特許法第三十三條ノ規定ニ違反スルニ至リタル場合ニ於テ其ノ違反カ第一號乃至第三號ニ掲ケルモノニ準スヘキモノナルトキ
 第十八條 特許局ニ意匠原簿ヲ備ヘ意匠權及實施權並之ヲ目的トスル質權ノ設定、保存、移轉、變更、消滅、處分ノ制限其ノ他法令ニ定ムル事項ヲ登録ス
 第十九條 登録スヘシトシテ査定若ハ審決確定シ又ハ判決アリタルトキハ之ヲ意匠原簿ニ登録シ意匠登録證ヲ下付ス
 第十九條ノ二 特許局ハ意匠公報ヲ發行シ本法ニ規定スル事項其ノ他登録意匠ニ關スル必要ナル事項ヲ之ニ記載スベシ但シ第六條ノ規定ニ依リ請求ニ依リ秘密ニスベキ登録意匠ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 第二十條 意匠ノ登録ヲ受クル者又ハ登録證主ハ登録料トシテ每件左ノ金額ヲ納付スヘシ

一 第一年至第三年 每年 三圓
 二 第四年至第十年 每年 五圓
 自己ノ登録意匠ニ類似スル意匠ノ登録ヲ受ケル者ハ其ノ登録ヲ受ケル時登録料トシテ每件一時ニ三圓ヲ納付スヘシ
 第十六條ノ規定ニ依リ分割シテ移轉セラルル意匠ノ登録ヲ受ケル者又ハ登録主ハ其ノ意匠權ニ付原意匠權ノ當該年分ヨリノ登録料ヲ納付スヘシ
 第二十一條 意匠登録ノ出願アリタルトキハ審査官ヲシテ之ヲ審査セシム
 第二十二條 審判ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ規定スルモノノ外左ニ掲ケル事項ニ付之ヲ請求スルコトヲ得
 一 第十七條ノ規定ニ依ル登録ノ無効
 二 意匠權ノ範圍ノ確認
 前項第一號ノ無効ノ審判ハ利害關係人及審査官ニ限り之ヲ請求スルコトヲ得但シ審査官ハ第四條ノ規定ニ違反シ又ハ第十七條第一項第三號ニ該當ストノ理由ニ依ル無効ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス
 第二十三條 第二號ノ確認ノ審判ハ利害關係人ニ限り之ヲ請求スルコトヲ得
 第二十三條 第十三條ノ審判ニ於テハ補償金額ニ付テモ亦之ヲ審決スヘシ
 第二十四條 査定又ハ審判ノ審決ヲ受ケタル者不服アルトキハ其ノ査定又ハ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ抗告審判ヲ請求スルコトヲ得但シ前條ノ規定ニ依ル補償金額ノ審決及第二十五條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第一百十九條第一項ノ規定ニ依ル費用ノ審決ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十五條 特許法第六條、第十條乃至第十四條、第十六條乃至第十九條、第二十一條乃至第三十條、第三十二條、第三十三條、第三十六條、第四十四條、第四十五條、第四十七條、第四十八條、第五十一條、第五十五條、第五十六條、第五十八條第一項、第五十九條、第六十四條、第六十五條、第六項第七項、第六十六條第一項、第六十七條乃至第六十九條、第七十一條、第七十二條、第八十條乃至第八十三條、第八十六條乃至第一百五條、第七十七條、第八十條乃至第一百二條ノ二、第一百十三條第一項及第一百十四條乃至第一百二十八條ノ規定ハ意匠ニ關シ之ヲ準用ス
 第二十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
 一 他人ノ登録意匠ニ係ル物品ト同一ノ物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ擴布シタル者
 二 他人ノ登録意匠ニ係ル物品ト類似ノ物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ擴布シタル者
 三 他人ノ登録意匠ニ係ル物品ト同一又ハ類似ノ物品ヲ業トシテ輸入又ハ移入シタル者
 前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス
 第二十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
 一 詐偽ノ行爲ヲ以テ意匠ノ登録ヲ受ケ又ハ審決若ハ判決ヲ受ケタル者
 二 登録意匠ニ係ラサル物品又ハ其ノ物品ノ容器包裝ノ類ニ意匠登録標記ヲ附シ又ハ意匠登録標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者
 三 登録意匠ニ係ラサル物品ニシテ其ノ物品又ハ其ノ物品

ノ容器包裝ノ類ニ意匠登録標記ヲ附シ又ハ意匠登録標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタルモノヲ販賣又ハ擴布シタル者
 四 登録意匠ニ係ラサル物品ヲ製作若ハ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ擴布スル爲廣告、看板、引札ノ類ニ其ノ物品カ登録意匠ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者
 第二十八條 第二十六條第一項ニ掲ケル行爲ヲ組成シタル物又ハ其ノ行爲ヨリ生シタル物ニシテ刑法第十九條ノ規定ニ依リ沒收スルコトヲ得ヘキモノニ付判決言渡前被害者ノ請求アリタルトキハ其ノ物ヲ沒收シ之ヲ被害者ニ交付スルノ言渡ヲ爲スヘシ
 被害者ハ前項ノ規定ニ依ル物ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ物ノ價額ヲ超過スル損害ノ額ニ限り賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第二十九條 法律ニ依リ宣誓シタル證人、鑑定人又ハ通事特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官廳ニ對シ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス
 前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得
 第三十條 特許局職員又ハ其ノ職ニ在リタル者故ナク其ノ職務上知得タル意匠登録出願中ノ考案又ハ意匠登録出願者ノ事業上ノ秘密ヲ漏泄シ又ハ竊用シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
 第三十條ノ二 第二十五條ノ規定ニ依リ準用スル民事訴訟法第二百六十七條第二項又ハ第三百三十六條ノ規定ニ依リ宜

誓ヲ爲シタル者カ特許局ニ對シ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス
 第三十一條 特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス
 第三十一條ノ二 特許局ヨリ證據調ニ關シ書類其ノ他ノ物件ノ提出又ハ提示ヲ命セラレタル者正當ノ理由ナクシテ其ノ命ニ從ハサルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス
 第三十一條ノ三 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ過料ニ付之ヲ準用ス
 第三十二條 (削除)
 附則
 第三十三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十年勅令第四百五十九號ヲ以テ大正十一年一月十一日ヨリ施行)
 第三十四條 舊法ニ依ル意匠ノ登録、處分及手續ハ本附則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス
 舊法ニ依リ意匠ニ關シ爲シタル出願、請求其ノ他ノ手續ニ付亦前項ニ同シ
 第三十五條 本法施行ノ際現ニ繫屬スル意匠登録ノ出願ノ處理ニ付テハ仍舊法ニ依ル
 本法施行前送達ヲ受ケタル審決ニ對スル不服申立ノ期間ニ付テハ仍舊法ニ依ル

第三十六條 本法施行前發生シタル意匠權ニ關シテハ舊特許法第二十九條第二號ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ同號ノ規定ヲ準用シ第九條ノ規定ハ之ヲ適用セス

第三十七條 意匠ノ登録カ舊法施行中無効ト爲リタル場合ニ付テハ舊法第十條ノ規定及同條ノ規定ニ基キ準用スル舊特許法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ第十條ノ規定ハ之ヲ適用セス

第三十八條 本法施行前既ニ納メタル又ハ納付スヘキ期限ノ經過シタル意匠料ニ付テハ仍舊法ニ依ル

第三十九條 意匠料ノ納付ヲ怠リタル場合ニ於テ本法施行ノ際未タ其ノ意匠登録ノ取消ナキモノニ付テハ本法施行ノ日ヨリ六月間ヲ限リ意匠料ヲ追納スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ舊法ニ依ル意匠料ノ二倍ニ相當スル金額ヲ意匠料トシテ納付スヘシ

前項ニ規定スル追納期間内ニ意匠料ヲ追納セザルトキハ本法施行ノ時ニ遡リ意匠權ハ消滅シタルモノト看做ス

第四十條 舊法ニ依ル意匠ノ登録ニ關シテハ本法施行後ニ登録カ爲サレタル場合ト雖舊法第十二條ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ同條ノ規定ノ適用ノ範圍内ニ於テ同條ニ掲ケル舊法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ登録カ同條ノ規定ニ該當スル場合ニ限り審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

附則 (昭和四年法律第四十九號附則)
 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和四年勅令第二百八十九號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行)

本法ハ本法施行前ニ生シタル事項ニモ之ヲ適用ス但シ從前ノ規定ニ依リ生シタル效力ヲ妨ケス

第二十五條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第十七條ノ二ノ改正規定ハ本法施行前同條ニ掲ケル事由ヲ生シタル委任代理ニシテ本法施行前代理權消滅ノ登録ヲ受ケサリシモノ又ハ其ノ届出ヲ爲ササリシモノニモ之ヲ適用ス

本法施行前抗告事件ニ付決定ヲ受ケタル者ハ仍從前ノ規定ニ依リ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

本法ニ依リ新ニ期間ヲ定メタル手續ニシテ本法施行ノ際爲スヘキモノニ付テハ其ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

本法施行前從前ノ規定ニ依リ過料ニ處スヘキ行爲ヲ爲シタル者ニシテ本法施行ノ際未タ其ノ裁判ヲ受ケサルモノハ本法ニ於テ過料ニ處スヘキ場合ニ限り本法ニ依リ處罰ス但シ過料ノ額ハ從前ノ規定ノ過料ノ額ヲ超ユルコトヲ得ス

○商標法 (大正十年四月三十日 法律第九十九號)

改正 昭和四年第五〇號、昭和九年第一五號、昭和十三年第四號、第五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル商標法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

商標法

第一條 自己ノ生産、製造、加工、選擇、證明、取扱又ハ販賣ノ營業ニ係ル商品ナルコトヲ表彰スル爲商標ヲ專用セムトスル者ハ商標ノ登録ヲ受クルコトヲ得

登録ヲ受クルコトヲ得ヘキ商標ハ文字、圖形若ハ記號又ハ其ノ結合ニシテ特別顯著ナルモノナルコトヲ要ス

商標ハ之ニ施スヘキ色ヲ限定シテ登録ヲ受クルコトヲ得

第二條 左ニ掲ケル商標ニ付テハ之ヲ登録セス

- 一 菊花御紋章ト同一又ハ類似ノ圖形ヲ有スルモノ
- 二 國旗、軍旗、勳章、褒章、記章又ハ外國ノ國旗ト同一又ハ類似ノモノ
- 三 白地ニ赤十字ノ記章又ハ赤十字若ハ「ジエネヴァ」十字ノ稱號若ハ文字ト同一又ハ類似ノモノ
- 三ノ二 工業所有權保護同盟條約國ノ官ノ監督用又ハ證明用ノ印章又ハ記號ニシテ主務大臣ノ指定スルモノト同一又ハ類似ニシテ同一又ハ類似ノ商品ニ使用スルモノ
- 四 秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アルモノ
- 五 他人ノ肖像、氏名名稱又ハ商號ヲ有スルモノ但シ其ノ他人ノ承諾ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 六 同一又ハ類似ノ商品ニ慣用スル標章ト同一又ハ類似ノモノ
- 七 政府ノ開設シ、道府縣若ハ之ニ準スヘキモノノ開設シ若ハ政府ノ認可ヲ得テ開設スル博覽會又ハ外國ニ於ケル官設若ハ官許ノ博覽會ノ賞牌、賞狀又ハ褒狀ト同一又ハ類似ノ圖形ヲ有スルモノ但シ其ノ賞牌、賞狀又ハ褒狀ヲ受領シタル者カ其ノ商標ノ一部トシテ其ノ圖形ヲ使用セムトスルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 八 取引者又ハ需要者ノ間ニ廣ク認識セラルル他人ノ標章ト同一又ハ類似ニシテ同一又ハ類似ノ商品ニ使用スルモノ

九 他人ノ登録商標ト同一又ハ類似ニシテ同一又ハ類似ノ商品ニ使用スルモノ

十 登録失效ノ日ヨリ一年ヲ經過セザル他人ノ商標ト同一又ハ類似ニシテ同一又ハ類似ノ商品ニ使用スルモノ但シ其ノ他人ノ商標カ登録失效前一年以上使用セサリシモノナル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

十一 商品ノ誤認又ハ混同ヲ生セシムルノ虞アルモノ

商標ノ要部ト認メラルルノ虞アル部分カ分離シテハ前條第二項ニ規定スル特別顯著ノ要件ヲ具備セザル爲又ハ前項第六號ニ該當スル爲登録ヲ受クルコトヲ得サルモノナル場合ト雖出願人カ其ノ部分自體ニ付權利ヲ要求セザル旨ヲ申出テタルトキハ其ノ商標ヲ登録ス

第三條 同一商品ニ使用スヘキ自己ノ商標ニシテ相類似スルモノ又ハ類似ノ商品ニ使用スヘキ自己ノ商標ニシテ同一ノモノ若ハ相類似スルモノハ聯合ノ商標トシテ出願シタル場合ニ限り之ヲ登録ス

第四條 同一又ハ類似ノ商品ニ使用スヘキ同一又ハ類似ノ商標ニ付各別ノ登録出願カ競合スルトキハ最先ノ出願者ニ限り登録ス但シ同日ノ各別ノ出願者アルトキハ出願者ノ協議ニ依リ登録シ協議調ハサルトキハ共ニ登録セス

政府ノ開設シ、道府縣若ハ之ニ準スヘキモノノ開設シ若ハ政府ノ認可ヲ得テ開設スル博覽會又ハ工業所有權保護同盟條約國ノ版圖内ニ開設スル官設若ハ官許ノ萬國博覽會ニ出品シタル商品ニ使用シタル商標ニ付其ノ開會ノ日ヨリ六月以内ニ其ノ商標ノ使用者カ其ノ商標ノ登録ヲ出願シタルトキハ其ノ開會ノ日ニ於テ出願シタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ命令ヲ以テ前項ニ規定スル出品ニ付豫メ届出ツヘキコトヲ規定シタル場合ニ於テ其ノ届出ヲ怠リタル者ニ付之ヲ適用セズ

第三項ニ掲クル萬國博覽會ヲ除クノ外外國ノ版圖内ニ開設スル官設又ハ官許ノ博覽會ニ出品スル商品ニ使用スル商標ニ付保護ヲ與フルノ必要アルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 商標登録出願者ハ命令ノ定ムル類別内ニ於テ其ノ商標ヲ使用スヘキ商品ヲ指定スヘシ

第六條 商標ノ登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限り之ヲ移轉スルコトヲ得

商標ノ登録出願ヨリ生シタル權利カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得ス

商標ノ登録出願ヨリ生シタル權利ノ承繼ハ承繼人カ出願人名義ノ變更ヲ届出ツルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス但シ同日ノ届出ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七條 商標權ハ登録ニ依リ發生ス

商標權者ハ第五條ノ規定ニ依リ指定シタル商品ニ付其ノ商標ヲ専用スルノ權利ヲ有ス

商標權カ其ノ登録商標ノ使用ノ態樣ニ依リ其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル意匠權ト概屬スル場合ニ於テハ商標權ハ意匠權者ノ實施許諾アルニ非サレハ其ノ態樣ニ於テ登録商標ヲ使用スルコトヲ得ス

第八條 商標權ノ效力ハ普通ニ使用セララルル方法ヲ以テ自己ノ氏名名稱若ハ商號又ハ其ノ商品ノ普通名稱、產地、品位、品質、效能、用途、製法、時期、數量、形狀若ハ價格ヲ表示スルモノニ及ハス但シ商標登録後惡意ヲ以テ氏名名稱又ハ商號ヲ使用シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

商標權ノ效力ハ第二條第三項ノ規定ニ依リ權利ヲ要求セザル旨ヲ申出テタル部分自體ニ及ハス

第九條 他人ノ登録商標ノ登録出願ヨリ同一又ハ類似ノ商品ニ付取引者又ハ需要者ノ間ニ廣ク認識セラレタル同一又ハ類似ノ標章ヲ善意ニ使用スル者ハ其ノ他人ノ商標ノ登録ニ拘ラス其ノ使用ヲ繼續スルコトヲ得營業又ハ業務ト共ニ其ノ標章ノ使用ヲ承繼シタル者亦同シ

前項ノ場合ニ於テ商標權者ハ標章使用者ニ對シ商品ノ混同ヲ防クニ適當ナル表示ヲ附スヘキコトヲ請求スルコトヲ得

第十條 商標權ノ存續期間ハ登録ノ日ヨリ二十年ヲ以テ終了ス

第十一條 前條ノ存續期間ハ更新登録ノ出願ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得但シ其ノ更新登録ノ出願ニ係ル商標カ第二條第一項第一號乃至第四號第六號第七號又ハ第十一號ニ該當スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限り之ヲ移轉スルコトヲ得

商標權ハ第五條ノ規定ニ依リ指定シタル商品ニ依リ之ヲ分劃シテ移轉スルコトヲ得

聯合ノ商標ノ商標權ハ分離シテ之ヲ移轉スルコトヲ得ス

商標權カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得ス

第十三條 商標權ハ商標權者カ其ノ營業ヲ廢止シタル場合ニ

品質、效能、用途、製法、時期、數量、形狀若ハ價格ヲ表示スルモノニ及ハス但シ商標登録後惡意ヲ以テ氏名名稱又ハ商號ヲ使用シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

商標權ノ效力ハ第二條第三項ノ規定ニ依リ權利ヲ要求セザル旨ヲ申出テタル部分自體ニ及ハス

第九條 他人ノ登録商標ノ登録出願ヨリ同一又ハ類似ノ商品ニ付取引者又ハ需要者ノ間ニ廣ク認識セラレタル同一又ハ類似ノ標章ヲ善意ニ使用スル者ハ其ノ他人ノ商標ノ登録ニ拘ラス其ノ使用ヲ繼續スルコトヲ得營業又ハ業務ト共ニ其ノ標章ノ使用ヲ承繼シタル者亦同シ

前項ノ場合ニ於テ商標權者ハ標章使用者ニ對シ商品ノ混同ヲ防クニ適當ナル表示ヲ附スヘキコトヲ請求スルコトヲ得

第十條 商標權ノ存續期間ハ登録ノ日ヨリ二十年ヲ以テ終了ス

第十一條 前條ノ存續期間ハ更新登録ノ出願ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得但シ其ノ更新登録ノ出願ニ係ル商標カ第二條第一項第一號乃至第四號第六號第七號又ハ第十一號ニ該當スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限り之ヲ移轉スルコトヲ得

商標權ハ第五條ノ規定ニ依リ指定シタル商品ニ依リ之ヲ分劃シテ移轉スルコトヲ得

聯合ノ商標ノ商標權ハ分離シテ之ヲ移轉スルコトヲ得ス

商標權カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得ス

第十三條 商標權ハ商標權者カ其ノ營業ヲ廢止シタル場合ニ

於テハ消滅ス

第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ審判ニ依リ商標ノ登録ヲ取消スヘシ

一 商標權者正當ノ理由ナクシテ帝國内ニ於テ登録ノ日ヨリ一年間其ノ商標ヲ使用セザリシトキ又ハ引續キ三年間其ノ商標ノ使用ヲ中止シタルトキ但シ第五條ノ規定ニ依リ指定シタル商品中其ノ一ニ使用シ又ハ聯合ノ商標中其ノ一ノ一ヲ使用シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二 商標權ノ移轉アリタル場合ニ於テ其ノ相續ニ依ルモノヲ除クノ外移轉アリタル日ヨリ一年以内ニ商標權移轉ノ登録ヲ申請セザルトキ

第十五條 商標權者故意ニ其ノ登録商標ニ商品ノ誤認又ハ混同ヲ生セシムルノ虞アル附記又ハ變更ヲ爲シテ之ヲ使用シタルトキハ審判ニ依リ商標ノ登録ヲ取消スヘシ

前項ノ規定ニ依リ商標ノ登録ヲ取消サレタル者ハ取消ノ審決確定シ又ハ判決アリタル日ヨリ五年間同一又ハ類似ノ商品ニ付同一又ハ類似ノ商標ノ登録ヲ受クルコトヲ得ス

第十六條 商標ノ登録カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

一 登録カ第一條乃至第四條又ハ前條第二項ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

二 登録カ第二十四條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第三十條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

三 登録カ商標ノ登録出願ヨリ生シタル權利ノ承繼人ニ非サル者ノ爲ニ爲サレタルトキ

四 登録カ第二十四條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第三十條ノ規定スル條約又ハ之ニ準スヘキモノニ違反シテ爲サレタル場合ニ於テ其ノ違反カ第一號乃至前號ニ掲クルモノニ準スヘキモノナルトキ

五 登録カ第二十四條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第三十條ノ規定ニ違反スルニ至リタルトキ又ハ特許法第三十條ノ規定スル條約若ハ之ニ準スヘキモノニ違反スルニ至リタル場合ニ於テ其ノ違反カ第一號乃至第三號ニ掲クルモノニ準スヘキモノナルトキ

商標權存續期間更新ノ登録カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

一 登録カ第十一條但書ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

二 登録カ商標權者ニ非サル者ノ爲ニ爲サレタルトキ

商標又ハ商標權存續期間更新ノ登録ハ商標權消滅後ト雖前二項ノ規定ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

第十七條 特許局ハ商標原簿ヲ備ヘ商標權ノ設定、移轉、變更、消滅其ノ他法令ニ定ムル事項ヲ登録ス

登録ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 登録スヘシトシテ査定若ハ審決確定シ又ハ判決アリタルトキハ之ヲ商標原簿ニ登録ス

第十九條 特許局ハ商標公報ヲ發行シ本法ニ規定スル事項其ノ他登録商標ニ關スル必要ナル事項ヲ之ニ記載スヘシ

第二十條 商標ノ登録ヲ受クル者ハ其ノ登録ヲ受クル時登録料トシテ每件一時三十圓ヲ納付スヘシ

商標權存續期間更新ノ登録ヲ受クル者ハ其ノ登録ヲ受クル

時登録料トシテ毎件一時ニ五十圓ヲ納付スヘシ
 第二十一條 商標又ハ商標權存續期間更新ノ登録出願アリタ
 ルトキハ審査官ヲシテ之ヲ審査セシム
 第二十二條 審判ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ規定
 スルモノノ外左ニ掲クル事項ニ付之ヲ請求スルコトヲ得
 一 第十四條、第十五條又ハ第三十一條ノ規定ニ依ル商標
 ノ登録ノ取消
 二 第十六條ノ規定ニ依ル商標又ハ商標權存續期間更新ノ
 登録ノ無効
 三 商標權ノ範圍ノ確認
 前項第一號ノ取消ノ審判又ハ第二號ノ無効ノ審判ハ利害關
 係人及審査官ニ限り之ヲ請求スルコトヲ得但シ審査官ハ第
 二條第一項第五號第八號乃至第十號、第三條若ハ第四條ノ
 規定ニ違反シ又ハ第十六條第一項第三號若ハ第二項第二號
 ニ該當ストノ理由ニ依ル無効ノ審判ヲ請求スルコトヲ得
 ス
 第一項第三號ノ確認ノ審判ハ利害關係人ニ限り之ヲ請求ス
 ルコトヲ得
 第二十三條 前條第一項第二號ノ無効ノ審判ハ登録ノ日ヨリ
 五年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得但シ第二
 條第一項第一號乃至第四號第六號第七號第十一號、第十
 條但書、第十五條第二項若ハ第二十四條ノ規定ニ依リ準用
 スル特許法第三十二條若ハ第三十三條ノ規定ニ違反ストノ
 理由ニ依ル場合又ハ惡意ヲ以テ登録ヲ受ケタル商標ノ登録
 ニ付第二條第一項第八號ノ規定ニ違反ストノ理由ニ依ル場
 合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十四條 特許法第十三條、第十六條乃至第十九條、第二
 十一條乃至第三十條、第三十二條、第三十三條、第四十五
 條、第五十八條第一項第三項、第六十八條、第七十一條、
 第七十二條、第七十三條第一項第二項第四項、第七十四條
 乃至第七十七條、第八十條乃至第八十三條、第八十六條乃
 至第九十五條、第九十七條、第九十九條乃至第一百五條ノ二、第
 百十七條乃至第二百二十四條及第二百二十八條ノ規定ハ商標ニ
 關シ之ヲ準用ス但シ第七十三條第一項第二項第四項及第七
 十四條乃至第七十七條ノ規定ハ商標權存續期間更新ノ登録
 出願ニ付之ヲ準用セス
 第二十五條 登録無効ノ審決確定シ又ハ判決アリタル後ニシ
 テ再審請求ノ登録前ヨリ同一又ハ類似ノ商品ニ付取引者又
 ハ需要者ノ間ニ廣ク認識セラレタル同一又ハ類似ノ登録商
 標ヲ善意ニ使用スル者ハ其ノ登録商標力再審ニ依リ登録ヲ
 回復シタル商標ニ抵觸スル爲メ第二條第一項第九號ノ規定ニ
 違反ストノ理由ニ依リ其ノ登録ヲ無効トセラレタル場合ニ
 於テモ其ノ商標ノ使用ヲ繼續スルコトヲ得營業ト共ニ其ノ
 商標ノ使用ヲ承繼シタル者亦同シ
 第二十六條 營利ヲ目的トセサル業務ニ係ル商品ノ標章ヲ專
 用セムトスル者ハ標章ノ登録ヲ受ケタルコトヲ得
 前項ノ標章ハ之ヲ商標ト看做シ本法中商標ニ關スル規定ヲ
 之ニ適用ス
 第二十七條 同業者及密接ノ關係ヲ有スル營業者ノ設立シタ
 ル法人ニシテ團體員ノ營業上ノ共同ノ利益ヲ増進スルヲ目

的トスルモノハ其ノ團體員ヲシテ其ノ營業ニ係ル商品ニ標
 章ヲ專用セシムル爲メ其ノ標章ニ付團體標章ノ登録ヲ受ケル
 コトヲ得
 團體標章ハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外之ヲ商標
 ト看做シ本法中商標ニ關スル規定ヲ之ニ適用ス
 第二十八條 前條ノ規定ニ依リ團體標章ノ登録ヲ受ケムトス
 ル法人ハ其ノ定款ニ於テ其ノ團體標章ノ使用ニ關スル事項
 ヲ定メ特許局長官ノ認可ヲ受ケヘシ其ノ事項ヲ變更スル場
 合亦同シ
 第二十九條 團體標章權ノ侵害ニ因ル損害賠償請求權ハ團體
 員ニ生シタル損害ヲモ包含ス
 第三十條 第二十七條ノ法人ノ合併又ハ分割ノ場合ニ於テ一
 ノ法人カ他ノ法人ニ團體標章ノ登録出願ヨリ生シタル權利
 又ハ團體標章權ヲ移轉セムトスルトキハ特許局長官ノ認可
 ヲ受ケヘシ此ノ場合ニ於テハ第二十八條ノ規定ヲ準用ス
 第三十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ審判ニ依
 リ團體標章ノ登録ヲ取消スヘシ
 一 法人カ團體員ヲシテ第二十八條又ハ前條ノ規定ニ依リ
 特許局長官ノ認可ヲ受ケタル定款ノ規定ニ違反シテ團體
 標章ヲ使用セシメ又ハ其ノ使用ヲ放任シタルトキ
 二 法人カ團體員ニ非サル者ヲシテ團體標章ヲ使用セシメ
 又ハ團體員ニ非サル者ノ使用ヲ放任シタルトキ
 前項ノ規定ニ依リ團體標章ノ登録ヲ取消サレタル法人ハ取
 消アリタル日ヨリ五年間同一又ハ類似ノ商品ニ付同一又ハ
 類似ノ團體標章ノ登録ヲ受ケルコトヲ得ス此ノ場合ニ於テ
 ハ第十六條及第二十二條ノ規定ヲ準用ス

第三十二條 團體標章ノ登録ヲ受ケル者ハ其ノ登録ヲ受ケル
 時登録料トシテ毎件一時ニ百圓ヲ納付スヘシ
 團體標章權存續期間更新ノ登録ヲ受ケル者ハ其ノ登録ヲ受
 ケル時登録料トシテ毎件一時ニ百五十圓ヲ納付スヘシ
 第三十三條 前六條ノ規定ハ公法人カ其ノ地域内ニ於ケル營
 業者ヲシテ其ノ營業ニ係ル商品ニ專用セシムル爲メ團體標章
 ノ登録ヲ受ケムトスル場合ニ之ヲ準用ス
 第三十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五年以下ノ懲役又
 ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス
 一 他人ノ登録商標ト同一若ハ類似ノ商標ヲ同一若ハ類似
 ノ商品ニ使用シタル者又ハ其ノ商品ヲ交付シ、販賣シ若
 ハ交付、販賣ノ目的ヲ以テ所持スル者
 二 他人ノ登録商標ト同一又ハ類似ノ商標ヲ同一若ハ類似
 ノ商品ニ使用セシムルノ目的ヲ以テ交付シ若ハ販賣シ又
 ハ其ノ交付、販賣ノ目的ヲ以テ所持スル者
 三 他人ノ登録商標ト同一又ハ類似ノ商品ニ使用スルノ目
 的又ハ使用セシムルノ目的ヲ以テ偽造又ハ模造シタル者
 四 他人ノ登録商標ト同一又ハ類似ノ商標ヲ使用シタル同
 一又ハ類似ノ商品ヲ交付、販賣ノ目的ヲ以テ輸入又ハ移
 入シタル者
 五 他人ノ登録商標ト同一又ハ類似ノ商標ト同一又ハ類似
 ノ商品ニ使用スルノ目的又ハ使用セシムルノ目的ヲ以テ
 輸入又ハ移入シタル者
 六 他人ノ登録商標ヲ偽造若ハ模造スルノ目的又ハ偽造若
 ハ模造セシムルノ目的ヲ以テ其ノ用具ヲ製作、交付、販
 賣又ハ所持スル者

七 同一又ハ類似ノ商品ニ關シ他人ノ登録商標ト同一又ハ類似ノモノヲ營業ニ用キル廣告、看板、引札、物價表ノ類又ハ取引書類ニ使用シタル者

第三十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 詐偽ノ行為ヲ以テ商標若ハ商標權存續期間更新ノ登録ヲ受ケ又ハ審決若ハ判決ヲ受ケタル者

二 登録ヲ受ケサル商標ニシテ商標登録標記ヲ附シ若ハ商標登録標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタルモノヲ商品ニ使用シタル者又ハ其ノ商品ヲ交付シ、販賣シ若ハ交付、販賣ノ目的ヲ以テ所持スル者

三 登録ヲ受ケサル商標ニシテ商標登録標記ヲ附シ若ハ商標登録標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタルモノヲ營業ニ用キル廣告、看板、引札、物價表ノ類又ハ取引書類ニ使用シタル者

第三十六條 法律ニ依リ宣誓シタル證人、鑑定人又ハ通事特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官廳ニ對シ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十七條 特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ

盡ササルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十七條ノ二 特許局ヨリ證據ニ關シ書類其ノ他ノ物件ノ提出又ハ提示ヲ命セラレタル者正當ノ理由ナクシテ其ノ命ニ從ハサルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十七條ノ三 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ過料ニ付テ之ヲ準用ス

第三十八條 (削除)

附則 第三十九條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十一年勅令第四百五十九號ヲ以テ大正十一年一月十一日ヨリ施行)

第四十條 舊法ニ依ル商標又ハ商標權存續期間更新ノ登録、處分及手續ハ本附則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

第四十一條 本法施行ノ際現ニ繫屬スル商標若ハ商標權存續期間更新ノ登録出願又ハ商標登録ノ取消ニ關スル事項ノ處理ニ付テハ仍舊法ニ依ル

第四十二條 舊法ニ依ル商標又ハ商標權存續期間更新ノ登録ニ關シテハ本法施行後ニ登録カ爲サレタル場合ト雖舊法第十一條ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ同條ノ規定ノ適用ノ範圍

内ニ於テ同條ニ掲ケル舊法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ登録カ同條ノ規定ニ該當スル場合ニ限り審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ此ノ場合ニ於テ舊法附則第二項ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ同項ノ規定ノ適用ノ範圍内ニ於テ同項ニ掲ケル舊法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有ス

第四十三條 登録カ舊法第一條又ハ第二條第五號ノ規定ニ違反ストノ理由ニ依ル前條ノ無効ノ審判ハ本法施行前爲サレタル商標又ハ商標權存續期間更新ノ登録ニ關シテハ本法施行ノ日ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得

登録カ舊法第二條第八號第九號、第三條又ハ第四條第二項ノ規定ニ違反ストノ理由ニ依ル前條ノ無効ノ審判ハ商標又ハ商標權存續期間更新ノ登録カ商標公報ニ掲載セラレタル日ヨリ三年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得

第四十四條 本法施行前舊法第二十三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ本法施行後ト雖告訴アルニ非サレハ其ノ罪ヲ論セス

附則 (昭和四年法律第五十號附則) 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和四年勅令第二百八十九號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行)

本法ハ本法施行前ニ生シタル事項ニモ之ヲ適用ス但シ從前ノ規定ニ依リ生シタル效力ヲ妨ケス

第二十四條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第十七條ノ二ノ改正規定ハ本法施行前同條ニ掲ケル事由ヲ生シタル委任代理ニシテ本法施行前代理權消滅ノ登録ヲ受ケサリシモノ又ハ其ノ届出ヲ爲ササリシモノニモ之ヲ適用ス

本法施行前抗告事件ニ付決定ヲ受ケタル者ハ仍從前ノ規定ニ

依リ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

本法ニ依リ新ニ期間ヲ定メタル手續ニシテ本法施行ノ際爲スヘキモノニ付テハ其ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

本法施行前從前ノ規定ニ依リ過料ニ處スヘキ行為ヲ爲シタル者ニシテ本法施行ノ際未タ其ノ裁判ヲ受ケサルモノハ本法ニ於テ過料ニ處スヘキ場合ニ限り本法ニ依リ處罰ス但シ過料ノ額ハ從前ノ規定ノ過料ノ額ヲ超ユルコトヲ得

附則 (昭和九年法律第十五號附則) 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和九年勅令第三百四十五號ヲ以テ昭和十年一月一日ヨリ施行)

商標又ハ商標權存續期間更新ノ登録ニシテ本法施行前爲サレタルモノノ無効ノ審判ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則 (昭和十三年法律第四號附則) 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十三年勅令第五百二十一號ヲ以テ同年八月一日ヨリ施行)

○不正競争防止法 (昭和九年三月二十七日)

改正 昭和一三年第二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル不正競争防止法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

不正競争防止法

第一條 不正ノ競争ノ目的ヲ以テ左ノ各號ノ一ニ該當スル行為ヲ爲シタル者ハ被害者ニ對シ損害賠償ノ責ニ任ズ

一 本法施行ノ地域内ニ於テ取引上廣ク認識セラルル他人ノ氏名、商號、商標、商品ノ容器包裝其ノ他他人ノ商品タルコトヲ示ス表示ト同一若ハ類似ノモノヲ使用シ又ハ之ヲ使用シタル商品ヲ販賣若ハ擴布シテ他人ノ商品ト混同ヲ生ゼシムル行為

二 本法施行ノ地域内ニ於テ取引上廣ク認識セラルル他人ノ氏名、商號、商標、印章其ノ他他人ノ營業タルコトヲ示ス表示ト同一又ハ類似ノモノヲ使用シテ他人ノ營業上ノ施設又ハ活動ト混同ヲ生ゼシムル行為

三 假設若ハ借用ノ商號ニ附加シテ商品ニ虛偽ノ原產地ノ表示ヲ爲シ又ハ之ヲ表示シタル商品ヲ販賣若ハ擴布シテ原產地ノ誤認ヲ生ゼシムル行為

四 他人ノ營業上ノ信用ヲ害スル虛偽ノ事實ヲ陳述シ又ハ之ヲ流布スル行為

前項ノ行為ヲ爲シタル者ニ對シテハ裁判所ハ被害者ノ請求ニ因リ損害賠償ニ代ヘ又ハ損害賠償ト共ニ其ノ行為ノ差止ヲ命ズルコトヲ得

第一項第四號ノ行為ヲ爲シタル者ニ對シテハ裁判所ハ被害者ノ請求ニ因リ營業上ノ信用ヲ回復スルニ必要ナル處置ヲ命ズルコトヲ得

第二條 商品ノ普通名稱若ハ取引上普通ニ同種ノ商品ニ慣用セラルル地名其ノ他ノ表示ヲ使用スル行為又ハ之ヲ使用シタル商品ヲ販賣若ハ擴布スル行為ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用セズ取引上普通ニ同種ノ營業ニ慣用セラルル名稱其ノ他ノ表示ヲ使用スル行為ニ付亦同シ

第三條 外國人ニシテ本法施行ノ地域内ニ住所又ハ營業所ヲ有セザルモノハ條約又ハ之ニ準ズベキモノニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外第一條ノ請求ヲ爲スコトヲ得ズ

第四條 外國ノ國ノ紋章、旗章其ノ他ノ徽章ニシテ主務大臣ノ指定スルモノト同一又ハ類似ノモノハ其ノ國ノ當該官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ商標トシテ使用シ又ハ之ヲ商標トシテ使用シタル商品ヲ販賣若ハ擴布スルコトヲ得ズ

第五條 外國ノ官ノ監督用又ハ證明用ノ印章又ハ記號ニシテ主務大臣ノ指定スルモノト同一又ハ類似ノモノハ其ノ國ノ當該官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ同一若ハ類似ノ商品ノ商標トシテ使用シ又ハ之ヲ使用シタル商品ヲ販賣若ハ擴布スルコトヲ得ズ

帝國ノ紋章、旗章其ノ他ノ徽章又ハ官ノ監督用若ハ證明用ノ印章若ハ記號ノ使用ノ許可ヲ當該官廳ヨリ受ケタルトキハ外國ノ國ノ紋章、旗章其ノ他ノ徽章又ハ官ノ監督用若ハ

證明用ノ印章若ハ記號ト同一又ハ類似ノモノナル場合ト雖モ前三項ノ規定ヲ適用セズ

第五條 前條ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 第一條第一項第一號乃至第三號及第四條第一項乃至第三項ノ規定ハ特許法、實用新案法、意匠法又ハ商標法ニ依リ權利ノ行使ト認メラルル行為ニハ之ヲ適用セズ

附則 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和九年勅令第三百四十一號ヲ以テ昭和十年一月一日ヨリ施行)

附則 (昭和十三年法律第二號附則) 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和十三年勅令第五百二十一號ヲ以テ同年八月一日ヨリ施行)

○商店法 (昭和十三年三月二十六日)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル商店法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

商店法

第一條 本法ハ市及主務大臣ノ指定スル町村 (町村ニ準ズベキモノヲ含ム) ニ於テ物品販賣業又ハ理容業ヲ營ム店舗ニ之ヲ適用ス

前項ノ物品販賣業及理容業ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 店主ハ本法ニ定ムル閉店時刻以後顧客ニ對シ前條ノ營業ヲ爲スコトヲ得ズ但シ閉店時刻前ヨリ引續キ店舗ニ在

ル顧客ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

店主ハ閉店時刻以後ト雖モ負傷、疾病、災害其ノ他緊急ノ事由ヲ提示セル顧客ニ對シ其ノ必要ニ應ズル物品ヲ販賣スルコトヲ得

第三條 閉店時刻ハ午後十時トス

行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ地域ヲ限リ前項ノ時刻ヲ午後十一時迄繰延ブルコトヲ得

第四條 業務ノ繁忙ナル時期ニ付行政官廳必要アリト認ムルトキハ期間又ハ地域ヲ限リ一年ヲ通シ六十日以内前二條ノ規定ヲ適用セズ又ハ前條ノ時刻ヲ繰延ブルコトヲ得

前項ノ外行政官廳臨時必要アリト認ムルトキハ期間又ハ地域ヲ限リ前二條ノ規定ヲ適用セズ又ハ前條ノ時刻ヲ繰延ブルコトヲ得

第五條 店主ハ使用人ニ毎月少クトモ一回ノ休日ヲ與フベシ

第六條 左ニ掲グル店舗ニシテ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルモノニ付テハ第二條及第三條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

一 興行場、觀覽場、遊技場其ノ他之ニ類スル場所ニ於ケル店舗

二 展覽會場、共進會場、博覽會場其ノ他之ニ類スル場所ニ於ケル店舗

三 停車場又ハ船舶發着所ニ於ケル店舗

四 其ノ他主務大臣ノ指定スル場所ニ於ケル店舗

前項第二號ノ店舗ニシテ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルモノニ付テハ前條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第七條 常時五十人以上ノ使用人ヲ使用スル店舗ニ在リテハ店主ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ一日ニ付十一時間ヲ超

エテ就業セシムルコトヲ得ズ
 前項ノ店舗ニ在リテハ店主ハ十六歳未満ノ者又ハ女子ノ就業時間ガ六時間ヲ超ユルトキハ少クトモ三十分、十時間ヲ超ユルトキハ少クトモ一時間ノ休憩時間ヲ就業時間中ニ於テ之ニ與フベシ
 業務ノ繁忙ナル時期ニ於テハ店主ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ一年ヲ通ジ六十日以内第一項ノ就業時間ヲ延長スルコトヲ得
 前項ノ外臨時必要アル場合ニ於テハ店主ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ第一項ノ就業時間ヲ延長スルコトヲ得
 第八條 前條第一項ノ店舗ニ在リテハ店主ハ十六歳未満ノ者及女子ニ毎月少クトモ二回ノ休日ヲ與フベシ
 業務ノ繁忙ナル時期其ノ他臨時必要アル場合ニ於テ店主行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ前項ノ休日ヲ一回ト爲スコトヲ得
 第九條 行政官廳ハ命令ヲ定ムル所ニ依リ店舗又ハ其ノ附屬建築物ニ於ケル使用人ノ危害ノ防止又ハ衛生ニ關シ必要ナル事項ヲ店主ニ命ズルコトヲ得
 第十條 天災事變ノ爲又ハ事變ノ虞アル爲必要アル場合ニ於テハ主務大臣ハ期間又ハ地域ヲ限リ本法ノ全部又ハ一部ヲ適用セザルコトヲ得
 第十一條 行政官廳監督上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ店舗又ハ其ノ附屬建築物ニ臨檢セシムルコトヲ得但シ使用人以外ノ者ノ居室ハ此ノ限ニ在ラズ
 當該官吏前項ノ規定ニ依リ臨檢スル場合ハ其ノ證票ヲ携帯スベシ

第十二條 店主ハ店舗ノ管理ニ付一切ノ權限ヲ有スル店舗管理入ヲ選任スルコトヲ得
 店主本法施行地内ニ居住セザルトキハ店舗管理入ヲ選任スルコトヲ要ス
 店舗管理入ノ選任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ但シ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者及支配人ノ中ヨリ選任スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 第十三條 前條ノ店舗管理入ハ本法及本法ニ基キテ發スル命令ノ適用ニ付テハ店主ニ代ルモノトス
 店主營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セザル未成年者若ハ禁治產者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ於テ店舗管理入ナキトキハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ付亦前項ニ同ジ
 第十四條 店主又ハ前條ノ規定ニ依リ店主ニ代ル者第二條第一項、第五條、第七條第一項第二項又ハ第八條第一項ノ規定ニ違反シタルトキハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
 第十五條 正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
 第十六條 店主又ハ第十三條ノ規定ニ依リ店主ニ代ル者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ
 第十七條 本法及本法ニ基キテ發スル命令ハ營利ヲ目的トセザル物品販賣又ハ理容ノ事業ヲ爲ス店舗ニ之ヲ準用ス但シ

國、道府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノニ付テハ店舗管理入ニ關スル規定及罰則ハ此ノ限ニ在ラズ
 第十八條 本法ハ汽車、汽船其ノ他ノ交通機關内ニ於ケル店舗及露店ニ之ヲ適用セズ
 行政官廳ハ物品販賣業ヲ營ム露店ニ付終業スベキ時刻ヲ定ムルコトヲ得
 附則
 本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十三年勅令第六百十八號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行、但シ第三條及第六條ノ規定(第十七條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)實施ノ爲ニ豫メ必要ナル範圍内ニ於テハ同年九月一日ヨリ施行)

及第六條ノ規定(同法第十七條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)實施ノ爲ニ豫メ必要ナル範圍内ニ於テハ昭和十三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

○商店法施行令 (昭和十三年八月三十一日 勅令第六百十九號)

朕商店法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 商店法施行令
 第一條 商店法第一條第一項ノ物品販賣業ハ物品ノ小賣業及卸賣業トシ料理店業及飲食店業ヲ含マザルモノトス
 同法同條同項ノ理容業ハ理髮業、結髮業及美容術業トス
 第二條 國ノ直營スル店舗ニ關シテハ所轄官廳ハ商店法又ハ同法ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政官廳ニ屬スル職務ヲ行フ
 附則
 本令ハ昭和十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ商店法第三條

○宗教團體法 (昭和十四年四月八日) (法律第七十七號)

改正 昭和十五年第二五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル宗教團體法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

宗教團體法

第一條 本法ニ於テ宗教團體トハ神道教派、佛教宗派及基督教其ノ他ノ宗教ノ教團(以下單ニ教派、宗派、教團ト稱ス)並ニ寺院及教會ヲ謂フ

第二條 教派、宗派及教團並ニ教會ハ之ヲ法人ト爲スコトヲ得

寺院ハ之ヲ法人トス

第三條 教派、宗派又ハ教團ヲ設立セントスルトキハ設立者ニ於テ教規、宗制又ハ教團規則ヲ具シ法人タラントスルモノニ在リテハ其ノ旨ヲ明ニシ主務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

教規、宗制及教團規則ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 名稱
- 二 事務所ノ所在地
- 三 教義ノ大要
- 四 教義ノ宣布及儀式ノ執行ニ關スル事項
- 五 管長、教團統理者其ノ他ノ機關ノ組織、任免及職務權限ニ關スル事項
- 六 寺院、教會其ノ他ノ所屬團體ニ關スル事項
- 七 住職、教會主管者、其ノ代務者及教師ノ資格、名稱及任免其ノ他ノ進退並ニ僧侶ニ關スル事項

八 檀徒、教徒又ハ信徒ニ關スル事項

九 財産管理其ノ他ノ財務ニ關スル事項

十 公益事業ニ關スル事項

十一 公益事業ニ關スル事項

教規、宗制若ハ教團規則ヲ變更セントスルトキ又ハ法人ニ非ザル教派、宗派若ハ教團ガ法人タラントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第四條 教派及宗派ニハ管長ヲ、教團ニハ教團統理者ヲ置クベシ

管長又ハ教團統理者ハ教派、宗派又ハ教團ヲ統理シ之ヲ代表ス

管長又ハ教團統理者缺ケタルトキ、未成年ナルトキ又ハ久シキニ互リ職務ヲ行フコト能ハザルトキハ代務者ヲ置キ其ノ職務ヲ行ハシムベシ

管長、教團統理者又ハ其ノ代務者就任セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第五條 教派、宗派又ハ教團ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ合併又ハ解散ヲ爲スコトヲ得

第六條 教派、宗派又ハ教團ハ設立認可ノ取消ニ因リテ解散ス

第六條 寺院又ハ教會ヲ設立セントスルトキハ設立者ニ於テ寺院規則又ハ教會規則ヲ具シ第二項第五號ノ教會ヲ除クノ外豫メ管長又ハ教團統理者ノ承認ヲ經、法人タラントスル教會ニ在リテハ其ノ旨ヲ明ニシ地方長官ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

寺院規則及教會規則ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 名稱
- 二 所在地

三 本尊、奉齋主神、安置佛等ノ稱號

四 所屬教派、宗派又ハ教團ノ名稱

五 規定スル事項ニ代ヘ其ノ奉ズル宗教ノ名稱及教義ノ大要並ニ教師ノ資格、名稱及任免其ノ他ノ進退ニ關スル事項

六 教義ノ宣布及儀式ノ執行ニ關スル事項

七 住職、教會主管者其ノ他ノ機關ニ關スル事項

八 檀徒、教徒又ハ信徒及其ノ總代ニ關スル事項

九 本末寺及法類ニ關スル事項

十 財産管理其ノ他ノ財務ニ關スル事項

十一 公益事業ニ關スル事項

寺院規則若ハ教會規則ヲ變更セントスルトキ又ハ法人ニ非ザル教會ガ法人タラントスルトキハ檀徒、教徒及信徒ノ總代ノ同意ヲ得前項第五號ノ教會ヲ除クノ外豫メ管長又ハ教團統理者ノ承認ヲ經、地方長官ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第七條 寺院ニハ住職ヲ、教會ニハ教會主管者ヲ置クベシ

住職又ハ教會主管者ハ寺院又ハ教會ヲ主管シ之ヲ代表ス

住職又ハ教會主管者缺ケタルトキ、未成年ナルトキ又ハ久シキニ互リ職務ヲ行フコト能ハザルトキハ代務者ヲ置キ其ノ職務ヲ行ハシムベシ

第八條 寺院及教會ニハ檀徒、教徒及信徒ノ總代(以下單ニ總代ト稱ス)三人以上ヲ置クベシ

總代ハ寺院又ハ教會ノ經營ニ關シ住職又ハ教會主管者ヲ扶

總代ノ選任及解任ハ住職又ハ教會主管者ヨリ之ヲ市町村長

(市制第六條及第八十二條第三項)市ニ在リテハ區長、町

村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキ者)ニ届出ツルコトヲ要ス

第九條 寺院又ハ法人タル教會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ賣物其ノ他不動産以外ノ重要ナル財産ニ付地方長官ニ於テ保管スル寺院財産臺帳又ハ教會財産臺帳ニ登録ヲ受クルコトヲ要ス

寺院財産臺帳又ハ教會財産臺帳ヲ閱覽シ又ハ其ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ受ケントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ請求スルコトヲ得

第十條 寺院又ハ法人タル教會左ニ掲グル行為ヲ爲サントスルトキハ總代ノ同意ヲ得第六條第二項第五號ノ教會ヲ除クノ外管長又ハ教團統理者ノ意見書ヲ添へ、地方長官ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一 不動産又ハ寺院財産臺帳若ハ教會財産臺帳ニ登録セラレタル財産ヲ處分シ又ハ擔保ニ供スルコト

二 借財又ハ保證ヲ爲スコト

前項ノ場合ニ於テ總代ノ同意ヲ得ルコト能ハザルトキハ住職又ハ教會主管者ハ其ノ事由ヲ具シ地方長官ノ承認ヲ求ムルコトヲ得

第一項ニ規定スル事項ニ付地方長官ノ認可ヲ受ケズシテ爲シタル行為ハ之ヲ無効トス

第一項ニ規定スル事項ニ付總代ノ同意ヲ得ズシテ爲シタル行為ハ第二項ノ規定ニ依リ地方長官ノ承認ヲ得タル場合ヲ除クノ外之ヲ無効トス

前二項ノ場合ニ於テ相手方ガ善意無過失ナルトキハ其ノ行為ヲ爲シタル住職又ハ教會主管者ハ相手方ノ選擇ニ從ヒ之

ニ對シテ履行又ハ損害賠償ノ責ニ任ズ
 第十一條 寺院又ハ教會ハ第六條第二項第五號ノ教會ヲ除クノ外豫メ管長又ハ教團統理者ノ承認ヲ經、地方長官ノ認可ヲ受ケテ合併又ハ解散ヲ爲スコトヲ得
 寺院又ハ教會左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ地方長官ハ其ノ設立ノ認可ヲ取消スコトヲ得
 一 堂宇又ハ會堂ノ滅失後五年内ニ其ノ施設ヲ爲サザルトキ
 二 住職又ハ教會主管者及其ノ代務者ヲ缺クコト三年以上ニ及ブトキ
 寺院又ハ教會ハ設立認可ノ取消ニ因リテ解散ス
 第十二條 寺院ノ境内地ノ管理、境内地ノ區域ノ變更及境内建物ノ管理並ニ教會ノ境内地ノ管理、境内地ノ區域ノ變更及境内建物ノ管理ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
 第十三條 法人タル宗教團體ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス
 前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ
 第十四條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外宗教團體ノ合併及解散ノ場合ニ於ケル必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第十五條 民法第四十三條、第四十四條、第五十條、第五十一條第一項、第五十四條、第五十七條及第七十三條乃至第八十三條並ニ民法施行法第二十四條、第二十六條及第二十七條ノ規定ハ法人タル宗教團體ニ、民法第四十一條及第四十二條ノ規定ハ寺院及法人タル教會ニ付之ヲ準用ス但シ民法第五十七條ノ規定ノ準用ニ依ル特別代理人ノ選任ハ教團、宗制、教團規則、寺院規則又ハ教會規則ノ定ムル所ニ依ル
 第十六條 宗教團體又ハ教師ノ行フ宗教ノ教義ノ宣布若ハ儀式ノ執行又ハ宗教上ノ行事ガ安寧秩序ヲ妨ゲ又ハ臣民タルノ義務ニ背クトキハ主務大臣ハ之ヲ制限シ若ハ禁止シ、教師ノ業務ヲ停止シ又ハ宗教團體ノ設立ノ認可ヲ取消スコトヲ得
 第十七條 宗教團體又ハ其ノ機關ノ職ニ在ル者法令又ハ教團、宗制、教團規則、寺院規則若ハ教會規則ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スベキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ之ヲ取消シ、停止シ若ハ禁止シ又ハ機關ノ職ニ在ル者ノ改任ヲ命ズルコトヲ得
 教師法令ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スベキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ其ノ業務ヲ停止スルコトヲ得
 第十八條 主務大臣ハ宗教團體ニ對シ監督上必要アル場合ニ於テハ報告ヲ徵シ又ハ實況ヲ調査スルコトヲ得
 第十九條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ規定スル其ノ權限ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得
 第二十條 第十一條第二項、第十六條又ハ第十七條ノ規定ニ依ル處分ニ對シ不服アル者ハ訴訟ヲ爲スコトヲ得
 第二十一條 第二項又ハ第十六條ニ規定スル設立認可ノ取消處分ヲ違法ニシテ之ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 前項ノ規定ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル場合ニ於テハ訴訟ヲ爲スコトヲ得ズ

法第五十七條ノ規定ノ準用ニ依ル特別代理人ノ選任ハ教團、宗制、教團規則、寺院規則又ハ教會規則ノ定ムル所ニ依ル
 第十六條 宗教團體又ハ教師ノ行フ宗教ノ教義ノ宣布若ハ儀式ノ執行又ハ宗教上ノ行事ガ安寧秩序ヲ妨ゲ又ハ臣民タルノ義務ニ背クトキハ主務大臣ハ之ヲ制限シ若ハ禁止シ、教師ノ業務ヲ停止シ又ハ宗教團體ノ設立ノ認可ヲ取消スコトヲ得
 第十七條 宗教團體又ハ其ノ機關ノ職ニ在ル者法令又ハ教團、宗制、教團規則、寺院規則若ハ教會規則ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スベキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ之ヲ取消シ、停止シ若ハ禁止シ又ハ機關ノ職ニ在ル者ノ改任ヲ命ズルコトヲ得
 教師法令ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スベキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ其ノ業務ヲ停止スルコトヲ得
 第十八條 主務大臣ハ宗教團體ニ對シ監督上必要アル場合ニ於テハ報告ヲ徵シ又ハ實況ヲ調査スルコトヲ得
 第十九條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ規定スル其ノ權限ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得
 第二十條 第十一條第二項、第十六條又ハ第十七條ノ規定ニ依ル處分ニ對シ不服アル者ハ訴訟ヲ爲スコトヲ得
 第二十一條 第二項又ハ第十六條ニ規定スル設立認可ノ取消處分ヲ違法ニシテ之ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 前項ノ規定ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル場合ニ於テハ訴訟ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十一條 宗教團體ニ於テ公衆禮拜ノ用ニ供スル建物又ハ其ノ敷地ニシテ命令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ經タルモノハ不動産ノ先取特權、抵當權若ハ質權ノ實行ノ爲ニスル場合又ハ破産ノ場合ヲ除クノ外其ノ登記後ニ原因ヲ生ジタル私法上ノ金錢債權ノ爲ニ之ヲ差押フルコトヲ得ズ寺院財產臺帳又ハ教會財產臺帳ニ登錄セラレタル寶物ニ付亦同ジ
 第二十二條 宗教團體ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅及法人稅ヲ課セズ
 寺院ノ境内地及教會ノ境内地ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ地租ヲ免除ス但シ有料借地ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ
 北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ宗教團體ノ所得稅ニ對シ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ
 第二十三條 宗教團體ニ非ズシテ宗教ノ教義ノ宣布及儀式ノ執行ヲ爲ス結社(以下宗教結社ト稱ス)ヲ組織シタルトキハ代表者ニ於テ規則ヲ定メ十四日以内ニ地方長官ニ届出ヅルコトヲ要ス届出事項ニ變更ヲ生ジタルトキ亦同ジ
 宗教結社ノ規則ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 名稱
 - 二 事務所ノ所在地
 - 三 教義、儀式及行事ニ關スル事項
 - 四 奉齋主神、安置佛等ノ稱號
 - 五 組織ニ關スル事項
 - 六 財產管理其ノ他ノ財務ニ關スル事項
 - 七 代表者及布教者ノ資格及選定方法
- 第二十四條 宗教結社ノ代表者ハ其ノ結社ニ屬スル布教者ノ氏名及住所ヲ遲滞ナク地方長官ニ届出ヅルコトヲ要ス其ノ

届出事項ニ變更ヲ生ジタルトキ亦同ジ
 第二十五條 第十六條乃至第十八條及第二十條第一項ノ規定ハ宗教結社又ハ其ノ代表者若ハ布教者ニ付之ヲ準用ス
 第二十六條 教師又ハ布教者第十六條(前條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル制限、禁止若ハ業務ノ停止又ハ第十七條第二項(前條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル業務ノ停止ニ違反シタルトキハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
 宗教團體又ハ宗教結社ニ對シ第十六條(前條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル制限又ハ禁止アリタル場合ニ於テ當該宗教團體又ハ宗教結社ノ代表者其ノ他ノ機關ノ職ニ在ル者、教師又ハ布教者制限又ハ禁止アリタルコトヲ知リテ其ノ行爲ヲ爲シタルトキ亦前項ニ同ジ
 第二十七條 宗教結社ノ代表者第二十三條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ届出ヲ爲シタルトキハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十八條 法人タル宗教團體ノ代表者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ二百圓以下ノ過料ニ處ス
 一 第十三條第一項又ハ第十五條ニ於テ準用スル民法第七十七條ノ規定ニ依ル登記ヲ爲サザルトキ
 二 第十五條ニ於テ準用スル民法第五十一條第一項ノ規定ニ違反シ又ハ財產目錄ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタルトキ
 三 第十五條ニ於テ準用スル民法第八十二條ノ規定ニ依ル裁判所ノ検査ヲ妨ゲタルトキ
 四 第十五條ニ於テ準用スル民法第八十一條ノ規定ニ依ル破産宣告ノ請求ヲ爲サザルトキ

五 第十五條ニ於テ準用スル民法第七十九條又ハ第八十一條ノ規定ニ依ル公告ヲ爲サズ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ
 宗教團體又ハ宗教結社ノ代表者第十八條(第二十五條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ、虚偽ノ報告ヲ爲シ又ハ調査ヲ妨ゲタルトキ及宗教結社ノ代表者第二十四條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ届出ヲ爲シタルトキ亦前項ニ同ジ
 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二項ノ過料ニ付テ之ヲ準用ス

附則

第二十九條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十四年勅令第八百五十五號ヲ以テ昭和十五年四月一日ヨリ施行)

第三十條 明治六年太政官第二百四十九號布告、明治十年太政官第四十三號布告及明治十七年太政官第十九號布達ハ之ヲ廢止ス

第三十一條 本法施行ノ際現ニ存スル教派又ハ宗派ハ之ヲ本法ニ依リ設立ヲ認可セラレタル法人ニ非ザル教派又ハ宗派ト看做シ其ノ管長ハ之ヲ本法ニ依ル管長ト看做ス
 前項ノ教派又ハ宗派ハ本法施行後一年内ニ教規又ハ宗制ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス其ノ認可アル迄從前ノ教規又ハ宗制寺法ヲ以テ教規又ハ宗制ニ代用ス

第三十二條 本法施行ノ際現ニ寺院明細帳ニ登錄セララルル寺院ハ之ヲ本法ニ依リ設立ヲ認可セラレタル寺院ト看做シ本法施行ノ際現ニ存スル祠宇ハ之ヲ本法ニ依リ設立ヲ認可セ

ラレタル法人タル教會ト看做ス

前項ノ寺院又ハ教會ハ本法施行後二年内ニ寺院規則又ハ教會規則ヲ定メ總代ノ同意ヲ得管長ノ承認ヲ經テ地方長官ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス其ノ寺院規則又ハ教會規則ノ認可アル迄ノ寺院又ハ教會ニ關シテハ命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得
 地方長官前項ノ規定ニ依リ寺院規則又ハ教會規則ヲ認可シタルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ登記所ニ登記ノ囑託ヲ爲スベシ

第三十三條 本法施行前教會所、堂宇、會堂、説教所又ハ講義所ノ類トシテ設立ノ許可ヲ受ケタルモノニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ之ヲ本法ニ依リ設立ヲ認可セラレタル法人ニ非ザル教會ト看做ス

第三十四條 第三十二條第一項又ハ前條第一項ノ寺院又ハ教會ヲ主管シ之ヲ代表スル者ニシテ本法施行ノ際現ニ其ノ職ニ在ルモノハ之ヲ本法ニ依ル住職又ハ教會主管者ト看做シ其ノ權徒總代又ハ信徒總代ニシテ本法施行ノ際現ニ其ノ職ニ在ルモノハ之ヲ本法ニ依ル總代ト看做ス

第三十五條 本法施行ノ際現ニ佛堂明細帳ニ登錄セララルル佛堂ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本法施行後二年内ニ寺院ニ屬シ又ハ寺院若ハ教會ト爲ルコトヲ得其ノ寺院ニ屬セズ又ハ寺院若ハ教會ト爲ラザルモノノ處分ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 前項ノ佛堂ニシテ寺院ニ屬セズ又ハ寺院若ハ教會ト爲ラザルモノニ付テハ本法施行後二年ヲ限リ仍從前ノ例ニ依ル

第三十六條 本法施行ノ際現ニ存スル宗教結社ニ付テハ代表者ニ於テ宗教結社ノ規則ヲ定メ本法施行後十四日内ニ地方長官ニ届出ヅルコトヲ要ス
 前項ノ宗教結社ノ代表者前項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ届出ヲ爲シタルトキハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 登録稅法第二條及第三條ノ二中「寺院、祠宇、佛堂」ヲ「法人タル宗教團體」ニ改ム
 同法第十九條但書中「第八號乃至第九號ノ四」ヲ「第二號ノ二、第八號乃至第九號ノ四」ニ改メ同條第二號ヲ左ノ如ク改ム

二 神社ノ敷地ニ關スル登記
 二 寺院ノ境内地若ハ教會ノ構内地又ハ寺院若ハ教會ノ用ニ供スル建物ニ關スル登記

二 墳墓地ニ關スル登記
 第三十五條第一項ノ佛堂ニシテ寺院ニ屬セズ又ハ寺院若ハ教會ト爲ラザルモノノ不動産ニ關スル登記ニ付テハ前二項ノ改正規定ニ拘ラズ本法施行後二年ヲ限リ仍從前ノ例ニ依ル

○ 舊 宗教團體法

第五 第六 第七 第八 第九 第十 第十一 第十二 第十三 第十四 第十五 第十六 第十七 第十八 第十九 第二十 第二十一 第二十二 第二十三 第二十四 第二十五 第二十六 第二十七 第二十八 第二十九 第三十 第三十一 第三十二 第三十三 第三十四 第三十五 第三十六 第三十七 第三十八 第三十九 第四十 第四十一 第四十二 第四十三 第四十四 第四十五 第四十六 第四十七 第四十八 第四十九 第五十 第五十一 第五十二 第五十三 第五十四 第五十五 第五十六 第五十七 第五十八 第五十九 第六十 第六十一 第六十二 第六十三 第六十四 第六十五 第六十六 第六十七 第六十八 第六十九 第七十 第七十一 第七十二 第七十三 第七十四 第七十五 第七十六 第七十七 第七十八 第七十九 第八十 第八十一 第八十二 第八十三 第八十四 第八十五 第八十六 第八十七 第八十八 第八十九 第九十 第九十一 第九十二 第九十三 第九十四 第九十五 第九十六 第九十七 第九十八 第九十九 第一百